

2021年度

# 日本の朝鮮統治期における朝鮮人のタイ移住史

—日本、韓国、タイの歴史文献を中心に—

主査：村嶋英治 教授

副査：早瀬晋三 教授    副査：李鍾元 教授    副査：宮田敏之 教授

早稲田大学アジア太平洋研究科    国際関係学専攻（博士後期課程）

学籍番号： 4018S007-2

氏名： CHI SEONGSU

## 謝辞

本博士論文は、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程に在学中に日本、韓国、タイにおいて収集した史料を当研究科の先生方などのご指導の下で、作成したものです。

まず、指導教員の村嶋英治教授には、学部を卒業したばかりで、未だ研究を分析的に行う方法すら分からなかった修士課程の時から博士後期課程の研究に至るまで、史料収集、研究論文執筆、査読論文投稿など、あらゆる方面において、ご指導や激励頂きましたことに、心より感謝申し上げます。先生の温かいお指導があったればこそ、一人前の研究者に成るための険しい道のりの中で、これまで成長することができたものと思い、重ねて感謝申し上げます。

早瀬晋三教授及び李鍾元教授には、中間発表に続いて博士論文審査においても、副査としてご指導頂きましたことに、心から感謝申し上げます。早瀬晋三教授には、論文執筆のみならず、東南アジア関連史料の収集及び分析などについて、ご指導とご助言頂きましたことに、深く感謝致します。李鍾元教授には、韓国関連史料の収集及び分析、論文執筆などにおいて、ご指導とご助言頂きましたこと、深く感謝致します。研究者としての視野を広げ、知識を深めることができたのも、歴史研究の楽しみを知ったのも、先生方のご指導とご鞭撻の賜物と、重ねてお礼申し上げます。

東京外国語大学の宮田敏之教授には、博士論文審査において、貴重なお時間を頂戴し、論文執筆及びタイ語などに関するご指導頂きました。更に、先生のご指導によって、論文の質を高めていくことができましたことに、心から感謝申し上げます。

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の見市建教授には、中間発表において、貴重なお時間を頂戴し、研究の方向性及び論文執筆などに関するご指導頂きましたことに、深く感謝致します。

また、史料収集及び博士論文執筆に当たり、ご助言と激励くださった村嶋研究室の先輩及び友人の皆様にも、深く感謝致します。特に、タイにおいての現地調査やタイ語史料の分析などにおいて多大な助言をくださった先輩のシワリンさんとアカデットさんに、心より感謝致します。

更に、現地調査においてご協力くださった、Korean-Thai Chamber of Commerceのパク・ドンビン副会長様、バンコク韓人連合教会の皆様、ハンマウム禅院の皆様などにも心より感謝致します。

最後に、両親をはじめとする、長年の留學生活の中で何事があっても常に支えてくれた家族に心より感謝致します。

皆様には、今後も引き続き、研究者として成長していく道のりの中、ご指導とご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

# 目次

|                                       |           |
|---------------------------------------|-----------|
| 序章.....                               | 1         |
| 1. はじめに .....                         | 1         |
| 2. 先行研究及び史料の収集 .....                  | 2         |
| 3. 用語 .....                           | 4         |
| 4. 論文の構成 .....                        | 6         |
| <b>第1章 日本朝鮮支配と朝鮮人の海外移住動向 .....</b>    | <b>8</b>  |
| 1. 海外在留本邦人職業別人口調査一件（明治43年-大正9年） ..... | 9         |
| 2. 海外各地在留本邦人職業別人口表（大正10年-昭和4年） .....  | 22        |
| 3. 海外各地在留本邦人人口表（昭和5年-昭和14年） .....     | 35        |
| (1) 在外本邦人国勢調査職業別人口表（昭和5年） .....       | 35        |
| (2) 海外各地在留本邦人人口表（昭和6年-昭和11年） .....    | 36        |
| (3) 海外各地在留本邦人人口表（昭和12年-昭和14年） .....   | 39        |
| 4. タイ在留朝鮮人（明治43年-昭和14年） .....         | 41        |
| <b>第2章 朝鮮人高麗人参商人のタイ移住 .....</b>       | <b>44</b> |
| 1. 朝鮮人の海外移住史における高麗人参商人 .....          | 44        |
| 2. 朝鮮人高麗人参商人の東南アジア移住 .....            | 47        |
| 3. 朝鮮人のタイ移住史関連研究と高麗人参商人 .....         | 52        |
| 4. 1900年代初期における高麗人参商人のタイ移住関連記録 .....  | 54        |
| 5. 朝鮮人高麗人参商人に関する在バンコク日本領事館の記録 .....   | 58        |
| 6. 『志山外遊日誌』と在タイ朝鮮人高麗人参商人の記録 .....     | 62        |
| (1) 鄭元澤の日誌 .....                      | 62        |
| (2) 鄭元澤のタイ渡航 .....                    | 63        |
| 7. 海外に渡った朝鮮人高麗人参商人の役割 .....           | 66        |
| 8. 小結 .....                           | 67        |
| <b>第3章 朝鮮人独立運動家のタイ移住 .....</b>        | <b>69</b> |
| 1. 朝鮮人の海外独立運動と海外移住史 .....             | 69        |
| 2. 東南アジア地域における朝鮮人独立運動家 .....          | 70        |
| 3. 朝鮮人独立運動家のタイ進出 .....                | 73        |
| (1) 李慶孫のタイ移住と独立運動 .....               | 74        |
| (2) タイに移住した高麗人参商人の独立運動、李賢壽 .....      | 76        |
| (3) 旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人の独立運動活動 ..... | 77        |
| 4. 『志山外遊日誌』の記録からみる朝鮮人独立運動家のタイ進出 ..... | 85        |

|  |            |
|--|------------|
| (1) 高麗人参商人張氏と李氏 .....  | 85         |
| (2) 独立運動家李杰 .....  | 86         |
| 5. タイで活動した朝鮮人独立運動家「金鐵拳」 .....  | 87         |
| <b>第4章 日本軍と共にタイに移住した元朝鮮人軍人軍属 .....</b>   | <b>97</b>  |
| 1. 帝国臣民としての朝鮮人と朝鮮人の海外移住 .....  | 97         |
| 2. 東南アジアに渡っていた元朝鮮人軍人軍属 .....   | 100        |
| (1) 日本政府発表の元朝鮮人軍人軍属数統計と竹内の分析 .....   | 100        |
| (2) 内海の研究からみたタイ移住、元朝鮮人軍人軍属数 .....  | 102        |
| 3. 元朝鮮人軍人軍属に関するタイ現地の記録 .....   | 104        |
| (1) タイの捕虜収容所の記録 .....  | 104        |
| (2) 元朝鮮人軍人軍属の送還者名簿 .....   | 107        |
| 4. 小結 .....  | 112        |
| <b>第5章 朝鮮人女性のタイ移住 .....</b>  | <b>114</b> |
| 1. 日本軍の元朝鮮人慰安婦の海外移住 .....  | 114        |
| 2. タイにおける日本軍慰安所の開設 .....   | 115        |
| 3. 朝鮮人女性と慰安婦女性に関するタイ側の記録 .....   | 117        |
| 4. 日本軍に動員された慰安婦女性と日本軍医療看護部隊の看護婦 .....  | 136        |
| 5. 小結 .....  | 141        |
| <b>第6章 終戦後の在タイ朝鮮人移住民 .....</b>   | <b>143</b> |
| 1. 戦後のタイにおける朝鮮人高麗人参商人 .....  | 145        |
| 2. 日本の朝鮮統治期、タイにおいて活動していた朝鮮人独立運動家 .....   | 150        |
| 3. タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性の朝鮮半島帰還 .....   | 156        |
| (1) 朝鮮人捕虜の朝鮮半島送還 .....   | 156        |
| (2) 戦後、タイから再び戦場へ送られた朝鮮人捕虜 .....  | 159        |
| (3) タイの捕虜収容所を脱出した朝鮮人捕虜 .....   | 165        |
| 4. 戦後、タイ残留した朝鮮人 .....  | 168        |
| <b>終章 .....</b>  | <b>174</b> |
| <b>参考文献 .....</b>  | <b>178</b> |
| <b>付録1 アユタヤ捕虜収容所に収容されていた 1,093 人の朝鮮人男性捕虜名簿原典 ..</b>  | <b>184</b> |
| <b>付録2 『รายงานหญิงชาวเกาหลีในค่ายกักตุม อยุธยาที่กลับประเทศ [アユタヤ捕虜収容所から韓国へ送還された韓国女性の名簿]』の原典 .....</b> | <b>302</b> |
| <b>付録3 戦後、タイの捕虜収容所から再び戦場へ送還された朝鮮人の名簿 .....</b>   | <b>333</b> |



## 図表一覧

|     |  |     |
|-----|--|-----|
| 図 1 | 在タイ朝鮮人数の推移（明治43年-昭和14年）                  | 42  |
| 図 2 | 高麗人参の東南アジア地域への輸出量に関する『毎日申報』の記事           | 49  |
| 図 3 | 「南洋消息・2・不老草行商人」『東亜日報』1931年01月23日。        | 50  |
| 図 4 | 朝鮮総督府『官報』1059号（1916年02月17日）              | 57  |
| 図 5 | 海外在留本邦人職業別人口調査一件の第十二巻『盤谷』（大正二年六月末）       | 60  |
| 図 6 | 映画小説「白衣人」十五『朝鮮日報』1927年02月09日。            | 75  |
| 図 7 | 「國內同胞에게 드림〔国内の同胞に送る〕」、『東亜日報』1925年01月23日。 | 82  |
| 図 8 | タイに移住していた朝鮮人独立運動家「金鐵拳」の名刺                | 89  |
| 図 9 | 外務省「南洋方面占領地ニ於ケル慰安所開設ニ關スル件」昭和17年1月10日。    | 116 |
| 表1  | 明治43年海外在留朝鮮人人員表                          | 9   |
| 表2  | 明治44年海外在留朝鮮人人員表                          | 10  |
| 表3  | 明治45年海外在留朝鮮人人員表                          | 11  |
| 表4  | 大正2年海外在留朝鮮人人員表                           | 12  |
| 表5  | 大正3年海外在留朝鮮人人員表                           | 12  |
| 表6  | 大正4年海外在留朝鮮人人員表                           | 13  |
| 表7  | 大正5年海外在留朝鮮人人員表                           | 14  |
| 表8  | 大正6年海外在留朝鮮人人員表                           | 14  |
| 表9  | 大正7年海外在留朝鮮人人員表                           | 17  |
| 表10 | 大正8年海外在留朝鮮人人員表                           | 18  |
| 表11 | 大正9年海外在留朝鮮人人員表                           | 20  |
| 表12 | 大正10年海外在留朝鮮人人員表                          | 22  |
| 表13 | 大正11年海外在留朝鮮人人員表                          | 23  |
| 表14 | 大正12年海外在留朝鮮人人員表                          | 24  |
| 表15 | 大正13年海外在留朝鮮人人員表                          | 26  |
| 表16 | 大正14年海外在留朝鮮人人員表                          | 27  |
| 表17 | 大正15年海外在留朝鮮人人員表                          | 27  |
| 表18 | 昭和2年海外在留朝鮮人人員表                           | 29  |
| 表19 | 昭和3年海外在留朝鮮人人員表                           | 30  |
| 表20 | 昭和4年海外在留朝鮮人人員表                           | 30  |
| 表21 | 海外在留朝鮮人数の推移（大正10年-昭和4年）                  | 32  |
| 表22 | 昭和5年海外在留朝鮮人人員表                           | 35  |

|     |                                   |     |
|-----|-----------------------------------|-----|
| 表23 | 海外在留朝鮮人人員表（昭和6年-昭和11年）            | 37  |
| 表24 | 海外在留朝鮮人人員表（昭和12年-昭和14年）           | 39  |
| 表25 | 日本の朝鮮統治期、暹羅渡航朝鮮人高麗人參商人の名簿         | 55  |
| 表26 | 大正三年六月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館（盤谷市）      | 61  |
| 表27 | タイに向かった朝鮮人高麗人參商人の独立運動関連活動記録       | 78  |
| 表28 | 金鐵拳と共に記録された朝鮮人捕虜の名簿               | 89  |
| 表29 | 陸軍の朝鮮人軍人軍属数・動員地域別表（総計25万7,404人）   | 101 |
| 表30 | 泰緬鉄道の建設現場に派遣されていた元朝鮮人軍人軍属数        | 103 |
| 表31 | 朝鮮人が収容されていたタイの捕虜収容所の視察報告書         | 104 |
| 表32 | アユタヤ捕虜収容所に収容されていた1,093人の朝鮮人男性捕虜統計 | 108 |
| 表33 | アユタヤ捕虜収容所から朝鮮半島へ送還された朝鮮人女性の名簿     | 119 |
| 表34 | 開成地域における高麗人參生産量の変化（1945-50年）      | 149 |
| 表35 | タイの捕虜収容所から、再び戦場へ送還された朝鮮人の名簿       | 160 |
| 表36 | 戦後、タイの捕虜収容所から脱出した朝鮮人の名簿           | 166 |

## 序章

### 1. はじめに

国際化の進展と共に、国境を超える人の移動は、年々増加し続けてきた。国際移住機構（IOM）の統計調査報告によると、2020年現在、世界各地に広がっている国際移住住民数は、約2.72億人に上っている（IOM 2020, P.19）。

このような状況の中、世界各地に約750万人<sup>1</sup>の海外移住住民数を有する現在の韓国では、国内人口の約14.5%に相当する海外同胞に関する研究を進展させるため、1997年に「재외동포재단（在外同胞財団）」が設立された。その後、20世紀の初めから海外各地に渡るようになった朝鮮人の海外移住史を探る研究が進められるようになり、近頃は、朝鮮人の海外地域における独立運動活動、海外地域に移住した朝鮮人独立運動家と高麗人参商人との関わり、日本軍に動員され、海外移住するようになった朝鮮人などが研究題材として注目されているが、未だ解明されていない部分が多く、世界各地における朝鮮人移住民の歴史を探るためには、更に史料を探していくと共に、それを研究していく必要があると考えられる。

現在、解明されている朝鮮人の海外移住史を見ると、朝鮮人の海外移住史の始まりとしては、19世紀末、朝鮮半島内の食糧難や地方官僚の不正腐敗などによる満洲地域への移住や1903年ハワイのサトウキビ畑に労働者として移住したことも挙げられるが、朝鮮人が本格的に世界各地へ広がるようになったのは、日本の朝鮮統治期及びその前後の時期だったとすることができる。35年間に渡った大日本帝国の朝鮮半島支配は、朝鮮人の海外移住の主なプッシュ要因となり、朝鮮独立運動の展開や高麗人参の販売のみならず、日本軍に動員された軍人軍属、労働者、慰安婦女性など様々な理由や目的を持った移住民を生み出したのである。

また、このような日本の植民地支配は、朝鮮人の海外移住先を多様化させただけでなく、その海外移住民数を急増させる要因ともなったが、関連史料の不足などの理由により、未だに研究が進められていない地域も存在する。

その中でも特に、日本軍の中国侵略、更にその後に行われた東南アジア各地域への侵略によって、日本軍を避けて東南アジア各地に移住した朝鮮人独立運動家等のみならず、日本軍に動員され、日本人と共に同地域に渡った朝鮮人が存在したと見られるが、関連歴史には未だ未知の部分が多いと言える。何故ならば、同時期に、東南アジア各地域に渡った朝鮮人の歴史に関する研究を進めていくためには、現在の韓国に所蔵されている史料に加えて、当時、朝鮮半島を統治していた日本政府の史料、更に、

---

<sup>1</sup> 韓国外交部の2019年統計基準。韓国外交部（2019）「재외동포현황 2019〔在外同胞の現状 2019〕」大韓民国外交部、14頁参照。

東南アジア現地における史料の検討を同時に進めていかなければならないが、現存する史料が非常に限られている上、日本語、韓国語、東南アジア現地の言語で作成された史料を解読することが可能な研究者も不足していることにあると考えられる。

中でも、同時期におけるタイは、周辺国が欧米列強の植民地支配を受けていた中で、独立を維持しながら発展を続けることができた上、日本とは友好的な関係を保っていたため、当時、公式的には大日本帝国の帝国臣民としての旅券を所持せねばならなかった朝鮮人の移住も、他の東南アジア地域と比較して、容易だったのではないかと考えられる。しかしながら、日本語、韓国語、又はタイ語で作成された史料を基に、同時期の朝鮮人のタイへの移住の歴史を探った研究は、未だに存在していない。

## 2. 先行研究及び史料の収集

関連先行研究としては、主に金度亨（2008）、キム（2008）、内海（2015）などの研究が挙げられる。各研究は、各章において再び詳しく検討するが、前もって整理してみると以下のようにある。

まず、金度亨（2008）は、植民地統治下にあった朝鮮を独立させるために東南アジア各地域に渡った朝鮮人独立運動家たちの歴史を探った研究である。同時期に、朝鮮人たちによって作成された様々な歴史文献を基に、当時の朝鮮人が東南アジア地域をどのように認識していたのか、東南アジア地域に凡そどれほどの朝鮮人が渡っていたのか、また東南アジア各地においてどのような独立運動活動が展開されていたのかなどに関する歴史を探った有意義な研究である。

一方、キム（2008）の研究では、現存する最も古い在タイ韓国人コミュニティである「재태국한인회〔在泰韓人會〕」が設立された1964年当時、同組織を結成した李慶孫を中心に、タイ移住韓国人の第1世代の移住過程とその後の生活が述べられている。当研究は、現在は最早インタビューすることが不可能となった、在タイ韓国人第1世代に直接インタビュー調査を行い、彼らから聞いた戦後における韓国人のタイ移住史を記録している研究であるという点で非常に価値のある研究であると言える。

また、内海（2015）は、日本軍の下で、泰緬鉄道の建設現場に動員されていた連合軍捕虜を管理する捕虜監視員としてタイに渡った李鶴來の証言などを基に、同時期、タイにおいて元朝鮮人軍人軍属や元朝鮮人慰安婦女性がどのように生きていたのかを調べた。当研究では、李鶴來の証言を通じて、戦犯となった元朝鮮人軍人軍属が日本軍に志願するまでの背景、タイに設けられた日本軍の捕虜収容所において何をしていたのか、更に終戦後、戦犯になるまでの過程などに関する歴史が述べられており、日本軍所属の元朝鮮人軍人軍属に対する新たな示唆を与えているという点において意義のある研究である。

上述の研究は全て、日本が朝鮮を植民地支配した時期に、タイに渡った朝鮮人の存在とその歴史を当時、朝鮮人によって作成された歴史文献の検討やタイ現地においての生活を経験した人にインタビュー調査を行うなどの方法を通じて探った研究として非常に高い価値がある研究であると言える。しかし、これらの研究業績を踏まえつつ、更に一次史料を加えて研究を進めていくことで同時期における朝鮮人のタイ移住史に新たな事実を見出すことができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、日本語、韓国語、又はタイ語で記録された史料を基に、日本の朝鮮統治期における朝鮮人のタイ移住史の始まりを探ると共に、日本による植民地支配というプッシュ要因が朝鮮人の海外移住史にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすることに多少なりとも貢献していきたい。

本研究を進めるに当たり、各言語で記録された史料は、主に日本、韓国、タイの3カ国から収集したが、日本語、或いは韓国語で作成された史料の中には、インターネット上に公開されている場合もあり、必要に応じて、各国の政府が管理する国立公文書館関連ホームページも参考にした。

まず、日本語の史料は、日本が朝鮮半島を植民地統治していた時期における朝鮮人の海外移住動向を把握すべく、外国旅券下付表のみならず、海外在留本邦人職業別人口調査一件及び同史料を基に作成された人口統計などを収集した。外国旅券下付表の場合は、個人情報関連の問題により、日本の外交史料館において直接、収集したが、その他の史料はアジア歴史資料センターのホームページにおいて収集することができた。また、前述の内海（2015）などのように、日本軍に動員され、タイに渡った朝鮮人たちに直接、インタビュー調査を行って得られた情報を基に行われた研究を参考に、当時の在タイ朝鮮人のタイにおける生活環境の把握を試みた。

次に韓国語の一次史料は、韓国臨時政府の記録や当時発刊された新聞などの場合、韓国政府や研究機関によってデジタル化され、国家記録院、韓国史データベース、独立記念館などのホームページに公開された史料が多く、ウェブ上においても確認することが可能になっている。直接閲覧することが可能な史料は、インターネット上で閲覧するだけでなく、韓国の国立中央図書館、国家記録院、独立記念館などに足を運び史料の原典も確認したが、本論文の参考文献リストには同史料を閲覧することができるホームページのリンクも追加した。

また、キム（2008）のような先行研究やタイにおいて経験したことを自らの手で記録した日誌を参考に、同時期に、タイに移住した朝鮮人の移住背景や移住後に置かれた状況などの把握を図った他、日本語の史料から得られたタイ移住朝鮮人の名前等の情報を韓国に所蔵されている記録から探ることで、当時、彼らがタイにおいて何を行っていたのかを調べた。

最後に、本論文ではタイの国立公文書館に所蔵されている当時の記録も用いた。終

戦後、タイ政府によって朝鮮人が本国に送還された際に記録された史料の中には、当時、タイに滞在していた朝鮮人の名簿や彼らの詳細に関する記録が存在したため、これらも参考にし、研究の客観性向上を図った。しかし、当時、タイに移住した朝鮮人たちと現地に定着していた中国人と関わりを探るため、タイにおける中国人のコミュニティや中華系大学などに足を運び、インタビュー調査、或いは史料収集を行ったが、有用な情報を得ることはできなかった。

### 3. 用語

本研究において参考にする史料は、日本、韓国、タイの3カ国から収集したものであるが、各史料を記録した政府機関やその関係者、或いは史料が記録された時期によって、国や地域名などの呼び方に差が見られる。そのため、日本の朝鮮支配期、タイに移住した朝鮮人の歴史を述べていくに先立ち、誤解を招かないように用語や概念を整理しておく必要があると考えられる。

まず、研究対象となる朝鮮及び朝鮮人である。韓国の国立公文書館などに所蔵されている関連史料の中において、当時の朝鮮は、主に朝鮮と記録されているが、朝鮮人には、朝鮮人、韓国人、韓人など多様な呼び方がなされている。ところが、現代の韓国の歴史研究においては、当時の朝鮮を韓国、朝鮮人を韓国人と称し、研究者によっては、現在の朝鮮半島が南北に分かれる前は、一つの韓民族であったということを表す韓人という呼び方を用いる場合も見られている。

しかしながら、日本における同時期の朝鮮、或いは朝鮮人に関する研究の中では、当時の朝鮮、朝鮮人を韓国、韓国人と称する研究は、殆ど見当たらない。それは1897年から1910年まで大韓帝国が正式国号だった韓国を日本が併合すると同時に、大韓帝国という国号が制定される以前の正式国号であった朝鮮に戻し、朝鮮、朝鮮人と称したためである。

従って、日本語で作成される本論文では、原典において韓国、韓国人と表記されていない限り、同時期の朝鮮及び朝鮮人は、そのまま朝鮮、朝鮮人と称する。但し、戦後、朝鮮半島の南側において大韓民国という正式な政府が樹立されてからは、韓国及び韓国人という正式な名称が存在するため、戦後の出来事を述べる際は、韓国、韓国人と称する。しかし、いずれにしても本論文の研究対象となる朝鮮及び朝鮮人は、現在、南北に分かれた韓国や北朝鮮のどちらかの国家や国民を指している訳ではなく、一つの韓民族として捉えられている。

次に、本論文の研究対象地域であるタイである。当時、日本語で作成された史料の中には、タイを暹羅や暹羅國として作成された史料が存在する。タイ王国という現在の国号は、1939年、制定された名称であるが、それまでの国号は暹羅 (สยาม) だったのである。そのため、関連史料の中にも暹羅と記録されている史料が見られるが、19

39年から現在までは、タイと称してきた上、国号が暹羅だった時期においても、タイ人は、自らを暹羅人ではなく、タイ人と称していたため、本研究でも、原典において暹羅と記録されない限り、タイと称する。

また、本論文には当時、タイに移住した朝鮮人の中で、高麗人参商人だった朝鮮人の歴史が述べられた章がある。日本では、朝鮮人高麗人参商人が朝鮮人参商人、若しくは単純に人参商人と称される場合も存在するが、現存する日韓のどの史料の中からも朝鮮人参商人と記録した史料は見当たらない。更に、単純に人参商人と称する名称は、朝鮮半島から生産された人参のみならず、中国産人参を販売していた中国人商人なども含む可能性がある。そのため、本論文では、同時期に、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人を朝鮮人高麗人参商人と称する。

最後は、移住という概念である。移住又は移民の定義は、地域や時代によって変わり、現在もその定義に関しては多様な見解が存在する。本研究の調査対象時期における日本の移民の定義は、明治29年4月7日公布された移民保護法から見る事ができる。同法において移民とは「本法ニ於テ移民ト称スルハ労働ニ従事スルノ目的ヲ以テ外国ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ」<sup>2</sup>と定義されており、労働を目的として海外地域に渡航した者及びその労働者と共に渡った家族等の同行者に限定していることがわかる。

この移民保護法の定義に従い研究を進めることも方法の一つではあるが、同法が制定されてから100年以上の間、祖国を離れ、海外の地に渡って住む人の数は、毎年、増加し続け、移住の形も多様化されてきた。それに伴い、国際移住及び移住民に関する研究にも大きな進展が見られ、移住、若しくは移住民という範疇に含まれる移住の形も多様化した。

その例の一つとして挙げられるのが国際移住機構の移住の定義である。現在、国連の国際移住機構は、移住民自身の移住動機、移住民本人の意思、移住先における滞在期間の長さを問わず、本来の居住地から離れた地域に移住したあるゆる人を移住民として捉えている。本定義の中には、本人の意思に反して強制的に海外の地に移住させられた移住民や朝鮮人が日本の植民地支配を受けていた時期には、未だその概念すら存在しなかった難民も含まれている。その上、移住先に定着せず、一時的に本来の居住地から他の地域に移動した人も、移住民の範疇に含まれているため、移住及び移住民という概念が非常に広く捉えられているのがわかる。

このように移住という定義の中に含まれる移住の形が増えるようになった理由には、現代に入り、従来の定義や概念では理解し得ない移住現象が現れたこともあるが、歴

---

<sup>2</sup> 原典は、アジア歴史資料センター (<https://www.digital.archives.go.jp/img/153700>) において閲覧可能 (最終閲覧日: 2021年12月14日)。

史学的には、移住目的の種類ではなく、人の移動に焦点を当てることで、近現代史の中で起きた様々な事件によって、本来の居住地を離れ、海外の地に向かった人たちの歴史をより広い範囲から再考し、人の移住史を理解するためだったのではないかと考えられる。

そのため、本研究において述べられる様々な理由によって日本の朝鮮統治期にタイに移動した朝鮮人たちも、このように国際移住機構が定めた移住及び移住民の定義に従い、その移住動機や移住期間などに拘わらず、移住民として捉え、帝国主義日本の中でタイに移動した朝鮮人たちの歴史を探っていききたい。

#### 4. 論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。まず、第1章においては、帝国主義日本の中で起きた朝鮮人の海外地域への移動を把握すると共に、その流れの中で見られた朝鮮人のタイ移住動向を検討する。

第1章では、現在、日本の外交史料館に所蔵されている「海外在留本邦人職業別人口調査一件」を中心に、朝鮮が日本の植民地となった明治43年から同統計記録が残っている昭和14年までにおける朝鮮人の海外移住動向を把握した。同史料の中には、一部誤りのある記録も見られたが、それでも尚、政府機関によって年度別に集計された統計記録を基に、同時期における朝鮮人の海外移住動向を把握するのに少しでも資することを目的とした。

また、同統計史料の中では唯一、大正2年の調査記録においてのみ、在タイ朝鮮人の職業が記録されており、彼らが全員高麗人参商人だったという事実を見出すことができた。そこで、第2章では、同時期、タイに移住した朝鮮人高麗人参商人の歴史についての調査を行った。

本論文では、当時、タイにおいて経験したことを記録した個人記録や新聞等の中から朝鮮人高麗人参商人に関する記録を探った上、日本の植民地支配下にあった朝鮮人が海外へ渡航する際には必ず日本政府が発行した旅券を所持しなければならなかったという点に着目し、日本の外交史料館に所蔵されている外国旅券下付表も参考にした。本史料の中には、タイに渡航した朝鮮人の名前のみならず、彼らの渡航目的も記録されていたため、高麗人参の販売を目的とし、タイに渡った朝鮮人112人の記録を探ることができた。

朝鮮人が日本の植民地支配を受けながらも、高麗人参を販売するために渡航した歴史はタイだけではなく、世界の様々な地域においても見られる現象であるが、世界各地に渡った朝鮮人高麗人参商人が実は、裏で朝鮮独立運動を支援していたことや逆に朝鮮独立運動家が海外地域において高麗人参を販売していたという先行研究の結果を踏まえ、第3章では、同時期タイに渡っていた朝鮮人独立運動家の歴史に関する調査



を行った。

朝鮮人高麗人参商人の歴史と同様に、タイに移住した独立運動家に関する記録を朝鮮人の個人記録や当時の新聞等から探ってみた。また、第2章において検討した外国旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人の氏名等の情報を現在、韓国に所蔵されている朝鮮独立運動に関連する記録の中から探り、タイに移住していた朝鮮人高麗人参商人が朝鮮独立運動関連活動にも関わっていたという新たな事実を見出すことができた。

ところが、日本の植民地支配を受けていた時期には、このように高麗人参の販売や独立運動を目的とし、タイに移住した朝鮮人たちとは異なり、日本軍と共にタイに渡った朝鮮人も存在した。元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性がそれに当たるが、彼らに関連する記録がタイの国立公文書館に所蔵されていたため、当史料を基に第4章及び第5章の各章においては、それぞれ帝国主義日本がアジア侵略を敢行する過程の中でタイに渡った元朝鮮人軍人軍属と元朝鮮人慰安婦女性の歴史を調査した。

更に、両章においては、タイの国立公文書館で収集した元朝鮮人軍人軍属、或いは元朝鮮人慰安婦女性の関連記録のみならず、内海（2015）のような先行研究を参考にすることで、当時、帝国主義日本の臣民としてタイに渡っていた彼らがタイ現地においてどのように生きていたのかを検討した。

第6章においては、第二次世界大戦の終戦直後、それまでタイに移住していた朝鮮人たちはどのような処遇を受けていたか、また、何故彼らの歴史は終戦後、途絶えてしまったのかを多少なりとも明らかにすることを試みた。本章では、タイの捕虜収容所の記録のみならず、韓国臨時政府や連合軍の記録などを検討することで、当時の朝鮮半島を巡る状況を把握すると共に、殆どの朝鮮人が朝鮮半島に帰還せざるを得なかった理由を調べた。

一方、タイの捕虜収容所に収容されていた殆どの朝鮮人が故郷に送還されていた中、一部の朝鮮人がタイに残留した。そこで、彼らの実体験を記録した史料を参考に、当時、タイに残った朝鮮人たちが朝鮮半島に戻らなかった理由に加え、彼らがどのような過程を経て、在タイ韓国人第1世代となったのかを探った。

このように本論文では、日本が朝鮮半島を植民統治していた時期にタイに移住した朝鮮人の歴史を4つの特徴別に分け、日本、韓国、タイの3カ国から収集した史料を基に検討することで、帝国主義日本による朝鮮半島の植民地支配というプッシュ要因によって形成された朝鮮人のタイ移住史に新たな事実を見出すことに多少なりとも貢献できたものとする。

## 第1章 日本の朝鮮支配と朝鮮人の海外移住動向

朝鮮人の海外移住史は19世紀末、朝鮮半島内の食糧難及び経済悪化による間島地域への移住から始まった。当時、間島地域では、生存可能な新しい土地を求めて清国との国境を超える朝鮮人移住民が大規模で発生した。ところが、このような朝鮮人の海外移住は20世紀に入ってから日本の植民地支配によって大きく変わった。一夜で朝鮮という国籍を失い、日本の国民になったのである。

このような状況の中、朝鮮人は新しい定着地を求めて、又は出稼ぎ労働のためなど、様々な理由で世界各地に渡ったが、東南アジア地域は年中温暖な気候で、食料が豊富な地域だったため、新たな移住地として魅力的な地域だった。中でも、タイは東南アジアの中心に位置し、海外との交易が盛んでいた上、周辺国が植民地化されていく中、独立国家としての地位を維持していたため、朝鮮人の海外移住地として適していた地域だった。

それ故、20世紀の初めにタイに移住していた朝鮮人は存在すると考えられるが、同時期における朝鮮人のタイ移住が、どのように、更にどれほどの規模で行われていたのかを一つにまとめた資料や研究は未だに存在しない。

そこで、まずは、帝国主義日本の植民地支配下で行われた朝鮮人の海外移住全体の傾向を把握し、その中から朝鮮人のタイ移住がどのように行われていたのかを知るために、当時、朝鮮半島を統治していた日本の人口統計記録を参考にした。同時期、海外に在留していた朝鮮人数は、日本外務省の記録「海外在留本邦人職業別人口調査一件」、「海外各地在留本邦人職業別人口表」、「海外各地在留本邦人人口表」などから見出すことができる。これらの史料はアジア歴史資料センターのデジタルアーカイブにも公開されている<sup>3</sup>。

本章において、明治43年から大正9年までの統計は「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻から第二十一巻を参照し、大正10年から昭和4年までの統計は「海外各地在留本邦人職業別人口表」の年度別記録を参照した。また、昭和5年の統計は「在外本邦人国勢調査職業別人口表」を、昭和6年から昭和14年までの統計は「海外各地在留本邦人人口表」の各年別記録を参照し、明治43年から昭和14年までにおける、海外在留朝鮮人数を調査した。

これらの史料は毎年、海外各地域に設けられた日本領事館によって集計された人口統計を年度別にまとめたものであり、調査主体となった日本領事館が位置した地域を中心に周辺地域における朝鮮人数も含んでいる。各地域の調査時の現地状況によって

---

<sup>3</sup> 同資料は国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) においても閲覧することができる。

は、朝鮮人移住民数が正確に集計されていない記録も見られ、年度によっては朝鮮人数が急変する場合も存在するという事を事前に示しておきたい。また、同じ年に複数回の統計が記録された場合は、最も最後に記録された統計を用いた。

現在、把握可能な統計記録は、戦前までと限られているが、それでもなお、体系的且つ公式的な記録を基に、日本の植民地支配下で行われた朝鮮人の海外移住動向を把握に資することができればと考える。

## 1. 海外在留本邦人職業別人口調査一件（明治43年-大正9年）

日本による韓国併合が行われた明治43年、海外に移住していた朝鮮人の数は早速、日本政府による在外本邦人の人口統計の中に日本人と共に集計されるようになった。しかしながら、明治43年から大正9年までの間における調査記録は、地域区分や朝鮮人数の記録方法などにおいて、未だ統一された方法が用いられなかったため、一つの表にまとめるよりは、年度ごとに検討していくことで、朝鮮人の移住地域と朝鮮人数にどのような変化が見られたかを調査することにした。

まず、明治43年に作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻において、在外朝鮮人の存在が確認された地域は、以下の表1のように関東州、廣東、上海、間島、鐵嶺、ポートランド、ロシアであった。

表1 明治43年海外在留朝鮮人人員表

| 地域     | 男性  | 女性  | 合計    | 備考    |
|--------|-----|-----|-------|-------|
| 関東州    | 16  | 4   | 20    |       |
| 廣東     | -   | -   | -     | 数名確認  |
| 上海     | 1   | -   | 1     |       |
| 間島     | 774 | 640 | 1,414 |       |
| 鐵嶺     | -   | 7   | 7     | 酌婦の女性 |
| ポートランド | -   | -   | 3     |       |
| 露國     | -   | -   | 253   |       |

（出所）アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_009）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻

明治43年、朝鮮人が最も多く居住していた地域は間島地域だった。同統計において、間島地域の中には、龍井村商埠地、百草溝商埠地、局子街商埠地、頭道溝商埠地、琿春商埠地が含まれており、合計1,414の朝鮮人が居住していたということがわかった。一方、上海など間島地域以外の支那地域でも朝鮮人移住民の存在は確認されたが、その数は全地域を合わせても30人にも満たない数値だった。

廣東地域においては、正確な朝鮮人移住民数が把握されていなかったものの、同記録には「朝鮮人ニシテ當館ニテ護照ノ発給ヲ受ケ兩廣地方ニ於テ人參行商ヲナスモノナ余名アリ」<sup>4</sup>と記録されている部分があり、当地域で高麗人參を販売していた朝鮮人が存在したということがわかった。

支那以外の地域において朝鮮人移住民の存在が確認されたのは、ポートランドとロシアのみだった。ポートランドの統計資料には、当地域の日本領事館がオレゴン州政府の人口統計を参考にして「北米合衆國昨年戸口調査ノ結果ニ基キ同戸口調査局長ヨリ當オレゴン州會へ通達セル処ニヨレバ全州人口六十七万二千七百六十五名ニシテ右ノ中本邦人三千二百八十六名及ビ朝鮮人三名ヲ計上…」<sup>5</sup>と記録した部分があり、当時、アメリカ大陸にも朝鮮人が渡っていたことがわかった。

このように明治43年の人口統計において、朝鮮人移住民が確認された地域は中国大陸、アメリカ、ロシアの3地域で、各地域で集計された朝鮮人数は合計1,698人だった。ところが、その翌年からの人口統計では、朝鮮人移住民が確認された地域に変化が見られた。明治45年までの統計は以下のようである。

表2 明治44年海外在留朝鮮人人員表

| 地域   | 男性  | 女性  | 合計    | 備考 |
|------|-----|-----|-------|----|
| 奉天   | 430 | 18  | 448   |    |
| 鐵嶺   | 5   | 4   | 9     |    |
| 上海   | 48  | 2   | 50    |    |
| 芝罘   | 29  | 17  | 48    |    |
| 吉林   | -   | -   | 14    |    |
| 長春   | 6   | -   | 6     |    |
| 齊齊哈爾 | 98  | 6   | 104   |    |
| 間島   | 605 | 538 | 1,143 |    |
| 香港   | 3   | -   | 3     |    |
| 盤谷   | 3   | -   | 3     |    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_009) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_010) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_011) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十一巻

<sup>4</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_009) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻、Ref. B13080330100 (外務省外交史料館)、66頁。

<sup>5</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_009) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻、Ref. B13080330100 (外務省外交史料館)、380頁。

表3 明治45年海外在留朝鮮人人員表

| 地域   | 男性  | 女性  | 合計    | 備考 |
|------|-----|-----|-------|----|
| 上海   | 70  | 5   | 75    |    |
| 天津   | 21  | -   | 21    |    |
| 芝罘   | 23  | 14  | 37    |    |
| 長春   | 3   | -   | 3     |    |
| 間島   | 789 | 685 | 1,474 |    |
| 奉天   | 185 | 37  | 222   |    |
| 鐵嶺   | 483 | 216 | 699   |    |
| 遼陽   | 2   | -   | 2     |    |
| 齊齊哈爾 | 70  | 1   | 71    |    |
| 香港   | 5   | -   | 5     |    |
| 盤谷   | 6   | -   | 6     |    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_010) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_011) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十一巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_012) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十二巻

明治44、45年の統計を見ると、明治43年と同様、朝鮮人移住民は主に支那及び満洲地域に滞在していたが、朝鮮人の移住先は、明治43年と比較し、多様化されていた。各地域における朝鮮人も増加し、それまで居住地及び人数不詳だった廣東地域に居住する朝鮮人移住民は、香港に移住していたということがわかった。依然として朝鮮人移住民数が最も多い地域は間島であったが、明治44年からは、その周辺地域である鐵嶺や奉天地域にも朝鮮人の移住が拡大された。

ところが、明治43年は確認できたポルトランド及びロシアにおける朝鮮人移住民の存在は、明治44、45年は見られなくなった。但し、第11巻のモスクワ地域における調査には「朝鮮人約二百五十名合計二百七十余名アルモ制規ノ届出ヲナサス…」<sup>6</sup>と記述された部分があり、モスクワ及びその周辺地域に居住する朝鮮人の存在だけ確認することができた。

明治44、45年における人口統計からアメリカ及びロシアに居住する朝鮮人は見当たらなくなったが、その代わりに、タイのバンコクにおいて朝鮮人移住民が確認されるようになった。これは明治44、45年の人口調査において、支那及び満洲以外の地域で朝鮮人移住民数が集計された唯一な地域であり、東南アジア地域としては、初めて朝鮮

<sup>6</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_011) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十一巻、Ref. B13080341700 (外務省外交史料館)、304頁。

人移住民が確認された統計でもある。

このように朝鮮人移住民が支那及び満洲地域に集中する現象は、大正4年まで続いた。

表4 大正2年海外在留朝鮮人人員表

| 地域   | 男性    | 女性  | 合計    | 備考 |
|------|-------|-----|-------|----|
| 上海   | 48    | 6   | 54    |    |
| 芝罘   | 4     | 3   | 7     |    |
| 斉斉哈爾 | 615   | 14  | 629   |    |
| 間島   | 1,142 | 923 | 1,234 |    |
| 奉天   | 133   | 72  | 205   |    |
| 鐵嶺   | -     | -   | 9     |    |
| 長春   | 17    | 3   | 20    |    |
| 遼陽   | 6     | 2   | 8     |    |
| 盤谷   | 8     | -   | 8     |    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_012) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十二巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_013) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十三巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_014) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻

表5 大正3年海外在留朝鮮人人員表

| 地域   | 男性    | 女性    | 合計    | 備考 |
|------|-------|-------|-------|----|
| 奉天   | -     | -     | 212   |    |
| 上海   | 60    | 5     | 65    |    |
| 哈爾濱  | 122   | 28    | 150   |    |
| 間島   | 1,523 | 1,345 | 2,868 |    |
| 芝罘   | 3     | 4     | 7     |    |
| 牛莊   | 3     | -     | 3     |    |
| 鐵嶺   | 136   | 87    | 223   |    |
| 長春   | 30    | 18    | 48    |    |
| 遼陽   | 5     | 2     | 7     |    |
| 斉斉哈爾 | 606   | 14    | 620   |    |
| 西貢   | 3     | -     | 3     | 行商 |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_014) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_015) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十五巻

表6 大正4年海外在留朝鮮人人員表

| 地域  | 男性     | 女性     | 合計      | 備考 |
|-----|--------|--------|---------|----|
| 間島  | 94,548 | 82,350 | 176,898 |    |
| 哈爾濱 | 120    | 33     | 153     |    |
| 上海  | 83     | 7      | 90      |    |
| 長春  | 15     | 8      | 23      |    |
| 遼陽  | 2      | 2      | 4       |    |
| 牛莊  | 160    | 40     | 200     |    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_016) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十六巻

大正2年から大正4年までの人口統計を見ると、北京を含む天津地域に加え、明治45年に入って、初めて正確な朝鮮人数が集計されはじめた香港地域からは、朝鮮人移住民が見当たらなくなった。同時期、天津地域の状況は定かではないが、香港に関しては、第十四巻において「當館へ登録セザル台湾籍民及朝鮮人尚許多アル見込」<sup>7</sup>と記録された部分があり、明治45年以降、何らかの理由により、再び朝鮮人移住民数を正確に把握することができなくなったということがわかった。

一方、奉天及び鐵嶺地域における朝鮮人数は、大正2年に入ってから大幅に減少し始め、大正4年には両地域共、朝鮮人数が集計されなくなった。また、大正2年には、バンコクにおいて、大正3年には東南アジア地域でバンコクの代わりに、サイゴンにおいて朝鮮人移住民が確認されたが、大正4年には両地域共に、朝鮮人が記録されなかった。

ところが、間島地域の人口統計においては、他の地域とは異なる様子が見られた。大正3年、朝鮮人数が前年度と比較し、その約2倍である2,868人にまで増加した間島地域では、大正4年に入ってから朝鮮人数が約61.6倍増加し、176,898人に達した。

このように朝鮮人数が急増した大正4年の間島地域の朝鮮人人口統計には、それまでの統計とは異なり、東良上里社外二十八社、間桜溝社外八社、平崗上里社外二社、春陽社外五社という細部項目が追加されていた<sup>8</sup>。同統計が集計された大正4年は、「南満洲及東部内蒙古ニ関スル条約」などを含む「対華二十一カ条要求」が行われ、満洲地域において日本の影響力が強まった時期であった。

つまり、大正4年、間島地域において朝鮮人数がここまで急増した理由は、当時、

<sup>7</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_014) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻、Ref. B13080352800 (外務省外交史料館)、401頁。

<sup>8</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_016) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十六巻、Ref. B13080360600 (外務省外交史料館)、106頁。

朝鮮半島から国境を超えた移住民数が急増したのではなく、既に当地域に移住していた朝鮮人数をより正確に集計することができるほど、日本の勢力が拡大されていた結果だったと見られる。

しかし、いずれにしても大正4年までの時期において、朝鮮人の海外移住は中国大陸に集中していた。このような朝鮮人の海外移住傾向は大正5年まで続くが、その後、大正6年に入り、世界各地に広がるようになった。

表7 大正5年海外在留朝鮮人人員表

| 地域           | 男性     | 女性     | 合計      | 備考 |
|--------------|--------|--------|---------|----|
| ニコラエウスク及びその他 | 3,401  | 578    | 3,979   |    |
| 哈爾濱          | -      | 1      | 1       |    |
| 長春           | 19     | 37     | 56      |    |
| 間島           | 99,371 | 82,227 | 181,598 |    |
| 天津           | 49     | 74     | 123     |    |
| 上海           | 101    | 12     | 113     |    |
| 鐵嶺           | 608    | 318    | 926     |    |
| 芝罘           | 2      | 6      | 8       |    |
| 牛莊           | 6      | 13     | 19      |    |
| 安東           | 1,508  | 1,109  | 2,617   |    |
| 奉天（鄭家屯）      | 7      | 9      | 16      |    |

（出所）アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_017）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十七巻；アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_018）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十八巻

表8 大正6年海外在留朝鮮人人員表

| 地域    | 男性    | 女性    | 合計                   | 備考 |
|-------|-------|-------|----------------------|----|
| 英吉利   | 7     | 1     | 8                    |    |
| 紐育    | 5     | -     | 5                    |    |
| シアトル  | 101   | 7     | 108                  |    |
| 市俄古   | 80    | 1     | 81                   |    |
| 桑港    | 238   | 28    | 266（+子ども20人、その他110人） |    |
| 加州    | 266   | 17    | 283                  |    |
| オレゴン州 | 55    | -     | 55                   |    |
| 布哇    | 4,100 | 1,015 | 5,115                |    |
| 秘露    | 1     | -     | 1                    |    |
| サンパウロ | 1     | -     | 1                    |    |



|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| シドニー    | 15      | -       | 15      |
| 盤谷      | 8       | -       | 8       |
| 比律賓     | 30      | 1       | 31      |
| 新嘉坡     | 10      | -       | 10      |
| 香港      | 31      | -       | 31      |
| 哈爾濱     | 742     | 528     | 1,270   |
| 長春      | 64      | 69      | 133     |
| 奉天      | 1,989   | 1,260   | 3,249   |
| 奉天（鄭家屯） | 12      | 7       | 19      |
| 間島      | 134,414 | 107,385 | 241,799 |
| 浦潮斯徳    | 1,598   | 1,467   | 3,095   |
| 齊齊哈爾    | 20      | 2       | 22      |
| 天津      | 70      | 97      | 167     |
| 上海      | 239     | 40      | 279     |
| 漢口      | 8       | -       | 8       |
| 長沙      | 2       | -       | 2       |
| 福州      | 1       | -       | 1       |
| 杭州      | 1       | -       | 1       |
| 南京      | 4       | 2       | 6       |
| 濟南      | 11      | 2       | 13      |
| 牛莊      | 153     | 102     | 255     |
| 遼陽      | 15      | 22      | 37      |
| 吉林      | 956     | 415     | 1,371   |
| 芝罘      | 15      | 1       | 16      |
| 汕頭      | 4       | -       | 4       |
| 安東      | 2,188   | 1,807   | 3,995   |
| 安東（通化）  | 21      | 15      | 36      |
| 九江      | 1       | -       | 1       |
| 農安      | -       | 2       | 2       |
| 鐵嶺（海龍）  | -       | -       | 4,202   |
| 鐵嶺（掏鹿）  | 417     | 316     | 733     |
| 赤峰      | 1       | -       | 1       |

（出所）アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_017）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」  
第十七巻；アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_018）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十八巻

大正5年に入り、ニコラエウスク及びその周辺地域において、朝鮮人移住民3,979人

が確認された。同地域は、ハバロフスク地方に位置する都市であり、アムール川がオホーツク海に出る河口に位置する地域である。ニコラエウスク周辺地域としては、沿海州地域やサハリン島があり、当時、約4,000人の朝鮮人移住民がロシア領の極東地域にも広がっていたことがわかった。

同調査の備考欄には「右朝鮮人人口ハ大正五年十二月末日現在ノ調査ニシテ露國々籍ヲ取得セサルモノヲモ包含シ居レリ」<sup>9</sup>と記録され、ロシアに移住した朝鮮人の中には、ロシアに帰化した者も存在したと見られる。

また、同年度における哈爾濱の統計調査には「此ノ外黒龍江沿岸及ビ「プクラニーチャーナ」附近露領國境各地方ニ在留スル（農業砂金礦労働者）鮮人約五千名ニ達スル見込ナルガ目下調査中ニ属ス」<sup>10</sup>という記述も見られ、彼らが満洲地域から国境を越えて、ロシアに流れ込んだ農夫や鉱山労働者だったということがわかる。

このような朝鮮人の海外移住は、大正6年に入ってから、世界中に広がり始めた。まず、ヨーロッパ地域としては、初めてロンドンにおいて、8人の朝鮮人移住民が集計された。アメリカでは、西海岸に位置するオレゴン州やカリフォルニア州のみならず、東海岸に位置するニューヨークやシカゴにおいても、朝鮮人の移住が確認された。

調査対象地域の中で、ハワイは、間島に次いで朝鮮人移住民が多い地域となり、ホノルルに男1,150人、女500人、オアフに男400人、女100人、ハワイ島に男1,600人、女230人、マウイ島に男450人、女90人、カウアイ島に男500人、女90人の朝鮮人が居住していたと調査されたが<sup>11</sup>、この大正6年の統計で集計された朝鮮人数は、正確な数ではなく、大まかな数値だったと考えられる。

東南アジア地域では、以前から朝鮮人が移住していたバンコクに加え、フィリピン及びシンガポールにおいて、朝鮮人移住民が確認され、東南アジア地域でも朝鮮人が広がり始めた。

南米大陸では、ペルー及びサンパウロにおいて、朝鮮人移住民が1人ずつ確認された。また、オセアニア地域でも、ブルーム地域12人、ニューギニア1人を含め、計15人の朝鮮人が集計され、朝鮮人が太平洋を越え、世界各地に広がり始めたことがわかった。

極東地域においては、ウラジオストクで約3,000人の朝鮮人が集計されたが、首都モスクワの統計では「雑業ニ従事セル朝鮮人数千名アルモ制規ノ届出ヲ出サスル…」

---

<sup>9</sup> アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_017）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十七巻、Ref. B13080368400（外務省外交史料館）、404頁。

<sup>10</sup> アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_017）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十七巻、Ref. B13080368400（外務省外交史料館）、442頁。

<sup>11</sup> アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_018）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十八巻、Ref. B13080372800（外務省外交史料館）、43頁。

<sup>12</sup>と記録され、朝鮮人移住民の存在のみを確認することができた。

支那地域の統計では、福州、汕頭、済南など新たな移住地が見られ、各地域の移住民数も増加した。また、奉天、安東、鐵嶺の海龍地域では、その数が3,000人を超えるようになり、間島地域の朝鮮人移住民数は、約24万人に上った。

このように朝鮮人の海外移住は、大正6年から世界各地で見られるようになった。その後の統計においても、朝鮮人の海外移住は世界各地に広がっていく傾向を見せた。大正7年から大正9年までの朝鮮人移住民の人口統計は、以下のようである。

表9 大正7年海外在留朝鮮人人員表

| 地域      | 男性    | 女性    | 合計     | 備考 |
|---------|-------|-------|--------|----|
| 紐育      | -     | -     | 6      |    |
| 市俄古     | 83    | 1     | 84     |    |
| シアトル    | -     | 6     | 6      |    |
| ポータランド  | 46    | 6     | 52     |    |
| ロスアンゼルス | 162   | 20    | 182    |    |
| 布哇      | 4,338 | 1,200 | 5,538  |    |
| 墨西哥     | 51    | 8     | 59     |    |
| 英吉利     | 4     | -     | 4      |    |
| シドニー    | 4     | -     | 4      |    |
| 盤谷      | 4     | -     | 4      |    |
| マニラ     | 43    | 1     | 44     |    |
| バタビア    | 2     | -     | 2      |    |
| 新嘉坡     | 31    | 2     | 33     |    |
| 浦潮斯徳    | -     | -     | 52,410 |    |
| ニコラエウスク | 3,250 | 510   | 3,760  |    |
| 香港      | 100   | 20    | 120    |    |
| 漢口      | 6     | -     | 6      |    |
| 上海      | 251   | 49    | 300    |    |
| 南京      | 8     | 1     | 9      |    |
| 天津      | 72    | 82    | 154    |    |
| 芝罘      | 12    | 1     | 13     |    |
| 牛莊      | 33    | 37    | 70     |    |
| 夏門      | 5     | -     | 5      |    |
| 汕頭      | 19    | -     | 19     |    |

<sup>12</sup> アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_017）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十七巻、Ref. B13080368400（外務省外交史料館）、162頁。

|         |         |         |         |      |
|---------|---------|---------|---------|------|
| 奉天      | 1,254   | 964     | 2,218   |      |
| 奉天（新民府） | 285     | 188     | 473     |      |
| 奉天（鄭家屯） | 22      | 7       | 29      |      |
| 長沙      | 2       | -       | 2       |      |
| 鐵嶺      | 266     | 143     | 409     |      |
| 鐵嶺（掏鹿）  | 482     | 352     | 834     |      |
| 鐵嶺（海龍）  | 3,657   | 2,668   | 6,325   |      |
| 長春      | 137     | 96      | 233     |      |
| 農安      | -       | 2       | 2       |      |
| 遼陽      | 65      | 25      | 90      |      |
| 安東      | 2,462   | 2,051   | 4,513   |      |
| 哈爾濱     | 1,157   | 638     | 1,795   |      |
| 吉林      | 1,086   | 508     | 1,594   |      |
| 齊齊哈爾    | 104     | 34      | 138     |      |
| 間島      | 137,701 | 108,931 | 246,632 |      |
| 間島（琿春）  | -       | -       | 26,388  |      |
| 間島（頭道溝） | 17,507  | 15,531  | 33,038  |      |
| 赤峰      | 1       | -       | 1       |      |
| 通化      | 4,657   | 2,461   | 7,118   |      |
| 成都      | 1       | -       | 1       | 人參行商 |
| 黒河      | 224     | 52      | 276     |      |
| 濟南      | 8       | -       | 8       |      |
| 南洋群島    | 134     | 41      | 175     |      |

（出所）アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_018）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」  
第十八巻；アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_019）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十九巻

表10 大正8年海外在留朝鮮人人員表

| 地域      | 男性    | 女性    | 合計    | 備考 |
|---------|-------|-------|-------|----|
| 紐育      | 9     | -     | 9     |    |
| 市俄古     | 84    | 1     | 85    |    |
| シアトル    | 101   | 7     | 108   |    |
| ポートランド  | 47    | 5     | 52    |    |
| ロスアンゼルス | 173   | 25    | 198   |    |
| 布哇      | 4,387 | 1,208 | 5,595 |    |
| 墨西哥     | 56    | 8     | 64    |    |
| 英吉利     | 4     | -     | 4     |    |

|         |         |         |               |
|---------|---------|---------|---------------|
| 仏蘭西     | 9       | -       | 9             |
| シドニー    | 3       | -       | 3             |
| 新嘉坡     | 3       | -       | 3             |
| 盤谷      | 5       | -       | 5             |
| マニラ     | 19      | 1       | 20            |
| 浦潮斯徳    | -       | -       | 20,986        |
| ニコラエウスク | 3,350   | 825     | 4,175         |
| 香港      | 375     | 19      | 394 (+子ども16人) |
| 夏門      | 3       | -       | 3             |
| 長沙      | 2       | -       | 2             |
| 長春      | 981     | 409     | 1,390         |
| 哈爾濱     | 356     | 125     | 481           |
| 通化      | 12,649  | 9,565   | 22,214        |
| 齊齊哈爾    | 552     | 317     | 869           |
| 上海      | 248     | 55      | 303           |
| 南京      | 8       | 1       | 9             |
| 天津      | 84      | 98      | 182           |
| 芝罘      | 1       | -       | 1             |
| 牛莊      | 95      | 74      | 169           |
| 汕頭      | 17      | -       | 17            |
| 漢口      | 2       | 8       | 10            |
| 奉天      | 2,616   | 1,861   | 4,477         |
| 鐵嶺      | 651     | 493     | 1,144         |
| 遼陽      | 306     | 72      | 378           |
| 安東      | 2,730   | 2,296   | 5,026         |
| 吉林      | 3,682   | 1,501   | 5,183         |
| 滿洲里、黒河  | 246     | 74      | 320           |
| 間島      | 149,028 | 126,036 | 275,064       |
| 濟南      | 11      | 10      | 21            |
| 九江      | 2       | 2       | 4             |
| 赤峰      | 1       | -       | 1             |
| 鄭家屯     | 150     | 83      | 233           |
| 農安      | 8       | 10      | 18            |
| 掏鹿      | 2,244   | 1,393   | 3,637         |
| 海龍      | 4,382   | 3,038   | 7,420         |
| 宣昌      | -       | 1       | 1             |
| 青島      | 90      | 30      | 120           |
| 南洋群島    | 331     | 51      | 382           |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_019) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」  
 第十九巻; アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_020) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」 第二十巻

表11 大正9年海外在留朝鮮人人員表

| 地域        | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|-----------|---------|---------|---------|----|
| 桑港        | 83      | 9       | 92      |    |
| 市俄古       | 84      | 1       | 85      |    |
| シアトル      | 104     | 7       | 111     |    |
| ポータランド    | 47      | 5       | 52      |    |
| ロスアンゼルス   | 172     | 29      | 199     |    |
| 布哇        | 4,211   | 1,272   | 5,483   |    |
| 墨西哥       | 26      | -       | 26      |    |
| 英吉利       | 4       | -       | 4       |    |
| 盤谷        | 3       | -       | 3       |    |
| 新嘉坡       | 2       | -       | 2       |    |
| マニラ       | 38      | 1       | 39      |    |
| 浦潮斯徳      | -       | -       | 6,097   |    |
| ペトロパブロフスク | 400     | 17      | 417     |    |
| 北京        | 56      | 20      | 76      |    |
| 上海        | 282     | 57      | 339     |    |
| 南京        | 16      | -       | 16      |    |
| 天津        | 112     | 123     | 235     |    |
| 芝罘        | 2       | 1       | 3       |    |
| 牛莊        | 142     | 115     | 257     |    |
| 汕頭        | 3       | -       | 3       |    |
| 漢口        | 6       | -       | 6       |    |
| 長沙        | 1       | -       | 1       |    |
| 奉天        | 2,124   | 2,257   | 4,381   |    |
| 鐵嶺        | 671     | 548     | 1,218   |    |
| 長春        | 617     | 458     | 1,075   |    |
| 遼陽        | 55      | 29      | 84      |    |
| 安東        | 23,104  | 35,565  | 58,669  |    |
| 哈爾濱       | 5,588   | 4,168   | 9,756   |    |
| 吉林        | 44      | 27      | 71      |    |
| 齊齊哈爾      | 52      | 35      | 87      |    |
| 間島        | 152,572 | 126,944 | 279,516 |    |

|      |       |       |        |
|------|-------|-------|--------|
| 済南   | 8     | 11    | 19     |
| 九江   | 2     | 2     | 4      |
| 赤峰   | 1     | -     | 1      |
| 鄭家屯  | 497   | 251   | 748    |
| 農安   | 1     | -     | 1      |
| 海龍   | 6,636 | 6,049 | 12,685 |
| 掏鹿   | 2,032 | 1,336 | 3,368  |
| 通化   | -     | -     | 24,072 |
| 満洲里  | 43    | 31    | 74     |
| 南洋群島 | 396   | 75    | 471    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_021) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」  
第二十一巻

大正7年から大正9年の統計を見ると、アメリカ地域内における朝鮮人の新たな移住地は見当たらなかった。各地域の移住民数にも大きな変化は見られなかったものの、ハワイにおける朝鮮人数は、大正6年とは異なり、正確な人数の集計が可能となった。

南米地域の統計からは、大正6年、朝鮮人移住民が1人ずつ確認されたペルー及びサンパウロは見られず、メキシコにおいてのみ朝鮮人移住民数が集計された。

ヨーロッパ地域に関しては、大正8年、一時的にフランスに居住する9人の朝鮮人移住民が確認されたが、大正7年から大正9年までの3年間、朝鮮人移住民数が集計されたのはイギリスのみだった。

シドニー及びその周辺地域における朝鮮人数は、大正7年から年々減少した挙句、大正9年には集計されなくなった。その代わりに、大正7年からサイパン島をはじめとする南洋群島から朝鮮人移住民が確認されるようになった。

東南アジア地域においては、バンコク、マニラ、シンガポール、バタビアにて朝鮮人移住民が確認された。但し、バタビアで朝鮮人の移住が確認されたのは大正7年のみだった。

朝鮮半島に面している地域では、間島及び満洲地域と極東地域の間で異なる様子を見せた。ウラジオストクでは、一時期、朝鮮人数が約5万人にまで上ったが、大正9年には、約6,000人に急激な減少が見られた反面、間島及び満洲地域では、その数が大幅に増加した。

両地域が隣接している地域であるにも拘わらず、このように相反する結果を見せた理由は、実際、間島や満洲地域に移住した朝鮮人数が多かったのもあるが、間島や満洲地域には日本人の移住が進んでいた上、日本政府の影響力も及んでおり、朝鮮人数をより容易に把握することが可能な条件が整っていたためである。一方、「朝鮮人人

口ハ確實ナル調査機関ナキヲ以テ精正確ナラサルニ概数ヲ掲ケタリ」<sup>13</sup>というロシアの記録を見ると、極東地域においては、朝鮮人数を把握する調査機関がなかったことがわかる。

このように朝鮮人移住民数の集計が始まった明治43年から大正9年までの10年間の間、中国大陸を除けば、バンコクのように一部の地域でしか見られなかった朝鮮人の海外移住は、世界各地において見られるようになった。その後、大正10年からは、「海外在留本邦人職業別人口調査一件」を基に「海外各地在留本邦人職業別人口表」が作成され、より容易に朝鮮人の海外移住動向を把握することができるようになった。

## 2. 海外各地在留本邦人職業別人口表（大正10年-昭和4年）

大正10年から昭和4年までの海外在留朝鮮人に関する統計においても、それまでと同様に朝鮮人の主な海外移住先は満洲地域だったが、調査の結果、以前よりも移住先が多様化された。

大正9年までの統計記録とは異なり、同期間内に集計された記録には、調査地域や朝鮮人数の記録方法などにおいて、ある程度一貫性が見られるようになったため、各年度における海外在留朝鮮人数調査を検討した後、地域別に整理し、一つの表にまとめて再検討した。

まず、大正10年から3年間の人口統計は以下のようなものである。

表12 大正10年海外在留朝鮮人人員表

| 地域      | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|---------|---------|---------|---------|----|
| 満洲      | 191,235 | 138,662 | 329,897 |    |
| 支那      | 931     | 344     | 1,275   |    |
| 香港      | 13      | 1       | 14      |    |
| 海防      | 2       | -       | 2       |    |
| 西貢      | 3       | -       | 3       |    |
| 暹羅      | 5       | -       | 5       |    |
| 新嘉坡及馬來  | 11      | 1       | 12      |    |
| カルカッタ   | 1       | -       | 1       |    |
| バタビア    | 7       | 1       | 8       |    |
| マニラ     | 28      | 1       | 29      |    |
| 桑港      | 82      | 17      | 99      |    |
| ロスアンゼルス | 25      | 18      | 43      |    |

<sup>13</sup> アジア歴史資料センター（7-1-5-4\_019）「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十九巻、Ref. B13080377300（外務省外交史料館）、208頁。



|        |       |       |        |
|--------|-------|-------|--------|
| ポートランド | 47    | 5     | 52     |
| シアトル   | 8     | -     | 8      |
| 市俄古    | 84    | 1     | 85     |
| 布哇     | 4,428 | 1,898 | 6,326  |
| 墨西哥    | 277   | 6     | 283    |
| 英吉利    | 5     | 1     | 6      |
| 仏蘭西    | 1     | -     | 1      |
| 西伯利亚   | 8,845 | 4,985 | 13,830 |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070476800) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十年六月末現在 (通\_38)

表13 大正11年海外在留朝鮮人人員表

| 地域       | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|----------|---------|---------|---------|----|
| 満洲       | 261,278 | 206,705 | 467,983 |    |
| 支那       | 823     | 401     | 1,224   |    |
| 香港       | 15      | 1       | 16      |    |
| 海防       | 1       | -       | 1       |    |
| 西貢       | 2       | -       | 2       |    |
| 暹羅       | 10      | -       | 10      |    |
| 新嘉坡及馬來   | 16      | 3       | 19      |    |
| 蘭貢       | 1       | -       | 1       |    |
| バタビア     | 1       | -       | 1       |    |
| セレベス島    | 2       | -       | 2       |    |
| マニラ      | 28      | 1       | 29      |    |
| ルソン島     | 3       | -       | 3       |    |
| ブルーム     | 3       | -       | 3       |    |
| ケープタウン   | 1       | -       | 1       |    |
| 桑港       | 148     | 28      | 176     |    |
| ロスアンゼルス  | 46      | 20      | 66      |    |
| ポートランド   | 48      | 11      | 59      |    |
| シアトル     | 11      | -       | 11      |    |
| 市俄古      | 62      | 1       | 63      |    |
| 紐育       | 23      | -       | 23      |    |
| 布哇       | 4,489   | 1,946   | 6,435   |    |
| 墨西哥      | 215     | 5       | 220     |    |
| 玖馬       | 4       | -       | 4       |    |
| ブエノスアイレス | 1       | -       | 1       |    |

|      |        |        |        |
|------|--------|--------|--------|
| 英吉利  | 2      | 1      | 3      |
| 獨逸   | 7      | -      | 7      |
| 仏蘭西  | 1      | -      | 1      |
| 波蘭   | 1      | -      | 1      |
| 西伯利亞 | 14,358 | 12,745 | 27,103 |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070541600) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十一年六月末現在 (通\_323)

表14 大正12年海外在留朝鮮人人員表

| 地域       | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|----------|---------|---------|---------|----|
| 満洲       | 288,817 | 229,896 | 518,713 |    |
| 支那       | 862     | 435     | 1,297   |    |
| 香港       | 5       | -       | 5       |    |
| 海防       | 4       | -       | 4       |    |
| 西貢       | 7       | -       | 7       |    |
| 暹羅       | 7       | -       | 7       |    |
| 新嘉坡及馬來   | 18      | -       | 18      |    |
| 蘭貢       | 4       | -       | 4       |    |
| バタビア     | 3       | -       | 3       |    |
| スマトラ島    | 1       | -       | 1       |    |
| ボルネオ島    | 4       | 1       | 5       |    |
| セレベス島    | 1       | -       | 1       |    |
| マニラ      | 2       | 1       | 3       |    |
| ルソン島など   | 23      | -       | 23      |    |
| ブルーム     | 2       | -       | 2       |    |
| ケープタウン   | 1       | -       | 1       |    |
| 桑港       | 354     | 27      | 381     |    |
| ロスアンゼルス  | 不詳      | 不詳      | 不詳      |    |
| ポートランド   | -       | -       | 85      |    |
| シアトル     | -       | -       | 10      |    |
| 市俄古      | 71      | -       | 71      |    |
| 紐育       | 23      | -       | 23      |    |
| 布哇       | 4,575   | 2,227   | 6,802   |    |
| 玖馬       | 4       | -       | 4       |    |
| ブエノスアイレス | 1       | -       | 1       |    |
| 英吉利      | 3       | -       | 3       |    |
| 獨逸       | 20      | -       | 20      |    |

|      |   |   |       |
|------|---|---|-------|
| 仏蘭西  | 1 | - | 1     |
| 波蘭   | 1 | - | 1     |
| 西伯利亞 | - | - | 7,467 |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070541800) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十二年六月末現在 (通\_324)

大正10年から大正12年まで、満洲地域における朝鮮人数は、約33万人から約52万人まで大きく増加した。また、北京、上海、廣東などを含む中国本土においても朝鮮人数は増加し、朝鮮人の中国大陸全地域への移住は盛んになった。

その傍ら、大正10年以降、朝鮮人の東南アジア移住は、東南アジア全地域へ拡大した。それまでの朝鮮人の東南アジア移住は、主にバンコク、マニラ、シンガポールで見られ、それ以外の地域においては、統計年度によって稀に確認されてきたが、大正10年に入ってから、バンコク、マニラ、シンガポールのみならず、現在のインドネシア、ミャンマー、マレーシアが位置する地域などにおいても朝鮮人が見られるようになった。

オーストラリアでは、首都シドニーではなく、西海岸に位置するブルーム地域に朝鮮人が移住していた。また、アフリカ大陸では初めて、ケープタウンにおいて朝鮮人移住民を確認することができた。当時としては、非常に珍しい移住だったと考えられる。

アメリカにおける朝鮮人移住民数は、ハワイで最も多く集計された。調査の結果、毎年約6,000人ほどの朝鮮人をハワイ地域の人口統計から確認することができた。アメリカ本土においては、全地域を合わせ、毎年300人に満たない朝鮮人数が集計された。朝鮮人の移住は、比較的、首都ワシントンや経済の中心地であるニューヨークが位置する東海岸の地域より、太平洋に面している西海岸の地域で多く見られた。

当時、アメリカに隣接するメキシコやキューバにも朝鮮人は移住していた。大正11年まで、メキシコには200人を超える朝鮮人が居住していたが、大正12年に入ってから突然、集計されなくなった。キューバでは、大正10年、朝鮮人移住民を確認することはできなかったものの、大正11年からは、年間4人の朝鮮人が集計されるようになった。また、同じ中南米地域であるブエノスアイレスにも1人の朝鮮人が移住していたことがわかった。

朝鮮人のヨーロッパ地域への移住は、イギリス、ドイツ、フランス、ポーランドの4カ国において確認されたが、ポーランドに向かった朝鮮人1人以外、全員、西ヨーロッパに向かっていた。

ロシアでは、極東地域にのみ朝鮮人が移住していた。大正10年の統計によると、極東地域における朝鮮人数は約27,000人に達していたが、その後、減少し続け、大正12

年には約7,000人まで激減した。その上、大正12年の統計では男女別の統計も見当たらなくなった。当時、現地における日本領事館が朝鮮人移住民数を集計するに当たり、何らかの問題が生じたのではないかと考えられる。

このように大正10年以降における朝鮮人の海外移住は、アジア地域でのみならず、世界各地においても見られるようになった。朝鮮半島に面している満洲地域における移住民数が圧倒的に多かったが、東南アジア全地域に朝鮮人が広く分布するようになり、南米、オセアニア、アフリカなど、当時は朝鮮半島からその名前すら耳にすることのなかった珍しい地域への移住も行われた。また、このような移住傾向は、その後も続いた。

表15 大正13年海外在留朝鮮人人員表

| 地域       | 男性      | 女性      | 合計      | 備考               |
|----------|---------|---------|---------|------------------|
| 満洲       | 219,850 | 178,988 | 398,838 | 合計とは別に、鄭家屯1,236名 |
| 支那       | 1,149   | 477     | 1,626   |                  |
| 香港       | 7       | 23      | 30      |                  |
| 海防       | 4       | -       | 4       |                  |
| 西貢       | 18      | -       | 18      |                  |
| 暹羅       | 6       | -       | 6       |                  |
| 新嘉坡及馬來   | 14      | 1       | 15      |                  |
| 蘭貢       | 4       | -       | 4       |                  |
| バタビア     | 4       | -       | 4       |                  |
| スラバヤ     | 2       | -       | 2       |                  |
| マニラ      | 12      | 1       | 13      |                  |
| ルソン島など   | 12      | -       | 12      |                  |
| 桑港       | 132     | 55      | 187     |                  |
| ポートランド   | -       | -       | 67      |                  |
| シアトル     | -       | -       | 2       |                  |
| 市俄古      | 71      | -       | 71      |                  |
| 紐育       | 38      | -       | 38      |                  |
| 布哇       | 4,045   | 1,785   | 5,830   |                  |
| 玖馬       | 4       | -       | 4       |                  |
| ブエノスアイレス | 1       | -       | 1       |                  |
| 英吉利      | 1       | -       | 1       |                  |
| 獨逸       | 21      | -       | 21      |                  |
| 仏蘭西      | 4       | -       | 4       |                  |
| 瑞西       | 2       | -       | 2       |                  |

|      |    |    |       |
|------|----|----|-------|
| 豪州   | 2  | -  | 2     |
| 西伯利亞 | -  | -  | 7,269 |
| 南洋群島 | 59 | 22 | 81    |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070550000) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十三年六月末現在 (通\_362)

表16 大正14年海外在留朝鮮人人員表

| 地域           | 男性      | 女性      | 合計      | 備考   |
|--------------|---------|---------|---------|------|
| 満洲           | 290,474 | 239,976 | 530,450 |      |
| 支那           | 1,171   | 632     | 1,803   |      |
| 香港           | 6       | -       | 6       |      |
| 佛領印度支那       | 33      | -       | 33      |      |
| 暹羅           | 8       | -       | 8       |      |
| 英領海峽植民地及馬來諸邦 | 14      | -       | 14      |      |
| 蘭貢           | 7       | 1       | 8       |      |
| バタビア         | 11      | 2       | 13      |      |
| 比律賓群島        | 26      | 1       | 27      |      |
| 西濠州 (ブルーム)   | 6       | -       | 6       |      |
| ケープタウン       | 1       | -       | 1       |      |
| 北米合衆国本土      | 334     | 88      | 422     |      |
| 布哇           | 4,077   | 1,811   | 5,888   |      |
| 墨西哥          | 2       | -       | 2       |      |
| サンパウロ        | 1       | -       | 1       |      |
| ブエノスアイレス     | 1       | -       | 1       |      |
| 玖馬           | 4       | -       | 4       |      |
| 英吉利          | 5       | -       | 5       |      |
| 獨逸           | 11      | -       | 11      |      |
| 仏蘭西          | 6       | -       | 6       |      |
| 瑞西           | 2       | -       | 2       |      |
| 極東露領         | 93      | 21      | 114     | 不詳多数 |
| 南洋諸島         | 81      | 16      | 97      |      |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070550200) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十四年十月一日現在 (通\_363)

表17 大正15年海外在留朝鮮人人員表

| 地域 | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|----|---------|---------|---------|----|
| 満洲 | 290,075 | 245,207 | 535,282 |    |

|              |       |       |       |
|--------------|-------|-------|-------|
| 支那           | 1,241 | 692   | 1,933 |
| 香港           | 6     | -     | 6     |
| 佛領印度支那       | 60    | -     | 60    |
| 暹羅           | 4     | -     | 4     |
| 英領海峡植民地及馬來諸邦 | 27    | 2     | 29    |
| 蘭貢           | 7     | 1     | 8     |
| バタビア及スラバヤ    | 9     | 2     | 11    |
| 比律賓群島        | 35    | 3     | 38    |
| 在コロombo領事館管内 | 1     | -     | 1     |
| ケープタウン       | 1     | -     | 1     |
| 北米合衆国本土      | 527   | 113   | 640   |
| 布哇           | 4,262 | 1,996 | 6,258 |
| 墨西哥          | 2     | -     | 2     |
| サンパウロ        | 1     | -     | 1     |
| ブエノスアイレス     | 1     | -     | 1     |
| 玖馬           | 4     | -     | 4     |
| 英吉利          | 4     | 1     | 5     |
| 獨逸           | 7     | -     | 7     |
| 仏蘭西          | 16    | -     | 16    |
| ソビエツト連邦      | 4     | -     | 4     |
| 波蘭           | 2     | 1     | 3     |
| 極東露領及北樺太     | -     | -     | 1,386 |
| 南洋諸島         | 71    | 18    | 89    |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070477000) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十五年十月一日現在 (通\_39)

満洲地域における朝鮮人数は大正13年に入り、一時的に約40万人まで減少したが、大正14年から、再び約50万人以上の朝鮮人移住民数が集計された。しかし、中国本土においては、朝鮮人数が年々増加し、大正15年には1,933人に上った。

また、東南アジア地域において集計された朝鮮人数も毎年、増加し続け、大正14年には、初めて朝鮮人移住民数が東南アジア全地域を合わせ100人を超えるようになった。大正15年の時点で、佛領印度支那地域における朝鮮人数は60人と在東南アジア朝鮮人全体の約5割を占め、フィリピン地域が38人とその次に多かった。

アメリカにおいては、アメリカ本土のみならず、ハワイ地域においても、朝鮮人数の増加が見られ、両地域を合わせ約7,000人にまで上った。ところが、中南米地域においては、大正14年からサンパウロで朝鮮人1人が集計されるようになったこと以外、地域全体における朝鮮人数の変化は見られなかった。

ヨーロッパ地域においては、以前から朝鮮人移住民が確認されたイギリス、ドイツ、フランスでは、朝鮮人の移住傾向に変化は見られなかったが、大正13、14年に入ってから初めて、スイスに朝鮮人2人が移住していたことが確認できた。また、新たにソビエト連邦という統計が追加されたが、これはロシアのヨーロッパ側にあるモスクワ周辺地域で調査されたものだと見られる。しかし、極東地域では大正12年に続き、朝鮮人数が激減し、大正15年は約1,300人にまで減少した。

大正13年からは、大正10年以後、朝鮮人の移住が途絶えた南洋諸島において、再び朝鮮人移住民が集計され始めた。サイパン島を中心に、パラオやヤップにおいて、毎年80人以上の朝鮮人が集計された。

表18 昭和2年海外在留朝鮮人人員表

| 地域           | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|--------------|---------|---------|---------|----|
| 満洲           | 304,661 | 254,913 | 559,574 |    |
| 支那           | 1,353   | 758     | 2,111   |    |
| 香港           | 8       | 3       | 11      |    |
| 佛領印度支那       | 66      | 3       | 69      |    |
| 暹羅           | 13      | 1       | 14      |    |
| 英領海峡植民地及馬來諸邦 | 44      | 2       | 46      |    |
| カルカッタ        | 1       | -       | 1       |    |
| 英領印度及錫蘭      | 1       | -       | 1       |    |
| 蘭貢           | 15      | 1       | 16      |    |
| 蘭領東印度        | 16      | 3       | 19      |    |
| 在コロombo領事館管内 | 1       | -       | 1       |    |
| 比律賓群島        | 51      | 1       | 52      |    |
| ケープタウン       | -       | 1       | 1       |    |
| 北米合衆国本土      | 560     | 114     | 674     |    |
| 布哇           | 4,283   | 2,010   | 6,293   |    |
| 墨西哥          | 18      | 3       | 21      |    |
| ブエノスアイレス     | 1       | -       | 1       |    |
| 玖馬           | 35      | 11      | 46      |    |
| 英吉利          | 6       | 1       | 7       |    |
| 獨逸           | 2       | -       | 2       |    |
| 仏蘭西          | 13      | 1       | 14      |    |
| ソビエト連邦       | 8       | -       | 8       |    |
| 波蘭           | 2       | 1       | 3       |    |
| 瑞西           | 4       | -       | 4       |    |
| 極東露領         | 165     | 49      | 214     |    |

|      |    |    |     |
|------|----|----|-----|
| 南洋諸島 | 90 | 22 | 112 |
|------|----|----|-----|

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070477200) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」昭和二年十月一日現在 (通\_40)

表19 昭和3年海外在留朝鮮人人員表

| 地域           | 男性      | 女性      | 合計      | 備考              |
|--------------|---------|---------|---------|-----------------|
| 満洲           | 309,519 | 260,423 | 569,942 |                 |
| 支那           | 1,231   | 786     | 2,017   |                 |
| 香港           | 9       | 5       | 14      |                 |
| 佛領印度支那       | 66      | 5       | 71      |                 |
| 暹羅           | 19      | 3       | 22      |                 |
| 英領海峡植民地及馬來諸邦 | 48      | 5       | 53      |                 |
| 英領印度及錫蘭      | 1       | -       | 1       |                 |
| 蘭貢           | 12      | -       | 12      |                 |
| 蘭領東印度        | 19      | 7       | 26      |                 |
| 比律賓群島        | 28      | 1       | 29      |                 |
| 北米合衆国本土      | 616     | 118     | 734     |                 |
| 布哇           | 4,300   | 2,050   | 6,350   |                 |
| 墨西哥          | 22      | 1       | 23      |                 |
| プエノスアイレス     | 1       | -       | 1       |                 |
| 玖馬           | 18      | 10      | 28      |                 |
| 獨逸           | 1       | -       | 1       |                 |
| 仏蘭西          | 12      | 1       | 13      |                 |
| 波蘭           | 2       | 1       | 3       |                 |
| 瑞西           | 3       | -       | 3       | 学生              |
| 極東露領         | 131     | 23      | 154     | +244名<br>(男女不明) |
| 南洋諸島         | 147     | 29      | 176     |                 |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070547000) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」昭和三年十月現在 (通\_348)

表20 昭和4年海外在留朝鮮人人員表

| 地域     | 男性      | 女性      | 合計      | 備考 |
|--------|---------|---------|---------|----|
| 満洲     | 305,534 | 260,192 | 565,726 |    |
| 支那     | 1,268   | 879     | 2,147   |    |
| 香港     | 9       | 5       | 14      |    |
| 佛領印度支那 | 63      | 4       | 67      |    |



|              |       |       |       |
|--------------|-------|-------|-------|
| 暹羅           | 15    | 1     | 16    |
| 英領海峡植民地及馬來諸邦 | 48    | 6     | 54    |
| 蘭貢           | 13    | -     | 13    |
| 蘭領東印度        | 20    | -     | 20    |
| 比律賓群島        | 17    | 1     | 18    |
| 北米合衆国本土      | -     | -     | 714   |
| 布哇           | 4,365 | 2,115 | 6,480 |
| 墨西哥          | 22    | 4     | 26    |
| ブエノスアイレス     | 1     | -     | 1     |
| 玖馬           | 50    | 30    | 80    |
| 英吉利          | 5     | -     | 5     |
| 獨逸           | 1     | -     | 1     |
| 仏蘭西          | 12    | 1     | 13    |
| 波蘭           | 2     | 1     | 3     |
| 瑞西           | 2     | -     | 2     |
| 極東露領         | 104   | 63    | 167   |
| 南洋諸島         | 146   | 33    | 179   |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070547200) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」昭和四年十月現在 (通\_349)

昭和2年から昭和4年の間、海外に在留する朝鮮人移住民数や彼らの移住地域に大きな変化は見られなかった。昭和3年からケープタウンにおける海外各地在留本邦人人口統計から朝鮮人が集計されなくなったが、それまで世界各地に広く分布していた朝鮮人数は増加した。

大正10年から昭和4年までにおける海外在留朝鮮人数の推移を見ると以下のようなものである。

表21 海外在留朝鮮人数の推移（大正10年-昭和4年）

| 地域 \ 年度      | 大正10年   | 大正11年   | 大正12年   | 大正13年   | 大正14年   | 大正15年   | 昭和2年    | 昭和3年    | 昭和4年    |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 満洲           | 329,897 | 467,893 | 518,713 | 400,074 | 530,450 | 535,282 | 559,574 | 569,942 | 565,726 |
| 支那           | 1,178   | 1,224   | 1,297   | 1,626   | 1,803   | 1,933   | 2,111   | 2,017   | 2,147   |
| 香港           | 14      | 16      | 5       | 30      | 6       | 6       | 11      | 14      | 14      |
| 佛領印度支那       | 5       | 3       | 11      | 22      | 33      | 60      | 69      | 71      | 67      |
| 暹羅           | 5       | 10      | 7       | 6       | 8       | 4       | 14      | 22      | 16      |
| 英領海峽植民地及馬來諸邦 | 12      | 19      | 18      | 15      | 14      | 29      | 46      | 53      | 54      |
| 蘭貢（英領印度及錫蘭）  | -（1）    | 1       | 4       | 4       | 8       | 8（1）    | 16（2）   | 12（1）   | 13      |
| 蘭領東印度        | 9       | 3       | 10      | 6       | 13      | 11      | 19      | 26      | 20      |
| 比律賓群島        | 29      | 32      | 26      | 25      | 27      | 38      | 52      | 29      | 18      |
| 西豪州ブルーム      | -       | 3       | 2       | 2       | 6       | -       | -       | -       | -       |
| ケープタウン       | -       | 1       | 1       | -       | 1       | 1       | 1       | -       | -       |
| 北米合衆国本土      | 287     | 398     | 570     | 365     | 422     | 640     | 674     | 734     | 714     |
| 布哇           | 6,326   | 6,435   | 6,802   | 5,830   | 5,888   | 6,258   | 6,293   | 6,350   | 6,480   |
| 墨西哥          | 283     | 220     | -       | -       | 2       | 2       | 21      | 23      | 26      |
| 玖馬           | -       | 4       | 4       | 4       | 4       | 4       | 46      | 28      | 80      |
| 南米其他         | -       | 1       | 1       | 1       | 2       | 2       | 1       | 1       | 1       |
| 英吉利          | 6       | 3       | 3       | 1       | 5       | 5       | 7       | -       | 5       |
| 独逸           | -       | 7       | 20      | 21      | 11      | 7       | 2       | 1       | 1       |
| 仏蘭西          | 1       | 1       | 1       | 4       | 6       | 16      | 14      | 13      | 13      |
| 欧州其他         | -       | 1       | 1       | 2       | 2       | 3       | 7       | 6       | 5       |

|      |        |        |       |       |     |       |     |     |     |
|------|--------|--------|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|
| 露國   | 13,830 | 27,103 | 7,467 | 7,269 | 114 | 1,390 | 222 | 154 | 167 |
| 南洋諸島 | -      | -      | -     | 81    | 97  | 89    | 112 | 176 | 179 |

(出所) アジア歴史資料センター「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正十年-昭和四年

表21は、大正10年から昭和4年の間に作成された「海外各地在留本邦人職業別人口表」の年度別統計を基に作成したものである。このように朝鮮人が移住した海外地域は大きく分けて22地域に分けることができる。

まず、アジア大陸から見ると、朝鮮人移住民数が最も多かった満洲地域には、昭和4年まで565,726人の朝鮮人が移住した。これは大正10年と比較し、約1.7倍増加した数値であり、同時期、海外に在留する朝鮮人の約98%が満洲地域に居住していたということがわかった。

支那地域に居住する朝鮮人数は、大正10年から昭和4年までの間、1,178人から2,147人まで増加し、約1.8倍の増加を見せた。彼らの主だった移住先は、天津、北京、上海であった。しかしながら、当時、イギリスの支配下にあった香港では、朝鮮人数が一時期、30人まで増加したものの、昭和4年の朝鮮人数は、大正10年と同様に14人となった。

また、東南アジア地域では、大正9年まで一部の地域に限り、朝鮮人移住民が確認されてきたが、大正10年に入ってから、東南アジア各地に朝鮮人が広く分布するようになった。大正10年から昭和4年にかけて、フィリピンに居住していた朝鮮人数は、減少したが、それ以外の東南アジア各地における朝鮮人移住民数は増加した。同期間中、東南アジア各地域において、朝鮮人数は平均5.78倍増加した。朝鮮人数が最も大きく増加した地域は、佛領印度支那地域であり、現在のベトナム地域を中心に、13.4倍の増加が見られた。

しかしながら、極東地域が朝鮮人移住の中心だったロシアでは、朝鮮人数が13,830人から167人に激減し、朝鮮人の減少が最も激しかった地域となった。

次にアメリカ大陸を見ると、朝鮮人が最も多く居住するハワイでは、その数において、9年間大きな変化は見られなかったが、アメリカ本土に移住した朝鮮人数は、約2.48倍増加した。更に、カリブ海に位置するのキューバでは、大正15年まで4人だった朝鮮人数が昭和時代に入り急増し、昭和4年には80人に達した。その反面、大正10年、283人の朝鮮人が集計されたメキシコにおける朝鮮人数は、昭和4年、26人のみが集計され、約10倍も減少した。他にも南米地域では、朝鮮人1人がブエノスアイレスやサンパウロに居住していたということが確認された。

朝鮮人のヨーロッパ地域移住は、主にイギリス、ドイツ、フランスの西ヨーロッパ諸国において見られたが、大正10年から昭和4年の間、朝鮮人数が増加した地域はフランスのみだった。ドイツでは、大正12、13年において、20人以上の朝鮮人が集計されたものの、昭和4年までドイツに残った朝鮮人は1人のみだった。また、ポーランド、スイス、モスクワ周辺においても、朝鮮人の移住が見られた。

その他にも西オーストラリアのブルーム地域では、大正14年まで朝鮮人の移住が確認されたが、大正15年からは詳細不明となり、アフリカのケープタウンでは、昭和2

年まで、朝鮮人1人が移住していたことがわかった。また、南洋諸島では、大正13年から朝鮮人が移住し、昭和4年まで、移住民数が倍増した。

このように朝鮮人の海外移住は大正10年に入り、それまでより多様な地域へ移住する様子を見せた。その上、移住民数も大きく増加し、日本の朝鮮半島支配が始まってから10年が過ぎても朝鮮人の海外移住は盛んに行われていた。

### 3. 海外各地在留本邦人人口表（昭和5年-昭和14年）

#### （1）在外本邦人国勢調査職業別人口表（昭和5年）

昭和5年の海外在留朝鮮人統計は、昭和6年以降の史料、若しくはそれ以前の史料とは異なり、「在外本邦人国勢調査職業別人口表」という史料として記録されていたため、他の年度の史料とは別けて検討した。

同年度の統計記録は、史料名のみならず、他の年度と比較し、海外在留朝鮮人数において大きな差が見られている。

表22 昭和5年海外在留朝鮮人人員表

| 地域         | 男性    | 女性    | 合計    | 備考 |
|------------|-------|-------|-------|----|
| 極東露領       | 179   | 76    | 255   |    |
| 満洲         | 2,998 | 1,571 | 4,569 |    |
| 中華民國       | 1,007 | 960   | 1,967 |    |
| 暹羅         | 14    | 1     | 15    |    |
| 佛領印度支那     | 40    | 4     | 44    |    |
| 新嘉坡        | 29    | 2     | 31    |    |
| 英領印度及錫蘭    | 19    | -     | 19    |    |
| 蘭領東印度      | 32    | 6     | 38    |    |
| 比律賓群島      | 31    | 8     | 39    |    |
| 英吉利        | 9     | 6     | 15    |    |
| 獨逸         | 3     | -     | 3     |    |
| 仏蘭西        | 2     | -     | 2     |    |
| ソヴェト聯邦（欧露） | 1     | 2     | 3     |    |
| 波蘭         | 2     | 1     | 3     |    |
| 瑞西         | 1     | -     | 1     |    |
| 北米合衆国（本土）  | 33    | 10    | 43    |    |
| 英領加奈陀      | 3     | -     | 3     |    |
| 墨西哥        | 44    | 30    | 74    |    |
| 玖馬         | 104   | 12    | 116   |    |
| 伯刺西爾國      | 3     | -     | 3     |    |

|          |   |   |   |
|----------|---|---|---|
| アルゼンティン國 | 1 | - | 1 |
| チリー國     | 2 | - | 2 |
| 西豪州      | 4 | - | 4 |
| 布哇       | 1 | - | 1 |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070517700) 「在外本邦人国勢調査職業別人口表」昭和五年 (通\_208)

昭和5年の海外在留朝鮮人統計において、他の年度の統計と比較し、最も大きな差を見せたのは、満洲地域だった。昭和4年、約56万人まで増加した朝鮮人数が昭和5年に入り、その10分の1にも満たない4,569人にまで減少していた。また、ハワイにおいても、昭和4年まで毎年約6,000人の朝鮮人移住民が集計されてきたが、昭和5年における在ハワイ朝鮮人は1人のみだった。

このように朝鮮人数が急激に減少した理由は不詳だが、両地域共に、昭和6年以降の統計においては、昭和4年以前の朝鮮人数を回復していたため、昭和5年の集計方法に何らかの間違いがあったのではないかと考えられる。

昭和5年における朝鮮人移住民数の減少は、満洲やハワイのみならず、アメリカ本土や支那地域においても見られた。アメリカ本土では、昭和4年と比較し朝鮮人数が約94%も減少し、支那地域においても約200人の減少が見られた。このように昭和5年は、朝鮮人の主要移住先4地域において大きな減少が見られた。

その傍ら、メキシコやキューバなど、中南米地域における朝鮮人数は増加し、カナダ地域及びチリーにおいて、初めて朝鮮人の移住が確認された。ヨーロッパ地域においては、フランスにおける朝鮮人数が減少した代わりに、イギリスにおいて、朝鮮人数の増加が見られた。

また、東南アジア地域及び南アジア地域では、インド及びスリランカ地域、蘭領東印度、フィリピン地域の統計において、朝鮮人が約20人ずつ増加した反面、シンガポール、佛領印度支那地域の統計においては、朝鮮人数が約20人ずつ減少した。しかし、タイにおいてのみ、1人の減少にとどまり、前年度の朝鮮人数とほぼ同じ数値を見せた。

## (2) 海外各地在留本邦人人口表 (昭和6年-昭和11年)

前述の昭和5年の統計では、世界各地における朝鮮人数に、あまりにも急激な変化があったため、不自然な統計結果が見られた。しかし、昭和6年から作成された「海外各地在留本邦人人口表」では、昭和4年以前に集計された朝鮮人数に近似する統計結果に戻った。同史料の昭和6年から昭和11年までにおける海外在留朝鮮人数の統計は、統一された地域区分の基、調査が行われ、朝鮮人数の変化においても、目立って

異常な変化は見られなかったため、以下のように一つの表にまとめた。

表23 海外在留朝鮮人人員表（昭和6年-昭和11年）

| 地域       | 昭和6     | 昭和7     | 昭和8     | 昭和9     | 昭和10    | 昭和11    |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 關東州      | 1,747   | 2,002   | 2,259   | 2,708   | 3,454   | 4,025   |
| 南洋委任統治地域 | 226     | 281     | 307     | 319     | 411     | 548     |
| 極東露領     | 411     | 975     | 1,428   | 1,428   | 1,321   | 3,778   |
| 中華民國     | 2,717   | 3,282   | 4,615   | 6,048   | 7,081   | 11,480  |
| 滿洲       | 590,694 | 563,229 | 638,833 | 711,608 | 816,160 | 857,360 |
| 英領香港葡領澳門 | 30      | 33      | 10      | 26      | 24      | 10      |
| 暹羅國      | 13      | 6       | 5       | 5       | -       | -       |
| 佛領印度支那   | 8       | 44      | 48      | 52      | 54      | 54      |
| 英領馬來     | 26      | 25      | 20      | 15      | 18      | 15      |
| 英領北ボルネオ  | -       | 1       | 1       | 1       | -       | -       |
| 英領印度錫蘭   | 15      | 15      | 20      | 15      | 15      | 13      |
| 蘭領東印度    | 31      | 19      | 24      | 13      | 22      | 21      |
| 比律賓群島    | 22      | 62      | 62      | 37      | 42      | 18      |
| グアム島     |         |         |         |         |         |         |
| 濠州       | -       | -       | -       | -       | 1       | -       |
| 北米合衆国本土  | 338     | 1,706   | 1,399   | 958     | 309     | 308     |
| 布哇       | 6,577   | 6,645   | 6,417   | 6,458   | 6,487   | 6,471   |
| 英領加奈陀    | 3       | 4       | -       | -       | 4       | 4       |
| メキシコ國    | 29      | 114     | 114     | 115     | 52      | 52      |
| キューバ國    | 332     | 345     | 349     | 354     | 370     | 389     |
| ブラジル國    | -       | 1       | -       | -       | -       | -       |
| アルゼンティン國 | 2       | 4       | 2       | 2       | 2       | 2       |
| 歐洲諸國     | 38      | 43      | 36      | 46      | 51      | 54      |

（出所）アジア歴史資料センター（Ref. B10070590700）「海外各地在留本邦人人口表」

昭和六年十月一日現在（通三\_30）； 国立国会図書館デジタルコレクション（00000741072）「海外各地在留本邦人人口表」昭和七年十月一日現在； アジア歴史資料センター（Ref. B10070370100）「海外各地在留本邦人人口表」昭和八年十月一日現在（調査\_5）； アジア歴史資料センター（Ref. B10070370300）「海外各地在留本邦人人口表」昭和九年十月一日現在（調査\_6）； アジア歴史資料センター（Ref. B10070370500）「海外各地在留本邦人人口表」昭和十年十月一日現在（調査\_7）； アジア歴史資料センター（Ref. B10070370700）「海外各地在留本邦人人口表」昭和十一年十月一日現在（調査\_8）

まず、満洲地域における昭和6年から昭和11年までの朝鮮人数の統計を見ると、昭和6年の朝鮮人数は、昭和4年と比較し、約25,000人増加した590,694人となったものの、その翌年に入り、朝鮮人数は約27,000人減少し、昭和4年の朝鮮人数よりも低い数値を記録した。しかし、その後、昭和11年まで朝鮮人数は増加し続け、857,360人を記録した。これは、昭和6年の朝鮮人数と比較し、266,666人増加した数値であり、同時期の調査対象地域の中では、朝鮮人数の増加が最も大きかった地域となった。

また、昭和6年から昭和11年の間、満洲とその周辺地域においても、朝鮮人数は大きく増加した。関東州では、昭和6年、1,747人だった朝鮮人数が昭和11年まで、約2.3倍増加し、4,000人を超えるようになり、中華民国と区分された中国本土においては、昭和6年、2,717人だった朝鮮人数が、昭和11年まで、約4.2倍も増加し、11,480人に達した。更に、以前、朝鮮人数が急激に減少したことがある極東地域においても、昭和6年、411人に過ぎなかった朝鮮人数が、昭和11年まで約9倍も増加し、3,778人を記録した。

このように昭和11年まで、朝鮮半島と地理的に近い地域では、朝鮮人数が大きく増加したことがわかる。それでは、中国大陸より南に位置する東南アジア及びその周辺地域における朝鮮人の移住はどのように行われていたのだろうか。

中国大陸に位置する香港及び澳門では、昭和6年、30人だった朝鮮人数が昭和8年に入り、その3分の1である10人にまで減少した。その後、昭和9年において、26人まで増加したものの、昭和10年から再び減少しはじめ、昭和11年には10人となった。また、香港と同様に英国の植民地であった英領馬來及び英領印度錫蘭においても、同時期、朝鮮人数の減少が見られた。その他にも、英領北ボルネオにおいて、昭和7年から昭和9年まで、一時的に朝鮮人移住民1人が確認されたが、昭和10年からは集計されなくなった。

このように朝鮮人数が減少したのは、イギリス領の植民地だけではなく、蘭領東印度及びフィリピン、グアム島においても、同時期、朝鮮人数は減少した。蘭領東印度では、昭和6年から朝鮮人数の増減が繰り返されたが、昭和11年、蘭領東印度に残った朝鮮人数は、昭和6年比10人減少した21人となった。また、フィリピン及びグアム島における朝鮮人数は、昭和7年、前年比約3倍増の62人を記録したが、昭和11年まで、同地域に残留した朝鮮人数は21人となり、昭和6年の22人よりも1人減少した。

一方、佛領印度支那における朝鮮人数は、昭和6年、前年比約81%減少した8人を記録したが、翌年には、再び約81%増加し、それまでの人数に戻った後、更なる増加と遂げ、昭和11年には54人となった。また、当時、日本の統治下にあった南洋委任統治地域は、過去、南洋諸島と分類されていた地域であるが、昭和6年、226人だった朝鮮人数は昭和11年、548人まで増え、約2倍以上の増加を見せた。

しかし、当時、東南アジア及びその周辺地域の中で、唯一独立を維持していたタイ



では、昭和6年13人だった朝鮮人数が年々減少した挙句、昭和10年及び昭和11年には集計されなくなった。

このようにアジア各地においては、地域によって朝鮮人数の増減が見られた。ところが、同時期、他の欧米諸国地域における朝鮮人数に大きな変化は見られなかった。欧米諸国地域の中で、朝鮮人の移住が最も多かったハワイでは、昭和6年、6,577人の朝鮮人が在留していたが、昭和11年までハワイに残った朝鮮人数は6,471人と集計され、約100人の減少に止まった。更に、昭和6年、338人の朝鮮人移住民が確認されたアメリカ本土においては、翌年、朝鮮人数が1,706人まで急増したものの、その後、徐々に減少し、昭和11年まで同地域に在留した朝鮮人数は、昭和6年より30人減少した308人となった。

また、アメリカ周辺に位置するカナダやキューバにおいて、同様な傾向が見られた。同時期、カナダ地域では、昭和8、9年において一時的に朝鮮人数が集計されなかったものの、毎年3人から4人の朝鮮人が確認された。キューバにおける朝鮮人数も、昭和6年から昭和11年まで、約50人の増加はあったが、400人には満たなかった。一方、メキシコの朝鮮人数統計では、昭和7年、朝鮮人数が29人から114人にまで大きく増加したが、昭和10、11年は、5割以上減少した52人を記録した。その他にも、南米地域では、ブラジル及びアルゼンティンにおいて朝鮮人の移住が確認され、ヨーロッパ諸国における朝鮮人数は、同時期、16人の増加に止まった。

このように昭和6年から昭和11年にかけて、朝鮮人は朝鮮半島から地理的に近い、満洲及びその周辺地域、又は中国本土への移住が増加する傾向にあったことがわかった。その他の地域においては、朝鮮人数が減少、或いは維持されていた。また、以前、朝鮮人移住民が確認されたオーストラリアやアフリカのケープタウンでは、朝鮮人の移住が途絶えるようになり、それまで朝鮮人の移住が続いていたタイでも、昭和10年から朝鮮人数が集計されなくなった。

### (3) 海外各地在留本邦人人口表 (昭和12年-昭和14年)

本「海外各地在留本邦人人口表」に記録された昭和12年から昭和14年までにおける海外在留朝鮮人数は、前述の昭和6-11年の間に集計された朝鮮人数とは異なり、その数に異常な部分が見られた。統計の中から朝鮮人数に関する情報が全く記載されていない年度が存在する傍ら、複数の年度に渡り、朝鮮人数が全く同じ地域も見られている。そのため、昭和6-11年の史料とは別の表に別けて説明するが、その3年間の統計は以下のようなものである。

表24 海外在留朝鮮人人員表 (昭和12年-昭和14年)

| 地域 | 昭和12年 | 昭和13年 | 昭和14年 | 備考 |
|----|-------|-------|-------|----|
|----|-------|-------|-------|----|

|          |         |           |        |
|----------|---------|-----------|--------|
| 關東州      | 4,025   | -         | 4,025  |
| 南洋委任統治地域 | 582     | 704       | 704    |
| 極東露領     | 119     | -         | -      |
| 滿洲國      | 777,749 | 1,048,002 | -      |
| 中華民國     | 11,480  | 15,059    | 41,107 |
| 英領香港     | 10      | 16        | 10     |
| 葡領澳門     | 2       | -         | -      |
| 暹羅國      | -       | 1         | 3      |
| 佛領印度支那   | 55      | 38        | 30     |
| 英領馬來     | 13      | 17        | 15     |
| 英領北ボルネオ  | -       | 3         | 1      |
| 英領印度     | 11      | 7         | 9      |
| 蘭領東印度    | 13      | 11        | 10     |
| 比律賓群島    | 39      | 24        | 7      |
| 北米合衆国本土  | 239     | 275       | 306    |
| 布哇       | 6,501   | 6,707     | 6,723  |
| 英領カナダ    | 4       | 4         | 1      |
| メキシコ國    | 6       | -         | -      |
| キューバ國    | 395     | 390       | 390    |
| アルゼンティン國 | 3       | 3         | 3      |
| 欧洲諸國     | 53      | 42        | 25     |

(出所) アジア歴史資料センター (Ref. B10070370900) 「海外各地在留本邦人人口表」  
 昭和十二年十月一日現在 (調査\_9) ; アジア歴史資料センター (Ref. B1007037  
 1100) 「海外各地在留本邦人人口表」昭和十三年十月一日現在 (調査\_10) ;  
 アジア歴史資料センター (Ref. B10070371100) 「海外各地在留本邦人人口表」  
 昭和十四年十月一日現在 (調査\_11)

昭和12年以降、朝鮮人の海外移住に以前とは異なる変化が見られた。まず、朝鮮人の移住が最も活発に行われていた満洲地域における朝鮮人数は、昭和12年、777,749人と集計され、前年比約8万人の減少となった。その後、満洲地域では、朝鮮人数が約23万人増加し、1,048,002人を記録したが、昭和13年に、約100万人を記録した同地域では、その翌年、朝鮮人数が集計されなくなった。

満洲の周辺地域における朝鮮人人口統計にも、以前とは異なる変化が見られた。同史料の中から関東州における昭和13年の朝鮮人数統計に関する記録は見当たらなかったものの、昭和14年には、4,025人の朝鮮人が在留していたことが確認された。これは昭和12年の朝鮮人数と正確に一致する統計結果だった。

更に、中国本土においては、朝鮮人数が以前よりも大きく増加していた。昭和12年、

中国本土に移住していた朝鮮人数は、その前年と同様に11,480人と集計されたが、昭和14年まで朝鮮人数が41,107人にまで急激に増加し、過去最多を記録した。

ところが、ロシア領の極東地域及び澳門では、昭和13年から朝鮮人の移住が途絶え、朝鮮人数が全く集計されなくなった。また、香港における朝鮮人数は、昭和12年、昭和14年共に、10人と集計された。

東南アジア各地では、朝鮮人数の減少が見られた。佛領印度支那地域における朝鮮人数は、昭和12年、55人にまで上ったものの、昭和14年に入り、30人にまで減少した。その他にも、英領馬來、英領北ボルネオ、英領インド、蘭領東印度、フィリピンなどの東南アジアのほぼ全地域において朝鮮人の減少が見られた。ところが、昭和12年まで朝鮮人の移住が途絶えていたタイにおいてのみ、昭和13年から朝鮮人の移住が再び確認され、昭和14年は、3人にまで増加した。

また、昭和6年から朝鮮人数が増加し続けてきた南洋委任統治地域では、昭和14年、朝鮮人数が704人にまで上った。また、アメリカ本土やハワイにおいても、朝鮮人数がそれぞれ28%と3.4%ずつ増加した。

アメリカ周辺地域であるカナダでは、昭和12年、4人だった朝鮮人数が昭和14年には、1人へと減少し、メキシコでは、昭和13年から朝鮮人の移住が途絶えた。また、ヨーロッパ諸国に向かった朝鮮人数も53人から25人へと減少した。しかし、キューバにおける朝鮮人数は、昭和12年、395人だったのが、昭和14年まで5人減少し、390人と集計され、アルゼンティンでは、同期間の朝鮮人数が3人と維持されていた。

#### 4. タイ在留朝鮮人（明治43年-昭和14年）

日本外務省の記録を基に、明治43年から昭和14年までの間における朝鮮人の海外移住動向を調査してみた結果、同時期、朝鮮人の海外移住の9割以上が朝鮮半島に面している満洲地域で行われていたことがわかった。

しかし、当時の朝鮮人が向かった地域は満洲地域だけではなかった。当初、中国大陸においてのみ見られていた朝鮮人の海外移住は、年々移住民数が増加していくと共に、移住先も多様化されていった遂に、中国大陸の南に位置する東南アジア地域のみならず、アメリカ大陸、ヨーロッパ大陸、オセアニア地域、アフリカ大陸においても見られるようになった。

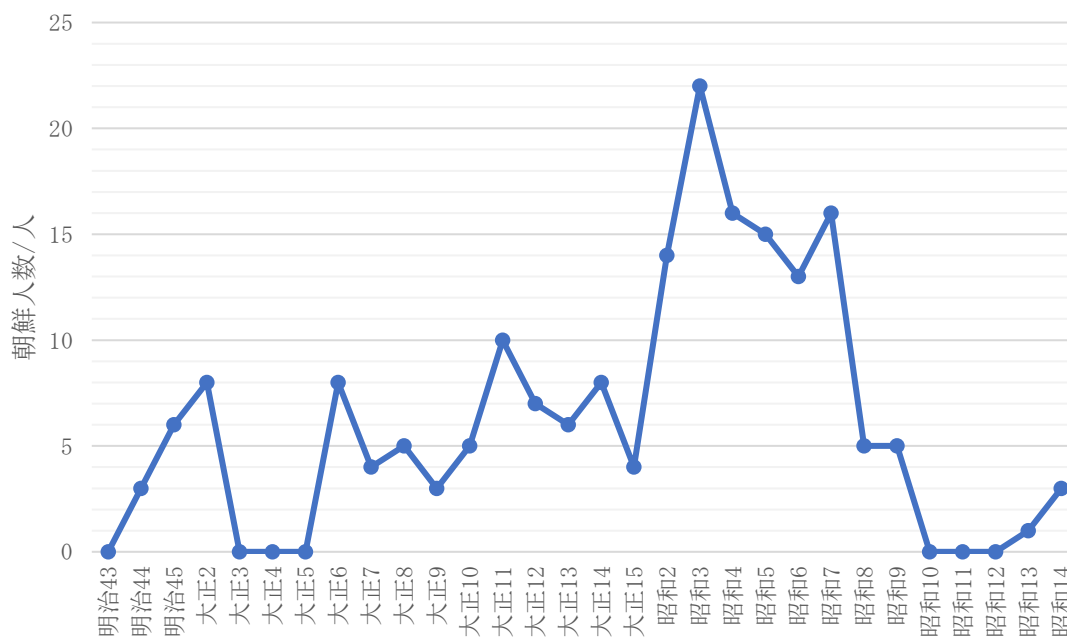
明治43年、海外各地に設けられた日本領事館によって作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」の中に初めて海外に在留する朝鮮人が統計に含まれるようになった際、中国大陸以外の地域において、朝鮮人移住民数が集計されたのは、ポルトランドとロシアのみだった。

ところが、この両地域における朝鮮人数は、推定値に過ぎず、それ以降、大正5年まで集計されることはなかった。従って、中国大陸以外の地域において、初めて朝鮮

人移住民数が正確に集計され続けた地域は、タイだったと言える。その上、大正3から大正5年まで、また、昭和10年から昭和12年まで、一部の時期において、朝鮮人移住民数が確認されなかった年度も存在するものの、東南アジア地域の中でタイは、昭和14年まで大きな朝鮮人移住民数の変化なく、正確に朝鮮人数が集計された地域の一つだったのである。

このように明治43年から昭和14年までタイに移住した朝鮮人数を一つの資料にまとめると以下の通りになる。

図 1 在タイ朝鮮人数の推移（明治43年-昭和14年）



(出所) アジア歴史資料センター「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九卷-第二十一巻；アジア歴史資料センター「海外各地在留本邦人職業別人口表」大正10年-昭和4年；アジア歴史資料センター「在外本邦人国勢調査職業別人口表」大正5年；アジア歴史資料センター「海外各地在留本邦人人口表」昭和6年-昭和14年

日本の外務省によって明治43年から昭和14年まで集計されたタイ移住朝鮮人数の推移は上記の図1のようである。同期間中、タイに移住した朝鮮人数の累計は、187人である。また、タイに在留する朝鮮人数が全く集計されなかった年度も存在するものの、年度別最多朝鮮人数は22人に上り、同史料を通じて、毎年平均約6.2人の朝鮮人がタイに滞在していたということがわかった。

ところが、本研究において同史料から得られた在タイ朝鮮人に関する情報は、朝鮮人数だけではなかった。前述のように「海外在留本邦人職業別人口調査一件」などに

記録された朝鮮人数は、日本人が職業別に分けられて記録されていたのとは異なり、基本的に各地域において集計された朝鮮人の合計数のみが記録された。同史料の在タイ朝鮮人数を集計した殆どの統計記録も同様に作成されたが、大正2年の統計のみ、他の年度とは異なる方法で朝鮮人数が記録された。

大正2年に作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」の第十二巻『盤谷』がそれである。この史料の中には、大正2年、タイのバンコクに滞在していた朝鮮人は全員、売薬商であると記録されている。その詳細な内容は、次章において後述するが、これは当時、タイに移住していた朝鮮人がタイ現地において高麗人参を販売していた商人だったということを示唆している。

## 第2章 朝鮮人高麗人参商人のタイ移住

日本の植民地支配下で、タイにどのような朝鮮人が移住したのかを探るに当たり、最も有力だと考えられるのは、朝鮮人高麗人参商人である。高麗人参は、その効能と希少価値の故、日本の韓国併合以前からも朝鮮人のみならず、朝鮮政府の重要な外貨稼ぎ手段の一つであった。朝鮮人高麗人参商人によって海外に持ち出された高麗人参は、主に中国人を相手に販売されていたが、朝鮮人高麗人参商人たちは高麗人参を販売するため、中国大陸以外にも、中国人が移住していた第3国にも向かっていた。

当時、東南アジア諸国の中でもタイは、中国人の定着が進んでいた地域の一つであり、中国人による商業も盛んでいた。中には、漢方薬局を営む中国人移住民も存在したため、高麗人参の需要はあったと言える。その上、地理的に中国大陸とつながっており、朝鮮人が高麗人参を販売するためにタイへ向かっていた可能性は十分にあったと考えられる。それでは、同時期に記録された史料の中には、どのような朝鮮人高麗人参商人関連の記録が残っているだろうか。

### 1. 朝鮮人の海外移住史における高麗人参商人

朝鮮人高麗人参商人は、朝鮮人の海外移住史の中で、移住先を問わずに登場する歴史である。彼らは、朝鮮人の海外移住史が始まった19世紀末から、朝鮮人の主な移住先であった間島が位置する満洲地域、ロシアのウラジオストク、アメリカ地域などに広がっていた。

現存する関連歴史文献の数に限りがあるため、これらの地域に渡っていた朝鮮人高麗人参商人が正確にいつから移住し始めたのかは定かではないが、朝鮮人のこれらの地域における移住初期、若しくはその以前の時期に作成された諸記録の中には、必ず朝鮮人高麗人参商人が登場している。

例えば、朝鮮人高麗人参商人のアメリカ移住の場合、朝鮮人移住労働者のハワイ移住が始まった1903年よりも早い時期に、既にアメリカに渡っていたことが確認されている。1880年代に作成されたハワイの入国記録を基に、朝鮮人のアメリカ移住史を研究したPatterson, W (1994) は、1896年5月、職業が商人と記録された「Kum」という苗字を持つ商人二人の入国記録を紹介している。その朝鮮人商人たちは、中国からハワイに渡航した商人だったが、Patterson, W (1994) は、この二人の商人の苗字であるKumは、Kimと訳すことができるとし、この二人の商人は中国人ではなく、朝鮮人高麗人参商人であると述べた<sup>14</sup>。

---

<sup>14</sup> Patterson, W (1994) *The Korean Frontier in America: IMMIGRATION TO HAWAII*, 18

Patterson, W (1994) が中国から来た二人の朝鮮人商人の苗字をKimと訳した理由は、当時、朝鮮人のアメリカ移住は稀なものであり、アメリカ人に朝鮮人の名前やその発音が知られていなかった時期であったため、入国記録を管理するアメリカ人がKumと表記したと判断したのではないかと考えられる。更に、中国人が「金」という苗字をKimと発音する場合はなく、朝鮮人のみKimと発音していたというのも、その理由の一つだったと考えられる。

また、Patterson, W (1994) によると、その後も朝鮮人の入国は続き、1898年にはPack (Pak) という苗字を持つ38歳の商人が、1899年には、29歳のKam、32歳のKam、51歳のKam、22歳のChungという苗字を持つ食料品商人が香港から到着し、1896年から1902年の間に、約20人の朝鮮人高麗人参商人が中国を経てハワイに渡ったと述べた<sup>15</sup>。

一方、朝鮮人のアメリカ移住史の始まりを調査した方 (2003) は、サンフランシスコの入港記録から、1894年から1902年の間に、サンフランシスコを通じて入国した朝鮮人145人の記録を提示し、その中から89人の高麗人参商人の存在を見つけた (方 2003, pp. 13-16) 。

同研究の中で方 (2003) は、1899年、アメリカに入国した朝鮮人の所持金を日本人、中国人、アイルランド人の平均所持金と比較したが、日本人が41ドル、清人が8ドル、アイルランド人が15ドルを所持していたのに対し、朝鮮人は一人平均332ドルを所持していたことから、当時アメリカに入国した朝鮮人が商業に従事していたと述べた<sup>16</sup>。

また、アメリカに移住した朝鮮人高麗人参商人に関する記録は、当時のアメリカの出入国記録のみならず、朝鮮人が書いた新聞記録の中にも残っている。まず、1902年10月23日の皇城新聞の『在美蔘商』の2頁には、1902年アメリカ内で活動していた朝鮮人高麗人参商人の状況が以下のように語られている。

美國에 在한 一友人의 寄書를 據한 則 同國에 在한 韓國商民은 皆蔘商으로 爲業하는 人인데 凡二十餘名이라 散在各處하야 淸人에게만 賣蔘하야 上海香港寧口等地에서 所謂高麗蔘를 買來한 者라 十五年前에 一義州人이 來하야 每兩重에 價金二十六元 (要二十元) 이라 呼했더니 二十元金二十箇 (四百元) 을 與하기로 此報一飛함의 三三五五히 每船便往來不絶하야 淸人居留地에는 無處不往하며 無時不至하기로 蔘價가 漸漸下落하야 當初四百元하던 蔘이 現今에는 二元에도 難放

---

96-1910. Honolulu: University of Hawaii Press. の9頁参照。

<sup>15</sup> Patterson, W, 前掲注 (14) 、9-11頁。

<sup>16</sup> 方善柱 (2003) 「한인 미국이주의 시작 -1903년 공식이민 이전의 상황진단- [韓人のアメリカ移住の始まり-1903年の公式移民以前の状況診断-] 」 『韓國史論』 第39卷の9-10頁参考。

이라하며無髻者는 又不能賣蔘이라하더라 [アメリカにいる友人一人の手紙によると、同国に滞在している韓国商人は皆人参商を生業とする人たちであり、その数約20人である。各処に散在し清人にのみ人参を売買し、上海、香港、寧口などから高麗人参を買い取ってきた者である。15年前にある義州人がアメリカに来て高麗人参2本当たり26元と言ったら、20元を呼び、人参20本を400元で買っていった。この話を伝わると、清人が住むところに向かう高麗人参商の船が絶えなかった。しかし、そのため人参の値段がだんだん落ちていき、当初400元もしていた人参が現在は2元にも満たなくなってしまったのである]」<sup>17</sup>

同記事からもわかるように、19世紀末、アメリカには既に、約20人もの朝鮮人高麗人参商人が移住していたのである。同記事が書かれたのは1902年であるが、それから15年も前に、ある義州出身の商人がアメリカにおいて高麗人参を販売し、利益を得たという記述がある。これは1887年ごろには既に、朝鮮人高麗人参商人が朝鮮半島や中国のみならず、太平洋を超えて、アメリカにまで進出していたということを意味している。

その上、アメリカにおいて高麗人参を販売することで莫大な富を手にすることができると聞いた朝鮮人商人たちがアメリカに駆けつけ、400元もしていた高麗人参の値段が2元にまで暴落していたということは、アメリカにおいて高麗人参を販売するために移住した朝鮮人商人の数がどれほど多かったのかをくみ取ることもできる。

他にも、この記事の中には、朝鮮人商人が販売していた高麗人参の買い手が清人だったということが述べられている。朝鮮人高麗人参商人からすれば、中国人は、朝鮮時代から重要な顧客であり、高麗人参を販売するために、中国へ移住する人までいたが、この記事の内容は、朝鮮人高麗人参商人が中国地域のみならず、中国人が移住及び定着していた第3国にも向かっていたということを見せている。言い換えれば、これは当時、中国人の定着が進んでいた地域における朝鮮人の移住史の中には、現地において高麗人参を販売していた朝鮮人商人の移住史が存在したということの意味していると言える。

従って、中国人が定着していた海外地域において、朝鮮人商人が高麗人参を販売していたのであれば、アメリカ大陸より、中国から地理的に近い東南アジア地域にも、朝鮮人高麗人参商人は移住していたはずである。何故なら、東南アジア各地では、古くから中国人の定着が進んでいたためであるが、現存する正確な出入国統計が存在し

---

<sup>17</sup> 皇城新聞（1902年10月23日）『在美蔘商』皇城新聞社。https://www.nl.go.kr/newspa per/detail.do?id=CNTS-00093736358（2020年10月12日）の2面4段から引用。



ないため、正確にどれほどの朝鮮人が高麗人参の販売のために、東南アジア地域に渡ったのかを把握することは困難である。そのため、当時の新聞記録、若しくは個人記録などを基に、当時、朝鮮人高麗人参商人の移住史を探らなければならないと考えられる。

## 2. 朝鮮人高麗人参商人の東南アジア移住

1945年まで高麗人参を販売するために東南アジア各地に移住した朝鮮人高麗人参商人の存在に関する記録は、当時、発刊された新聞記事や雑誌などの中に記録されている。まず、1920年代初め、東南アジア地域の中でも佛領印度支那地域に渡った金相律という人物に関する記録がある。

1940年12月01日に発行された「삼천리 [三千里]」という雑誌の第12巻の第10号に掲載された『佛印脱出記』という記事の中には、金相律が直接、経験してわかった佛領印度支那の人種、文化、気候などと共に、当時、佛領印度支那地域に滞在していた朝鮮人について述べられた記録も載っている。

金相律は1910年代末、日本の早稲田大学を卒業し、ヨーロッパ留学を希望していたが、経済的な余裕がなく、ヨーロッパ行きを断念し、その代わりに安南地域に渡った。その後、彼はサイゴン市に定着し、約20年間、貿易商を営みながら生活していたが、日本軍の印度支那地域への侵攻により、同地域に駐屯していたフランス軍との衝突が発生したため、印度支那を脱出せざるを得ない状況に陥った<sup>18</sup>。その脱出時に金相律が出逢った朝鮮人やサイゴン市で得た現地の情報を述べたものが以下の内容である。

「佛印에 가 있는 朝鮮人은 全部 21명인데 … 모두 單身으로 장사에 從事하는데, 대개가 인삼 판매를 한다 … 인삼 行商으로 成功한 分으로는 금번 同行해서 나온 義州사람 崔俊善씨가 있으며, 나는 佛印에 가서 곧 機械貿易商을 개업했고, 그 뒤 佛印의 政廳에서 勤務하는 佛人 친구의 謁旋으로 藥種貿易 許可를 얻었다. 藥種貿易은 佛印에서 가장 유망한 사업 중의 하나이다. [佛印にいる朝鮮人は全部で21人であり…全員單身で(佛印に)きて、商業に従事しているが、そのほとんどが高麗人参を販売している…人参行商で成功した方には、今回同行した義州出身の崔俊善氏がおり、私は佛印に行ってすぐ機械貿易商を開業し、その後、佛印の政府官庁で

---

<sup>18</sup> 日本軍が佛領印度支那に進軍したのは1940年だったため、金相律が脱出した時期も1940年前後だと考えられる。

働いている佛人の友人が斡旋してくれたおかげで、薬種貿易の許可を得ることができた。薬種貿易は佛印で最も有望な事業の一つである。}]」<sup>19</sup>

上記は『佛印脱出記』の中で、金相律が佛領印度支那地域に移住していた朝鮮人について述べたものを抜粋した文であるが、この文からもわかるように、1930年代には、既に21人の朝鮮人が佛領印度支那地域に滞在していたのである。

この21人の内、正確にどれほどの朝鮮人が高麗人参を販売していた商人だったのかは明記されていないものの、同記事の中で金相律が、朝鮮人同胞の殆どが高麗人参を販売していたと述べていることから、当時、佛領印度支那地域に移住していた朝鮮人が、主に高麗人参販売業に携わっていたと推測することができる。

更に、本来、機械貿易業を行いながら富を築いてきた金相律もまた、佛領印度支那において薬剤を販売することができる許可を得ていたが、当時、莫大な利益を得ることができる薬剤としては、高麗人参の他に存在しなかったため、これも高麗人参を販売するためであったと考えられる。

実際、原典においても言及された高麗人参行商として成功した崔俊善は、後述する日本の外国旅券下付表の中にも記録された高麗人参商人であり、タイを含む東南アジア各地において高麗人参を販売していた人物である。

同記録において、金相律が現地における朝鮮人移住民について述べながら、特に高麗人参商として成功した崔俊善を言及したのも、その上、彼が機械貿易商として既に成功していたのにも拘わらず、薬種販売の許可を得たのも、当時、海外に移住していた朝鮮人にとって、高麗人参がどれほど魅力的で、重要な商品だったのかがわかる部分であるが、このように莫大な利益を手にすることができる高麗人参を販売するため、東南アジア各地に向かっていた朝鮮人は他にも存在したと考えられる。

そこで同時期に発刊された新聞記事を更に探してみると、1930年代に高麗人参が東南アジアに輸出されていたという記録を発見することができた。それは毎日申報の1930年12月02日夕刊の8頁に載っている『人蔘의 輸移出〔高麗人参の輸移出〕』という記事である。

同記事は、題名の通り、高麗人参の海外輸移出状況に関する1930年9月の記録であるが、その輸出先としては、東南アジアの各地域も含まれていることがわかる。同記

---

<sup>19</sup> 金相律 (1940) 「佛印脱出記」『三千里』第12巻、第10号の118頁から参照。本稿は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_016\\_0800\\_0150&position=-1](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_016_0800_0150&position=-1)」で確認可能 (最終閲覧日：2020年10月12日)。

事の中には、

「海峡植民地紅蔘七百八十五斤五萬五千圓暹羅紅蔘七百二十斤四萬五千百？圓이 主이고香港、蘭領、東印度緬甸比律賓等에도 相當히紅蔘의輸出이잇는데…〔海峡植民地の紅蔘七百八十五斤五萬五千圓、暹羅の紅蔘七百二十斤四萬五千百？圓が主だった輸出先で、香港、蘭領、東印度緬甸比律賓等にも相當な紅蔘の輸出が行われているが…〕」<sup>20</sup>

と書かれている部分があり、当時、東南アジアの広い地域にわたり、相當な数の紅蔘が輸出されていたことがわかる<sup>21</sup>。

このように高麗人蔘が東南アジア地域に輸出されていたという記録は、同新聞の1929年05月31日の『人蔘의 輸移出〔人蔘の輸移出〕』、1929年07月23日の『人蔘出入』、1929年08月20日の『人蔘輸出狀況』などの記事（図2）にも載っており、当時、東南アジア地域に、持続的に高麗人蔘が輸出されていたことがわかる。

図2 高麗人蔘の東南アジア地域への輸出量に関する『毎日申報』の記事



（注）左から、1929年05月31日の『人蔘의 輸移出〔人蔘の輸移出〕』、1929年07月23日の『人蔘出入』、1929年08月20日の『人蔘輸出狀況』である。

（出所）功勳電子史料館。『毎日申報』<http://e-gonghun.mpva.go.kr/diquest/Search.do>（最終閲覧日：2021年05月25日）

このように、東南アジア地域に高麗人蔘が持続的に輸出されていたのであれば、その高麗人蔘を朝鮮半島から東南アジア各地に運んでいた朝鮮人高麗人蔘商人も存在し

<sup>20</sup> 毎日申報（1930年12月02日）『人蔘의 輸移出〔人蔘の輸移出〕』毎日申報社。<http://e-gonghun.mpva.go.kr/diquest>（2020年10月12日）の8面から引用。文の中の「？」は判読不明。

<sup>21</sup> 同記録によると、同月中国に輸移出された白蔘は二千六百十三斤だった。これと比較すると東南アジアに輸出された高麗人蔘の数は決して少なくなかったことがわかる。

たはずである。

その東南アジア各地に向かっていた朝鮮人高麗人參商人数の推定値が下記の図3のように、東亜日報の1931年1月23日の新聞記事に記録されている。

図 3 「南洋消息・2・不老草行商人」 『東亜日報』 1931年01月23日。

(原典)

息消南洋 - 2 - 不老草行商人

이一帶의 중요한產品은樹膠를首位로錫,椰子,珈琲茶等數種으로算할수있는바 其全部가 比前三四倍以下로 落價되었으며 나날이繼續적으로 降落되는 市勢그것은 마치冬至 날을아프로든 寒暖計의低溫되는樣을 聯想케하고있다 이와가티끄침업시 나리기만하는 市勢를念慮하는이곳統治者들은 其間數次聯席會議를열고 挽救策을討議圖謀하였든 貌樣이나 그 亦別奏效업는채로 市場의不景氣는如前繼續中에잇으며 그 陰鬱한空氣는 사람의마음에까지 속속드리陳을벌리고잇어 高樓大夏에四五臺自動車를부리는 富者그들의이마에서도 憂愁의 線을明白히헤일수잇나니 하물며 돈업는나그네들의 困窮한 情況이야 어떠타말할수잇스라 어쨌든現在南洋의不景氣는 그回復期不分明한채로 各階級을通하여悲觀의 줄을늘이고잇슬 이事實이니 平日南洋에留意하든人士가잇다면 오즉이危險期만은 沈着한考慮를加함이 그릇됨이 업슬가한다 現在南洋一帶에 “比律賓印度,支那,暹羅,馬來半島,和蘭領群島”에散在한同胞의數는 約五百乃至六百名으로算할수있는바 그들의職業으로는 十數人内外의敎員學生,官公吏及 數個의雜貨商藥種商을 除한外 其大部分을 高麗人參商으로 볼수있다이中에는 比較的豊足한 資本과組織의規模下에 四五個所의 本支店을두고 近代式 廣告宣傳을唯一한手段으로하여 쉬일날업시 奪鬪하는 高麗物産公司도 잇기는하지만 此外는거의다 顧客을 차저다니는 微弱한 本錢의行商이다 이人參行商 - 듯기에는 別노히모진데업시 平凡하지만 其實內容은 普通장사그것과는 스스로類를달리하고 잇스며또한物品自體가 日用品과 가티普遍的으로 萬人共用이 되지안느니만큼 顧客을求하기에 非常한困難을늦기게되며 境遇에依하여는 無雙한嘲弄과 逼迫을當하는때도 적지아니 하다 더욱이나 馬來半島를中心으로 行商하는同胞들의 其間數十年來 내려오는 歷史는 마치有名한探險客들의 冒險의勞力이였나니 現在또한그러하며 오는 압날亦是 此行商을繼續하는동안 그러할것이다 이들의行商하는區域은 都會地보다도 交通不便한 窮僻山村을主로하며 有産의 富裕階級을相對로하게하는것이다

(日本語訳)

息消南洋 - 2 - 不老草行商人

〔この一帯（南洋地域、若しくは東南アジア地域）の重要な特産品としては、ゴムを始め、錫、ヤシ、コーヒーや茶など、数種類が挙げられるが、その全ての価格が以前と比較して、三四倍以下に下落し、その日々下落し続けていく価格は、まるで冬至の日を迎えた温度計の温度が下がっていく様子を連想させている。このように下落し続けていくばかりの相場を懸念しているこちらの統治者たちは、これまで数回にわたり会議を開き、救済策を講じていたようだが、特にこれといった効果は見られないまま、市場の不景気は依然として続いている。それゆえ、その陰鬱な雰囲気は、人々の心にまで陣を張っており、大邸宅に住みながら、自動車を四五台も所有している大金持ちたちの額からも、はっきりとした憂愁の線が見られているのに、況してや貧しい旅人の困窮な状況は言うまでもないだろう。何はともあれ、現在、南洋地域の不景気は、回復の見込みが不明確なまま、階級を問わず暗鬱な状況に在るとというのが現実である。そのため、日ごろ南洋地域においての事業展開を計画している者がいるのであれば、このように危険な現状を十分に考慮しておいた方が宜しいと考えられる。現在、この南洋地域一帯“比律賓、印度支那、暹羅、馬來半島、和蘭領群島”に散在した同胞の数は、約五百から六百人と推算されるが、彼らの職業としては、十数人内外の教員、学生、官公吏の他、数カ所の雑貨商兼菓種商を除いた大多数は、高麗人参商人であると言える。この中には、比較的豊かな資本と組織的且つ規模のある企業を所有して、本店の他、四五カ所の支店を設け、近代的な宣伝広告を主な手段とし、休む日もなく日々奮闘する高麗物産公司のような企業も存在するものの、それ以外の殆どは、顧客を探し回る経済的に貧しい行商である。この人参行商は一見、これといった特徴のない普通な商人に見えるが、人参行商たちは自らを他の商人と区別される特別な商人と考えている。また、販売する商品そのものが日用品のように、万人に用いられる普遍的な商品ではないが故に、顧客を見つけることが非常に困難である。場合によっては、多くの嘲弄を受け、逼迫もされるのも少なくない。更に、馬來半島を中心に活動する人参行商同胞たちの数十年に渡る歴史は、まるで有名な探検家たちの冒険的な努力があったからこそ築かれたものであり、今後もこの行商を継続し続けていく限り、その歴史は現在も未来も刻まれ続けていくだろう。今後も彼らは、主たる都会地域よりも、交通の不便な奥深い辺境の地にも向かい、裕福な階層を相手に行商を行っていくだろう。〕

(注) 本文は原典の記事を写し、日本語に翻訳したものである。

(出所) 韓国史データベース。『東亜日報』[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=9&limit=10&page=9&pre\\_page=9&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPageInfo=&levelId=npda\\_1931\\_01\\_23](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=9&limit=10&page=9&pre_page=9&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPageInfo=&levelId=npda_1931_01_23) (最終閲覧日：2021年05月25日)

図3の東亜日報の記事には、東南アジア地域において生産されていた主な特産品の紹介と共に、記事が作成された1930年代初期の東南アジア地域の経済状況が述べられている。同記事によると、当時、ゴム、錫、ヤシ、コーヒーや茶などのような、東南アジア地域の主要輸出品の価格が下落したことにより、同地域の経済状況は悪化していたと見られるが、このような不景気から抜け出せる見込みもない状況の中で、朝鮮人人参行商たちは、現地において高麗人参を販売するために孤軍奮闘していたのがわかる。

ところが、同記事の内容の中でも、特に、次のように述べられている部分に注目する必要がある。

「…現在南洋一帯에 “比律賓印度,支那,暹羅,馬來半島,和蘭領群島”에 散在한同胞의數는 約五百乃至六百名으로 算할수잇는바 그들의職業으로는 十數人内外의 教員學生,官公吏及 數個의 雜貨商藥種商을 除한外 其大部分을 高麗人參商으로 볼수잇다… […現在、この南洋地域一帯“比律賓、印度支那、暹羅、馬來半島、和蘭領群島”に散在した同胞の数は、約五百から六百人と推算されるが、彼らの職業としては、十数人内外の教員、学生、官公吏の他、数カ所の雜貨商兼藥種商を除いた大多数は、高麗人参商人であると言える…]」  
(『東亜日報』1931.01.23, 4面)

同記述からは、1930年代初期、東南アジア地域全体にわたり、どれほどの朝鮮人が広がっており、彼らが主にどのような職業に就いていたのかがわかる。ところが、同記事の中で提示された東南アジア地域における朝鮮人移住民数は、約500人から約600人と述べられており、あくまでも推定値に過ぎず、同史料を基に、1930年代初期、東南アジア各地において高麗人参を販売していた朝鮮人数を正確に把握することが困難である。

しかしそれでも尚、このような記録は、日本の朝鮮統治期、フィリピン、印度支那地域、タイ、マレー半島、インドネシア諸島など、東南アジア各地の広い地域に渡り、少なくとも500人以上の朝鮮人が現地において高麗人参を販売するために移住したということがわかる貴重な史料であると言える。

### 3. 朝鮮人のタイ移住史関連研究と高麗人参商人

前述のように、朝鮮人の海外移住史の中では、移住国や地域を問わず、現地において高麗人参を販売していた朝鮮人高麗人参商人たちが登場している。また、当時の新

聞記事などを通じて、20世紀の初めに、朝鮮人高麗人参商人は、東南アジア地域にも向かっていたことが確認されたが、このように東南アジア各地に朝鮮人高麗人参商人が渡っていたのであれば、本研究で焦点を当てたいタイにおいても、高麗人参を販売していた朝鮮人商人が存在したのではないだろうかと考えた。

タイは地理的に東南アジア地域の中心に位置している上、高麗人参の主な買い手だった中国人の定着も進んでおり、高麗人参の交易に有利な条件が揃っていたといえる。ところが、朝鮮人のタイ移住史に関する先行研究において、初めてタイに移住した朝鮮人は、1932年タイに移住した李慶孫という人物であるとされており、高麗人参商人に関する研究は未だに存在しない。

まず、そのタイに初めて移住したとされている李慶孫に関する研究としては、キム（2008）の研究が挙げられる。1960年代に形成された在タイ韓国人コミュニティ「在泰国韓人会」及びその創立メンバーの移住史を、彼らに直接インタビューすることで研究を行ったキム（2008）は、1932年タイに移住し、在泰国韓人会の初代会長を務めた李慶孫に聞き取り調査を行った<sup>22</sup>。

キム（2008）の調べによると、李慶孫は朝鮮半島内で抗日的な内容の小説を新聞に連載したということで、日本軍に追われるようになった。そのため、彼は1931年上海に亡命したものの、尹奉吉による上海天長節爆弾事件が発生した後、再び追われる身となり、1932年タイに逃れた。その後、李慶孫はバンコクやタイとマレーシア間の国境を転々としながら生活していたが、そのような生活を送っていたうちに逢ったタイ人の女性と結婚に至った。

ここで李慶孫はこのままタイに定着できるのかと思いきや、第二次世界大戦の勃発により、タイに定着できず、戦争が終わるまで、地方へ避難せざるを得なかった。その結果、彼とその家族がタイに定着することができたのは、終戦後となった<sup>23</sup>。即ち、李慶孫がタイに初めて移住したのは、1932年であるものの、実際、タイに定着することができたのは、第二次世界大戦が終わった1945年以降だったということである。

ところが、キム（2008）の研究で述べられた李慶孫の移住過程において、高麗人参商人に関する記録は見当たらず、彼がタイに初めて移住した1932年から終戦時までの約13年間の間における、他の朝鮮人との接点も記述されていない。それは李慶孫が1945年まで、一定地域に定着できず、タイ各地を転々としていたため、朝鮮人と接触する機会がなかっただろうと考えられるが、第1章において検討したように、「海外在

---

<sup>22</sup> キム ヨンエ（2008）「1960～70년대 태국사회 속의 한국인 [1960～70年代タイ社会の中の韓国人]」『한국태국학회논총 [韓国泰国学会論叢]』第15巻、第1号、172～218頁参照。

<sup>23</sup> キム、前掲注（22）、175-178頁。

留本邦人職業別人口調査一件」など、海外に在留する日本人の人口統計において、朝鮮人のタイ移住は、明治44年から確認されている。その上、前述の1930年代に書かれた新聞や雑誌のような史料を検討してみれば、李慶孫がまだタイに渡ってもいなかった1932年以前の時期において、既にタイに渡っていた朝鮮人高麗人参商人の存在を確認することができる。

それはつまり、キム（2008）の研究で述べられた李慶孫の移住史を参考にしつつ、これに新たな史料を加えることで、同時期における朝鮮人高麗人参商人のタイ移住史に新たな事実を見出すことができると考えられる。

#### 4. 1900年代初期における高麗人参商人のタイ移住関連記録

日本の朝鮮統治期、タイに移住した朝鮮人高麗人参商人の存在を探るため、関連記録をさらに検討した結果、まず、前述の方（2003）の研究の中から朝鮮人高麗人参商人の存在を探ることができた。

方（2003）の研究の中で提示された、1899年、カリフォルニア港を通じてアメリカに入国した朝鮮人の名簿<sup>24</sup>の中には、カリフォルニアに入国した朝鮮人の名前や所持金のみならず、彼らがアメリカに渡航する前に滞在していた国や地域名も記録されている。

彼の調べによると、1899年、カリフォルニアに到着した朝鮮人高麗人参商人たちがアメリカに入国する前に居住していた朝鮮半島以外の地域としては、上海25人、牛莊18人、香港10人、バンコク3人、シンガポール2人、マニラ1人、安南1人、ホノルル3人があり、当時、タイのバンコクに3人の高麗人参商人が滞在していたということがわかる<sup>25</sup>。

また、同史料が1899年に記録されたということ踏まえて考えると、本研究の調査対象時期である日本の朝鮮統治期よりも、約10年も早い時期に、既にバンコクでは、最低でも3人の朝鮮人高麗人参商人が移住していたということになり、それ以降も高麗人参の販売を目的とし、タイに渡っていた朝鮮人商人が存在した可能性は十分にあると言える。

そこで、更なる史料を探るため、日本の外交史料館において、1945年までの時期における朝鮮人に関する記録を検討してみると、「外国旅券下付表（以下、旅券下付表と略す）」という史料の中から、日本の植民地支配下にあった朝鮮人の海外渡航記録を見つけることができた。

---

<sup>24</sup> 「Passenger Lists of Vessels Arriving in San Francisco, California, 1893~1953（マイクロフィルム番号はM141）」を基に研究されたもの。

<sup>25</sup> 方、前掲注（16）、12-16頁参照。



この日本人の旅券下付表に朝鮮人の海外渡航記録が記載されたのは、朝鮮が日本の植民地支配を受けていた1910年から1945年までの35年間、法律上、全ての朝鮮人は海外に渡航する際、日本政府の許可を得て、出国しなければならなかったためである。同旅券下付表の中には、海外に密航した朝鮮人でない限り、海外に渡った全ての朝鮮人が記録されている。

この旅券下付表に記録されている内容は、旅券が下付された日付や渡航者の氏名のみならず、渡航者の出身地、年齢、渡航地、渡航目的などが詳しく記されている。そのため、1945年までどれほどの朝鮮人が、何を目的として、どこに渡航したのかを把握するには、非常に有用な史料だと言える。

本章では、朝鮮が日本の植民統治を受けていた時期、タイに移住した朝鮮人高麗人参商人の記録を探るため、1910年から1945年までの間、朝鮮人に下付された旅券の記録を朝鮮総督府及び在海外日本領事館の35年間の旅券下付表から探してみた。

その結果、同時期に約400人の朝鮮人が人参販売、若しくは人参行商など、高麗人参販売を目的として、東南アジア各地へ渡っていたことがわかった。この約400人の朝鮮人の主な渡航地は、タイ以外にも、佛領印度支那、フィリピン、シンガポールなどがあり、そのうち高麗人参の販売を目的として、タイに向かった朝鮮人だけを選び出してみると、表25のように計112人となった。

表25 日本の朝鮮統治期、暹羅渡航朝鮮人高麗人参商人の名簿

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 金之浚 | 白仲瑞 | 郭基鴻 | 金成九 | 金應浩 | 朴東根 | 張?? | 趙?? | 李允根 |
| 李寶益 | 金?燁 | 金教元 | 高昇泰 | 張?桔 | 張翊薰 | 金仁俊 | 李如柱 | 李圭廷 |
| 金?成 | 崔仁哲 | 呉成殷 | 尹致靖 | 尹昌昇 | 金奎善 | 金弘翊 | 李世春 | 朴風漢 |
| 趙?允 | 趙東允 | 高就崙 | 趙久国 | 許得員 | 李東嘆 | 趙志煥 | 趙廷瑞 | 鄭承道 |
| 李承烈 | 趙天浩 | 崔俊善 | 嚴德淳 | 金敬濬 | 張亨達 | 金永吉 | 趙觀国 | 趙思極 |
| 朴龍九 | 金造源 | 安宅永 | 張信福 | 張承俊 | 文徳昌 | 張承斗 | 文瞳一 | 盧陽勳 |
| 洪道範 | 尹恭益 | 金潤化 | 趙致鼎 | 金學海 | 李敬在 | 李容淳 | 梁成浩 | 白學洌 |
| 李德基 | 白義正 | 崔承崙 | 韓景雲 | 朴學質 | 朴昌秀 | 金鳳鳴 | 金賓國 | 白永王 |
| 白乘憲 | 金義煥 | 玉觀彬 | 魯晶張 | 高河龍 | 崔基元 | 洪鍾植 | 張德奎 | 金斗煥 |
| 李運奎 | 黄奉浩 | 田成文 | 崔得明 | 李成穆 | 張奉萬 | 張明國 | 白千鍊 | 金福心 |
| 白時永 | 朴雲瑞 | 李炳道 | 趙流鼎 | 白龍河 | 金基暎 | 宋志資 | 崔真瑞 | 張俊明 |
| 申京漢 | 蛋利權 | 金致九 | 崔稟善 | 金利鉉 | 趙東猷 | 崔龍大 | 白南河 | 桂鳳運 |
| 李尚連 | 金碩訥 | 黄允變 | 朱熙祥 |     |     |     |     |     |

(注) 「?」は史料原本の損傷などの理由により判読不明

(出所) 日本外交史料館『外国旅券下付表』(マイクロフィルム)

上記の朝鮮人112人の中で、最初にタイへ渡航した朝鮮人は、大正元年、在盤谷日本領事館を通じて旅券を下付された「金之浚<sup>26</sup>」という朝鮮人商人であった。当記録によると、金之浚はタイと台湾に向かうため、旅券の発給を日本領事館に申請し、彼の渡航目的は商用と記録された。

ところが、図3の新聞記事の中においても言及されたように、当時、海外に渡って活動していた朝鮮人商人は、主に高麗人参を販売していた上、旅券下付表に記載された金之浚以外のタイ渡航朝鮮人111人の渡航目的も、人参販売若しくは人参行商のような高麗人参販売関連の目的を持っていたということを踏まえて考えると、金之浚も高麗人参を販売するためにタイへ渡ったと見られる。

次に、その翌年である大正二年には「白仲瑞」という朝鮮人が、在盤谷日本領事館を通じて、佛領安南及び英領香港に向かうための旅券の発給を申請した。白仲瑞の渡航目的地は、タイではなかったものの、彼が旅券を下付された場所がタイのバンコクであったということは、彼は既にタイのバンコクに移住していたということを意味している。

ここで、この白仲瑞がバンコクに滞在していた期間が、移住とは言えないほど短かった可能性は十分にある。しかし、白仲瑞の佛領安南及び英領香港に渡ろうとしていた目的が人参行商ということ踏まえて考えると、佛領安南及び英領香港において高麗人参を販売することが主たる目的だったということが分かる。朝鮮人が朝鮮半島ではなく、タイのバンコクにおいて高麗人参を生産し、佛領安南や英領香港で販売したという事例は歴史的にも存在せず、朝鮮半島からタイのバンコクを経由して佛領安南や英領香港に向かうということは、現在も非常に非効率的な渡航経路であるため、可能性としては非常に低いと言える。

つまり、彼は旅券が下付される前から既に、タイのバンコクにおいて高麗人参の販売を行っていた移住民であり、バンコクから第3国への渡航を試みていた際、旅券がないことが発覚され、その場で旅券を申請したと考えるのが可能性としては高いといえる。いずれにしても、彼は朝鮮が日本の植民地支配を受けていた時期に、タイのバンコクにおいて、高麗人参を販売していた朝鮮人高麗人参商人だったのである。

その後、大正三年には「郭基鴻」という朝鮮人が、金之浚と同様に在盤谷日本領事館において、タイに向かうための旅券を申請し、下付された。同記録の興味深い点は、前述の金之浚の場合、タイと台湾へ渡航するための旅券を申請したことに対し、郭基

---

<sup>26</sup> 名前の最後の漢字である「浚」は、原典の画質問題により、判読に誤りがある可能性がある。

鴻は既に、タイのバンコクに滞在していながら、タイに向かうための旅券を申し込んだという点である。

これは即ち、当時は現在のように国境警備が厳しくもなく、まだ国境を渡る際に必ず旅券を持参せねばならないという認識も確立されていなかった時代であったということ踏まえて考えると、郭基鴻は、旅券を持たずにタイに移住し、その後、タイ現地において高麗人参を販売していた際、管轄日本領事館によって旅券を所持していなかったことが発覚され、タイ現地において旅券を申請したと見られる。

実際、大正五年、朝鮮総督府によって発行された下記の『官報』1059号（図4）によると、同時期、タイに渡った金之浚、白仲瑞、郭基鴻などのような朝鮮人たちの状況を理解することができる。

図 4 朝鮮総督府『官報』1059号（1916年02月17日）

|  |
|--|
| ○通牒  |
| 官通牒第二十號<br>大正五年二月十七日<br>警務總長 } 宛<br>各道長官 }   |
| 南洋及印度方面渡航朝鮮人身分證明方ニ關スル件<br>近時朝鮮人ニシテ人蔘販賣其ノ他ノ行商ヲ目的トシテ新嘉坡地方ニ渡航スル者漸次増加候處其ノ大部分ハ旅券ヲ所持セスシテ同地到着後更ニ印度、暹羅、「マニラ」、蘭領印度方面ニ赴ク爲在新嘉坡帝國領事館ニ旅券下付ヲ出願スル者尠カラス而シテ此等朝鮮人ハ朝鮮語以外ノ國語ヲ知ルノ途ナク取扱上不便不堪候趣ヲ以テ當該領事ヨリ外務省ニ稟申ノ次第有之候ニ付向後南洋及印度方面ニ渡航セムトスル者ハ朝鮮ニ於テ發給セル旅券若ハ身分證明書ヲ携帯スルニ非サレハ帝國在外公館ノ保護ヲ受クル上ニ於テ困難ヲ感スヘキ旨一般人民ニ諭達相成度此段及通牒候也 |

(注) 「南洋及印度方面渡航朝鮮人身分證明方ニ關スル件」 (官通牒第20號)

(出所) 韓国朝鮮総督府官報活用システム。『通牒』[http://gb.nl.go.kr/day.aspx?ho\\_id=GB\\_19160217\\_BA1059&date=1916-02](http://gb.nl.go.kr/day.aspx?ho_id=GB_19160217_BA1059&date=1916-02) (最終閲覧日：2021年05月29日)

上記の図4「南洋及印度方面渡航朝鮮人身分證明方ニ關スル件」は、『朝鮮総督府官報』の中の一部であり、朝鮮総督府が在シンガポール日本領事館に連絡するために作成されたものである。

当記録の中には「近時朝鮮人ニシテ人蔘販賣其ノ他ノ行商ヲ目的トシテ新嘉坡地方ニ渡航スル者漸次増加候處其ノ大部分ハ旅券ヲ所持セスシテ同地到着後更ニ印度、暹羅、「マニラ」、蘭領印度方面ニ赴ク…」と記録されている部分があり、当時、朝

鮮人の海外渡航者の中には、日本政府が発行する旅券を所持せずに、東南アジア各地に渡っていた者が多数存在したということがわかる。

この図4の史料のこのような記録を踏まえて考えると、上述の既にタイのバンコクに滞在していたのにも拘わらず、在盤谷日本領事館を通じて、タイに向かうための旅券を申請した郭基鴻の件も納得することができる。

更に、図4の史料を見ると、当時、海外に渡航していた朝鮮人の中でも、特に人参販売や行商を目的として渡航した朝鮮人高麗人参商人のみを言及していることがわかるが、その理由としては二つの可能性が考えられる。

一つは東南アジア地域に向かっていた朝鮮人の中で、現地において高麗人参を販売していた商人の数が、他の職に従事していた朝鮮人の数と比較して目立つほど多かったということであり、もう一つは、東南アジア各地に渡っていた朝鮮人移住民たちの中には、高麗人参の販売以外の目的を持つ朝鮮人移住民は、存在しなかったという理由である。しかしながら、ここで、後者の東南アジア地域に渡っていた朝鮮人移住民たちの中に、高麗人参商人以外の職業を持つ朝鮮人は存在しなかったという理由よりは、前者の理由のほうが妥当であると考えられる。

それは図3の記事の中においても、東南アジア地域に滞在していた約500人から600人の朝鮮人たちが全員ではなく、その殆どが高麗人参商人であったと記録されていたためである。このことを踏まえて考えると、当時、東南アジア地域に渡っていた朝鮮人の中に、高麗人参商人以外の職業を持っていた朝鮮人が全く存在しなかった可能性は非常に低いと考えられる。

要するに、図4の史料において、他の職業よりも、特に高麗人参商人が言及された理由は、東南アジア各地域に向かっていた朝鮮人の中で、高麗人参の販売を目的とする朝鮮人数が特別に多かったためであろう。

また、図4において、旅券を所持せずに、東南アジア各地に渡っていた朝鮮人が存在したということは、当時、タイに向かっていた朝鮮人の中にも、旅券を所持せずに移住していた高麗人参商人が存在したということの意味している。これはつまり、表25のように日本政府の旅券下付表に記録された朝鮮人以外にも、タイに渡っていた朝鮮人高麗人参商人が存在した可能性は、十分にあると考えられる。

## 5. 朝鮮人高麗人参商人に関する在バンコク日本領事館の記録

朝鮮が帝国主義日本の植民地支配下にあった時期、海外に渡航した朝鮮人高麗人参商人に関する記録は、前述の旅券下付表以外にも、第1章で検討した「海外在留本邦人職業別人口調査一件」の中からも探ることができる。

第1章においても述べたように、当時は朝鮮人も日本の国民、即ち帝国臣民として

扱われ、海外に滞在していた日本人の職業別人口調査が行われた際に朝鮮人も調査対象として含まれていたのである。

ところが、「海外在留本邦人職業別人口調査一件」において、海外に在留する朝鮮人数の統計結果は、朝鮮人そのものが職業区分の一つとなっており、各調査地域に居住する朝鮮人の具体的な職業までは明記されていない。稀に調査担当者の裁量により、追記などにおいて、朝鮮人の職業が記録された統計も見当たる<sup>27</sup>が、殆どの史料においては該当地域に滞在していた朝鮮人数の合計のみが記録されている。

しかし、同史料を検討していたうち、「海外在留本邦人職業別人口調査一件」のタイにおける人口調査から、タイに在留する朝鮮人の職業が記載された史料を見つけることができた。

まず、既に第1章においても検討した「海外在留本邦人職業別人口調査一件」などを基に作成された同時期における海外各地に在留する朝鮮人数の統計から、タイに移住した朝鮮人数のみを一つのグラフに表したものは第1章において述べた図1を参考にすることができる。

前述のように、同史料からは、明治43年から昭和14年までの各年度における在タイ朝鮮人数のみならず、当時、タイに在留していた朝鮮人の職業に関する情報も得ることができたのである。下記の大正2年に作成されたタイにおける統計調査（図5）がそれである。

---

<sup>27</sup> 明治45年、芝罘地域の朝鮮人数統計における注記にビヤホール、酌婦、果物小売と記録された部分や大正10年の在スイス朝鮮人数統計の注記に朝鮮人学生と記録された部分などがそれに当たる。

図 5 海外在留本邦人職業別人口調査一件の第十二巻『盤谷』（大正二年六月末）

| 職業別               |    | 戸数 |   | 別  |        | 合計        |    |
|-------------------|----|----|---|----|--------|-----------|----|
| 職業別               | 戸数 | 男  | 女 | 合計 | 在盤谷領事館 | 在暹羅國日本公使館 | 合計 |
| 大正二年六月末現在本邦人職業別表  | ○  |    |   |    |        |           |    |
| 地盤谷市              | ○  |    |   |    |        |           |    |
| 官 吏               | 二  |    |   |    |        |           | 二  |
| 運 送 人             | 二  |    |   |    |        |           | 二  |
| 會 社 員             | 二  |    |   |    |        |           | 二  |
| 雜 貨 商             | 九  | ○  | ○ | ○  |        |           | 九  |
| 寫 真 業             | 九  | ○  | ○ | ○  |        |           | 九  |
| 料 販 賣             | 三  |    |   |    |        |           | 三  |
| 活 動 寫 真 業         | 三  |    |   |    |        |           | 三  |
| 農 業               | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 理 髮 業             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 洗 濯 業             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 醫 師               | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 齒 科 醫             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 賣 藥 商             | 二  | △  |   | △  |        |           | 二  |
| 地 方 寫 真 業         | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 大 工 職             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 鍛 冶 職             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 造 花 職             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 洋 酒 小 賣           | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 外 國 人 販 賣 人       | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 菓 子 商             | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 雜 業               | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 語 学 研 究           | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 川 崎 造 鐵 所 出 張 員   | 一  |    |   |    |        |           | 一  |
| 在 暹 羅 國 日 本 公 使 館 |    |    |   |    |        |           |    |
| 合 計               |    |    |   |    |        |           |    |

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_012) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十二巻

大正2年6月末に作成された本人口統計（図5）では、それまでの統計資料とは異なり、朝鮮人及び台湾人という枠組みは見当たらなくなった。その代わりに、追記として、朝鮮人数には三角印が、台湾人数には丸印が付けられ、日本人と区別して記録された。その際、朝鮮人及び台湾人も日本人と同様に、職業別に区分されたのである。

同史料を見ると、台湾人は、雑貨商や医師など、多様な職業に従事していたのに対し、朝鮮人の場合、タイのバンコクに居住していた8人全員が売薬商だったのがわかる。この8人の朝鮮人売薬商がどれほどの規模で事業を展開していたのか、また、主にどのような薬剤を販売していたのかに関する記述は見当たらないものの、本章において検討してきた史料を通じてわかったように、同時期に、海外地域において薬剤を販売していた朝鮮人商人たちが主に、高麗人参を販売していた商人だったという点を踏まえて考えると、同史料の中で、売薬商と記録された朝鮮人は、高麗人参商人だったと考えられる。

ところが、第1章の在タイ朝鮮人数の推移（図1）にも表れているように、その翌年である大正3年には、朝鮮人数が0人と記録された。これは原典<sup>28</sup>において、朝鮮人数

<sup>28</sup> アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_014) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻、491-493頁。

に関する記録が見当たらなかったためであるが、実際は、大正3年から朝鮮人のタイ移住が途絶えたのではなく、集計された朝鮮人数を記録した方法の変化によるものだったと見られる。

表26 大正三年六月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館（盤谷市）

| 職業      | 本邦人数    | 職業     | 本邦人数  |
|---------|---------|--------|-------|
| 官吏      | 7       | 農業     | 1     |
| 會社員     | 4       | 理髮職    | 3     |
| 暹国政府傭聘人 | 7       | 洗濯業    | 4     |
| 雑貨兼賣藥商  | 35      | 大工職    | 2     |
| 雑貨商     | 22 (10) | 造花職    | 3     |
| 醫師      | 6       | 洋酒小賣商  | 20    |
| 齒科醫     | 1       | 菓子商    | 5     |
| 藥種商     | 2       | 印刷職    | 4     |
| 賣藥商     | 7       | 洋服裁縫職  | 3 (1) |
| 地方賣藥行商  | 5       | 外国人被雇人 | 7     |
| 写真原料販賣商 | 3       | 雑業     | 9 (4) |
| 写真業     | 13      | 帽子商    | 1     |
| 地方写真業   | 1       | 茶商     | 4     |
| 活動写真    | 2       | 彫刻業    | 1     |
|         |         | 合計     | 193   |

(注) 本表の ( ) の中の数字は、台湾籍民数

(出所) アジア歴史資料センター (7-1-5-4\_014) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四卷

まず、その翌年に作成されたバンコクにおける日本人数の記録を見ると、職業別の区分において、朝鮮人や台湾人という区分は見当たらない。台湾人数の場合、大正2年と同様に、各職業別の日本人数とは別に追記されているものの、朝鮮人数に関する記述は存在しない。

ところが、同統計資料からは職業区分において、それまでの統計資料とは異なる点が見られた。大正2年の統計資料における職業区分の中で、薬剤販売関連の職業は、売薬商のみだったが、大正3年に入り、売薬商とは別に、薬種商及び地方売薬行商という2種類の職業区分が追加されていた。

高麗人参が特定の病気を治療するための薬剤ではなく、主に健康維持のために使われていた薬剤であった点、その上、朝鮮人が海外に高麗人参を持ち出し、地域を移動

しながら高麗人参を販売していた点を踏まえて考えると、大正3年に追加された薬種商及び地方売薬行商の統計数値は、朝鮮人数だったのではないかと考えられる。

更に、大正2年の統計結果において、日本人の売薬商は5人に過ぎなかったものの、大正3年に入り、3種類の薬剤販売関連職業の人数が合わせて14人にまで増加したという点も注目に値する。この合計数は、大正2年の統計結果における日本人及び朝鮮人の売薬商数の合計である13人に非常に近い数値であるが、大正2年の統計結果から分かったように、タイに移住していた朝鮮人が全員、薬剤販売関連業種に就いていたことを踏まえて考えると、朝鮮人のタイ移住は、大正3年から途絶えたのではなく、日本人の薬剤販売関連職業区分の中に含まれたと見られる。

このように「海外在留本邦人職業別人口調査一件」において、職業を区分する枠の種類が記録された時期によって異なる理由を、村嶋（2020）は、日本の外務省が職業分類項目を指定せず、各地域における領事に自由に職業分類をさせていたためであると述べた（村嶋 2020、P. 181）。即ち、このようにタイに移住していた朝鮮人数を統計に表す方法が調査年度によって異なる理由は、在バンコク日本領事の調査時における記録方法の違いによるものだったのである。

また、統計年度によって在バンコク日本領事の朝鮮人数を記録する方法に差が存在していたことにより、大正2年の記録を除く、明治43年から昭和14年までの殆どの統計資料において、タイに移住していた朝鮮人の合計人数は、職業区分もなく、単純に朝鮮人としか記録されていなかったのである。

しかしながら、大正2年の統計において、在タイ朝鮮人が全員、高麗人参商人だったという記録、更に、その後の統計資料においても、朝鮮人数に関する記録がない年度の統計結果から薬剤販売関連職業に従事する者の合計数が増加していた点を踏まえて考えると、明治43年から昭和14年まで、タイに移住した朝鮮人は全員、若しくは殆ど高麗人参商人だったと考えられる。

## 6. 『志山外遊日誌』と在タイ朝鮮人高麗人参商人の記録

### （1）鄭元澤の日誌

本章において検討してきた「海外在留本邦人職業別人口調査一件」や旅券下付表のように、日本政府によって調査及び記録された朝鮮人のタイ移住に関する史料を基に、日本の植民地支配を受けていた朝鮮から、タイに移住していた朝鮮人は全員、若しくはその殆どが高麗人参商人だったということがわかった。

それでは、同時期、タイを直接訪問し、現地の様子を記録した朝鮮人の個人記録の中には、どのような情報が残っているのだろうか。本節では、1900年代初期、中国地域及び東南アジア地域における朝鮮人の独立運動活動に関する研究、または、朝鮮人



が東南アジア地域をどのように認識し、どれほどの情報を持っていたのかを研究する論文などでよく引用されている『志山外遊日誌』を中心に述べていきたいと考える。

『志山外遊日誌』は、1911年、鄭元澤という22歳の若い朝鮮人が朝鮮独立運動のために、中国、ロシア、さらに東南アジア各地を旅しながら、現地で経験したことを記録に残した個人記録物である。

同書の著者である鄭元澤が東南アジア地域に向かおうと決意したのは、1914年12月3日のことだった。彼は、その経緯を日誌の中で

「이動機는 中國光復前後에 運動資金이 南洋의 華僑中에서 많이 捐出되었으므로、우리도 財源이 豊富な 南洋에 光復運動의 資金 基盤을 마련할 수 있을는지 답사코자 함이었다〔(我々が南洋地域に向かおうとした) 同機は、中国の独立運動前後に使われた独立運動資金が南洋地域の華僑から出捐されていたため、我々も財源が豊富な南洋地域に独立運動の資金基盤を設けることが可能なのかどうかを踏査するためであった〕」<sup>29</sup>

と述べており、東南アジア地域において、独立運動を展開する際に必要な資金基盤を設けるための事前調査が目的であったということがわかる。

その後、実際、鄭元澤は東南アジア地域に向かい、事前調査を行ったが、現地において、どのような方法を用い、独立運動に必要な資金基盤を設けることができたのかに関する記録は見当たらない。

但し、莫大な資金を必要とする独立運動を支援するためには、巨額の収益を上げることができる事業を行う必要があったと考えられるが、当時、朝鮮人が独立運動を支援するために必要な巨額の資金確保を可能にさせていたのは、付加価値が高い高麗人参を販売すること以外の方法は滅多になかったため、鄭元澤も東南アジア地域において、高麗人参を栽培、若しくは販売し、資金を収集しようとしていたのではないかと考えられる。

## (2) 鄭元澤のタイ渡航

本日誌によると、鄭元澤は、フィリピンなどを視察した後、1917年1月2日、タイに到着した。彼はバンコクにある旅館で宿泊しながら、現地の情報を収集していったが、同年1月11日の朝、鄭元澤が泊まっていた旅館に、朝鮮半島義州出身の朝鮮人二人が

---

<sup>29</sup> 鄭元澤 (1983) 『志山外遊日誌』 (洪淳鈺編) 探求堂の104頁参照。

彼のところを訪れた。

「朝飯 後 本國 義州에서 온 張某・李某 二人이 여관주인을 서로 알고 있는고로 旅館主人을 訪問하였다가、 旅館主人에게서 내가 朝鮮人으로 투숙하고 있다는 것을 알고 찾아와서 서로 人事를 나누었다。海外에서 同胞가 서로 만나니 이 역시 因緣이다。李氏・張氏 二人은 本來 人蔘商으로 一ヶ月 전에 이곳에 到着하였고…〔朝食の後、本国（朝鮮）の義州から来た 張某氏・李某氏の二人と挨拶を交わした。張某氏と李某氏の二人は、この旅館の主人との知り合いで、旅館を訪問した際、その主人から同じ朝鮮人である私が宿泊しているということを聞いて、訪れてきたのである。海外の地で同胞に会えるとは、やはり何かの因縁である。李氏と張氏の二人は、本来人参商人で、一ヵ月前にここに到着した…〕」（鄭 1983、P. 135）

当時、張氏及び李氏と会った時の状況を鄭元澤は、以上のように記録しているが、彼の記録からもわかるように、鄭元澤のところへ訪れてきた張氏と李氏は、高麗人参商人だったのである。張氏と李氏の二人がタイに移住した時期は、鄭元澤がタイに到着する約1ヵ月前、つまり1916年のことであり、これは1910年代から、タイで高麗人参を販売するために移住した朝鮮人が存在したということを裏付けられる一次史料である。

しかし、この鄭元澤が会った張氏と李氏は、前述の旅券下付表や海外在留本邦人職業別人口調査一件の中には含まれていない可能性が高い。何故なら、二人は日本領事館の人に追われていたためである。

鄭元澤がこの二人と話を交わしてから三日後、在バンコク日本領事館の職員が、鄭元澤が宿泊していた旅館を訪れ、張氏と李氏の行方を尋ねた。その時の状況を鄭元澤は、以下のように記録している。

「日本人이 나를 보고、『公이 張某인가、李某인가?』 하고 묻기로 내가 對答하기를、『아니다。 나는 鄭某이다。』 하니、 또 묻기를 『그러면 李・張과 서로 面識이 있는가?』 내 말하기를、『아니다。 今始初聞이다。』 하니、 『그러면 公이 到着한 뒤에 日本領事館에 왔다는 보고를 하였는가?』 내 對답이、 『하지 않았다。』 하니 그 日本人이 홀연히 言事가 불손하며 마치 힐책하는 태도로

말하기를、『내 오늘 긴급히 바쁜 일이 있어서 같이 가지 못하니、來日 午前에는 왔다는 報告를 領事館에 하라。 지체하면 장차 處分이 있을 것이다。』하고 곧 바쁜 걸음으로 나가는데、마치 罪人の 뒤를 쫓는 態度이다。 나는 바로 이런 雰圍氣를 벗어나고자 곧 船窓으로 가서 싱가포르로 가는 배를 알아보니 모레 떠나는 배가 있다 하므로 곧 돌아와서 行裝을 챙기고 다른 곳으로 옮겼다。〔日本人（在バンコク日本領事館の人）が私に『其方が張氏、若しくは李氏か』と聞くと、私は『否、我は鄭某である。』と答えた。すると、『では、李・張とお互い面識があるのか』と聞いたので、私は『否、今始初聞である。』と答えた。すると『それでは、其方は（バンコクに）到着した後、日本領事館に到着したという報告はしたのか』と聞いたため、これに対し『否、しなかった。』と答えると、その日本人は、突然、不遜な態度で『本日は急ぎの用があり、同行できぬが、明日の午前中には、日本領事館に到着したという報告をしろ。滞らすと後に処罰を受けることになる。』と詰った後、急いで出ていったが、まるで罪人の後を追うような態度だった。私はここから逃れようと、すぐ港に向かい、シンガポール行きの船を探したら明後日の便があったので、帰ってきてすぐ荷造りをし、他の場所へ移った。〕」（鄭 1983, pp. 136-137）

鄭元澤は、在バンコク日本領事館から来た日本人職員に、彼が張氏、若しくは李氏本人なのか、また、二人の知人であるのかを問われた。在バンコク日本領事館の職員が張氏と李氏を探していた理由は、二人が高麗人參の他にも、『安重根傳』という朝鮮獨立運動家の安重根に関する本、約100数冊をバンコク内の華人に販売していたためだったと見られる<sup>30</sup>。

また、張氏と李氏の二人が『安重根傳』を所持及び販売していたことは、鄭元澤も知っていたため、鄭元澤は二人との関係を否定した。日本領事館から来た日本人は、鄭元澤と二人の関係を結びつけるすべはなかったため、その後、去っていったが、鄭元澤がその時のことを「まるで罪人の後を追うような態度だった」と描写していることから、タイのバンコクにおいて高麗人參を販売していた張氏と李氏は、日本領事館と関わることを避けていたと見られる。その理由は第3章において詳述するが、彼らが朝鮮獨立運動家だったためだったと考えられる。

---

<sup>30</sup> 鄭、前掲注（29）、135頁には、張氏と李氏二人が『安重根傳』約100冊をタイに持っていき、中国人たちに販売していたと記録されている。

## 7. 海外に渡った朝鮮人高麗人参商人の役割

鄭元澤がタイのバンコクで出会った張氏と李氏が朝鮮独立運動に関わっていたように、当時、海外に移住していた朝鮮人高麗人参商人には、単に高麗人参を販売し、利益を追求するという以上の役割を持っていた。

前述した皇城新聞の1902年10月23日の記事、『在美蔘商』からもわかるように、朝鮮人高麗人参商人が移住先において高麗人参を販売しながら得られた情報は、朝鮮半島内や他の地域における朝鮮人高麗人参商人たちに伝わっていたのである。

その一例として挙げられるのが、高麗人参を販売するために、アメリカ大陸に向かった朴永順という朝鮮人高麗人参商人の逸話である。1900年代初め、高麗人参を販売するため、アメリカのサンフランシスコを経て、メキシコに向かった朴永順は、メキシコのアガベ農場で働く朝鮮人移住労働者たちの悲惨な労働環境を目の当たりにした。彼が目撃した同胞たちの生活は、あまりにも酷かった故、彼は再びアメリカに戻り、その実情をアメリカ内の朝鮮人社会に伝えた。

その後、朴永順が目撃したメキシコで働いていた朝鮮人労働者たちの様子は、「大韓毎日申報」の1905年12月20日の記事、『墨國에 韓人苦況〔墨國に韓人苦況〕』に掲載され、在アメリカ朝鮮人社会に、初めてメキシコに移住していた朝鮮人の情報が知られるきっかけとなった。その後、これを知った在アメリカ朝鮮人コミュニティでは、メキシコに移住した朝鮮人を援助するようになった<sup>31</sup>。

このように海外において高麗人参を販売していた朝鮮人高麗人参商人は、情報通信機器が発達していなかった時期、海外において直接、見聞きした情報を朝鮮半島内や在外朝鮮人コミュニティに伝える役割を果たしていたのである。

また、海外に移住した朝鮮人高麗人参商人の中には、朴永順のように、海外現地の情報を伝達する役割のみならず、直接、朝鮮独立運動に関わっていた人も存在した。日本の朝鮮統治期、日本政府が作成した史料の中には「海外在留本邦人職業別人口調査一件」の他にも、1934年、海外に移住した朝鮮人を監視するために調査及び作成された「國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿」という史料がある。

同史料の中には、海外に居住しながら日本の植民統治に反する活動、即ち朝鮮独立

---

<sup>31</sup> 韓国農林畜産食品部（2016）『우리가 몰랐던 진짜 고려인삼 이야기〔我々が知らなかった本当の高麗人参の話〕』大韓民国農業部農林畜産食品部、53-54頁参考。尚、同新聞の原典は、大韓毎日申報の1905年12月20日の記事『墨國에 韓人苦況〔墨國に韓人苦況〕』において確認可能。原典は「[https://www.nl.go.kr/newspaper/sub0101.do?dir\\_paperIndex=%E3%84%B7&dir\\_paper=%EB%8C%80%ED%95%9C%EB%A7%A4%EC%9D%BC%EC%8B%A0%EB%B3%B4\\_%E5%A4%A7%E9%9F%93%E6%AF%8F%E6%97%A5%E7%94%B3%E5%A0%B1](https://www.nl.go.kr/newspaper/sub0101.do?dir_paperIndex=%E3%84%B7&dir_paper=%EB%8C%80%ED%95%9C%EB%A7%A4%EC%9D%BC%EC%8B%A0%EB%B3%B4_%E5%A4%A7%E9%9F%93%E6%AF%8F%E6%97%A5%E7%94%B3%E5%A0%B1)」において閲覧可能（最終閲覧日：2021年08月01日）。

運動に関わっていた朝鮮人の情報が記録されているが、その名簿の中の298番目には、朝鮮慶尚南道密陽郡出身の李賢壽という朝鮮人が記録されている。

1925年、上海に渡航し、大韓民国臨時政府の独立運動活動に関わっていた李賢壽は、同史料が記録された1934年には、タイのバンコクに居住しており、タイ現地において人参行商に従事していたと記録されている<sup>32</sup>。

李賢壽に関するこのような史料から、タイに移住していた朝鮮人高麗人参商人の中には、朝鮮独立運動活動に関わっていた人も存在したということがわかるが、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人の中には、李賢壽以外にも、朝鮮独立運動家が更に存在していた可能性はありと考えられる。

## 8. 小結

本章では、日本の朝鮮支配期、高麗人参を販売するためにタイに渡った朝鮮人高麗人参商人を中心に、朝鮮人のタイ移住史を探ってみた。その結果、在バンコク日本領事によって作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」などを基に、明治43年から昭和14年までにおける、在タイ朝鮮人移住民数の推移を把握することができた。更に、日本の外交史料館に所蔵されている旅券下付表を検討してみた結果、同時期、タイに移住した112人の朝鮮人高麗人参商人の存在を見つけることができた。

日本政府によって作成されたこのような史料を基に、当時、タイに移住した朝鮮人たちは、主に高麗人参商人であったということがわかったが、同時期、朝鮮人がタイ現地において直接、見聞きして収集した情報を基に作成された新聞記録や個人記録からも、実際、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人の存在を確認することができた。

このように、日本の植民地支配下にあった朝鮮からタイに移住していた朝鮮人数は、「海外在留本邦人職業別人口調査一件」の明治43年から昭和14年までの記録を基に把握することができたが、同期間中、累計187人、毎年、平均約6.2人の朝鮮人がタイに滞在していたということがわかった。

ところが、鄭元澤の日誌、『志山外遊日誌』に記録された張氏と李氏の事例のように、当時、タイ現地における日本領事館の調査に応じなかった朝鮮人も存在したということを踏まえて考えると、実際の在タイ朝鮮人数は、日本政府によって調査された朝鮮人数の合計よりも、多かった可能性が高いと考えられる。

タイに移住した朝鮮人が日本領事館の調査に応じなかった理由は、彼らが単に高麗

---

<sup>32</sup> 朝鮮總督府警務局（1934）『國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿』京城：行政學會の名簿の298目の記録を参考。

人参を販売していたのではなく、朝鮮独立運動にも関わっていたためであると考えられる。そこで、次章においては、朝鮮が日本の植民地支配下にあった時期、タイに移住した朝鮮人独立運動家に関する歴史と共に、彼らの在タイ朝鮮人高麗人参商人との関わりを探っていきたい。

### 第3章 朝鮮人独立運動家のタイ移住

#### 1. 朝鮮人の海外独立運動と海外移住史

日本の朝鮮統治期、海外における朝鮮独立運動活動と朝鮮人の海外移住史の間には深い関連がある。帝国主義日本の朝鮮半島侵略に対して抗争していた勢力である朝鮮独立運動家たちは、徐々に朝鮮半島への支配力を拡大していく日本に対抗し、日本の韓国併合以前からも朝鮮半島内での独立運動活動を展開していた。

しかしながら、彼らの奮闘も無念に、1910年、日本の朝鮮に対する植民統治は始まった。その後、日本による植民地支配が長期化していくと共に、日本政府の朝鮮人独立運動家たちへの弾圧も強くなっていった。そのため、朝鮮半島内で活動することが困難になった朝鮮人独立運動家たちは、活動拠点を海外へ移動させ、それに伴い朝鮮人独立運動家の海外移住も増加していったのである。

関連先行研究を見ると、このように海外に移住した朝鮮人独立運動家は活動方法において、大きく2つに分けられるが、武装抵抗による朝鮮独立を図った勢力と外交活動を行うことで朝鮮を独立させようとしていた勢力がそれである<sup>33</sup>。

前者の場合、1905年、日韓の間で第二次日韓協約が締結されてから、朝鮮半島内において独立運動活動を展開することが困難であると判断した洪範圖、李南基、金鼎奎などの義兵たちが、朝鮮半島と中国の間を流れる鴨緑江や豆満江を超え、間島地域や沿海州地域に移住し、武装独立軍を結成したのが代表的である。

後者の外交活動による朝鮮独立を図った勢力としては、中国地域では上海に設けられた大韓民国臨時政府（以下、韓国臨時政府と称す）があり、アメリカ地域においては、朝鮮人移住民が大韓人国民会などのような朝鮮人民族団体を設立し、欧米諸国との朝鮮独立に関する外交交渉を行い続けていたことが挙げられる。

欧米式の先進教育を受け、知識人として、また政治家として独立運動活動を展開していた李承晩や徐載弼などが移住したアメリカにおいては、満洲地域及び沿海州地域と同様に1905年、第二次日韓協約の締結以降、朝鮮人移住民が多かったハワイやサンフランシスコを中心に、新幹会や共立協会などの朝鮮人コミュニティが組織された。

---

<sup>33</sup> 尹炳奭（2009）『1910년대 국외 항일운동 I-만주·러시아 [1910年代国外抗日運動 I-滿洲・ロシア]』、及び廉仁鎬（2009）『조선의용대·조선의용군 [朝鮮義勇隊・朝鮮義勇軍]』など、韓国独立記念館が発刊する「韓国独立運動の歴史」関連書籍参照。関連書籍は「<https://search.i815.or.kr/publication/history/list.do?pageIndex=1&searchCondition=bookTitle&searchKeyword=&pageUnit=10>」で閲覧可能（最終閲覧日：2021年06月05日）。

その後、より組織的な独立運動活動を展開する必要性を感じた安昌浩を中心に、アメリカ各地に散在していた朝鮮人のコミュニティが統合され、大韓人国民会が結成された。この大韓人国民会は、新聞やラジオなどを通じた言論活動を広げていくと共に、国際会議に出席し、外交活動を展開していくことで、日本の朝鮮支配の不当さを世界に訴えた。

また、同時期、大韓人国民会は、アメリカ以外の地域にも支会を設け、世界各地に移住していた朝鮮人に独立運動への協力を促し、資金を集め、上海に位置した韓国臨時政府と協力するなど、世界各地に移住していた朝鮮人移住民を支援するコミュニティへと発展した。

同大韓人国民会とそれに加わっていた朝鮮人の独立運動活動は、独立運動史の観点から見れば、朝鮮半島内外における朝鮮独立運動に多大なる影響を及ぼした朝鮮人の民族団体であるが、朝鮮人の海外移住史研究の観点から考えると、当時、海外に在留していた朝鮮人を統合し、朝鮮人の海外移住、更に定着の目的を変えた上、現在まで続く在外韓国人コミュニティの基盤を設けたという点において意義のある歴史である。

実際、このように朝鮮独立運動のために、アメリカ各地や中国地域などにおいて形成された朝鮮人コミュニティは、現在まで維持されている韓国人コミュニティの基となり、各朝鮮人移住民コミュニティの形成過程の中から、当地域における朝鮮人の移住過程の歴史を探ることができる。

## 2. 東南アジア地域における朝鮮人独立運動家

20世紀初、朝鮮半島において、独立運動活動を展開することができなくなった朝鮮独立運動家たちが独立運動資金の募集や独立運動を展開する地域として、目を向けたのは、中国地域やロシア地域ではなかった。

彼らは満洲地域や沿海州地域において活動していた韓国独立軍<sup>34</sup>や外交活動を行っていた上海の韓国臨時政府を支援するために必要な資金を集めることが可能な地域として、年中温暖な天候で、二毛作が可能な東南アジア地域を念頭に置いていた。また、日本軍の中国大陸進出により、満洲を含む中国地域において、独立運動の展開が困難になった朝鮮人独立運動家たちは、第二の活動拠点を東南アジア地域に設けようとした<sup>35</sup>。

---

<sup>34</sup> 韓国臨時政府の与党、韓国独立党の傘下にあった軍事組織であり、独立運動家池青天（総司令官）などを中心に抗日運動を展開した団体。

<sup>35</sup> 金度亨（2008）『1920년대 이후 일본・동남아시아 지역 민족운동 [1920年代以降日本・東南アジア地域の民族運動]』韓国独立運動史編纂委員会の224-266頁から参考。



朝鮮人独立運動家たちが活動拠点を中国から東南アジア地域へ移転させようとした試みは、独立運動関連史料や関連研究の中から、その歴史を探ることができる。1900年代初期、東南アジア各地へどのような朝鮮人が移住し、各移住地域において、朝鮮人独立運動家たちがどのように独立運動を展開したのかを研究した金度亨（2008）の研究には、東南アジア地域に第二の独立運動基地を設けようとした朝鮮人の歴史が紹介されている。

金度亨（2008）の研究によると、1900年代初期、朝鮮人独立運動家たちにとって東南アジア諸国は、独立運動に必要な資金の調達地として注目され始めた。その例として、同研究の中には、朝鮮人独立運動家、林得山の逸話が紹介されている。

林得山は1912年、彼が17歳の時、上海で3～4ヵ月間滞在した後、彼の兄と共に、中国広州やベトナムを視察した。今のところ、彼が東南アジア地域において、具体的にどのような活動を展開していたのかに関する記録は見当たらないが、ベトナムを視察してから、彼は将来、東南アジア地域において、資金を収集することが可能な事業の計画を考えるようになった（金度亨 2008、p. 235）。

その他にも、同時期、朝鮮人独立運動家たちにとって、東南アジア地域がどのように認識されていたのかは、第2章において既に言及した鄭元澤が東南アジア地域に向かおうと決意した経緯からも見られている。

前述のように、中国の独立運動に使用された活動資金が東南アジア地域に移住していた華僑から出資されたということを耳にした鄭元澤は、朝鮮独立運動の展開に使用される資金を設けるための事前調査を東南アジア各地で行った。それに当たり、鄭元澤は、洪命憲、金晋鏞（別名、金聖道）、金徳鎮と共に東南アジア各地へ向かい、独立運動活動展開に必要な資金募集のための現地調査を行ったのである。

この鄭元澤と共に東南アジア地域に向かった3人の朝鮮人は全員、独立運動家だった。まず、洪命憲は、抗日団体である新幹会の総務幹事を務めた独立運動家<sup>36</sup>の一人で、この鄭元澤たちを率いるリーダーだった。

また、金晋鏞は、朝鮮半島において3・1運動が起きた直後である1919年4月、朝鮮半島の13道の代表が集まり、漢城臨時政府を組織した際、重要な幹部の1人として活躍した上、韓国臨時政府の設立にも寄与したことで、韓国政府から勲章も授与された独立運動家である<sup>37</sup>。

更に、金徳鎮も独立運動家の一人であり、第二次日韓協約の締結後、朝鮮の忠清南

---

<sup>36</sup> 新幹会の幹部名簿記録は、「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=had\\_135\\_0360](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=had_135_0360)」において閲覧可能（最終閲覧日：2021年6月5日）。

<sup>37</sup> 金晋鏞は、独立運動家として、国内抗日愛族章を授与された。関連情報は「<http://w3devlabs.net/korea/archives/tag/%E9%87%91%E6%99%8B%E9%8F%9E>」で閲覧可能（最終閲覧日：2021年06月05日）。

道において、日本軍に抵抗するために糾合された閔宗植の率いる義兵団の中で、参謀として活躍した独立軍の幹部だったのである<sup>38</sup>。

その他にも、独立運動に必要な資金を東南アジア地域で集めようとしていた、より具体的な計画はフィリピンでも行われた。アメリカに移住していた安昌浩は、朝鮮人が海外に移住及び定着し、現地において自給自足しながら、独立運動に必要な資金を集めることができる「理想村」の建設を計画した。

安昌浩は当初、理想村を建設する候補地として、満洲地域を考えていたが、日本の影響力が朝鮮半島を超え、満洲地域にまで及ぶようになったため、独立運動を支援するための理想村建設の計画は挫折した（金度亨 2008、pp. 255-256）。

そこで安昌浩が満洲地域の代わりに、朝鮮人が移住して、理想村を建設することができるだろうと考えた地域がフィリピンだった。安昌浩がフィリピン地域を視察しようと考えた際の記録は、1933年3月1日に発行された「삼천리〔三千里〕」第5巻の第3号の中から探ることができる。

「米國 의학박사 金昌世씨의 권유도 잇고 또 米國의 식민지 동치 상황을 한번 보아 두자는 宿望도 잇서 族裝을 整備하고 比律賓에 至하여 약 3개월 간 체재하면서 제반 사정을 시찰하고 도라왔다  
〔アメリカにいる医学博士、金昌世氏の勧誘もあった上、アメリカがどのように植民地を統治しているのかを見ておきたく、荷造りをし、フィリピンで約3ヶ月間滞在しながら、現地の諸事情を視察して帰ってきた〕」<sup>39</sup>

このように、安昌浩は、当時、アメリカの植民地支配下にあったフィリピンの現地状況を約3ヶ月間視察した。

また、同史料の中には、

---

<sup>38</sup> 金徳鎮も独立運動家として、義兵愛族章を授与された。関連情報は「<http://w3devlab.s.net/korea/archives/tag/%E9%87%91%E5%BE%B7%E9%8E%AD>」で閲覧可能（最終閲覧日：2021年06月05日）。

<sup>39</sup> 安昌浩（1933年03月01日）『比律賓視察記』三千里、10-11頁。原典は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_016\\_0350\\_0100&position=-1](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_016_0350_0100&position=-1)」から閲覧可能（最終閲覧日：2021年6月5日）。

「上海에서 米國배를 타기는 1929년 4월 8일이었다. 그래서  
예정대로 「마니라」항구에 상륙하자 金박사 외 동포 諸씨가  
마중나와 주었다 [1929年4月8日、上海からアメリカの船に乗った。  
そして、予定通り「マニラ」の港に上陸すると、金博士以外にも同  
胞数人が迎えに来てくれた]」（安 1933、P.10）

と述べられた部分も見られ、安昌浩がフィリピンに到着した際、彼をフィリピンに招いた金昌世という人物の他にも、現地に居住していた朝鮮人が存在したということがわかった<sup>40</sup>。

同史料の中で、金昌世と共に、フィリピンに到着した安昌浩を迎えに来た朝鮮人数に関する記述は見当たらないが、金度亨（2008）の研究によると、当時、フィリピン滞在していた朝鮮人数は、52人であり、彼らは朝鮮独立運動への情熱を持っていた（金度亨 2008、p. 257）。

しかしながら、その後、安昌浩が考えていたフィリピンに朝鮮人を移住させ、理想村を建設するという計画は、朝鮮人のビザや国籍などの問題を解決することができず、実現されなかったが、フィリピンに大韓人国民会の支部を設けることで、フィリピンから朝鮮独立運動の資金を収集することができるようになった。

このように、当時、朝鮮人独立運動家にとって、東南アジア地域は、中国に代わる独立運動の活動拠点や独立運動を展開するために必要な資金を調達する地域として注目されていたことがわかる。そこで次節からは、このような状況の中でタイに移住した朝鮮人独立運動家の歴史を探っていきたいと考える。

### 3. 朝鮮人独立運動家のタイ進出

前節においては、東南アジア地域に移住した朝鮮人独立運動家の歴史と彼らが東南アジア地域をどのように認識しており、更に、現地において、どのような独立運動活動を計画していたのかを検討してみた。その結果、当時、東南アジア地域は、中国において行われていた朝鮮独立運動に必要な資金を集めることができる地域として注目され、中には、東南アジア地域に独立運動活動の拠点を設け、中国における独立運動活動が困難になった場合に備えていたことがわかった。

それでは、東南アジア地域の中でも、タイに移住し、独立運動を展開した朝鮮人独立運動家は、存在しなかったのだろうか。20世紀初、タイ以外の東南アジア諸国は、

---

<sup>40</sup> 安、前掲注（39）、10頁。

欧米列強諸国の植民地に陥っていたのに対し、タイは独立を維持していたため、植民地政府の監視というものもなく、朝鮮人が独立運動活動を展開するには、適していた地域だったと考えられる。

前述のように、鄭元澤や安昌浩などが持っていた東南アジア地域に対する認識を見ると、東南アジア地域が朝鮮独立運動の展開に際して、重要な地域として捉えられていたということがわかるが、中でもタイが持つ地理的利点やその重要性は、1930年代にタイに渡った李慶孫に関する記録からも見ることができる。

李慶孫をインタビューしたキム（2008）の記録の中で、彼はタイに移住した頃のことを回想しながら、タイを「동남아의 북판이요, 철로, 육로, 수로가 사망팔방으로 이웃나라로 통하는 나라 [東南アジアの中心にあり、鉄路、陸路、水路が隣国と四方八方につながる国である]」（キム 2008、p. 173）と述べていることからわかるように、1900年代初期からタイは、東南アジア地域の中心に位置し、周辺国や地域と交流できる交通インフラも整えられていた地域として知られていたということがわかる。従って、朝鮮人独立運動家が独立運動の活動拠点の候補地として考えていた可能性は十分あると考えられる。

### （1）李慶孫のタイ移住と独立運動

日本が朝鮮半島を植民地支配した時期におけるタイ移住朝鮮人独立運動家を研究する際、李慶孫は欠かせられない人物である。前述の通り、李慶孫がタイに移住するようになった契機は、朝鮮半島内における独立運動活動だった。

本来、芸術家だった李慶孫は、主に舞台演出、映画監督、映画俳優、小説執筆など1900年代初期の朝鮮の文化発展に貢献した歴史的な人物であり、1920年玄哲が設立した芸術学園で演劇活動を始めた以来、1921年から1922年の間に「結婚申請」、「貞操」、「復活」などの数々の作品の演出を担当しながら名を上げていった。その傍ら、朝鮮の新聞、東亜日報への自作童謡や詩の発表のみならず、映画監督しても活動するなど朝鮮の近代文学の発展に貢献した<sup>41</sup>。

しかし、彼が1926年から1927年初まで、朝鮮日報に連載した「白衣人」という映画小説が抗日的な性向を持っているということが理由となり、日本政府からの弾圧を受けるようになった。そのため、朝鮮半島内における文芸活動が困難になった彼は1931年、上海へ亡命した。その後、上海へ渡ってから、李慶孫は、独立運動家の金九と出会い、金九と共に、韓国臨時政府幹部の一員として独立運動活動を展開する傍ら、文

---

<sup>41</sup> キム・スナム（1997）「이경손의 한국 영화 운동 [李慶孫の韓国映画運動]」『한국 영화학회 [韓国映画学会]』映画研究12、7-35頁参照。

芸活動を続けていった。ところが、上海天長節爆弾事件後、日本軍の監視が厳しくなったことにより、再び追われる身となり、タイへ移住することになった<sup>42</sup>。

図 6 映画小説「白衣人」十五『朝鮮日報』1927年02月09日。



(注) 李慶孫が朝鮮日報に連載した映画小説「白衣人」の第十五話。閲覧できる資料に限りがあったため、第十五話のみ引用。

(出所) NAVER News Library『朝鮮日報』 <https://newslibrary.naver.com/viewer/index.nhn?articleId=1927020900239101029&editNo=1&printCount=1&publishDate=1927-02-09&officeId=00023&pageNo=1&printNo=2304&publishType=00010> (最終閲覧日：2021年06月06日)

タイに移住した李慶孫は、流暢な英語と中国語を使い、バンコクやマレーシアの間を転々としながら、華僑学校において英語を教えていった。しかし、タイ語が話せなかったため、現地において中国語を使いタイ語を学んだ。その際、李慶孫にタイ語を教える代わりに、彼に中国語を教えてもらったタイ人の女性と恋愛関係に発展し、その後、結婚にまで至った (キム 2008、pp. 175-176)。

ところが、先行研究や独立運動関連史料の中からは、李慶孫がタイに移住した後、どのような独立運動活動を展開したのかに関する記録は見当たらず、実際、果たして彼がタイにおいて独立運動活動を展開したのかは定かではない。

ただ、キム (2008) の研究の中に、李慶孫が結婚したタイ人女性が、当時、反日傾向のあるタイの新聞社の秘書だったと述べられていることから<sup>43</sup>、タイに移住する前

<sup>42</sup> 『韓国民族文化大百科事典』の李慶孫に関する歴史参照。関連情報は「[http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/Index?contents\\_id=E0043551](http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/Index?contents_id=E0043551)」で閲覧可能 (最終閲覧日：2021年06月06日)。

<sup>43</sup> キム、前掲注 (22)、176頁。同頁の中では、李慶孫と結婚したタイ人の女性が反日傾

から新聞に小説や記事を掲載した経験を活かし、タイにおいても新聞社を通じて反日傾向のある私説などを投稿していたのではないかと考えられる。

## (2) タイに移住した高麗人参商人の独立運動、李賢壽

前小節においては、独立運動家だった李慶孫のタイ移住に関する歴史を検討してみた。李慶孫がタイにおいてどのような独立運動を展開したのかに関する具体的な史料は見当たらず、彼のタイ移住の目的が独立運動関連活動を展開するためだったのかは定かではない。それでは、タイで独立運動関連活動を展開するために移住した朝鮮人は存在しなかったのだろうか。

まず、第2章において、1934年タイに向かい高麗人参を販売していたということで「國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿」に記録された朝鮮人高麗人参商人、李賢壽を検討してみたい。本来、この「國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿」という史料そのものの作成目的が日本国外において、朝鮮独立運動関連活動を展開していた朝鮮人を調査し、彼らの活動を監視することにあつたため、この名簿に名前が載っている時点で、朝鮮独立運動関連活動に関わっていたということを意味している。

そこで、李賢壽の名前が記録されている独立運動関連活動に関する史料を探てみると、李賢壽という名前が朝鮮人独立運動家、李斗山の別名であり、韓国独立党の党員として、廣東及び香港において、独立運動を展開していた人物であつたということがわかつた<sup>44</sup>。その上、李賢壽は、1920年1月、韓国臨時政府財務部の書記に任命され、1942年には、韓国臨時政府の外交研究委員に任命されるなど、韓国臨時政府の独立運動活動に深く関わっていた人物だつた<sup>45</sup>。

李賢壽がタイにおいて、具体的にどのような独立運動関連活動を広げていたのかに

---

向のある新聞社で働いていたという情報はあつたものの、その新聞社名は明らかにされていない。また、李慶孫が、その新聞社で、このタイ人の女性に中国語を教えたという記録以外の情報は述べられていない。

<sup>44</sup> 『大韓民国臨時政府資料集』第33巻の中にある「韓国独立党の党員名簿」を参照。関連情報は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=1&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=ij\\_033\\_0010\\_00260](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=1&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=ij_033_0010_00260)」で閲覧可能（最終閲覧日：2021年06月06日）。

<sup>45</sup> 『大韓民国臨時政府資料集』第1巻の中にある「大韓民国臨時政府公報第10号」並びに「大韓民国臨時政府公報第75号」を参照。第10号は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=521&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=12&levelId=ij\\_001\\_0020\\_00090](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=521&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=12&levelId=ij_001_0020_00090)」、また第75号は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=521&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=70&levelId=ij\\_001\\_0020\\_00670](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=521&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=70&levelId=ij_001_0020_00670)」で閲覧可能（最終閲覧日：2021年06月06日）。

関しては、更なる調査が必要だが、「國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿」の中では、1934年、タイにおいて、高麗人参を販売していたと記録されている部分から、前述のように、同時期、海外地域において活動していた朝鮮人高麗人参商人や独立運動家と同様に、タイに向かい、情報を収集すると共に、高麗人参を販売することで、独立運動活動に必要な資金を集めていたのではないかと考えられる。

### (3) 旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人の独立運動活動

李賢壽のように、朝鮮が日本の植民統治下にあった時期、タイにおいて朝鮮独立運動関連活動を展開しつつ、高麗人参を販売していた朝鮮人は、他にも存在すると考えられる。しかしながら、同時期、タイに移住していた朝鮮人の中で、独立運動家兼高麗人参商人であった朝鮮人に関する記録を一つにまとめた史料や研究は未だ見当たらない。

そのため、前述の日本政府の旅券下付表に記録された、タイに渡航した朝鮮人高麗人参商人の名簿（表25）に記載された朝鮮人の名前を朝鮮独立運動史に関する研究、若しくは史料から探ってみた結果、朝鮮独立運動に直間接的に関わっていた朝鮮人高麗人参商人の存在を発見することができた。

まず、1912年5月28日に旅券を下付され、タイとシンガポールに渡った金應浩は1919年9月25日、朝鮮独立運動に参加し「大韓独立万歳」を提唱した罪を問われ、刑事裁判を受けた人物だった<sup>46</sup>。更に、1917年6月1日に在安東日本領事館を通じて、香港、タイ、印度支那などにおいて、人参行商を行うために旅券を申請した李世春は、1919年、三一運動に参加していた際、その現場で逮捕され、同年3月6日に訊問調書を受けた人物である<sup>47</sup>。

また、1917年3月9日、在香港領事館から旅券を下付され、行商という目的を持ち、印度支那、タイなどに渡った金仁俊（本名、金道源）は、1922年12月27日と1923年2

---

<sup>46</sup> 韓国国家記録院の独立運動関連判決文の中にある1919年09月25日の判決文。判決文は「[http://theme.archives.go.kr/next/indy/viewIndyDetail.do?archiveId=0001351840&evntId=0034979845&evntdowngbn=Y&indpnId=0000011657&actionType=add&flag=1&search\\_region=](http://theme.archives.go.kr/next/indy/viewIndyDetail.do?archiveId=0001351840&evntId=0034979845&evntdowngbn=Y&indpnId=0000011657&actionType=add&flag=1&search_region=)」で確認可能（最終閲覧日：2021年06月06日）。

<sup>47</sup> 韓民族独立運動史資料集の第13巻「三一運動Ⅲ」の中にある『李世春尋問調書』から参考。調書内容は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=24&itemId=hd&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=2&levelId=hd\\_013\\_0040\\_0060&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%9D%8E%E4%B8%96%E6%98%A5&searchKeywordConjunction=AND](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=24&itemId=hd&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=2&levelId=hd_013_0040_0060&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%9D%8E%E4%B8%96%E6%98%A5&searchKeywordConjunction=AND)」で確認可能（最終閲覧日：2020年06月06日）。

月26日に、それぞれ独立軍の軍資金を収集する過程の中で、調査に当たった日本警官を殺害した上、銃を所持していたという罪を問われ、刑事判決を受けたという記録も見られた<sup>48</sup>。

他にも、以下の表27のように、旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人の名前を独立運動関連史料の中から確認することができた。同表において、参考にした史料は、全て、韓国国史編纂委員会の「한국사데이터베이스〔韓国史データベース〕」のホームページ (<http://db.history.go.kr>) にも公開されている。

表27 タイに向かった朝鮮人高麗人参商人の独立運動関連活動記録

|    | 名前  | 年度   | 独立運動関連活動              | 参考史料          |
|----|-----|------|-----------------------|---------------|
| 1  | 金成九 | 1939 | 不敬罪及び殺人罪              | 独立運動関連判決文     |
| 2  | 金應浩 | 1919 | 朝鮮3・1運動に参加            | 独立運動関連判決文     |
| 3  | 朴東根 | 1920 | 独立宣言文配布、<br>3・1運動参加   | 独立運動関連判決文     |
| 4  | 李允根 | 1921 | 韓国臨時政府の通信員            | 大韓民国臨時政府資料集   |
| 5  | 金仁俊 | 1923 | 普合団加入及び日本巡查殺害         | 独立運動関連判決文     |
| 6  | 李圭廷 | 1919 | 韓国臨時政府の委員             | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 7  | 金奎善 | 1916 | 韓国臨時政府の委員             | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 8  | 金弘翊 | 1929 | 東亜日報所属記者              | 東亜日報          |
| 9  | 李世春 | 1925 | 韓族労働党の党员              | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 10 | 高就崙 | 1907 | 太極学会の会員               | 太極学報          |
| 11 | 李承烈 | 1921 | 大韓独立軍備団団員             | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 12 | 趙天浩 | 1916 | 朝鮮耶蘇教長老会の布教師          | 朝鮮総督府官報       |
| 13 | 崔俊善 | -    | 高麗物産公社所属              | 三千里           |
| 14 | 趙観国 | 1940 | 軍需品などの売買、<br>価格等統制令違反 | 京成地方法院検事局文書   |
| 15 | 朴龍九 | 1919 | 3・1運動参加               | 韓民族独立運動史資料集   |
| 16 | 金潤化 | 1925 | 韓族労働党の党员              | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 17 | 金學海 | 1924 | 韓国臨時政府の軍事学校関連         | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 18 | 李容淳 | 1919 | 3・1運動参加               | 韓民族独立運動史資料集   |
| 19 | 梁成浩 | 1922 | 東亜日報所属記者              | 東亜日報          |
| 20 | 李德基 | 1939 | 出版法違反                 | 韓民族独立運動史資料集   |

<sup>48</sup> 韓国国家記録院の独立運動関連判決文の中にある1922年12月27日の判決文。判決文は「[http://theme.archives.go.kr/next/indy/viewIndyDetail.do?archiveId=0001352048&evntId=0034971192&evntdowngbn=Y&indpnId=0000003619&actionType=det&flag=1&search\\_region=](http://theme.archives.go.kr/next/indy/viewIndyDetail.do?archiveId=0001352048&evntId=0034971192&evntdowngbn=Y&indpnId=0000003619&actionType=det&flag=1&search_region=)」で確認可能（最終閲覧日：2020年06月06日）。



|    |     |      |                        |               |
|----|-----|------|------------------------|---------------|
| 21 | 白義正 | 1940 | 東亜日報所属記者               | 東亜日報          |
| 22 | 朴昌秀 | 1926 | 東亜日報所属記者               | 東亜日報          |
| 23 | 金鳳鳴 | 1924 | 大韓統義府所属                | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 24 | 玉觀彬 | 1924 | 新民会所属                  | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 25 | 崔基元 | 1921 | 朝鮮独立団組織                | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 26 | 張德奎 | 1926 | 東亜日報所属記者               | 東亜日報          |
| 27 | 金斗煥 | 1945 | 韓国光復軍所属                | 大韓民国臨時政府資料集   |
| 28 | 李成穆 | 1931 | 東亜日報所属記者               | 東亜日報          |
| 29 | 金福心 | 1927 | 東亜日報所属記者               | 東亜日報          |
| 30 | 朴雲瑞 | 1928 | 韓国独立軍                  | 東亜日報          |
| 31 | 李炳道 | 1919 | 独立関連秘密結社組織、<br>独立新聞を配布 | 不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部 |
| 32 | 張俊明 | 1921 | 籌備団員、独立軍の軍資金募集         | 大韓民国臨時政府資料集   |

(出所) 日本外務省『不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部』； 韓国国史編纂委員会『대한민국 임시정부자료집 [大韓民国臨時政府資料集]』； 韓国国史編纂委員会『韓民族独立運動史資料集』； 韓国国家記録院「독립운동관련관결문 [独立運動関連判決文]」； 韓国国史編纂委員会『東亜日報』； 韓国国史編纂委員会『朝鮮総督府官報』； 韓国国史編纂委員会『韓国近現代雑誌資料』を参考。

表27を見ると、上述の3人の他にも、タイに移住していた朝鮮人高麗人参商人の中には、3・1運動に参加、独立宣言文の印刷、或いは配布、朝鮮独立運動のための軍資金募集、武器の所持、又は売買など、32人の朝鮮人高麗人参商人が朝鮮独立運動に関わっていたことがわかる。

このような朝鮮人高麗人参商人の独立運動活動は、様々な朝鮮独立運動団体やその関連活動において見られている。上記の32人の朝鮮人の中には、所属していた組織名が不明な者も存在するが、日本の植民地支配に抵抗すべく、朝鮮人の独立運動活動の中心的な役割を果たしていた韓国臨時政府のみならず、朝鮮人独立運動家たちの連絡網として機能しながら、活動資金を支援していた高麗物産公社、東亜日報のような言論社、朝鮮耶蘇教長老会のような宗教団体、韓国光復軍や韓国独立軍のような軍事組織に所属していた他、普合団、韓族労働党、太極学会、籌備団など、多種多様な独立運動関連団体において活動していたのである。

中でも、韓国臨時政府の独立運動活動は、同組織が設けられた上海のみならず、アメリカなど、海外各地において活動していた朝鮮人独立運動家やその団体と協力しながら展開されていた。同時期、タイに移住した韓国臨時政府所属の朝鮮人も、独立運動関連活動の一環として、タイに向かっていたと見られる。

その例として、表27の李圭廷が挙げられる。1917年4月21日、京畿道警務部を通じて、タイなどにおいて商業視察することを目的として渡航するための旅券を下付された李圭廷は、その後、朝鮮独立運動関連活動に参加したことにより、不逞鮮人として記録され、日本政府の監視対象となった。

彼の独立運動関連活動に関する記録は、1920年6月9日、在上海日本總領事、山崎馨一が韓国臨時政府を調査して得られた情報を日本の外務大臣、内田康哉に報告するために作成した「不逞團關係雜件-朝鮮人ノ部-上海假政府二」の中の機密文書第89号「上海不逞鮮人ニ關スル件」の中から探ることができる<sup>49</sup>。

同記録を見ると、李圭廷は、韓国臨時政府交通部の委員として活動していた人物であると記録されているが、『大韓民国臨時政府資料集』の第45巻の臨時議政院記事録の中からも、李圭廷が韓国臨時政府の委員として活動していたという記録を確認することができる<sup>50</sup>。

彼が所属していた韓国臨時政府の交通部は当初、海外各地において、独立運動を展開していた朝鮮人独立運動家たちに情報を伝達するために設けられた部署だったが、実際は、情報伝達のみならず、情報収集、独立運動を展開するのに必要な資金の調達、独立運動家募集及び勧誘などの多様な役割を果たしていた。

韓国臨時政府の交通部の委員だった李圭廷が具体的にどのような理由により、1917年、タイなどに向かっていたのかに関する記録は存在しない。しかし、当時、韓国臨時政府交通部が独立運動を展開する際に必要な情報や資金を収集する役割を持っていたことを踏まえて考えると、彼がタイにおいて高麗人参を販売していた理由は、タイ現地において高麗人参を販売することで独立運動を展開するのに必要な資金を収集すると共に、現地の情報を収集、更にタイで活動していた朝鮮人独立運動家たちとの情報共有などが目的だったと見られる。

また、李圭廷の他にも韓国臨時政府交通部の委員だった朝鮮人高麗人参商人は存在する。1916年2月18日、フィリピンの在マニラ日本領事館から、商業を目的として、旅券を下付され、タイやシンガポールなどに向かった李允根という人物は、李圭廷と同様に韓国臨時政府の交通部で働いた人物である。

---

<sup>49</sup> 1920年6月9日に記録された機密文書第89号「不逞團關係雜件-朝鮮人ノ部-上海假政府二」の17頁参照。原典は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=haf\\_087\\_0040](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=haf_087_0040)」で確認可能（最終閲覧日：2021年06月12日）。

<sup>50</sup> 同記録の原典は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=11&totalCount=11&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=9&levelId=ij\\_045\\_0030\\_00010&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%9D%8E%E5%9C%AD%E5%BB%B7&searchKeywordConjunction=AND](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=11&totalCount=11&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=9&levelId=ij_045_0030_00010&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%9D%8E%E5%9C%AD%E5%BB%B7&searchKeywordConjunction=AND)」で確認可能（最終閲覧日：2021年06月12日）。

ところが、李圭廷が韓国臨時政府交通部の委員として、上海で活動していたことに  
対し、李允根は、1921年1月18日、朝鮮半島内に位置する新義州の通信員として、特  
別配属された<sup>51</sup>。前述のように、同時期、韓国臨時政府交通局委員の主な任務が情報  
や独立運動資金の収集などだったということを踏まえて考えると、李允根は、新義州  
において、独立運動に必要な情報を収集する諜報員のような役割を果たしていたので  
はないかと考えられる。

このような李圭廷や李允根の記録を見ると、タイにおいて高麗人参を販売していた  
朝鮮人商人の中には、韓国臨時政府に所属し、朝鮮独立運動の展開のために情報や資  
金などを集めていた者が存在したということがわかる。その上、彼らのこのようなタ  
イにおける情報及び資金収集活動は、当時、朝鮮半島を含め、世界中に広がっていた  
朝鮮人独立運動ネットワークの一部だったのである。

また、当時、タイに移住していた朝鮮人高麗人参商人の中で、タイにおいて情報及  
び資金を収集していたのは、韓国臨時政府所属の朝鮮人独立運動家以外にも存在した。  
前述の旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人たちの中には、新聞記者として活  
動していた朝鮮人も存在したのである。

1917年5月9日、旅券を下付され、人参行商を目的として、タイを含む東南アジア各  
地に渡った金弘翊は、1929年10月12日、東亜日報の長春支局の記者として任命された  
人物である<sup>52</sup>。

また、1928年3月6日、人参行商を目的としてタイなどに向かった梁成浩も、1920年  
から1922年の間、東亜日報の記者として活動した経歴がある人物である<sup>53</sup>。その他に  
も、表27の朝鮮人高麗人参商人の中で、国内外の新聞記者として活動した経歴がある  
人物としては、白義正、朴昌秀、張徳奎、李成穆、金福心が挙げられるが、彼らは全  
員、東亜日報という新聞社に勤めていたという共通点がある。

---

<sup>51</sup> 『大韓民国臨時政府資料集』の第92巻から引用。原典は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=2&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=1&levelId=ij\\_092\\_0010\\_00070](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=2&itemId=ij&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=1&levelId=ij_092_0010_00070)」で確認可能（最終閲覧日：2021年06月13日）。

<sup>52</sup> 『東亜日報』の1929年10月12日の記事参照。原典は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=npda\\_1929\\_10\\_12\\_v0007\\_1110](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=npda_1929_10_12_v0007_1110)」で確認可能（最終閲覧日：2021年06月13日）。

<sup>53</sup> 梁成浩に関する記録は、「[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=6&totalCount=6&itemId=npda&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=npda\\_1920\\_04\\_23\\_v0004\\_0810&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%A2%81%E6%88%90%E6%B5%A9&searchKeywordConjunction=AND](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=6&totalCount=6&itemId=npda&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=npda_1920_04_23_v0004_0810&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%A2%81%E6%88%90%E6%B5%A9&searchKeywordConjunction=AND)」閲覧可能（最終閲覧日：2020年06月13日）。

彼らが所属していた東亜日報は、1919年、朝鮮半島内で起きた3・1運動の後、創刊された朝鮮語の新聞であり、朝鮮独立運動家や関連団体を支援していた新聞社であった。その例として挙げられるのが以下の図7である。

図 7 「國內同胞에게드림〔国内の同胞に送る〕」、『東亜日報』1925年01月23日。

(原典)

國內同胞에게드림(一)

東亞日報를通하야

◇……島山 安昌浩

故國에게신父老와兄弟姉妹들이여 나는慈母를떠나어린兒孩가 그慈母를그리워하는 것처럼故國을그리워합니다 얼마전에故國으로부터 온 옛던姉妹의편지를읽다가“先生님 웨더디도라옴닛가 故國의山川草木까지도당신의 빨리도라옴을기다립니다”한句節을읽을때에도 非常한뜻금이 激發되었습시다더욱이 이때는여러분父老와兄弟姉妹들이 悲哀와苦痛을받는때이라故國을向하야니러나는생각을 스사로抑制하기 어렵습시다 여러분의하시는 일을直接으로보고 여러분의하시는말삼을直接으로 듯고저하오며또나의품은뜻을 여러분게直接으로告할것도만습시다 그러나아직을도라갈수가업습시다 내가일즉눈물로써故國을하직하고떠나왔거니와 다시웃음속에서故國江山을對할 機會가오기前에는決코도라가기를 願치안습시다 그런데 나는여러분게對하야間接으로도 苦痛中에서畚허하시는데를 위로하는말삼과그와가튼艱難中에서도“善한일”을지어가심에對하야 致謝하는말삼도드리고저하며 또는 우리의將來를爲하야못기도하고 告하기도하고심흐나機會가업섯고 마침우리의公共的機關인東亞日報가 出現된뒤에그리로서여러분게말삼을傳할 뜻이만헛스나내마암에 잇는뜻을써보내드라도여러분게傳達되지 못할念慮가잇슴으로여직것 아모말삼도못하엿습시다 그러나지금에는 하하고심흔뜻을참지 못하야 傳達될만한限度안에 말삼으로몇가지를들어못고告합니다

(一)悲觀的인가樂觀的인가 못노니여러분은우리 前途希望에對하야悲觀을 품으섯습니까樂觀을품으섯습니까 여러분이만일悲觀을품으섯스면 무슨때문이며 또한樂觀을품으섯스면 무슨때문임닛가 時勢와境遇를 標準함임닛가 나는 생각하기를成功과失敗가 묻저 目的如何에잇다고합니다 우리의 세운目的이그른것이면 언제든지失敗할것시오 우리의세운 目的이올흔것이면 언제든지成功할것입니다 그런즉우리의 세운目的이올흔 줄로 確實히밋으면조금도悲觀은업슬것시오 樂觀할것입니다 이世上의 歷史를의지하야살피며 그른目的을세운者가一時一時暫時的 成功은잇으나結局은失敗하고야말고이와反對로올흔目的을 세운者가一時一時로 暫時的의失敗는잇으나結局은 成功하고야따니다그러나올흔 目的을세운사람이失敗하엿다면 그失敗한큰原因이自己的 세운目的을向하고나가다가 엇더한障礙와困艱이생길때에 그目的에對한 悲觀이라함은곳그세운目的을 묻혀져다함이외다. 自己가세운올흔目的에對하야一時々々로 엇더한障礙와失敗가오더라도 조금도그目的의成功을 의심치안코樂觀的으로껏까지 붓들고나아가는者는 確

實히 成功합니다. 이것은人類의歷史를 바로보는者는누구든지다 알만한것이외다

(日本語訳)

国内在住の同胞に申す(一)

東亜日報を通じて

◇……島山 安昌浩

〔祖国におられる父老及び兄弟姉妹の方々、私は慈母から離れた幼い孩兒がその慈母を懐かしがるように祖国を懐かしく思います。先日、祖国から送られてきたある姉妹からの手紙の中に書いてあった“先生、いつ頃お戻りになられるんですか。祖国の山川草木までもが、貴方が早く帰って来られることをお待ちしております”という一句を読みながら、いつもとは違う激しい感情を感じました。それだけでなく、この時は父老及び兄弟姉妹の皆様が悲哀と苦痛を受けていた時だったので、祖国に向かいたいという気持ちを抑えがたかったです。皆様がなされていることを直接見て、皆様がおっしゃるお話を直接聞きたく、また、私が抱いた志を皆様に直接告げたいことを多いです。しかし、まだ帰ることはできません。以前、私は涙を流しながら祖国を離れてきており、再び笑いながら祖国の江山を対する機会がくるまでは、祖国に戻ることは決して願っておりません。それでもなお、私は皆様に間接的にでも苦痛の中で悲しんでいることを慰める言葉とこのような艱難の中においても“善い事”をなされていることに対し、感謝の気持ちを伝えたいです。また、我々の将来のためにいろいろ聞いたり、告げたりもしたかったのですが、今までそのような機会がありませんでした。丁度、我々の公共的な機関である東亜日報が発刊され始めてから皆様に伝えたい思いが多かったのですが、私の心の中にある志を文章にしても、皆様に伝わらないことを懸念し、何も述べられませんでした。ところが、今は申し上げたい思いを抑えられず、伝えられる限度内で、いくつかを告げたいと思います。

(一) 悲観的なのか、楽観的なのかを聞きたいです。皆様は、我々の将来の希望に対し、悲観的な考えを抱いていますか、それとも楽観的な考えを抱いていますか。もし、皆様が悲観的な考えを抱いているのであれば、その理由は何であり、また、楽観的な考えを抱いているのであれば、それは何故ですか。時代の情勢と境遇に従うためですか。私は成功と失敗は、まず、目的の如何にあると考えます。我々が立てた目的が誤っているものであれば、何時でも失敗するでしょう。我々が立てた目的が正しいものであれば、何時でも成功するでしょう。つまり、我々が立てた目的が正しいと確信すれば、些かも悲観はなく、楽観するでしょう。この世の中の歴史を頼りに考えれば、誤った目的を立てた者には一時的な成功はあっても、結局は失敗するということが分かります。それに対し、正しい目的を立てた者には、一時的な失敗はありますが、結局は成功するようになります。しかし、正しい目的を立てた者が失敗したというのであれば、その失敗した大きな原因は、自ら立てた目的に向かって進んでいくうちにいくわした、ある障害や困難により、その目的に対するを悲観的な考えが生じ、自ら立てたその目的が崩れてしまったことにあります。自ら立てた正しい目的に対

し、一時的にある障害や失敗が生じて、少しでもその目的の成功を疑うことなく、最後まで楽観的に進んでいく者は、確実に成功します。これは人類の歴史を見定める者であれば、誰にでも分かることです。]

(注) 島山安昌浩が朝鮮半島内に在住する朝鮮人に、朝鮮独立運動への参加を呼びかける内容の新聞記事。

(出所) 韓国史データベース。『東亜日報』 [http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=2&limit=10&page=2&pre\\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda\\_1925\\_01\\_23](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=2&limit=10&page=2&pre_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda_1925_01_23) (最終閲覧日：2021年06月13日)。

上記の図7は、朝鮮人独立運動運動家、島山安昌浩が1925年1月23日、東亜日報に記事を掲載することで、朝鮮半島内に居住する朝鮮人に、朝鮮独立運動への参加を促した文である。

同記事においては、日本政府の監視の目から逃れるため、朝鮮独立運動への参加を直接的に言及した文を避けているように見えるが、「祖国に居る朝鮮人の皆が苦しい時期を送っている中、「善い事」をなす者が存在する」という内容に加え、「再び笑いながら祖国の江山を見つめる機会がくるまでは決して戻れない」と述べている内容、「朝鮮人が念願する目的が達成されるまで、例え些かな失敗が在ろうとも決して将来を悲観せず、進めていこう」という内容などから、同記事が朝鮮半島に居住する朝鮮人に向かい朝鮮独立運動を諦めず、活動し続けていくことを促している文であると考えることができる。

ここでいう些かな失敗は、本記事が1925年に作成されたものであることを踏まえて考えると、3・1運動を指しているように見える。1919年に発生した3・1運動の後、朝鮮半島においては、日本政府の朝鮮独立運動に対する監視が強化されたが、同記事は、東亜日報が、3・1運動の後、日本政府の朝鮮人独立運動家への監視が以前よりも厳しくなっていた状況の中、日本政府に弾圧される危険を冒してまで、安昌浩の朝鮮独立運動に関する文を掲載したものであると言える。

その上、前述の図3の記事からもわかるように、東亜日報は、海外に移住していた朝鮮人に関する情報を収集し、その情報を自社の新聞に掲載することによって、朝鮮半島内外の朝鮮人にその情報を伝えていた朝鮮人の情報伝達媒体という重要な役割も果たしていた新聞社でもあった。

つまり、同時期、タイに移住した高麗人参商人兼東亜日報社の記者だった朝鮮人たちによって収集された情報は、このように東亜日報の新聞記事に掲載されることで、朝鮮人独立運動家たちに共有されていたのである。

また、韓国臨時政府交通部に所属していた李圭廷や李允根のみならず、東亜日報社の記者として活動した金弘翊や梁成浩などがタイにおいて高麗人参を販売していた理由は、単純に個人の富を築くためではなく、タイ現地で朝鮮独立運動に必要な情報を収集すると共に、その活動を展開するのに必要な資金を、高麗人参を販売することで集めていたと言える。

#### 4. 『志山外遊日誌』の記録からみる朝鮮人独立運動家のタイ進出

##### (1) 高麗人参商人張氏と李氏

第2章においても述べられた朝鮮人独立運動家、鄭元澤を含む3人のタイ移住は、それだけでも、1910年代からタイに移住した朝鮮人独立運動家が存在したということを示している史料である。しかし、鄭元澤が記録した『志山外遊日誌』には、鄭元澤一行の4人以外にも、タイに移住していた朝鮮人独立運動家が記録されている。

まず、前述の鄭元澤がタイのバンコクにある旅館に滞在していた際、鄭元澤を訪れてきた李氏と張氏である。前述のように、李氏と張氏は、在バンコク日本領事館の職員に追われており、その理由は、二人が約100冊の『安重根傳』を所持及び販売していたためであった。

彼らが所持していた『安重根傳』は、朝鮮人独立運動家、安重根の生涯や彼の思想、朝鮮独立運動への思いなどが書かれた書籍である。この本は、朝鮮語版のみならず、中国語にも翻訳されていたが、李氏と張氏は、タイに定着していた中国人に、中国語版の『安重根傳』を販売していたのである<sup>54</sup>。

ここで、この二人が安重根傳を販売していたということに注目する必要がある。同記録によると、二人はバンコクにおいて、高麗人参を販売していた人参商人であると述べられている。ところが、朝鮮半島からタイに渡って販売する商品を持ち出す際、付加価値の高い高麗人参の量を増やす代わりに、単純に利益を上げるためには、非効率的な書籍を、更に数多くの書籍の中でも敢えて『安重根傳』を100冊も持参していたのには、それなりの理由があったと考えられる。

張氏と李氏が鄭元澤と挨拶を交わした後、どこに向かい、何をしていたのかに関する記録は見当たらないため、張氏と李氏の二人が『安重根傳』を販売していた正確な理由は、定かではない。

しかしながら、二人は、安重根という朝鮮人独立運動家の存在をタイに定着していた中国人、またはそのコミュニティに知らせていくことにより、日本の朝鮮統治に抵抗する朝鮮人の意志や思想などを伝播し、タイに居住していた中国人に抗日運動への

---

<sup>54</sup> 鄭、前掲注(29)、135-138頁参照。

協調を求めていたのではないかと考えられる。

つまり、当時、張氏と李氏が販売していた『安重根傳』は、単純に高麗人参を販売して得られる金銭的な価値よりも、以前、中国の独立運動を後ろから経済的に支えていた東南アジア地域に居住する華僑の支援を引き出すことに価値のある商品だったのである。

## (2) 独立運動家李杰

鄭元澤の『志山外遊日誌』の中には、張氏と李氏の他にも、タイに移住した李杰というもう一人の独立運動家も記録されている。前述のように、朝鮮独立運動のためにタイのバンコクに向かっていた鄭元澤は、『安重根傳』を販売していた朝鮮人高麗人参商人、李氏と張氏の行方を追ってきた在バンコク日本領事館の日本人職員と会話を交わした直後、独立運動家であるということがばれてしまうのではないかと恐れ、直ちにバンコクを去った。その後、1917年2月14日、鄭元澤は、彼に次いでバンコクにおいて独立運動活動を始めた友人、李杰からの手紙を受け取った。その内容は以下のようである。

「李杰의 書信을 받으니 暹羅國 서울 방콕에서 부친 書信이다. 그 내용이、 내가 暹羅國 서울을 떠난 뒤에 日本領事館에서 나를 찾다가 찾지 못하니、 그들은 나와 상종하던 華友와 國民日報社에 의심을 두고 暹羅政府에 고섭하여 暹羅警官을 대동하고 華友私宅을 수색하고、 國民日報社에 몇 차례 힐문하여 한때 소란을 피웠다 한다. 그리하여 李杰이 뒤에 그 곳에 到着하여 지내는 데도 곤란을 겪었다는 내용이였다. [李杰の手紙を受けたら、暹羅国の首都であるバンコクから届いた手紙だった。その内容は、私が暹羅国の首都を離れた後、日本領事館から私を捜していたが、見つからず、私がバンコクで付き合い合った華人の友人と国民日報社を疑った。そこで日本領事館の館員たちは暹羅国政府と交渉し暹羅国警官を帯同し、華人の友人の私宅を捜索し、国民日報社も数回にわたり問い詰め、騒ぎになったそうだ。而して李杰がそこに到着してから、過ごすのに困難だったという内容が書いてあった。]」(鄭 1983、pp. 137-138)

この記録から独立運動家であった二人が、異なる地域において、各自の独立運動活動を展開していきながら、書面による連絡を交わしていたことがわかる。また、上記の文の「(在バンコク日本領事館の日本人職員が)バンコクで付き合い合った華人の友人



と国民日報社を疑った」という部分からは、鄭元澤及び李杰がタイのバンコクにおいて独立運動関連活動を広げていた際、中国系移住民の助けを受けていたと推測されるが、現存する在バンコク華僑団体や関連記録からは、鄭元澤と李杰二人のタイにおける独立運動活動に関する記録は見当たらなかった。

ただし、1924年月15日に書かれた「不逞團關係雜件-朝鮮人ノ部-在滿洲ノ部三十八」の中にある『獨立軍團員李鴻來等逮捕ニ關スル件』の8頁目に、1924年1月末、李杰が李鴻來の部下として、李京烈、金徳化、李昇來、崔明洙、金昌俊と共に、軍資金を募集していたと記録されている部分<sup>55</sup>があり、このような記録を踏まえて考えると、当時、李杰がタイに向かった理由は、韓国独立軍の活動資金を収集するためだったと見られる。

## 5. タイで活動した朝鮮人独立運動家「金鐵拳」

日本や韓国の国立公文書館に所蔵されている現存の記録からは、帝国主義日本による朝鮮植民統治が始まった1910年から既に、タイに向かっていた朝鮮人独立運動家が存在したということを確認することができた。それでは、本章で言及された朝鮮人独立運動家たちの移住先であるタイ側にも、彼らの活動に関する記録が残っているのではないかと考えた。

タイにおける朝鮮人独立運動家に関する記録をまずは、在タイ中国人コミュニティや関連記録から探ってみた。それは、前述の李杰が鄭元澤に送った手紙の中にも記述されているように、鄭元澤と李杰がタイにおいて独立運動活動を展開していた際、タイにおける中国系移住民と関わっていたためであった。しかしながら、現存する在タイ中国人コミュニティや20世紀初期、タイにおいて発刊されていた中国語の新聞からは、タイに移住した朝鮮人独立運動家に関する記録は見当たらなかった。

ところが、タイの国立公文書館 (National Archives of Thailand) には、当時、タイにおいて活動していた朝鮮人独立運動家が存在したという史料が残っていた。1945年、第二次世界大戦が枢軸国の敗北で終わった直後に作成された『บท. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]』がその史料である。

同史料集の中には、第二次世界大戦の終戦直後、日本人のみならず、日本の植民地国家出身であった朝鮮人及び台湾人捕虜の処理を巡る問題を解決する過程の中で行われていたタイ政府機関内におけるやりとりが記録された文書に加え、タイ政府と連合

---

<sup>55</sup> 日本外務省『不逞團關係雜件-朝鮮人ノ部-在滿洲ノ部38』8頁参照。原典は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=haf\\_053\\_1260](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=haf_053_1260)」にて確認可能（最終閲覧日：2021年06月15日）。

国軍最高司令官総司令部（General Headquarters, the Supreme Commander for the Allied Powers、略してGHQ）との間で行われていた連絡記録が載っている。

その中でも、同史料集の286頁には、タイ中央政府から各地方に「…ขอให้จับชนชาติเกาหลีทั่วประเทศเข้าคุมขังไว้ ทั้งหมดทันที โดยจับได้ที่จังหวัดใด ก็ให้คุมขังไว้ที่จังหวัดนั้น ไม่ต้องนำมารวมคุมขังที่ ก.ท. โดยเฉพาะ…」〔…タイ全国の各県にいる全ての韓国人を逮捕し、バンコクに送ることなく、即時に各県の捕虜収容所に監禁することを命ずる…〕と指示を下した記録が存在し<sup>56</sup>、第二次世界大戦の終戦直後、タイ国内に滞在していた朝鮮人を逮捕する作業がタイ全国において行われていたということがわかる。

その後、実際、終戦時までタイに滞在していた朝鮮人の全員がタイ警察に逮捕され、捕虜収容所に収監されていったが、この話を聞いた朝鮮人の中で、タイ警察の監視網から逃れ、隠れてしまった朝鮮人が問題となり、タイ政府の頭を悩ませた。

しかし、そこで、金鐵拳という朝鮮人が突然現れ、自らその隠れていた朝鮮人を捜してくると申し出た。タイの捕虜収容所側は、金鐵拳の申し出を承諾し、彼に隠れていた朝鮮人たちを捜してくるよう頼んだ。その後、金鐵拳が捜索に出てから3-4日程度過ぎてから、彼は隠れていた17人の朝鮮人を見つけ出し、その朝鮮人たちと共に、タイの捕虜収容所に戻ってきた。タイの捕虜収容所の監視員は、金鐵拳のこのような功績を認め、彼が連れてきた17人を含め、約70人の朝鮮人捕虜からなるグループのリーダーとして任命し、彼らが全員、本国へ送還されるまで面倒をみると共に、朝鮮半島送還に必要な手続きを手伝わせた<sup>57</sup>。

この金鐵拳に関する記録は一見、単純に金鐵拳という朝鮮人一人の活躍ぶりを記録したものに見えるが、実は、朝鮮人がタイにおいて朝鮮独立運動関連活動を展開していたということを裏付ける史料でもある。それは、金鐵拳が独立運動家だったためであるが、彼に関する情報は同史料集の140頁にある彼の名刺から確認することができる（図8）。

---

<sup>56</sup> 1945年9月16日に作成された、タイ国立公文書館『บันทึก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและฟอไมซา [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]』、286頁参照。

<sup>57</sup> タイ国立公文書館、前掲注（56）、106-107頁参照。

図 8 タイに移住していた朝鮮人独立運動家「金鐵拳」の名刺

|  |  |
|--|--|
| คิม เชิด กวน<br>Kim Chul Gwun<br><br>หัวหน้าคณะผู้จัดสรรภาพเกาหลีแห่งประเทศไทย | 在暹羅國<br><br>金鐵拳<br><br>韓國獨立黨中國總支部<br>直屬旅暹韓僑自衛團團長 |
|--|--|

(注) 本図は、タイ国立公文書館 (National Archives of Thailand) の規則上、コピー及び写真撮影ができなかったため、原本をそのまま写し書きしたものである。

(出所) タイ国立公文書館「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและฟอโมซา [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」140頁。

図8の名刺に記載されている通り、金鐵拳は韓国独立軍を傘下に置いていた韓国独立党の中国支部からタイに派遣され、タイ現地において独立運動活動を展開していた在タイ韓国人自衛団の団長だったのである。

前述のように、タイを含め東南アジア各地に渡っていた朝鮮人独立運動家が主に、高麗人参を販売し、独立運動に必要な資金を集める活動、若しくはそのための現地調査を行っていたことを踏まえて考えると、韓国独立党に所属していた金鐵拳がタイに渡っていた理由も、韓国独立党、及びその傘下にある韓国独立軍が朝鮮独立運動を展開するのに必要な資金や情報を収集していたと考えられる。

表28 金鐵拳と共に記録された朝鮮人捕虜の名簿

| 番号 | 氏名             | 韓国語〔日本語〕        |
|----|----------------|-----------------|
| 1  | Kim Chil Gwun  | 김철권 [キム チョルグオン] |
| 2  | Hwang Jam Sung | 황잠성 [ファン ジャムソン] |
| 3  | Ri Sang U      | 리상우 [リ サンウ]     |
| 4  | Jo Yong In     | 조용인 [チョ ヨンイン]   |
| 5  | Jung Sang gwun | 정상권 [ジョン サングオン] |
| 6  | kang jin kwan  | 강진관 [カン ジングァン]  |
| 7  | kuak wua eng   | 곽화응 [クァク ファウン]  |
| 8  | ku ang gen     | 구양건 [グ アンゴン]    |
| 9  | gun jong wua   | 권중화 [グオン ジョンファ] |
| 10 | back cluck je  | 박국재 [パク グクジェ]   |
| 11 | kim hu he      | 김우희 [キム ウフィ]    |
| 12 | kim jong jye   | 김중재 [キム ジョンジェ]  |

|    |                 |               |
|----|-----------------|---------------|
| 13 | kin yun de      | 김윤대 [김ム ユン데]  |
| 14 | nam sang hum    | 남상흠 [ナム サンフム] |
| 15 | gaug ki gu      | 강기구 [칸 킨구]    |
| 16 | back je hi      | 박재희 [박 킨 제히]  |
| 17 | ri ile ryun     | 리일윤 [리 일룬]    |
| 18 | kim ri su       | 김리수 [김ム 리스]   |
| 19 | kim sang kum    | 김상금 [김ム 상금]   |
| 20 | ri dong heg     | 리동해 [리 톡헝]    |
| 21 | back jung u     | 박정우 [박 킨 정우]  |
| 22 | go lil je       | 고릴재 [고 릴제]    |
| 23 | lru chong chau  | 류종차 [리루 쵡차]   |
| 24 | chye je mung    | 최재문 [쵸이 제문]   |
| 25 | back te dong    | 박태동 [박 테 톡]   |
| 26 | ri hwi yang     | 리휘양 [리 휘양]    |
| 27 | sang hwang sung | 상황성 [상 황성]    |
| 28 | Uwun ho shun    | 원호순 [원 호순]    |
| 29 | go un hi        | 고은희 [고 운희]    |
| 30 | an mun hi       | 안문희 [안 문희]    |
| 31 | kim in kil      | 김인길 [김ム 인길]   |
| 32 | kim jong nam    | 김종남 [김ム 쵡남]   |
| 33 | yong hwe rin    | 양희인 [양 희인]    |
| 34 | kim yung jun    | 김용준 [김ム 용준]   |
| 35 | Ri chang kuck   | 리창국 [리 쵡국]    |
| 36 | ri cil su       | 리철수 [리 쵸르스]   |
| 37 | ri chi kun      | 리치근 [리 치근]    |
| 38 | kim jung jin    | 김정진 [김ム 쵡진]   |
| 39 | kim huck hun    | 김혁훈 [김ム 혁훈]   |
| 40 | go man kyung    | 고만경 [고 만경]    |
| 41 | hun ku sung     | 은구성 [운 구성]    |
| 42 | kim gen sun     | 김건선 [김ム 건선]   |
| 43 | rim ill hyun    | 림일현 [림 일현]    |
| 44 | hu mung hwe     | 우문희 [우 문희]    |
| 45 | chye hog ne     | 최홍래 [쵸이 홍래]   |
| 46 | ryu suck hyun   | 류석현 [리루 쵸현]   |
| 47 | ri chul yong    | 리철용 [리 쵸르용]   |

|    |                            |                  |
|----|----------------------------|------------------|
| 48 | kim sung yun               | 김성연 [김 송연]       |
| 49 | yan kong jo                | 양공조 [얀 곤조]       |
| 50 | kang sang hyun             | 강상현 [칸 산현]       |
| 51 | kang beck chan             | 강백찬 [칸 벡찬]       |
| 52 | kim kong ru                | 김공루 [김 곤루]       |
| 53 | kim duck hwa               | 김덕화 [김 독화]       |
| 54 | kim ji suck                | 김지석 [김 지석]       |
| 55 | kim gyung suck             | 김경석 [김 킁석]       |
| 56 | kim iin sick               | 김인식 [김 인식]       |
| 57 | ri gong ju (woman)         | 리공주 [리 곤주] (여성)  |
| 58 | ri suck gyu (woman)        | 리석규 [리 석규] (여성)  |
| 59 | kim gyung jin              | 김경진 [김 킁진]       |
| 60 | beg mung suck<br>(woman)   | 백문석 [벡 문석] (여성)  |
| 61 | ryu jung ack (woman)       | 류정액 [리우 정액] (여성) |
| 62 | Kim chel kun               | 김철근 [김 철근]       |
| 63 | hwang bom sheng            | 황бом성 [판 보성]     |
| 64 | nam sheng huen             | 남성현 [남 송현]       |
| 65 | hang ki kun                | 한기근 [한 킁근]       |
| 66 | ri ick hen                 | 리익현 [리 익현]       |
| 67 | kim yun de                 | 김윤대 [김 윤대]       |
| 68 | bac cheng yu               | 박정유 [박 킁유]       |
| 69 | yu shue hen                | 유수현 [유 슁현]       |
| 70 | kye gong ne                | 규공래 [규 곤래]       |
| 71 | ri shuc ha (woman)         | 리숙하 [리 슁하] (여성)  |
| 72 | Ri kong chu (woman)        | 리공주 [리 곤주] (여성)  |
| 73 | Bec mieng shrec<br>(woman) | 백명석 [벡 뮁석] (여성)  |
| 74 | Yu oc shen (woman)         | 유옥선 [유 옥선]       |
| 75 | Kim shieng nien            | 김성연 [김 송연]       |
| 76 | kim chong le               | 김중래 [김 킁래]       |
| 77 | chun chung yuan            | 천중연 [쵸쵸 킁연]      |
| 78 | bac chie ki                | 박재기 [박 쵸기]       |
| 79 | bac te chieh               | 박태재 [박 테재]       |
| 80 | ru tong bac                | 류동백 [리우 톡벡]      |

|     |                  |             |
|-----|------------------|-------------|
| 81  | he tong chun     | 허동준 [호 돈쥬ン] |
| 82  | Kim shang ben    | 김상번 [김 썬뵤]  |
| 83  | ri chiel yong    | 리철용 [리 초롸욘] |
| 84  | kim keng chim    | 김건진 [김 곤쥬]  |
| 85  | kim hi sue       | 김희수 [김 히스]  |
| 86  | kim hu be        | 김후배 [김 후뵤]  |
| 87  | yun hon cho      | 윤홍조 [윤 혼쥬]  |
| 88  | ri san ue        | 리상위 [리 썬위]  |
| 89  | cho ril chieh    | 조일재 [초 일쥬]  |
| 90  | chih che meng    | 지채문 [치 쥬뵤]  |
| 91  | kua wan eng      | 곽완응 [콧완응]   |
| 92  | ri ki yong       | 리기용 [리 기욘]  |
| 93  | he mung hue      | 허문휘 [호 뵤뵤]  |
| 94  | kim heng shic    | 김형식 [김 히욘식] |
| 95  | bac te tong      | 박대동 [푱 뵤뵤]  |
| 96  | ku sang kun      | 구상근 [구 썬곤]  |
| 97  | chan aeung kwn   | 장완근 [찬 완곤]  |
| 98  | song kwang sheng | 송광성 [송 콧썬]  |
| 99  | kim keng sec     | 김경석 [김 곤썬]  |
| 100 | kim kue hen      | 김규현 [김 기훤]  |
| 101 | kim chih sec     | 김철석 [김 초롸]  |
| 102 | kim kun sen      | 김근선 [김 곤썬]  |
| 103 | kim in bil       | 김인빈 [김 인뵤]  |
| 104 | kim chong nam    | 김종남 [김 쥬뵤뵤] |
| 105 | ri le shu        | 리아수 [리 에스]  |
| 106 | Ri chang kuck    | 리창국 [리 찬궤궤] |
| 107 | kang siang hen   | 강상헌 [칸 썬훤]  |
| 108 | an mun ki        | 안문기 [안 뵤기]  |
| 109 | rim il hen       | 림일현 [림 일훤]  |
| 110 | kan chin hwan    | 강진환 [칸 쥬뵤뵤] |
| 111 | kaw bac chun     | 권백천 [궤뵤 뵤썬] |
| 112 | cha yong in      | 차용인 [차 욘인]  |
| 113 | cha man heng     | 차만형 [차 뵤뵤]  |
| 114 | cha yun ki       | 차윤기 [차 욘기]  |
| 115 | wen ha seo       | 원하서 [웬 하썬]  |

|     |                |                |
|-----|----------------|----------------|
| 116 | Riyang he rim  | 량해림 [リヤン ヘリン]  |
| 117 | kim tec hwa    | 김택화 [キム テクファ]  |
| 118 | ri chil hun    | 리철훈 [リ チョルフン]  |
| 119 | ro chun han    | 로준한 [ロ ジュンハン]  |
| 120 | kim bong hi    | 김봉희 [キム ボンヒ]   |
| 121 | mun fu sheng   | 문후성 [ムン フソン]   |
| 122 | kim yeng chun  | 김영전 [キム ヨンジョン] |
| 123 | kim cheng chin | 김청진 [キム チョンジン] |
| 124 | nam jing uck   | 남진욱 [ナム ジンウック] |

(注) 1 原典の108-116頁に記載されていた朝鮮人の名前を集め、再構成した表である。

(注) 2 表中の韓国語及び日本語の表記は、研究者本人が作成したものである。可能な限り、当時の発音や訛りなどを考慮して作成したが、解釈の誤りの可能性は在る。

(出所) タイ国立公文書館「น.ก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」108-116頁。

表28には、金鐵拳と共にタイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人の名前が記載されている。前述の『น.ก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]』の106-107頁においては、金鐵拳が本国へ送還されるまで面倒を見ていた朝鮮人捕虜の数は、約70人であると記録されていることに対し、表28の名簿においては、124人の朝鮮人が記録され、その数に大きな差が見られる。

このように朝鮮人捕虜の合計数において、差が見られる理由は、同史料の108から116頁に記載されていた朝鮮人の名前に重複して作成された名前が存在するためである。史料原典において、朝鮮人捕虜の名前をアルファベットで表記した際、表記方法の差異は見られるものの、その名前を韓国語に訳した場合、同じ発音であると見られる名前が存在する。従って、表28に記載された朝鮮人の中には、同一人物が存在すると考えられる。

また、他にも同名簿に記録された朝鮮人捕虜の名前は、後述する日本軍部隊から集められた元朝鮮人軍人軍属捕虜の名簿が男女別に記録されているのとは異なり、男女が共に記録されているという特徴が見られる。

その上、同名簿に記録された朝鮮人女性の名前は、元朝鮮人慰安婦女性、若しくは元日本軍所属朝鮮人看護婦補助だった女性捕虜の名簿からは見当たらず、同様に金鐵拳と共に収容されていた朝鮮人男性の名前も、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属の捕虜名簿には記載されていない。

これはつまり、金鐵拳と共に収容されていた朝鮮人たちは、タイに駐屯していた日

本軍部隊から集められた朝鮮人とは区別されていたということの意味しているが、ここで金鐵拳が朝鮮独立運動を展開していた在タイ韓国人自衛団を率いる団長であったということに注目してみる必要がある。複数の構成員から成る団体の中に、その団体を率いる団体の長が存在したということは、その団体の長の指示に従って活動していた団員も存在したはずである。

金鐵拳や彼が所属していた韓国独立党のタイにおける朝鮮独立運動活動に関する正確な記録が残っていないため、限られた史料を基に推測せざるを得ないが、同史料における金鐵拳及び彼と共に收容されていた朝鮮人の場合、彼が団長を務めていた韓国独立党中国総支部直屬旅暹韓僑自衛団の団員は、前述の隠れていた17人の朝鮮人であり、金鐵拳と共に收容されていた約70人の朝鮮人は、何等かの形で金鐵拳の独立運動活動に関わっていた朝鮮人だったのではないかと考えられる。

何故なら、情報通信技術の発達が進んでいなかった当時、タイ政府が政府機関の情報力を総動員して捜索しても見つからなかった朝鮮人たちを、彼らに関する情報がまったくない状態で、たったの3-4日間で17人もの人たちを見つけ出すということは不可能に近いためである。

即ち、金鐵拳は、当時、タイの何処かに隠れていた朝鮮人たちを、一切何の情報も持っていない状態から探し始めたのではなく、タイ政府が捜していた17人の朝鮮人の行方に関する情報を持っていたと見られる。

また、このようにタイの何処かに身を隠していた朝鮮人たちに関する情報を持っていた金鐵拳は、彼らと友好的な関係にあったと考えるのが正しい。若し、金鐵拳が隠れていた朝鮮人グループの一員、或いは友好的な関係ではなく、何か別の企みを持っていたのであれば、金鐵拳が直接、彼らを捜しに行く手間をかけることもなく、隠れていた朝鮮人たちに関する情報をタイの捕虜收容所側に渡しておけば、事は簡単に済むはずである。

ところが、金鐵拳は、自ら隠れていた朝鮮人の捜索を申し出、約3-4日間という非常に短い時間内で、隠れていた朝鮮人たちを見つけ出した上、金鐵拳と共にタイの捕虜收容所に收容された17人の朝鮮人たちが朝鮮半島へ無事に送還されるまで、彼らの面倒を見るリーダーとしての役割も果たしていたのである。

これは金鐵拳が隠れていた朝鮮人たちのグループの一員か、ある友好的な関係を持っていない限り、彼の行動は理解し難いと言える。更に、ここで金鐵拳が韓国独立党中国総支部からタイへ派遣された自衛団の団長という肩書を持っていたことを踏まえて考えると、彼は、タイの何処かに隠れていた17人の朝鮮人たちのリーダーだったと考えることができる。

また、同様な流れで考えると、金鐵拳が朝鮮半島に送還されるまで、面倒をみてい



た約70人の朝鮮人たちの中には、彼と共に、独立運動活動に関わりを持っていた朝鮮人が存在した可能性も十分にあると言える。

それは前述のように、この約70人の朝鮮人たちが後述する日本軍との関わりを持っていた朝鮮人たちだったのであれば、元朝鮮人軍人軍属たちと共に收容され、所属も日本軍捕虜收容所と記録されたはずである。特に、日本軍との関わりを持っていた朝鮮人女性の場合、その全員が日本軍の看護婦補助と記録され、名簿も男性とは区別された名簿に記録されていたと考えられる。

ところが、韓国独立党のタイにおける自衛団団長であった金鐵拳が朝鮮半島に送還されるまで面倒を見ていた約70人の朝鮮人たちは、日本軍と関わりを持っていた人たちとは区別される名簿に記載されていた上、男女共に一つの名簿に記録されたのである。これは即ち、この約70人の朝鮮人たちは、タイ駐屯日本軍部隊とは無関係だった人たちであり、金鐵拳及びタイにおける韓国独立党との関わりを持っていた朝鮮人たちだったと言える。

## 6. 小結

本章では、日本の植民地支配を受けていた朝鮮半島から、タイへ移住していた朝鮮人独立運動家を日本、韓国、タイの歴史文献を基に調べた。その結果、1910年代からタイに移住した朝鮮人独立運動家の存在が確認され、同時期、朝鮮人の海外移住が持つ特徴である、独立運動家の海外移住がタイにおいても見られた。

また、日本の旅券下付表に記録されたタイ移住朝鮮人高麗人参商人の名前（表25）を現在、韓国政府が所蔵している朝鮮独立運動歴史に関する史料の中から探ってみた結果、32人の高麗人参商人が直接的に朝鮮独立運動に関わっていたということが確認され、それと共にこれまでは報告されていなかった朝鮮人独立運動家のタイ移住履歴も確認することができた。

当時、世界各地に広がっていた朝鮮人高麗人参商人によって集められた、高麗人参を販売して得られた収益が、朝鮮人の独立運動関連活動の展開に必要な資金として用いられていたことに加え、日本の旅券下付表に記録された朝鮮人高麗人参商人の中に、日本の植民統治に武力で抵抗した履歴を持っている人物や韓国臨時政府の幹部として活動した履歴のある人物が存在するということを踏まえて考えると、朝鮮人独立運動家がタイにおいて高麗人参を販売していたのも、高麗人参の販売収益を基に、韓国独立軍や韓国臨時政府の活動を支えていたのではないかと考えられる。

更に、当時、タイに高麗人参を販売するために移住していた朝鮮人たちの中には、新聞記者として活動した人物や韓国臨時政府の情報員として活動した履歴のある人物も見られた。後者の場合、韓国臨時政府の情報員であることは、即ち、朝鮮独立運動

家であったということに議論の余地はないと考えられる。

尚、前者の場合も、彼らが記者として勤めていた新聞社が朝鮮独立運動を支援していた『東亜日報』であったということ踏まえて考えると、彼らはタイにおいて高麗人参を販売する傍ら、朝鮮独立運動に必要なタイ現地の情報を収集していた記者だったと見られる。また、同時期、朝鮮人独立運動家たちによって、新しい独立運動基地を東南アジア地域に設けようとする試みがなされていたことから考えると、タイもその候補地の一つとして捉えられ、新たな独立運動基地の建設のために必要な情報を収集していたのではないかと考えられる。

当時、朝鮮人の独立運動に関わる活動が秘密裏に展開されていたということを勘案すると、実際、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人独立運動家は、本章において述べられた朝鮮人独立運動家の他にも存在したのではないだろうか。

今後、更なる史料の発見により、朝鮮人独立運動家と高麗人参商人の関係性に関する更なる研究ができればと考えるが、本章では、朝鮮が日本に支配されていた時期における朝鮮人のタイ移住史からも、同時期、他の地域に移住した朝鮮人が持つ特徴と同様な特徴を発見することができたという点に意義を置きたい。

次章では、高麗人参の販売や独立運動の展開を目的としてタイに移住した朝鮮人とは異なる歴史を持つ、日本の帝国臣民としてタイに移住した朝鮮人について調べていきたいと考える。

## 第4章 日本軍と共にタイに移住した元朝鮮人軍人軍属

### 1. 帝国臣民としての朝鮮人と朝鮮人の海外移住

第2章及び第3章においては、日本の朝鮮統治期、朝鮮独立運動のため、或いは高麗人参の販売のため、タイへの移住を選択した朝鮮人移住民の歴史を探ってみた。現存する日本、韓国、タイの史料の中から、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人の存在が確認された上、李慶孫のみならず、鄭元澤や金鐵拳のような朝鮮人独立運動家がタイに移住していたことがわかった。

ところが、このように、海外に移住した朝鮮人の全員が独立運動家として活動したわけではなかった。同時期、海外へ移住した朝鮮人たちの中には、日本が朝鮮半島を植民地支配することに自ら進んで協力した所謂「親日派」が存在し、その傍ら、日本軍の圧迫により、半強制的、若しくは強制的に日本の帝国臣民として海外へ移住された朝鮮人も存在した。

その中でも、本章においては、親日派、若しくは対日協力者とも呼ばれる帝国主義の大日本帝国の念願であった大東亜共栄圏建設に自ら協力していた朝鮮人のタイ移住史を探っていきたい。

研究を進めていくに先立ち、彼らの称する用語であるが、現在の韓国においては、親日派や売国奴などと称されている反面、日本で行われている研究の中では、対日協力者という言葉が用いられている。この二つを明確にわける定義や研究は見当たらないが、日本政府や日本軍に協力していた朝鮮人という意味においては、共通していると言える。

現在の韓国で行われている研究において、親日派という言葉には、彼らが私利私欲のため、同じ朝鮮人を苦しめたという意味が加わっている。ところが、本章で研究するタイに移住した元朝鮮人軍人軍属の歴史の中には、同じ朝鮮人に危害を加えたという記録は見当たらなかった。その上、本章の研究目的は、1945年以前にタイへ移住した朝鮮人の歴史を探ることにあるため、親日派という名称を用いた場合、研究目的以外の意味が加わる可能性が存在する。従って、本研究においては、彼らを対日協力者と称する。

この対日協力者には、日本軍に所属していた戦闘兵としての軍人軍属、その軍に関わる非戦闘業務を果たしていた軍属、日本の植民地支配に協力していた民間団体などが挙げられるが、本章においては主に、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属を中心に述べていく。

彼らの海外移住は、日本に協力することによって、個人的な利益を得ることが主たる目的だったため、日本軍がアジア諸国を侵略し、帝国主義勢力を拡張していった時

期と地域に局限されているという特徴が見られている。

そのため、前章において述べた朝鮮人高麗人参商人や朝鮮人独立運動家は、日本軍が進出しなかった地域に移住し、後に日本軍がその定着地域を占領した場合、再び他の地域へ再移住、若しくは同地域内で日本軍の監視網を避けて活動していたという特徴を持っていたのに対し、本章において述べていく朝鮮人对日協力者たちは、日本軍が占領した地域に限り、移住が行われていたのである。

ところが、この朝鮮人对日協力者に関する先行研究を見ると、彼らの海外地域への移住に関する先行研究は、満洲地域を含む中国大陸を対象とする研究が殆どである。例えば、キム（2014）は、安東朝鮮人組合や間島協力会など、満洲地域において形成された朝鮮人移住民のコミュニティの歴史に関する研究を行った。

同研究の主たる目的は、満洲地域における朝鮮人移住民コミュニティの組織背景や活動歴史を探ることであり、日本の支配下にあった朝鮮人移住民が満洲地域においてどのような生活を送っていたのかに関する歴史を述べている。ところが、同著書の題名が『만주지역 친일단체 - 친일, 비겁한 변명 - [満洲地域の親日団体-親日、卑怯な言い訳-]』であることからわかるように、同研究の中では、当時、満洲地域で形成されていた朝鮮人移住民コミュニティが同地域において、どのように日本軍に協力し、他の朝鮮人移住民をどのように迫害していたのか等のような、朝鮮人移住民の親日的な活動を暴くというところにも焦点が当てられており<sup>58</sup>、帝国主義日本のアジア侵略の下、日本軍と共に、或いは日本軍に協力して海外地域に移住した朝鮮人が韓国において、どのように認識されているのかが分かる。

一方、田中（2004）は、満洲地域の中でも、ハルビンにおいて形成された朝鮮人对日協力者のコミュニティを中心に研究を行った。彼の研究の中には、ハルビン協助会やハルビン朝鮮人民会など、満洲地域における朝鮮人移住民コミュニティの形成歴史をはじめ、各朝鮮人コミュニティがどのように日本の満洲地域支配に協力していったのかが中点的に述べられている。また、この田中（2004）の研究の中においても、ハルビン地域で形成された朝鮮人移住民コミュニティが同じ朝鮮人をどのように迫害していたのかに関する歴史も言及されているものの、前述のキム（2014）の研究のように、対日協力者の活動の罪を暴くといった観点は見られなかった<sup>59</sup>。

このような日本の朝鮮統治期、海外地域における朝鮮人对日協力者の移住史は、移

---

<sup>58</sup> キム・ジュヨン（2014）『만주지역 친일단체 - 친일, 비겁한 변명 - [満洲地域の親日団体-親日、卑怯な言い訳-]』역사공간 [歴史空間] を参考。

<sup>59</sup> 田中隆一（2004）「『満州国』期ハルビン朝鮮人の「対日協力」」『人文學報』91、97-111頁。

住過程や移住後の生活において、同時期の朝鮮人独立運動家や高麗人参商人とは異なる特徴を持っている。前述のように、彼らの移住地域やその移住時期は、日本軍が侵略したアジア地域と地域的、また時期的に一致しており、朝鮮人对日協力者の海外移住や彼らのコミュニティ形成は、日本軍のアジア諸国への勢力拡大と深く関わっているとと言える。即ち、朝鮮人对日協力者の海外移住が、日本軍が侵略したアジア地域において行われていたのであれば、満洲地域や中国地域のみならず、本論文の研究対象地域であるタイにおいても行われていたはずである。

実際、本章においても大いに参考にしていく内海（2015）の研究の中には、1945年以前タイに渡っていた元朝鮮人軍人軍属の歴史が述べられている。当時、アジア諸国を次々に占領していくにつれ、拡張されていく占領地を支配するための人員が必要だった日本軍は、朝鮮半島から動員、若しくは募集などの方法を通じて、朝鮮人軍人軍属を日本軍の占領地へ配置していった。その際、タイにも日本軍が設置していた捕虜収容所に、捕虜監視員として朝鮮人軍人軍属たちが渡るようになったのである。

このような流れの中でタイに渡っていた元朝鮮人軍人軍属を調べた内海（2015）の研究が注目される理由は3点挙げられる。まず、第一に1945年以前のタイにおける朝鮮人对日協力者の存在を探ることができるという点である。内海（2015）の研究によると、満洲地域や中国本土と同様に、日本軍が侵略を敢行したタイにおいても、約800人の朝鮮人軍人軍属が渡っていたのである。彼らは、日本軍に協力した対日協力者であると言えるが、ここで、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属が持つ特徴は、満洲地域や中国本土において、活動していた朝鮮人对日協力者とは異なり、同じ朝鮮人を迫害していなかったという点である。

その次は、同研究を通じてタイに渡った元朝鮮人軍人軍属の実体験を知ることができるという点である。内海（2015）は、当時、日本軍の捕虜監視員に志願し、タイへ向かっていた李鶴来という人物を相手に直接、インタビュー調査を行い、その調査で得られた資料を基に、タイに渡っていた元朝鮮人軍人軍属の歴史を述べている。それ故、帝国主義日本がアジア諸国を侵略していく過程の中で、タイに渡った元朝鮮人軍人軍属の歴史を把握する上で、他の親日派朝鮮人、或いは朝鮮人对日協力者に関する研究からは見られない、当時の朝鮮人が日本軍の捕虜監視員に志願し、タイにまで移住するようになった背景を理解することができるため、非常に貴重な研究であると言える。

韓国の親日派、若しくは対日協力者の歴史を調べた研究の中では、彼らの移住過程や現地における生活上などに関する歴史と共に、同じ民族である朝鮮人をどのように迫害していたのかを探る歴史も語られている。ところが、内海（2015）の研究の中で述べられた元朝鮮人軍人軍属たちは、同じ民族である朝鮮人を迫害するために、日本

軍に志願したのではなかった。彼らが産まれた時には、既に祖国が朝鮮ではなく、日本になっていた。そのため、当時の朝鮮人にとって、日本人に協力して生きていくことがある意味当然な時代になっていたのであるが、同研究を通じては、このような彼らの捕虜監視員になるまでの背景を理解することができる。

ここで本研究においては、帝国主義日本のアジア侵略の下、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属の罪を暴くつもりも、彼らを擁護するつもりもなく、彼らのタイ移住史そのものに焦点を当てていくということを前もって示しておきたい。

最後の点は、前述のように、約800人の元朝鮮人軍人軍属がタイに移住し、働いていたという点である。1945年以前にタイに渡った元朝鮮人軍人軍属の数が約800人に上っていたということは、同時期に、タイに移住していた朝鮮人独立運動家や高麗人参商人の数を遥かに上回っていたということである。これは終戦時まで、タイにおける朝鮮人移住民の中で、元朝鮮人軍人軍属数が圧倒的に大きな割合を占めていたということを示している。従って、日本の朝鮮支配期における朝鮮人のタイ移住史を述べる上で、元朝鮮人軍人軍属は欠かせられないと言える。

しかしながら、内海（2015）の研究においては、元朝鮮人軍人軍属の中でも、連合国による戦犯裁判でBC級戦犯の判決を布告された朝鮮人に焦点が当てられており、1945年以前、タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属全体を理解するには多少、限界が見られる。そのため、本章では内海（2015）の研究によって得られた貴重な成果を参考にしつつ、日本、韓国、タイの一次史料を用いて、同時期、タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属の歴史を研究していきたいと考える。

## 2. 東南アジアに渡っていた元朝鮮人軍人軍属

### （1）日本政府発表の元朝鮮人軍人軍属数統計と竹内の分析

日本の植民地支配下で日本軍によって動員された朝鮮人数に関する正確な統計は、未だに存在しない。それは同時期、朝鮮人数を集計した史料をによって、集計方法や統計の出し方が様々だったためであるが、日本軍に動員されていた元朝鮮人軍人軍属数を集計した幾つかの統計を比較した竹内（2015）の研究をみると、元朝鮮人軍人軍属数が統計によってどれほどの差を見せているのかがわかる。

竹内（2015）は、日本の外務省によって1956年6月7日に発表された『朝鮮人戦没者遺骨問題に関する件』、及び1962年2月厚生省によって発表された『朝鮮在籍旧陸海軍軍人軍属出身地別統計表』の中に記録された日本軍所属の元朝鮮人軍人軍属の数を比較した。

彼の調べによると、1956年、外務省は『朝鮮人戦没者遺骨問題に関する件』を通じて日本軍に動員されていた元朝鮮人軍人軍属数は、陸海軍を合わせ、約37万7,000人

だったと発表したものの、その後、1962年に、厚生省によって発表された『朝鮮在籍旧陸海軍軍人軍属出身地別統計表』においては、元朝鮮人軍人軍属数が24万2,341人までに減少していた<sup>60</sup>。

両史料が同じ時期における元朝鮮人軍人軍属数を調査対象としているのにも拘わらず、その合計数において、差異を見せている訳を竹内（2015）は「この差の11万人余り<sup>61</sup>は「名簿外」とされた人々のものと推定できる…氏名を確認できない数が名簿外とされた。名簿外の数値は、部隊資料で確認できる数から名簿で確認できる数を引いたものである」（竹内 2015、P.20）と述べ、厚生省による1962年の調査においては、以前、外務省によって1956年に発表された『朝鮮人戦没者遺骨問題に関する件』の中から、氏名が確認できなかった数が除かれたため、陸軍に所属していた約11万人の元朝鮮人軍人軍属数が統計から排除されたと説明した。

これはつまり、1962年に発表された厚生省の『朝鮮在籍旧陸海軍軍人軍属出身地別統計表』の中で、約13万人の元朝鮮人軍人軍属の名前が除かれたのは、約13万人の朝鮮人が日本軍に徴用されていたということを否定したのではなく、単純に彼らの氏名が確認できなかったに過ぎないことがわかる。

従って、日本軍に動員されていた元朝鮮人軍人軍属の数を、より正確に把握するためには、1956年外務省によって発表された『朝鮮人戦没者遺骨問題に関する件』の方が有用であると考えられる。竹内（2015）は、以下の表29のように、日本の陸軍に動員されていた元朝鮮人軍人軍属の数を提示したが、この資料からも正確にどれほどの元朝鮮人軍人軍属がタイに向かっていたのかは定かではない。

表29 陸軍の朝鮮人軍人軍属数・動員地域別表（総計25万7,404人）

| 地域 | 分類  | 軍人     | 軍属     | 合計     | 統計     |
|----|-----|--------|--------|--------|--------|
| 内地 | 名簿内 | 6,748  | 10,865 | 17,613 | 60,804 |
|    | 名簿外 | 34,787 | 8,404  | 43,191 |        |
| 朝鮮 | 名簿内 | 45,049 | 19,217 | 64,266 | 90,358 |
|    | 名簿外 | 25,904 | 188    | 26,092 |        |
| 北方 | 名簿内 | 355    | 207    | 562    | 562    |
| 満洲 | 名簿内 | 7,299  | 6,234  | 13,533 | 56,991 |

<sup>60</sup> 竹内康人（2015）「朝鮮人軍人軍属の強制動員数」『大原社会問題研究所雑誌』第686巻、12月号、17～36頁から参考。

<sup>61</sup> 陸軍分の「朝鮮人人員（地域別）分類表」では、名簿外と記録された朝鮮人軍人軍属数が約11万人である。これは1962年の発表で消えた13万人の内、陸軍のみを比較したものである。

|       |     |         |        |         |         |
|-------|-----|---------|--------|---------|---------|
|       | 名簿外 | 40,943  | 2,515  | 43,458  |         |
| 中国    | 名簿内 | 16,092  | 4,745  | 20,837  | 20,841  |
|       | 名簿外 | 4       | 0      | 4       |         |
| 台湾    | 名簿内 | 1,280   | 68     | 1,348   | 1,401   |
|       | 名簿外 | 49      | 4      | 53      |         |
| 南方    | 名簿内 | 3,102   | 3,902  | 7,004   | 7,009   |
|       | 名簿外 | 5       | 0      | 5       |         |
| フィリピン | 名簿内 | 3,211   | 388    | 3,549   | 3,549   |
| ビルマ   | 名簿内 | 1,693   | 1,267  | 2,960   | 2,960   |
| 島嶼    | 名簿内 | 459     | 3,284  | 3,743   | 3,743   |
| 軍属船員  | 名簿内 | 0       | 9,186  | 9,186   | 9,186   |
| 累計    | 名簿内 | 85,288  | 59,313 | 144,601 | 257,404 |
|       | 名簿外 | 101,692 | 11,111 | 112,803 |         |
| 統計    |     | 186,980 | 70,424 | 257,404 |         |

(注) 本表は、竹内(2015)が「朝鮮人人員(地域別)分類表(陸軍)」を基に作成したものである。

(出所) 竹内康人(2015)「朝鮮人軍人軍属の強制動員数」『大原社会問題研究所雑誌』第686巻、12月号、19頁。

上記の統計資料によると、日本の陸軍に動員されていた約25万人の元朝鮮人軍人軍属の内、南方地域に向かっていた朝鮮人数は、7,009人だったと記録されている。同資料の南方地域の中に含まれた地域は、フィリピンやビルマを除く東南アジア地域及びオセアニア地域だったが、調査地域となった南方地域の各地に、正確にどれほどの朝鮮人軍人軍属が向かっていたのかまでは明記されていないため、本資料を基にタイに向かっていた元朝鮮人軍人軍属数を把握することは困難であると考えられる。

## (2) 内海の研究からみたタイ移住、元朝鮮人軍人軍属数

竹内(2015)によって提示された元朝鮮人軍人軍属数の統計からは、南方地域に向かっていた元朝鮮人軍人軍属の数から、タイに移住していた人数を特定することはできなかった。

ところが、李鶴来など、戦後、BC級戦犯として裁判を受けた元朝鮮人軍人軍属を調べた内海(2015)の研究の中では、タイを含む東南アジア地域における日本軍の捕虜収容所に動員されていた元朝鮮人軍人軍属の数が示されている。

内海(2015)の研究によると、東南アジア地域において、連合軍捕虜を監視する役割を担っていた元朝鮮人軍人軍属数は、3,016人に上っていた。この3,016人のうち、



約800人の朝鮮人軍人軍属がタイとビルマの間を繋ぐ、約414kmの泰緬鉄道の建設現場やその建設現場に必要な連合軍捕虜を管理する捕虜収容所に派遣されていたが、詳細は以下の表30のようである（内海 2015、pp. 3-4）。

表30 泰緬鉄道の建設現場に派遣されていた元朝鮮人軍人軍属数

|      |                         |                                   |                    |               |                       |
|------|-------------------------|-----------------------------------|--------------------|---------------|-----------------------|
| 本所：  | 所在地：バンコク                |                                   |                    |               |                       |
| 所長：  | 佐々 誠少将(1942. 8～1943. 7) | アジア人労働者：                          | 7万人～10万人           |               |                       |
|      | 中村鎮雄大佐(1943. 7～1944. 7) |                                   | (うち死亡約3万人と推定されている) |               |                       |
|      | 菅沢亥重大佐(1944. 7～1945. 8) | 朝鮮人軍属：                            | 800人(のち増員)         |               |                       |
| 捕虜数： | タイ捕虜収容所                 | 4万5000人                           |                    |               |                       |
|      | マレー捕虜収容所                | 1万人                               |                    |               |                       |
|      | 合計                      | 5万5000人                           |                    |               |                       |
|      | (うち死亡1万3000人)           |                                   |                    |               |                       |
| タイ側  | 分所                      | 分所長                               | 捕虜数<br>(人)         | 朝鮮人<br>軍属数(人) | 泰緬鉄道<br>工事区間          |
|      | 第1分所                    | 知田外末少佐<br>石井民恵中佐<br>(43. 10. 1より) | 7200               | 130           | 起点～55km               |
|      | 第2分所                    | 柳田正一中佐                            | 9600               | 130           | 55～100km<br>202～265km |
|      | 第3分所                    | 石井中佐<br>知田少佐<br>(43. 10. 1より)     | 1万1000             | 130           | 100～175km             |
|      | 第6分所                    | 姥子由太郎少佐<br>(43. 5ジャワ<br>より移動)     | 6000               | 130           | 175～202km             |
|      | 蜂須賀分所                   | 蜂須賀邦彦少佐<br>(43. 4マレー<br>第5分所が移動)  | 3000               | 130           | 100～175km             |
|      | ビル                      | 第3分所                              | 永友吉忠中佐             | 9000          | 130                   |
|      | 第5分所                    | 水谷藤五郎大尉                           | 2000               | 100余          | 鉄道第5連隊                |

|        |   |      |     |     |
|--------|---|------|-----|-----|
| マ<br>側 | (43. 11. 23ジャワ<br>第3分所が移動)              |      |     | に協力 |
|        | 板野分所<br>板野博暉中佐<br>(43. 4マレー<br>第4分所が移動) | 7000 | 130 |     |

(出所) 内海愛子 (2015) 『朝鮮人BC級戦犯の記録』岩波現代文庫、4頁。

このように、タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属数の中で、捕虜監視員として泰緬鉄道の建設現場に派遣されていた朝鮮人数は、約800人である。同表において、後に増員された朝鮮人軍人軍属が存在したという記述を踏まえて考えると、当時、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属数は、800人を超えていたと見られるが、この約800人という数は、タイ現地において収集できた一次史料の中に記録された元朝鮮人軍人軍属数とほぼ一致する数である。それでは、タイの国立公文書館に所蔵されている史料の中には、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属がどのように記録されているだろうか。

### 3. 元朝鮮人軍人軍属に関するタイ現地の記録

#### (1) タイの捕虜収容所の記録

戦後、それまで日本軍に所属していた朝鮮人及び台湾人を本国へ送還させるため、連合軍総司令部の指示に従っていたタイ政府は、タイに駐屯していた日本軍部隊から集められた朝鮮人と台湾人の軍人軍属捕虜の数を把握すると共に、彼らを収容する施設の確保を急いでいた。その際、作成された調査資料が以下の表31である。

表31 朝鮮人が収容されていたタイの捕虜収容所の視察報告書

|  |
|--|
| ที่ 7/89 [第7/89号]  |
| เรียน เลอ.ทหาร [軍参謀長官宛て]   |
| เมื่อ 22 ธ.ค.88 กระผมพร้อมด้วยเจ้าหน้าที่กองระเลศศึกษาบางนายได้ไปตรวจและเยี่ยมเยียนค่ายพิทักษ์ทหารเกาหลีและได้วัน<br>ณ ร.พัน54 จ.อยุธยาและเดินทางกลับในวันรุ่งขึ้น<br>[1945年12月22日、捕虜収容所の監視員らと共に、アユタヤ県第54部隊内にある、韓<br>国人及び台湾人の軍人軍属が収容されているピタック捕虜収容所の点検と視察を終<br>え、翌日帰還したことを報告する] |
| ค่ายพิทักษ์นี้ พ.อ.สวัสดิ์ สวัสดิ์ดิเรกภักดิ์ เป็นผอ.ทางการได้บรรจุเจ้าหน้าที่ฝ.กง. พธ. และ สร. ไว้พร้อมข้อมูลเป็นที่เรียบร้อย<br>[本ピタック捕虜収容所のサワツ・サワロンナバック大佐は、兵站の經理班及び看護<br>部隊に関連情報を伝達した]  |

|  |
|--|
| <p>ผลแห่งการตรวจและเยี่ยมชมมีดังนี้</p> <p>[收容所の点検及び視察した結果は以下のようである]</p>   |
| <p>1. ค่ายนี้ตั้งในบริเวณ ร.พัน54 โดยใช้อาคารโรงทหารเดิมกับสร้างเสริมขึ้นอีกหลายอาคารเพื่อให้เพียงพอกับจำนวนคน ทหาร ร.พัน54 เดิมซึ่งมีจำนวนเหลือเพียง 30 - 40 คนนั้น คงพัก ณ โถงทหารตะวันตกโดยมีลวดหนามแยกเป็นขอบเขต</p> <p>[1. 第54部隊の敷地内に設置された捕虜收容所は、捕虜の数に合わせ、既存の建物に加え、新たに建てられた複数の建物を使用することにした。第54部隊員は、現在30 - 40人残っており、鉄柵で分けられた西棟の軍施設に居住している]</p> |
| <p>2. ชาวเกาหลีกับชาวไต้หวันแยกอยู่ต่างอาคารกัน</p> <p>[2. 韓国人と台湾人は、別の施設に收容されている]</p>  |
| <p>3. อาคารที่พักของชาวเกาหลีและไต้หวันทั้งสิ้นนี้ แบ่งอยู่กันตามเพศและประเภทคือ ชายโสด หญิงโสด ครอบครัว หญิงหม้ายไม่ปะปนกัน มีผู้บังคับบัญชาดูแลปกครองอีกชั้นหนึ่ง</p> <p>[3. 性別によって韓国人と台湾人を收容している本收容所では、独身男性、独身女性、家族、離婚した女性に区分してある。また、それぞれの部屋には、責任者がついてある]</p>   |
| <p>4. ผู้ต้องพิทักษ์ในค่ายนี้ทางปกครองแบ่งการบังคับบัญชาเป็น8กองร้อย และแต่ละกองร้อยมีผู้บังคับบัญชาปกครองดูแลลดหลั่นกันมาในรูปแบบของการปกครองอย่างทหาร กองร้อยที่7 เป็นกองร้อยสตรีโดยเฉพาะ</p> <p>[4. ピタック捕虜收容所を管理する軍は、8つのグループに分けられ、一般の軍と同様、階級によって管理されている。第7部隊は、女性のみを管理している]</p>  |
| <p>5. การดูแลความเรียบร้อยและระเบียบภายในทั่วไป ได้จัดให้มีหน่วยสารวัตรชั้นหน่วยหนึ่งมีกำลังประมาณ 70 คน โดยสรรจากผู้มีความรู้ ความประพฤติและอนามัยเป็นเกณฑ์สำคัญ</p> <p>[5. 收容所の施設管理のため、70人からなる特別部隊を編成した。70人の部隊員は、教育され、訓練状況及び健康状態の良い者を選別して編成したのである]</p>   |
| <p>6. ในการดูแลการปกครองซีพีและการอยู่กิน พวกเขาได้ตั้งกรรมการขึ้นคณะหนึ่งเป็นเจ้าหน้าที่ กรรมการคณะนี้เมื่อมีการตกลงและข้อตกลงอย่างใดแล้วก็ขออนุมัติผ่านขึ้นมาจากผ.ค่าย(ไทย) พิจารณาต่อไปตามระเบียบ</p> <p>[6. 捕虜の健康及び生活を管理するための特別部署を設けた。本特別部署が新たに捕虜收容に関する方針を決める場合、政府の捕虜管理長の承諾の下、進めていく]</p>   |
| <p>7. อัตราค่าเลี้ยงดู คนหนึ่งวันละ 1.35บาทนั้น ทางการจัดเลี้ยงโดยรับประมวลส่งอาหารสดเป็นวันๆ แล้วนำจัดปรุงหุงต้ม ดังนั้นรับประทานเองโดยมีพวกเขาเป็นเวรผลัดเปลี่ยนกันเป็นสุทกรรพ</p> <p>[7. 捕虜一人が1日生活するのにかかる費用は、凡そ1.35バーツであり、全ての費用は政府が負担する。食材は費用を考慮し、提供社を選別した上、軍の炊事兵がローテーションを組んで作った食事を提供する]</p>  |
| <p>8. การสุขาภิบาล อนามัยและการรักษาพยาบาลผู้ป่วยใช้ มีนายแพทย์สร.ทางฝ่ายเราร่วมมือกับฝ่ายเขา อีกเครื่องเวชภัณฑ์ ก็เป็นทางเดียวกันคือ ใช้ของเราและของเขา รวมทั้งของที่ ส่งมาช่วยเหลือ</p> <p>[8. 本部隊の軍医と他の部隊の軍医が協力し、捕虜の衛生医療に関する管理を行う。医療用品は、既に本軍部隊に具備されている物に加え、他の軍部隊の物、及び他所から支給された物を使用する]</p>   |
| <p>9. ผู้ป่วยส่วนมากปรากฏว่าเป็นไข้มาเลเรียและบิด น้ำกินใช้น้ำมาต้มผู้ป่วย ทั้งสิ้นแยกมารักษาพยาบาลในอาคาร ซึ่งจัดเป็น</p>   |

|   |                                 |                  |
|---|---------------------------------|------------------|
| โรงพยาบาลในอาคาร ซึ่งจัดเป็นโรงพยาบาล การจัดระเบียบโรงพยาบาลเรียบร้อยดีมาก  |                                 |                  |
| [9. 患者の殆どはマラリアや赤痢に感染された者であり、飲料水は沸かした水を使用している。また、患者は別の医療施設に収容させてある。医療施設はきちんと管理されている]   |                                 |                  |
| 10. ยอดจำนวนชาวเกาหลีและไต้หวัน มีดังนี้ [10. 韓国人と台湾人の数は以下のようである]   |                                 |                  |
| ชาวเกาหลี   | ทหาร 129 คน                     | [韓国人 軍人 129人]    |
|   | ข้าราชการพลเรือนฝ่ายทหาร 760 คน | [軍属 (非戦闘員) 760人] |
|   | พลเรือน 56 คน                   | [市民 56人]         |
|   | ผู้หญิง 218 คน                  | [女性 218人]        |
|   | เด็ก 13 คน                      | [子ども 13人]        |
|   | รวม 1,176 คน                    | [合計 1,176人]      |
| ชาวไต้หวัน  | ผู้ชาย 14 คน                    | [台湾人 男性 14人]     |
|   | เด็ก 1 คน                       | [子ども 1人]         |
|   | รวม 20 คน                       | [合計 20人]         |
|   | รวมทั้งสิ้น 1,196 คน            | [総計 1,196人]      |
| 11. ตามปกติผู้ที่ถูกกักคุมได้รับอนุญาตให้ลาออกนอกค่ายเพื่อกิจธุระได้ และบางรายได้รับอนุญาตลาดลงมากองทัพได้หลายๆ วัน การลาทุกประเภทต้องได้รับอนุญาตจากผอ.ค่าย                                |                                 |                  |
| [11. 許可された者に限り、捕虜収容所から一時的に外出することが可能である。一部の人には、バンコクに数日間滞在できる許可を得ている。全ての許可は、収容所の監視長の許可が必要である]   |                                 |                  |
| 12. เนื่องจากบริเวณค่ายตั้งอยู่ในทางสาธารณะจึงปรากฏว่ามีกรลักเล็กขโมยน้อยจากบุคคลภายนอกเรื่อยๆ แต่เมื่อทางค่ายได้จัดตั้งหน่วยสารวัตรขึ้นเป็นความร่วมมือกับตำรวจของเราแล้วเหตุการณ์ก็สงบขึ้น |                                 |                  |
| [本捕虜収容所には一般の人が出入りすることが可能であるため、盗難事件が発生した。警察と協力し、検問所を設置してからは、盗難事件はなくなった]  |                                 |                  |

(注) タイ語で作成された原典を筆者が直接、日本語に翻訳し、各行の翻訳文は〔〕としてある。尚、原典にタイ語の誤字がある部分は、日本語に訳す際、文脈を把握し、正しい字を類推した上で翻訳した。

(出所) タイ国立公文書館「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและฟอโมซา [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」242頁。

上記の表31を基に、第二次世界大戦の終戦時まで、日本軍に所属し、タイに渡っていた元朝鮮人軍人軍属の数を把握することができる。同史料は、1945年12月の時点で、タイにどれほどの朝鮮人が滞在していたのかを表しているが、捕虜収容所に収容されていた朝鮮人1,176人のうち、軍人は129人、軍属は760人だったということがわかる。この元朝鮮人軍人軍属数の合計は、889人であり、表30において確認した元朝鮮人軍人軍属数、約800人に近い数値である。

また、表31に記載されている朝鮮人軍属の場合、原典のタイ語を日本語に直訳した場合、「軍に所属した公務員」と訳すことができるが、これは日本語でいう軍属を意味している。タイの捕虜収容所がこの軍属を他の軍人129人と区別して記録した理由は、彼らが非戦闘員だったためではないかと考えられる。

更に、前述の内海（2015）の研究においても述べられているように、日本軍に動員され、タイに渡った元朝鮮人軍人軍属たちの中には、泰緬鉄道の建設現場ではなく、その建設現場に送る連合軍捕虜を管理する捕虜収容所に動員されていた朝鮮人も存在したということ踏まえて考えると、表31において、軍人と書かれた朝鮮人は、泰緬鉄道の建設現場に派遣され、泰緬鉄道の建設現場で直接、作業を仕切っていた軍人であり、一方、軍属と記録された朝鮮人は、その泰緬鉄道の建設現場に送られる連合軍の捕虜が収容されていた捕虜収容所において、捕虜を管理していた人たちだったのではないかと考えられる。

タイ政府は、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属をこのように軍人と軍属に分け、戦後行われた連合軍の戦犯探しに協力していた。それは戦時中、連合軍捕虜に加えられた非人道的な虐待行為や不当な待遇が主に、泰緬鉄道の建設現場において発生していたためである。つまり、タイ政府は、より効率的に戦犯探しを進めていくために、泰緬鉄道の建設現場で働いていた軍人と裏側の捕虜収容所で捕虜の管理を担当していた軍属を区分していたと見られる。

## （2）元朝鮮人軍人軍属の送還者名簿

表31からは、戦後、889人の元朝鮮人軍人軍属がタイの捕虜収容所に集められていたことを確認することができた。しかしながら、表31の中では、その合計人数のみが記録されていたため、彼らの詳細を把握することは不可能だったが、その後、元朝鮮人軍人軍属が本国へ送還された際、タイ政府によって作成された『รายงานชาวเกาหลีในค่ายกักตมอยู่ระยะที่กลับประเทศแล้ว [アユタヤ捕虜収容所から韓国へ送還された韓国人の名簿]（以下、送還者名簿と略す）』には、元朝鮮人軍人軍属に関するより詳細な情報が記載されていた<sup>62</sup>。

この送還者名簿の原典は、本章の分量を考慮し、付録1に載せ、原典から必要な情報のみを選び出し、日本語に訳した後、以下の表32のように再構成した。

---

<sup>62</sup> タイ国立公文書館、前掲注（56）、194-216頁参照。同史料の194-211頁には、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属男性の名前が、また、212-216頁には、日本軍部隊から集められた朝鮮人女性の名前が記録されている。

表32 アユタヤ捕虜収容所に収容されていた1,093人の朝鮮人男性捕虜統計

|      |        | 所属別    |        |        |        |        |       |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 所属   | 捕虜収容所  | 海軍     | 医療関係   | 市民     | 児童     | 合計     |       |
| 人数   | 980    | 7      | 18     | 78     | 10     | 1,093  |       |
|      |        | 年齢別    |        |        |        |        |       |
| 年齢   | 19歳以下  | 20～29歳 | 30～39歳 | 40代以上  | 不明     | 合計     |       |
| 人数   | 11     | 876    | 187    | 14     | 5      | 1,093  |       |
|      |        | 収容時期別  |        |        |        |        |       |
| 収容時期 | 45年10月 | 45年11月 | 45年12月 | 46年01月 | 46年03月 | 46年04月 | 合計    |
| 人数   | 822    |        |        | 10     |        |        | 1,083 |
| (児童) | (7)    | 5      | 2      | (3)    | 2      | 242    | (10)  |

(注) タイ語で作成された原典の史料から所属、年齢、収容時期の情報を選び出し、日本語に整理した表。原典は付録1を参照。

(出所) タイ国立公文書館「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]」194-211頁。

まず、タイの国立公文書館に所蔵されている「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]」の194から211頁には、1946年5月13日、朝鮮半島へ送還されるまで、タイの捕虜収容所に集められていた元朝鮮人男性軍人軍属捕虜の数が記録されており、その合計数は、児童数を除いて、1,083人に上っている。この数字は、終戦直後の記録である表31の中に記録された889人よりも、約200人が増加している。

原典（付録1）には、表32の情報以外にも、元朝鮮人軍人軍属捕虜の名前や職業が記載されているが、朝鮮人捕虜の職業は、日本軍の階級がタイ語に直訳された者、タイ軍の階級と照らし合わせて訳された者、所属先蘭に階級が記載された者など、情報が混在している。

タイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人捕虜の所属別の区分を見ると、最も人数が多かった職業は、日本軍の捕虜収容所関連の軍人軍属であり、その合計数は980人と全体の約90%を占めている。この980人の中には、光部隊や森部隊のように所属していた部隊名、或いは軍事輸送や武器保管所管理などのように担当業務が記録されている朝鮮人も存在するが、殆どの朝鮮人捕虜は、日本捕虜収容所に所属していたと記録されている。

また、7人のみが集計された海軍に関しても同様であり、海軍堀江部隊、通信部隊、海軍外務課など所属先が明らかにされている朝鮮人も存在するが、職業欄において海

軍として記載されていたのにも拘わらず、所属欄においては、単純に日本捕虜収容所所属と記録されている朝鮮人捕虜も存在する。

これと同様に、日本軍部隊の中で、医療関係の業務に携わっていた朝鮮人18人は、第16医療部隊、若しくは陸軍第133病院に所属していた朝鮮人だったが、具体的にどのような業務を果たしていたのかまでは記載されていないため、軍医だったか否かは定かではない。

他にも同史料に記録された1,083人の中には、表31と同様に市民として記録された合計78人の朝鮮人も見られるが、同送還者名簿（付録1）を基に、彼らが日本軍と全く無関係な市民ではなかったことがわかった。

同史料において、市民78人の職業に関する詳細な情報は、記載されていなかったものの、彼らは全員、日本捕虜収容所に所属していた。この市民と記録された78人の朝鮮人は、日本軍と関わる仕事に携わっていたと見られ、当時、タイが連合軍との戦線に近かったということとを考慮すると、日本の軍需企業の職員だったのではないかと考えられる。

このように第二次世界大戦の終戦後、タイ政府によって作成された元朝鮮人軍人軍属の送還者名簿を通じて、1946年までタイに移住した1,083人の朝鮮人は、日本軍と関わりを持っていたことがわかったが、この数は、前章までにおける朝鮮人高麗人参商人や朝鮮人独立運動家の人数を遥かに上回っている。

彼らは、主に終戦直後である1945年10月に捕虜としてタイの捕虜収容所に収容され始めたが、その数は、10月の1ヵ月間で、822人に上っていた。より詳しい情報が載せられている付録1を見ると、朝鮮人捕虜の収容が始まった10月3日から10月16日までの約2週間の間、631人の朝鮮人捕虜が集められ、タイ政府による、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属の逮捕がどれほど速やかに行われたのかがわかる。

その後、1945年11月に入ってから、約半年間、タイの捕虜収容所に集められた元朝鮮人軍人軍属捕虜数は、毎月1桁に止まっていた。ところが、突然、1946年4月になってから、242人の朝鮮人捕虜が追加で収容された。

また、1945年10月に収容された朝鮮人捕虜は、職種において多様性が見られず、同じ職業を持つ者同士で記録されている反面、この1946年4月の記録においては、より多様な職業や役職が記録されていることがわかる。

これは1945年10月の収容の場合、日本軍部隊や日本軍の捕虜収容所から朝鮮人軍人軍属を一斉に掻き集めてきたのに対し、1946年4月の収容の場合、まだ日本軍部隊に残っていた朝鮮人や前章で述べた金鐵拳の仲間のようにタイの何処かに隠れていた朝鮮人を見つけ出してきたためであると考えられる。

一方、同送還者名簿における、朝鮮人男性捕虜の年齢を見ると、彼らの中の約8割

である876人は、20代の若い青年だったということがわかる。軍に動員された者であったため、若い人の割合が多いのは当然といえば、当然であるが、1946年の時点で20代であるということは、彼らが産まれた際には、既に帝国臣民として生きることが当然になっていた時代である。

これは187人と集計された30代に関しても、産まれた年、或いは産まれてから間もなく、日本の植民地支配下に置かれた朝鮮人社会の中で育ったため、彼らも帝国臣民としてのアイデンティティを持ち、成長していたと考えられる。

内海（2015）は、李鶴来の日本軍の捕虜監視員になるまでの経緯や彼の成長背景を李鶴来本人の証言を基に次のように紹介している。これは、当時、朝鮮人の若者がどのような背景や考えを基に、日本の捕虜監視員に志願し、タイにまで渡っていたのかを見せる例である。

「李（鶴来）さんは職もなくブラブラしていた…このままいけば、兵隊にひっぱられるか炭鉱へ連れていかれる。どちらにしても李さんには嫌な仕事だった。だが、李さんの年齢の若者が、家で農業の手伝いをしながら暮らしていける時代ではなかった。いずれ戦争にひっぱられる。そんな中で、捕虜収容所監視員の募集は、銃をもたない、戦場に出ない、軍隊にとられない、しかも二年ということで、当時の青年たちにとっては、かなり魅力あるものだった」（内海 2015、pp. 130-131）

上記の文からは、タイにおいて日本軍の捕虜監視員として勤めた経験のある李鶴来が、どのような経緯で日本軍の捕虜監視員に志願するようになったのかを知ることができる。当時、朝鮮半島全体が日本の植民地支配下に置かれていた中、朝鮮人の若者が日本に協力することなしに、自由に将来を描き、それに向けて学業に励むことは、経済的にも社会的にも困難であった。とはいえ、何の職業にもつかないままだと、どのみち日本の兵隊や炭鉱に徴用される羽目になり兼ねなかったため、過酷な労働を強いられる職よりは、勤務条件も良く、収入も高い日本軍の捕虜監視員に志願するようになったのである。

更に、同書の中には、「「皇国臣民の誓い」をくり返し唱和し、村に戻った志願兵が、名士として遇されるのを見て、李さんは育った。村の小高い丘で、志願兵がラッパを吹く姿は、子供心にカッコよく思い、ひそかに憧れたりもした」（内海 2015、P. 10）と述べられた部分も見られるが、日本統治下の朝鮮半島で産まれた朝鮮人は、日本に協力することで、故郷へ錦を飾る朝鮮人たちを見ながら成長していたため、彼



らの中には、日本の帝国臣民としてのアイデンティティが形成されていった人も存在したということがわかる。

このような成長背景を持つ元朝鮮人軍人軍属たちは、対日協力者として、タイに渡っていたため、彼らは朝鮮人独立運動家や高麗人参商人とは異なる生き方をしていたのである。

朝鮮人独立運動家や高麗人参商人と異なる元朝鮮人軍人軍属たちの生き方は、移住先であるタイにおける生活の中からも見られた。朝鮮人としての教育を受けた経験もなく、日本の帝国臣民として日本や日本の天皇に忠誠することを誓っていた元朝鮮人軍人軍属たちは、タイにおいても日本語を使い続けながら、日本人の生活様式に従って生きていたのである。

また、彼らは日本の敗戦後も、朝鮮という祖国の元へ戻るできるようになっていたのにも拘わらず、日本語を使い、日本人のような生活をしつづけていたのである。

戦後作成されたタイ側の元朝鮮人軍人軍属に関する記録である『บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]』を見ると、

「ชาวเกาหลีในค่ายนี้มีวัฒนธรรมตลอดจนประเพณีและภาษาพูดเป็นญี่ปุ่นโดยตลอด ดังนั้น ทหารจึงจำเป็นต้องตั้งโรงเรียนสอน…ภาษาเดิมของเกาหลีและอบรมวัฒนธรรมเกาหลีกันขึ้นในค่าย

〔この捕虜収容所に收容されている韓国人は、常に日本語で会話し、日本の慣習に従って生活している。そのため、収容所側は学校を設け…彼らの母語である韓国語と韓国の文化を教えていく必要がある〕<sup>63</sup>

と記録された部分があるが、この記録は、タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属がどのように生活していたのかを端的に見せる例である。

内海（2015）の研究の中で述べられた李鶴来の泰緬鉄道の建設現場における暮らしを見る限り、タイに動員されていた元朝鮮人軍人軍属も豊かに暮らせなかったのは、朝鮮人独立運動家と大きく変わらなかったが、対日協力者としてタイに移住していた元朝鮮人軍人軍属たちは、タイで生活する上で、少なくとも鄭元澤のように、日本政府の監視から逃げ回る必要もなく、子どもをつくることも可能な生活を送っていたのである。

また、日本軍や軍需企業の中で働いていた朝鮮人たちは、朝鮮半島内で小作農として口に糊していた朝鮮人や強制労働者として命だけ繋いでいた朝鮮人には経験するこ

<sup>63</sup> タイ国立公文書館、前掲注（56）、244頁参照。

とのできなかった技術や事業経営を間接的にでも見に着けることができたといえる。このように日本軍や軍需企業で働きながら習得した関連技術や経営方法などは、後述する戦後、タイに残った元朝鮮人軍人軍属がタイ現地において定着するのに大きく役立ったのである。

#### 4. 小結

本章では、第二次世界大戦の終戦まで、タイに渡っていた日本軍所属の元朝鮮人軍人軍属の歴史を日本、韓国、タイの歴史文献から探ってみた。その結果、日本軍が侵略した他のアジア諸国と同様にタイにおいても、日本軍と共に移住した朝鮮人の存在を確認することができた。

その後、第二次世界大戦が日本の敗北で終戦を迎え、それまで日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属も、日本の植民地支配から解放された朝鮮半島へ送還されることになった。

その際、タイ政府によって作成された朝鮮人移住民の送還者名簿には彼らの詳細が記録されている。その記録は、タイの国立公文書館に所蔵されている『บันทึก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและโพไมชา [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]』という史料集から確認することができるが、同記録を通じて、1945年、第二次世界大戦の終戦時まで、タイにどのような職業を持つ朝鮮人が、どれほどの規模で滞在していたのかを把握することができた。

特に、同送還者名簿に記録されていた元朝鮮人軍人軍属男性の数は、1,083人に上っていたが、これは、第2、3章において検討した朝鮮人独立運動家や高麗人参商人の数を遥かに上回る数であり、第二次世界大戦の終戦時まで、タイに滞在していた朝鮮人の中で、最も大きな割合を占めていたと言える。

また、同記録からは、元朝鮮人軍人軍属男性の名前のみならず、彼らの職業、或いは階級などに関する記述も見られたが、中には、捕虜監視員、戦闘兵、海軍、医療部隊所属など日本軍部隊に所属していた朝鮮人だけではなく、市民と分類された朝鮮人も存在した。

ここで、市民という言葉から、タイに駐屯していた日本軍部隊とは、全く関係のない朝鮮人のように見えるが、彼らの所属は、他の元朝鮮人軍人軍属と同様に、日本軍捕虜収容所と記録されていた。このことから、市民と記録された朝鮮人も、日本軍と関わる職に就いていたということがわかった。当時、タイに駐屯していた日本軍が連合国軍との戦線に近いところに位置していたということを踏まえて考えると、市民と書かれた朝鮮人たちは、日本の軍需企業などに勤めていたのではないかと考えられる。

また、第二次世界大戦において、日本軍が敗北したことにより、それまでタイに滞

在していた元朝鮮人軍人軍属たちは、最早、日本軍に忠誠を見せる必要はなくなっていたのにも拘わらず、彼らは、タイの捕虜収容所の中においても、互いに日本語で話し合い、日本人のように行動していたこともタイ現地の記録から確認された。

同記録を見ると、彼らは自らを朝鮮人ではなく、日本人、或いは日本帝国の臣民として捉えていたということがわかるが、これは、朝鮮人独立運動家や高麗人参商人が日本の韓国併合後も朝鮮人としてのアイデンティティを維持していたのと区別される特徴であると言える。

## 第5章 朝鮮人女性のタイ移住

### 1. 日本軍の元朝鮮人慰安婦の海外移住

帝国主義日本の植民支配下で行われた日本軍による女性の動員は、日本国内のみならず、朝鮮半島や台湾、更に、その他のアジア諸国の日本軍占領地においても行われた。当時、日本軍によって動員された女性たちの中には、日本軍の慰安婦となり、性的搾取を目的に、日本軍の海外占領地へ連れ出された女性も存在した。

このように日本によって動員された朝鮮人慰安婦女性の数は、現在も関連史料の不足が問題となり、研究者によっては、約2万人から約41万人と、その推定値において大きな差を見せているのが現状である<sup>64</sup>。

これは1945年まで日本軍に動員され、タイに渡った元朝鮮人慰安婦女性に関する研究においても同様であり、その規模や渡航地などに関する詳細な歴史は、未だに明らかにされていない部分が多いと言える。しかしながら、前章において述べた元朝鮮人軍人軍属たちのように、元朝鮮人慰安婦女性の海外移住史は、日本軍が侵略を敢行したアジア諸国の各地域において見られているため、タイにも朝鮮人女性が日本軍の慰安婦として動員されていた可能性は十分にあると考えられる。

研究に先立ち、このように自ら移住時期や移住地域を選ぶことができず、強制的、若しくは半強制的に動員された元朝鮮人慰安婦女性の海外移住を果たして移住として捉えることが可能なのかという疑問も浮かぶ。しかし、国連の国際移住機関が「当人の(1)法的地位、(2)移動が自発的か非自発的か、(3)移動の理由、(4)滞在期間に関わらず、本来の居住地を離れて、国境を越えるか、一国内で移動している、または移動したあらゆる人」<sup>65</sup>と移住を定義づけているように、移住地域や時期を自身の意思で選択することが不可能だった元朝鮮人慰安婦女性たちの海外移住も移住として捉えることができるといえる。

更に、同機関の英語のホームページからは「The number of globally forcibly

---

<sup>64</sup> デジタル記念館慰安婦問題とアジア女性基金のホームページ (<https://www.awf.or.jp/>) には、第二次世界大戦中、日本軍に動員されていた慰安婦女性に関する研究が紹介されている。同ホームページにおいて紹介された研究の中では、日本軍の兵員総数を集計し、慰安婦女性一人あたりの兵員数のパラメーターや交代率などを考慮したデータを基に、当時、日本軍に動員されていた慰安婦女性の数を算出している。ところが、研究によってパラメーターや交代率などが異なり、慰安婦女性の総数に大きな差を示している。原典は「<https://www.awf.or.jp/1/facts-07.html>」を参照（最終閲覧日：2021年06月20日）。

<sup>65</sup> 国際移住機関の日本語ホームページ「<https://japan.iom.int/ja/migrant-definition>」を参照（最終閲覧日：2021年06月20日）。

displaced people topped 70 million for the first time in UNHCR's almost 70 year history at the end of 2018 [2018年末、UNHCRの約70年の歴史の中で、初めて全世界強制移住民数が7,000万人を突破した]」<sup>66</sup>という発表も見られるが、世界移住民の研究において、元朝鮮人慰安婦女性のように強制、若しくは半強制的に海外地域へ移住させられた女性たちに関する研究も重要な移住民の問題として研究されているということがわかる。

実際、日ソ間の戦争に巻き込まれ、強制的に沿海州から中央アジア地域へ移住させられた「高麗人」と呼ばれる朝鮮人たちは、現在も韓国へ戻ることも、移住先の国籍を取ることもできず、貧困な生活が続いている。帝国主義の紛争の犠牲者となった彼らに関する研究は、現在も進められており、これは移住の意味をより広く見る必要性を示す一つの例であると言えるだろう。

このように移住というものを広く考えた際、「住処を移した人」のみならず、「住処が移された人」も移住民として捉えることができると言える。そこで、本章においては、1945年までタイに渡っていた朝鮮人女性、その中でも特に大日本帝国の帝国主義の拡張により、海外への移住を強制させられ、現地において悲惨な生活を送らざるを得なかった元朝鮮人慰安婦女性の存在を日本、韓国、タイに残っている史料を基に探っていきたい。

## 2. タイにおける日本軍慰安所の開設

日本軍に動員され、慰安婦としてタイに移住させられた朝鮮人女性を研究するに当たり、まずは、タイにおいて日本軍が開設した慰安所を検討してみる必要がある。

20世紀初期、朝鮮半島と中国大陸を次々に占領していった日本軍は、アジア諸国への侵略を敢行し、その勢力を拡大していくことで、大東亜共栄圏の建設を計画していた。そのような状況の中で、日本軍が占領した地域が広がっていくと共に増加していったのが、日本軍の慰安所だった。また、日本の海外占領地における日本軍の慰安所が増えていくにつれ、朝鮮人女性の動員も増加し、彼女らは日本軍が占領したアジア諸国の占領地へ慰安婦として移住させられるようになった。

このように日本軍の慰安所が開設されていたのは、日本軍の侵略を受けたタイにおいても例外ではなく、昭和16年、日本がタイを侵攻した直後、日本軍の慰安所は早速開設されるようになった。

まず、その日本軍がタイを侵略した後である昭和17年1月10日、台湾総督府外事部

---

<sup>66</sup> United Nationsのホームページ「<https://www.un.org/en/sections/issues-depth/migration/>」を参照（最終閲覧日：2021年06月20日）。

長である蜂谷によって作成された史料（図9）を見ると、日本軍が駐屯していたタイを含む南洋地域への慰安所開設、及びそのために必要な人員の管理に関する要請があったということがわかる。

図 9 外務省「南洋方面占領地ニ於ケル慰安所開設ニ關スル件」昭和17年1月10日。

|     |   |                              |  |
|-----|---|------------------------------|--|
| 外務省 | 南洋方面占領地ニ於テ軍側ノ要求ニ依リ慰安所開設ノ爲渡航セントスル者（従業者ヲ含ム）ノ取扱振リニ關シ何分ノ御指示相煩度シト（了） | 第一〇號<br>東郷外務大臣<br><br>蜂谷外事部長 | 昭和17<br>九六四<br>略<br>臺北<br>本省<br>一月十日午後<br>十日後着<br><br>南米 |
|-----|---|------------------------------|--|

（出所）女性のためのアジア平和国民基金（1997）『政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成①』龍溪書舎、163頁。

このように南洋地域を次々に占領していった日本軍は、南洋地域の占領地域において、慰安所の開設を進めていったのである。実際、慰安所の開設は、日本軍に侵略されたタイにおいても行われていたが、バンコク及びバンコク近郊地域のみならず、カンチャナブリー、ソンクラ、ハートヤイ、チュムポーン、バンポン、チェンマイの約8つの地域に日本軍の慰安所が開設されていたという記録も存在する<sup>67</sup>。

<sup>67</sup> 女たちの戦争と平和資料館のホームページ（<https://wam-peace.org/>）に公表されている「日本軍慰安所マップ」のタイ王国を参照。原典は「<https://wam-peace.org/ianjo/>

また、内海（2015）の著書の中には、以下のように元朝鮮人軍人軍属だった李鶴来の証言が次のように述べられている部分もある。

「(カンチャナブリの)レールの敷設が終わり、軽便鉄道がノンブラドックとの間を往来するようになると、ジャングルのなかにも、「慰安所」が開設された。そこには、ジャングルで作業する日本人の兵隊ばかりでなく、ビルマへと進軍する兵たちが、つかの間の“快樂”を求めに行った」（内海 2015、P. 24）

このような証言を基に、当時、泰緬鉄道の建設が進められていったタイのカンチャナブリ州の奥地においても、日本軍の慰安所は設けられていたということがわかる。

更に、同書の中には、李鶴来が「日本軍のゆくところどこでも慰安所がついてまわった」（内海 2015、P. 155）と当時のタイにおける日本軍慰安所の開設状況を証言した部分も見られ、これらの史料や証言は、日本軍が駐屯していたタイにおいても日本軍の慰安所が開設されていたということを裏付けている。

### 3. 朝鮮人女性と慰安婦女性に関するタイ側の記録

それでは、果たして1940年代、タイにおいて開設されていった日本軍の慰安所に、朝鮮人女性は動員されていたのだろうか。タイ国立公文書館に所蔵されているタイ政府の史料を検討してみると、当時、朝鮮人慰安婦女性たちは、タイにまで動員されたということがわかる。

まず、前章においては日本及びタイの国立公文書館に所蔵されている史料を基に、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属の歴史を探ってみた。中でも、タイの国立公文書館に所蔵されている史料、表31の中からは、1945年まで、どれほどの朝鮮人軍人軍属がタイに渡っていたのかを把握することができた。

ところが、同史料の中には、元朝鮮人軍人軍属とは別に、タイへ動員されていた慰安婦女性と見られる218人の朝鮮人女性も記録されていた。同史料を見ると、この218人の朝鮮人女性たちは、朝鮮人軍人軍属とは異なり、単純に「女性」として区分されているが、これには何等かの理由があると考えた。

そこで、表31の中に記載されたタイの捕虜収容所側の監査結果を見ると、その中には、

「3.อาคารที่พักของชาวเกาหลีและไต้หวันทั้งสิ้นนี้ แบ่งอยู่กันตามเพศและประเภทคือ ชายโสด หญิงโสดครอบครัว หญิงหม้าย ไม่ปะปนกัน มีผู้บังคับบัญชาดูแลปกครองอีกชั้นหนึ่ง [性別によって韓国人と台湾人を収容している本収容所では、独身男性、独身女性、家族、離婚した女性に区分してある。また、それぞれの部屋には、責任者がついてある]」<sup>68</sup>

と記録されている部分があった。

同記述から、タイ政府は、タイの捕虜収容所に集められていた朝鮮人捕虜を男性と女性で区分して収容し、女性は、更に既婚女性と独身女性に細分化され、収容されていたということがわかった。その上、既婚女性の場合、家族単位で収容していたのに対し、独身女性の場合、女性同士で収容されていたのである。

そのため、男性のみが記録された付録1のように、朝鮮人捕虜たちは、本国へ送還された際、女性捕虜は男性捕虜とは別の名簿に記録されたのであるが、彼女らが単純に女性として分けられていたのには、他の元朝鮮人軍人軍属や市民とは、区別される特徴を持っていたのではないかと考えた。

まず、同史料に記録された朝鮮人捕虜は、タイに駐屯していた日本軍部隊から集められた朝鮮人たちだった。そのため、同史料の中に記録された朝鮮人捕虜1,176人の中で、約75%である889人が元朝鮮人軍人軍属だったのである。

このように元朝鮮人軍人軍属数の割合が朝鮮人捕虜数全体の中で最も高かった理由は、当時、タイに移住した朝鮮人の中で、日本軍に所属していた軍人や軍属の数が他の職業に就いていた朝鮮人数と比べて多かったためでもあるが、タイ政府が終戦時までタイ全国に滞在していた朝鮮人を捕虜収容所に集めるようになった契機もその理由である。

前章においても述べたように、戦後タイ政府はGHQの要請により、日本軍の中から戦犯の可能性のある元軍人軍属たちを速やかに見つけ出し、連合軍側にその戦犯を引き渡す作業を進めていた。その作業の中で、日本軍が設けていた捕虜収容所において、連合軍捕虜の監視及び管理を担っていた元朝鮮人軍人軍属も逮捕の対象となったのである。

そのため、タイの他の場所よりも日本軍部隊における朝鮮人の逮捕が優先的に行われたのである。つまり、表31の史料の中に記録された朝鮮人捕虜1,176人は、日本軍の軍部隊から集められた人たちであり、同史料の218人の女性たちも、それまでタイに駐屯していた日本軍の部隊の中にいた朝鮮人女性だったということがわかる<sup>69</sup>。

<sup>68</sup> 表31参照。

<sup>69</sup> 実際、付録1や表32からもわかるように、当時、タイの捕虜収容所に集められた朝鮮人



当時、タイに駐屯していた日本軍の部隊の中において、これほど大勢の朝鮮人女性が所属していたのは、日本軍の慰安婦の他に、その例は見当たらない。即ち、218人もの朝鮮人女性がタイに駐屯していた日本軍部隊に所属していた訳は、彼女らが日本軍と共にタイに渡った慰安婦だったためであろう。

彼女らが日本軍の慰安婦女性だったということを示す記録は、表31だけではない。付録1のように朝鮮人捕虜を朝鮮半島へ送還した際に、タイ政府によって作成された朝鮮人女性の名簿『รายงานหญิงชาวเกาหลีในค่ายกักคุม อยุตยาที่กัณฑ์ประเทศ [アユタヤ捕虜収容所から韓国へ送還された韓国人女性の名簿] (以下、女性の送還者名簿と略す)』からも確認することができる。

下記の女性の送還者名簿(表33)は、表31が作成された翌年に記録されたものである。同女性の送還者名簿には、1946年、本国へ送還された287人の朝鮮人女性の詳細が記録されているが、表31の史料において、タイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人女性数218人から、69人が増加しているのがわかる。このように本国送還時まで、タイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人女性数が増加した理由は、表31が作成された後に、新たに集められた朝鮮人女性が存在したためである。

表33 アユタヤ捕虜収容所から朝鮮半島へ送還された朝鮮人女性の名簿

| 番号 | 氏名                           | 年齢 | 所属        | 収容日          | 送還日          |
|----|------------------------------|----|-----------|--------------|--------------|
| 1  | นาง เอิน อ็อกเซ<br>[ホン オクセ]  | 22 | 日本軍医療看護部隊 | 1945. 10. 07 | 1946. 05. 13 |
| 2  | " อี จุง ชุน<br>[イ ジュンチュン]   | 42 | "         | "            | "            |
| 3  | " อิม ยองชุน<br>[イム ヨンチュン]   | 28 | "         | "            | "            |
| 4  | " คิว อ็อกรัน<br>[キュ オ克蘭]    | 24 | "         | "            | "            |
| 5  | " คิม ชุนชิก<br>[キム チュンシク]   | 28 | "         | "            | "            |
| 6  | " เียง เอินยอป<br>[チョン オンヨプ] | 23 | "         | "            | "            |
| 7  | " คัง จองนิม<br>[カン ジョンニム]   | 25 | "         | 1945. 10. 16 | "            |
| 8  | " อี อินฮี                   | 32 | "         | "            | "            |

捕虜の全員は、日本軍部隊に所属していたと記録されている。

|    |                                  |    |   |   |   |
|----|----------------------------------|----|---|---|---|
|    | [イ インヒ]                          |    |   |   |   |
| 9  | " คิม ชุนฮะ<br>[キム チュンハ]         | 26 | " | " | " |
| 10 | " อี ยองเซ<br>[イ ヨンチェ]           | 21 | " | " | " |
| 11 | " ชาง สุฮัง<br>[チャン スハン]         | 24 | " | " | " |
| 12 | " บัก เคโท<br>[パク ゲト]            | 24 | " | " | " |
| 13 | " ซิน คิมอิ<br>[シン ギムイ]          | 23 | " | " | " |
| 14 | " ชาง เยิลฮัง<br>[チョン ヨルハン]      | 22 | " | " | " |
| 15 | " เกน คุมบอง<br>[コン グムボン]        | 22 | " | " | " |
| 16 | " ซิน ชุนเซ<br>[シン チュンチェ]        | 21 | " | " | " |
| 17 | " ยัง ยุนแจ็ก<br>[ยัน ยูนซอก]    | 26 | " | " | " |
| 18 | " ซอง อีจุน<br>[ซอน ฮีจุน]       | 25 | " | " | " |
| 19 | " ชง ชุนเยิน<br>[ซอน チュンヨン]      | 25 | " | " | " |
| 20 | " เซ เกียงเยิน<br>[โชยิ กيونยอง] | 28 | " | " | " |
| 21 | " เซิน เมียงอ็อก<br>[ซอน มยองอก] | 28 | " | " | " |
| 22 | " ชง เกียงอ็อก<br>[ซอน กيونอก]   | 31 | " | " | " |
| 23 | " โอ ชุนदैก<br>[โอ ชุนด็อก]      | 26 | " | " | " |
| 24 | " โอ แทมก<br>[โอ เทมาค]          | 21 | " | " | " |
| 25 | " เซ ฮันกุน<br>[โชยิ ฮังกุน]     | 30 | " | " | " |
| 26 | " อี ฮีจุน<br>[อี ฮีจุน]         | 24 | " | " | " |

|    |                                |    |   |   |   |
|----|--------------------------------|----|---|---|---|
| 27 | " อี โทฮะ<br>[イ トハ]            | 27 | " | " | " |
| 28 | " เชน ชุนนัม<br>[チョン チュンナム]    | 22 | " | " | " |
| 29 | " เชน อิลทัล<br>[チョン イルダル]     | 27 | " | " | " |
| 30 | " เชน เกียงชุน<br>[チョン ギョンスン]  | 22 | " | " | " |
| 31 | " คิม เกียงชุน<br>[キム ギョンチュン]  | 36 | " | " | " |
| 32 | " อี เจิงชุก<br>[イ ジョンスク]      | 22 | " | " | " |
| 33 | " คิม เคซุง<br>[キム ゲスン]        | 29 | " | " | " |
| 34 | " ปัก ไมคิม<br>[パク モギム]        | 29 | " | " | " |
| 35 | " คิม โทชุน<br>[キム トスン]        | 25 | " | " | " |
| 36 | " ปัก บุนนัม<br>[パク ブンナム]      | 26 | " | " | " |
| 37 | " อี บองชุน<br>[イ ボนスン]        | 24 | " | " | " |
| 38 | " ปัก บองนัม<br>[パク บอนナム]     | 23 | " | " | " |
| 39 | " กู พันสุ<br>[グ パンス]          | 28 | " | " | " |
| 40 | " อี นัมชุน<br>[イ ナムチュン]       | 27 | " | " | " |
| 41 | " รีม รังอ็อก<br>[リム ランオク]     | 29 | " | " | " |
| 42 | " ยุน เจิงชุก<br>[ユン ジョンスク]    | 24 | " | " | " |
| 43 | " รีม ทัลจุน<br>[リム ดาลจู]     | 25 | " | " | " |
| 44 | " เชน คิมอ็อก<br>[チョン กิมอ็อก] | 25 | " | " | " |
| 45 | " อี เวนชุก<br>[イ เวนชุก]      | 28 | " | " | " |

|    |                                |    |   |   |   |
|----|--------------------------------|----|---|---|---|
|    | [イ ウオンスク]                      |    |   |   |   |
| 46 | " คิม ซองเซ<br>[キム チョンチェ]      | 25 | " | " | " |
| 47 | " อี ยงอา<br>[イ ヨンア]           | 21 | " | " | " |
| 48 | " คิม แจกซุก<br>[キム ジョンスク]     | 23 | " | " | " |
| 49 | " กู เยนนุน<br>[グ ヨンブン]        | 22 | " | " | " |
| 50 | " คิม ซิลทัน<br>[キム シンタン]      | 29 | " | " | " |
| 51 | " โอ ฮุงชุน<br>[オ フンチュン]       | 19 | " | " | " |
| 52 | " คิม จางชุน<br>[キム ジャンチュン]    | 22 | " | " | " |
| 53 | " อี ชุนนิม<br>[イ チュンนิม]      | 40 | " | " | " |
| 54 | " เซ็ง เกียงสัน<br>[チョン ギョンラン] | 28 | " | " | " |
| 55 | " คิม อีเซิม<br>[キム イチョム]      | 25 | " | " | " |
| 56 | " อี แยกบ็อก<br>[イ イเยบ็อก]    | 22 | " | " | " |
| 57 | " ริว แทกัง<br>[リュウ テガン]       | 22 | " | " | " |
| 58 | " เบ เวนมัม<br>[ベ ウෙනาม]       | 21 | " | " | " |
| 59 | " คิม เมียงอ็อก<br>[キム ミョンอก]  | 19 | " | " | " |
| 60 | " คิม มุนเซ<br>[キム มุนเช]      | 19 | " | " | " |
| 61 | " เซ คิมชุน<br>[ชโยอิ ギมสน]    | 22 | " | " | " |
| 62 | " คิม เคเซ็น<br>[キム ゲซอน]      | 22 | " | " | " |
| 63 | " โค เซินบอง<br>[コ ソนบอน]      | 29 | " | " | " |

|    |                              |    |   |   |   |
|----|------------------------------|----|---|---|---|
| 64 | " คิม เฮซุน<br>[キム ヘスン]      | 28 | " | " | " |
| 65 | " อี คิมเซ<br>[イ ギムチェ]       | 23 | " | " | " |
| 66 | " ริว กูบุน<br>[リュウ グブン]     | 26 | " | " | " |
| 67 | " มุน แจซุน<br>[ムン ジョンチュン]   | 27 | " | " | " |
| 68 | " เช จุงอี<br>[チョイ ジュンイ]     | 34 | " | " | " |
| 69 | " คิม ซุนต็อก<br>[キム スンドク]   | 28 | " | " | " |
| 70 | " ปัก ซุนเซ<br>[パク チュンチェ]    | 26 | " | " | " |
| 71 | " เอม รອງจู<br>[オム ロンジユ]     | 32 | " | " | " |
| 72 | " ริว เซ็งเซ<br>[リュウ チョンチェ]  | 24 | " | " | " |
| 73 | " เช อ็อกซุน<br>[チョイ オクチュン]  | 25 | " | " | " |
| 74 | " เบ เซ็กซุน<br>[ベ ソクチュン]    | 25 | " | " | " |
| 75 | " อี ย็องมุน<br>[イ ヨンムン]     | 28 | " | " | " |
| 76 | " อี เซ็งซุก<br>[イ チョンスク]    | 20 | " | " | " |
| 77 | " คิม สุนชิน<br>[キム スチョン]    | 22 | " | " | " |
| 78 | " คิม เมียงฮะ<br>[キム ミョンハ]   | 23 | " | " | " |
| 79 | " คิม กุมชิน<br>[キム グムチョン]   | 32 | " | " | " |
| 80 | " อี ฮะซุก<br>[イ ハスク]        | 32 | " | " | " |
| 81 | " ริว เซ็งเซ<br>[リュウ チョンチェ]  | 29 | " | " | " |
| 82 | " มิน อ็อกเซ<br>[มิน อ็อกเซ] | 29 | " | " | " |

|     |                                  |    |   |   |   |
|-----|----------------------------------|----|---|---|---|
|     | [ミン オクチェ]                        |    |   |   |   |
| 83  | " ชง ซุนอิ<br>[ソン สไน]           | 26 | " | " | " |
| 84  | " เซ พันเน<br>[ชโยิ ปันเน]       | 21 | " | " | " |
| 85  | " เซิน ซุนอิ<br>[ชยอน สไน]       | 25 | " | " | " |
| 86  | " อี อุนจิน<br>[ไอ อุนจิน]       | 26 | " | " | " |
| 87  | " อู อัลเซ็ง<br>[อุ อันซอน]      | 28 | " | " | " |
| 88  | " คิม เคอ็อก<br>[คิม เกอ็อก]     | 22 | " | " | " |
| 89  | " คิม เกียงซุน<br>[คิม กยอนซอน]  | 20 | " | " | " |
| 90  | " ริว เซอ็อก<br>[ริยู ชเยอ็อก]   | 24 | " | " | " |
| 91  | " คัง กัปเสียง<br>[กัน กัปรียัน] | 32 | " | " | " |
| 92  | " เจ็ง บ็อกซุน<br>[จยอน บอกซอน]  | 26 | " | " | " |
| 93  | " ซัง คูซุน<br>[กัน กูชุน]       | 26 | " | " | " |
| 94  | " เซ ซุนเสียง<br>[ชโยิ สุนรียัน] | 24 | " | " | " |
| 95  | " อี เฮียวอิ<br>[ไอ ฮยอูฮี]      | 25 | " | " | " |
| 96  | " โจ เกียงยูล<br>[ชโย กยอนยูล]   | 20 | " | " | " |
| 97  | " ปัก กิลเซ<br>[ปาก กิลเช]       | 25 | " | " | " |
| 98  | " เซ ซุกเซ<br>[ชโยิ สุกเช]       | 26 | " | " | " |
| 99  | " อี เกียงฮะ<br>[ไอ กยอนฮา]      | 25 | " | " | " |
| 100 | " โจ กิลเซ<br>[ชโย กิลเช]        | 24 | " | " | " |

|     |                                |    |   |   |   |
|-----|--------------------------------|----|---|---|---|
| 101 | " ซง ซุนกิล<br>[ソン スンギル]       | 20 | " | " | " |
| 102 | " คิม อ็อกเซ<br>[キム オクチェ]      | 26 | " | " | " |
| 103 | " อี ฮะชิน<br>[イ ハソン]          | 22 | " | " | " |
| 104 | " เบ จูอ็อก<br>[ベ ジュオク]        | 23 | " | " | " |
| 105 | " อี แฮชิน<br>[イ ヘソン]          | 28 | " | " | " |
| 106 | " ซะ บองเน<br>[チャ ボンネ]         | 26 | " | " | " |
| 107 | " เชง อ็อกเซ<br>[チョン オクチェ]     | 24 | " | " | " |
| 108 | " คิม เจนซิล<br>[キム ジョンシル]     | 24 | " | " | " |
| 109 | " ปัก เจิงซุก<br>[ปาก จ็องสुक] | 17 | " | " | " |
| 110 | " อี ฮักซิล<br>[イ ハクシル]        | 29 | " | " | " |
| 111 | " คิม ซุนอะ<br>[キム สุนอา]      | 25 | " | " | " |
| 112 | " ริว ชูเวิล<br>[リュウ チュウオン]    | 23 | " | " | " |
| 113 | " เฮิน กุนิม<br>[ホン グニム]       | 22 | " | " | " |
| 114 | " เซ บ็อกฮี<br>[โชยิ บอกฮี]    | 27 | " | " | " |
| 115 | " คิม ฮะเช็ก<br>[キム ฮาซุก]     | 21 | " | " | " |
| 116 | " เซ แทอ็อก<br>[โชยิ เตออก]    | 20 | " | " | " |
| 117 | " ยุน แมอ็อก<br>[ยุน เมออก]    | 25 | " | " | " |
| 118 | " เบ กีมเซิน<br>[เบ กุมซอน]    | 24 | " | " | " |
| 119 | " เบ แจฮัน                     | 21 | " | " | " |

|     |                              |    |   |   |   |
|-----|------------------------------|----|---|---|---|
|     | [ベ ジェハン]                     |    |   |   |   |
| 120 | " อี้ เจิงซุก<br>[イ ジョンスク]   | 20 | " | " | " |
| 121 | " โย แจซุน<br>[ホ ジェチュン]      | 21 | " | " | " |
| 122 | " ซิน กัปซุน<br>[シン カプスン]    | 21 | " | " | " |
| 123 | " อี้ ซุกนัม<br>[イ スクナム]     | 22 | " | " | " |
| 124 | " คิม นิมนัม<br>[キム นิมนัม]  | 24 | " | " | " |
| 125 | " ริว ซุนเท<br>[リュウ チュンチェ]   | 22 | " | " | " |
| 126 | " มุน เช็ลลึ<br>[ムン チョルス]    | 27 | " | " | " |
| 127 | " คิม แซอ็อก<br>[キム เชอ็อก]  | 37 | " | " | " |
| 128 | " ซิล ซุนอี<br>[ซิน สุนอี]   | 25 | " | " | " |
| 129 | " เซ ซุนเซ<br>[ชอย สุนเช]    | 21 | " | " | " |
| 130 | " อี้ พิลเซิน<br>[イ ปีลซอน]  | 30 | " | " | " |
| 131 | " ปัก บองซุน<br>[ปาก บองซุน] | 27 | " | " | " |
| 132 | " คิม ฮะเซ<br>[キム ฮาเช]      | 23 | " | " | " |
| 133 | " คัง ตองเย<br>[カン ดอนเย]    | 22 | " | " | " |
| 134 | " คิม คันลึ<br>[キム กานส์]    | 21 | " | " | " |
| 135 | " คิม มุนซุน<br>[キム มุนซุน]  | 28 | " | " | " |
| 136 | " ปัก บองฮัก<br>[ปาก บองฮัก] | 24 | " | " | " |
| 137 | " คิม บองเร<br>[キム บอนเร]    | 29 | " | " | " |



|     |                                  |    |   |   |   |
|-----|----------------------------------|----|---|---|---|
| 138 | // ชิน เซินซุน<br>[シン ソンチュン]     | 22 | " | " | " |
| 139 | // เซิน ซุนเซิน<br>[チョン สุนช็อน] | 26 | " | " | " |
| 140 | // โจ เมียงซุน<br>[ชโย มิยองชุน] | 23 | " | " | " |
| 141 | // คิม เจมเตะ<br>[キム ジョムソ]       | 23 | " | " | " |
| 142 | // ริว ปักนิน<br>[リュウ パクニン]      | 22 | " | " | " |
| 143 | // คิม ซิลรัน<br>[キム シルラン]       | 26 | " | " | " |
| 144 | // คิม เด็กซิด<br>[キム ドクシル]      | -  | " | " | " |
| 145 | // ชะ เม็กจุน<br>[チャ ボクジュン]      | 37 | " | " | " |
| 146 | // ปัก เยิงซุก<br>[パク ヨンスク]      | 27 | " | " | " |
| 147 | // ยุน เจงซุก<br>[ユン ジョンスク]      | 26 | " | " | " |
| 148 | // ชาง ยองอิ<br>[チャン โยไน]       | 24 | " | " | " |
| 149 | // ชิน กูนิม<br>[シン グニム]         | 26 | " | " | " |
| 150 | // เซ จุงอะ<br>[ชโยอิ จุนอา]     | 27 | " | " | " |
| 151 | // อุ โทฮิ<br>[ウ ドヒ]             | 26 | " | " | " |
| 152 | // ยุน มุนอิ<br>[ユン ムナイ]         | 22 | " | " | " |
| 153 | // ซอง ซุนดุม<br>[ซอน สุนดอุน]   | 24 | " | " | " |
| 154 | // ปัก เซ็งโจ<br>[パク ช็องจ็โย]   | 40 | " | " | " |
| 155 | // ปัก อินเต็ก<br>[パク อินโดก]    | 36 | " | " | " |
| 156 | // ฮง อะซุน<br>[ฮง อะซุน]        | 28 | " | " | " |

|     |                                   |    |   |              |   |
|-----|-----------------------------------|----|---|--------------|---|
|     | [ホン アチュン]                         |    |   |              |   |
| 157 | " คิม ยุนจิน<br>[キム ユンソン]         | 26 | " | "            | " |
| 158 | " ซิน เอ็นเซ<br>[シン オンチェ]         | 34 | " | "            | " |
| 159 | " เต็ก บังจูเซ<br>[ドク バンプチェ]      | 27 | " | "            | " |
| 160 | " ฮัน วัลซุน<br>[アン ワンチュン]        | 20 | " | "            | " |
| 161 | " ปัก อินบ็อก<br>[ปาก อินโดก]     | 24 | " | "            | " |
| 162 | " ปัก เต็กซุน<br>[ปาก ดอกチュン]     | 24 | " | "            | " |
| 163 | " คิม เมียงซุก<br>[キム ミヨンスク]      | 25 | " | "            | " |
| 164 | " คิม บ็อกเย<br>[キム ボクイエ]         | 38 | " | "            | " |
| 165 | " คิม ซุนอ็อก<br>[キム チュンオク]       | 28 | " | "            | " |
| 166 | " คิม เมียงฮะ<br>[キム ミヨンハ]        | 26 | " | "            | " |
| 167 | " กู นัมสุ<br>[グ ナムス]             | 26 | " | "            | " |
| 168 | " ปัก เซ็งเมิม<br>[ปาก ช็องแมน]   | 15 | " | "            | " |
| 169 | " คิม ไตซุน<br>[キム ドスン]           | 28 | " | "            | " |
| 170 | " คิม ฮะเซ<br>[キム ハチェ]            | 22 | " | "            | " |
| 171 | " คิม ซุนเซ<br>[キム チュンチェ]         | 25 | " | 1945. 10. 22 | " |
| 172 | " เซ บ็อกซุน<br>[ช็อย บ็อกチュン]    | 24 | " | "            | " |
| 173 | " ยู กิมเจ<br>[ユ ギムジェ]            | 28 | " | "            | " |
| 174 | " เซ็ง ซองเมียง<br>[ช็อง สอนม็อง] | 33 | " | "            | " |

|     |                                 |    |   |              |   |
|-----|---------------------------------|----|---|--------------|---|
| 175 | " เติ้ง ซินเมียง<br>[チョン シンミョン] | 35 | " | "            | " |
| 176 | " โอ แฮบุน<br>[オ ヘブン]           | 26 | " | "            | " |
| 177 | " อี จองเกิล<br>[イ ジョンゲン]       | 25 | " | "            | " |
| 178 | " กัก ซุนอิ<br>[クァク スンイ]        | 31 | " | "            | " |
| 179 | " คิม ซุกเซ<br>[キム スクチェ]        | 30 | " | "            | " |
| 180 | " ฮง ยองเซ<br>[ホン ヨンチェ]         | 24 | " | "            | " |
| 181 | " คิม ซุนเต็ก<br>[キム チュンドク]     | 23 | " | "            | " |
| 182 | " อี เจฮึ<br>[イ ジェヒ]            | 21 | " | 1945. 12. 10 | " |
| 183 | " ปัก ซุนเต็ก<br>[ปาก์ チュンドク]   | 22 | " | "            | " |
| 184 | " มุน อ็อกสุ<br>[ムン オクス]        | 24 | " | "            | " |
| 185 | " อี จินซัง<br>[イ จินซัน]       | 24 | " | "            | " |
| 186 | " โอ เมียงซุน<br>[オ ミョンチュン]     | 22 | " | "            | " |
| 187 | " คิม ปักนัม<br>[キム ปักนาม]     | 26 | " | "            | " |
| 188 | " ชาง จอมซุน<br>[チャン จอมสึน]    | 26 | " | "            | " |
| 189 | " ฮัน ยางซิน<br>[ฮัน ยันซิน]    | 26 | " | "            | " |
| 190 | " อี จองเย<br>[イ จ็องเย]        | 23 | " | "            | " |
| 191 | " ซิน ปักลอน<br>[ซิน บ็อกลอน]   | 30 | " | "            | " |
| 192 | " คิม ซุนอิ<br>[キム ซุนอิ]       | 19 | " | "            | " |
| 193 | " คน ซอมแร<br>[คน ซอมแร]        | 27 | " | "            | " |

|     |                            |    |   |              |   |
|-----|----------------------------|----|---|--------------|---|
|     | [コン ソムレ]                   |    |   |              |   |
| 194 | " บัก ชุนอิ<br>[パク スンイ]    | 19 | " | "            | " |
| 195 | " บัก อ็อกเย<br>[パク オクイエ]  | 24 | " | "            | " |
| 196 | " อี อ็อกชุน<br>[イ オクチュン]  | 23 | " | "            | " |
| 197 | " บัก ยองชุก<br>[パク ヨンスク]  | 22 | " | "            | " |
| 198 | " อัง บุนอิ<br>[アン ブンイ]    | 24 | " | "            | " |
| 199 | " จู รันนิม<br>[ジュ ランニム]   | 23 | " | "            | " |
| 200 | " อี คอนเซ<br>[イ ゴンセ]      | 24 | " | "            | " |
| 201 | " โฮ อ็อกฮี<br>[ホ オクヒ]     | 22 | " | "            | " |
| 202 | " จง โอลอน<br>[チョン オロン]    | 22 | " | "            | " |
| 203 | " จง บุนนิม<br>[チョン ブンニム]  | 23 | " | "            | " |
| 204 | " คิม ไชเซ<br>[キム チョチェ]    | 29 | " | "            | " |
| 205 | " อี เทยอง<br>[イ テヨン]      | 25 | " | "            | " |
| 206 | " เบ็ก นัมจู<br>[ベク ナムジュ]  | 21 | " | "            | " |
| 207 | " คิม จองนิม<br>[キム ジョンニム] | 21 | " | "            | " |
| 208 | " บัก บองชุก<br>[パク ボンチュク] | 20 | " | "            | " |
| 209 | " เบ กวันจิน<br>[ベ グァンジン]  | 19 | " | "            | " |
| 210 | " เซ บ็อกชุน<br>[チョイ ボクスン] | 20 | " | "            | " |
| 211 | " คิม ยองเย<br>[キム ヨンイエ]   | 19 | " | 1946. 01. 16 | " |

|     |                              |    |   |   |   |
|-----|------------------------------|----|---|---|---|
| 212 | ” คิม คุณฮะ<br>[キム グンハ]      | 26 | ” | ” | ” |
| 213 | ” คิม ฮ็อกฮึ<br>[キム オクヒ]     | 27 | ” | ” | ” |
| 214 | ” คิม ฮ็อกชุน<br>[キム オクチュン]  | 22 | ” | ” | ” |
| 215 | ” คิม ฮ็อกลัน<br>[キム オ克蘭]    | 22 | ” | ” | ” |
| 216 | นาง คิม อินชุน<br>[キム インスン]  | 21 | ” | ” | ” |
| 217 | ” คิม ฮ็อกชุก<br>[キム オクスク]   | 27 | ” | ” | ” |
| 218 | ” คิม ฮ็อกเชิน<br>[キム オクチョン] | 24 | ” | ” | ” |
| 219 | ” คิม ชุนเย<br>[キム スンイエ]     | 25 | ” | ” | ” |
| 220 | ” คิม ชีฮอง<br>[キム チホン]      | 24 | ” | ” | ” |
| 221 | ” คิม นัคดู<br>[キム ナクドウ]     | 23 | ” | ” | ” |
| 222 | ” คิม ต็อกชุน<br>[キム ドクスン]   | 30 | ” | ” | ” |
| 223 | ” คิม กุมอิ<br>[キム グンイ]      | 23 | ” | ” | ” |
| 224 | ” คิม เม ฮะ<br>[キム メハ]       | 28 | ” | ” | ” |
| 225 | ” คิม ชุนอี<br>[キム スンイ]      | 23 | ” | ” | ” |
| 226 | ” คิม ต็อกฮี<br>[キム ドクヒ]     | 23 | ” | ” | ” |
| 227 | ” คิม เด เซ<br>[キム デセ]       | 23 | ” | ” | ” |
| 228 | ” คิม กิล เย<br>[キム ギルイエ]    | 28 | ” | ” | ” |
| 229 | ” คิม เตียงชุก<br>[キム ドンスク]  | 31 | ” | ” | ” |
| 230 | ” คิม ยอง เย<br>[キム ヨング]     | 29 | ” | ” | ” |

|     |                              |    |   |   |   |
|-----|------------------------------|----|---|---|---|
|     | [キム ヨンイエ]                    |    |   |   |   |
| 231 | " ขาง ยอง เย<br>[チャン โยนイエ]  | 21 | " | " | " |
| 232 | " ขาง ยอง ชุก<br>[チャン โยnsk] | 29 | " | " | " |
| 233 | " ขาง แททัน<br>[チャン เดตัน]   | 27 | " | " | " |
| 234 | " ขาง เกนดู<br>[チャン กอนส]    | 29 | " | " | " |
| 235 | " ขาง ร็อกกัน<br>[チャン อกกัน] | 31 | " | " | " |
| 236 | " อีชีนัม<br>[อี ชินัม]      | 26 | " | " | " |
| 237 | " อีเกียงอุน<br>[อี กียงอุน] | 27 | " | " | " |
| 238 | " อีแคมอง<br>[อี เกมอน]      | 30 | " | " | " |
| 239 | " อีบ็อกเซิม<br>[อี บอกช็อม] | 26 | " | " | " |
| 240 | " อีอ็อกเซ<br>[อี อกเช]      | 28 | " | " | " |
| 241 | " อีบ็อกเยิน<br>[อี บอกย็อน] | 25 | " | " | " |
| 242 | " อีฮึชุน<br>[อี ฮาชุน]      | 27 | " | " | " |
| 243 | " อีเฮ่นจิ<br>[อี ฮอนย็]     | 24 | " | " | " |
| 244 | " อียุนเย<br>[อี ยุนย็]      | 28 | " | " | " |
| 245 | " อีอ็อกเย<br>[อี อกย็]      | 24 | " | " | " |
| 246 | " อียางชุน<br>[อี ยันชุน]    | 28 | " | " | " |
| 247 | " อีบ็อกดาด<br>[อี บอกดัล]   | 32 | " | " | " |
| 248 | " อีเกียงเซ<br>[อี กียงเช]   | 30 | " | " | " |

|     |                                  |    |   |   |   |
|-----|----------------------------------|----|---|---|---|
| 249 | " อี ชุน อี<br>[イ チュンヒ]          | 25 | " | " | " |
| 250 | " ซง เซน ยิม<br>[ソン チョンイム]       | 26 | " | " | " |
| 251 | " ยุน ชังลิ้ม<br>[ユン ซานริム]     | 28 | " | " | " |
| 252 | " ยุน ชุน เซ็ง<br>[ユン สุนช็อน]   | 35 | " | " | " |
| 253 | " ยุน กิม เซน<br>[ユン กิมช็อน]    | 22 | " | " | " |
| 254 | " เซ็ง ชัง ตอล<br>[ช็อน ซานดอน]  | 22 | " | " | " |
| 255 | " เซ็ง เต็ก ชุน<br>[ช็อน ดอกสุน] | 30 | " | " | " |
| 256 | " เซ็ง เต็ก อิม<br>[ช็อน ดอกอิม] | 19 | " | " | " |
| 257 | " เซ็ง อิล ชุล<br>[ช็อน อิลสุน]  | 24 | " | " | " |
| 258 | " เซ็ง กิล เย<br>[ช็อน กิลเย]    | 29 | " | " | " |
| 259 | " ยู อุน ชุน<br>[ยู อุนสุน]      | 28 | " | " | " |
| 260 | " เจน เยน ฮอง<br>[ช็อน โยนฮอน]   | 23 | " | " | " |
| 261 | " คัง ยิม ปุน<br>[カン イムブン]       | 26 | " | " | " |
| 262 | " คัง ชัง อ็อก<br>[カン ซานอก]     | 28 | " | " | " |
| 263 | " คัง ยอง ชุน<br>[カン โยนสุน]     | 27 | " | " | " |
| 264 | " คัง ชุน เซ<br>[カン チュンเช]       | 25 | " | " | " |
| 265 | " ฮอง ชุน เซ<br>[ฮอน チュンเช]      | 29 | " | " | " |
| 266 | " โล ฮัก เซน<br>[ロ ハクช็อน]       | 22 | " | " | " |
| 267 | " โล ชุน อี<br>[로 ชุนอี]         | 19 | " | " | " |

|     |                               |    |   |   |   |
|-----|-------------------------------|----|---|---|---|
|     | [ロ スンイ]                       |    |   |   |   |
| 268 | " โฉ ซึง ปุน<br>[ロ チャンプン]     | 30 | " | " | " |
| 269 | " ฮังดู ซุนตัก<br>[ハンウ スンドク]  | 29 | " | " | " |
| 270 | " บัก เกียง ซุก<br>[パク ギョンスク] | 40 | " | " | " |
| 271 | " ลิม เก เม<br>[リム ゲメ]        | 31 | " | " | " |
| 272 | " มิน กิล เย<br>[ミン ギルイエ]     | 23 | " | " | " |
| 273 | " ชู มุก เซน<br>[チュ ムクチョン]    | 23 | " | " | " |
| 274 | " กู อ็อก<br>[グ オク]           | 26 | " | " | " |
| 275 | " บัก ซุ<br>[パク ス]            | 22 | " | " | " |
| 276 | " เซ ซุก ฮี<br>[チョイ スクヒ]      | 25 | " | " | " |
| 277 | " เซ อ็อก เซน<br>[チョイ オクチョン]  | 26 | " | " | " |
| 278 | " ซิม กุนเซ<br>[シム グンチェ]      | 25 | " | " | " |
| 279 | " ซิม ซุก เซ<br>[シム スクチェ]     | 20 | " | " | " |
| 280 | " มุน บ็อก นัม<br>[ムン ボクナム]   | 29 | " | " | " |
| 281 | " ซง อ็อก<br>[ソン オク]          | 25 | " | " | " |
| 282 | " โย เซน นิม<br>[ヨ チョンニム]     | 20 | " | " | " |
| 283 | " ยัง เม ฮะ<br>[ヤン ミョンハ]      | 21 | " | " | " |
| 284 | " บัก ซุนอิ<br>[パク スンイ]       | 26 | " | " | " |
| 285 | " บัก เต็ก กุน<br>[パク ドクグン]   | 23 | " | " | " |



|     |                            |    |   |   |   |
|-----|----------------------------|----|---|---|---|
| 286 | ” ไช้ บ็อกเย<br>[チョイ ボクイエ] | 30 | ” | ” | ” |
| 287 | ” ไช้ ชู ปุ่น<br>[チョイ スブン] | 25 | ” | ” | ” |

(注) 1 本表は、タイ語で作成された原典を研究者本人が日本語に翻訳して再構成したものである。原典は付録2を参照。

(注) 2 144番目の朝鮮人女性捕虜の年齢は、未記載のため、「-」で表記。

(注) 3 原典(付録2)を見ると、氏名がハングルや英語ではなく、タイ語で記録されていることがわかる。そのため、日本語のカタカナに表記する際、誤訳の可能性はあるが、可能な限り当時の朝鮮人の名前を考慮し訳した。

(注) 4 原典において、朝鮮人女性の名前の前には、女性であることを表すタイ語「นาง(英語のMiss若しくはMrs.の意味)」は、全員についていたため、日本語に翻訳する際には、省略した。

(出所) タイ国立公文書館 「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人] 」 212-216頁。

表33の作成時に省かれた情報ではあるが、原典(付録2)において、朝鮮人女性たちの国籍は全員「เกาหลี〔韓国〕」と記載されており、また、職業は「นางพยาบาลผู้ช่วย〔看護婦補助〕」と記録されていた。これは、付録2に記録された朝鮮人女性捕虜294人全員に該当していた。

また、表33を見れば、タイの捕虜収容所に集められていた287人の朝鮮人女性捕虜は、全員「กองเสนารักษากองทัพบก [日本軍医療看護部隊]」所属していたということがわかった。

つまり、同史料に記録された朝鮮人女性捕虜たちは、本来タイに駐屯していた日本軍の医療看護部隊に所属していた看護婦補助だったということである。更に、彼女らは幾つかの異なる日本軍部隊に所属し、共に生活していたとみられる。

それは彼女らが戦後、日本軍部隊から集められ、タイの捕虜収容所に収容された日付から推測することができる。タイの捕虜収容所における朝鮮人女性たちの収容は、終戦約1ヵ月後である1945年10月07日から始まり、その後、同年10月16日、10月22日、12月10日、1946年1月16日と5回に渡り行われていた。

このような朝鮮人女性の収容は、前述のタイ政府による戦犯探しの過程の中で行われ、当時、日本軍部隊に所属していた元朝鮮人軍人軍属と同部隊に所属していた朝鮮人女性も逮捕されるようになったのである。また、同作業は部隊単位で行われていたため、各収容時期において、共に収容された朝鮮人女性たちは、同じ部隊から集められたと見られ、彼女らは1946年5月13日、朝鮮半島へ送還されるまで、約4～7ヵ月間、

タイの捕虜収容所において生活していたのである。

#### 4. 日本軍に動員された慰安婦女性と日本軍医療看護部隊の看護婦

戦後、タイの捕虜収容所に収容された朝鮮人女性287人が全員、日本軍の医療看護部隊に所属していた看護婦補助だったということは、表33を通じてわかったことである。

このように、タイ政府によって作成された朝鮮人女性の送還者名簿の中において、287人の朝鮮人女性たちが日本軍所属の看護婦補助であると記録されている部分は、一見、彼女らが負傷した兵士を治療する医療班の看護婦のように見せているが、実は、これが287人の朝鮮人女性たちの中に、日本軍に動員された慰安婦女性が存在したということを表す部分である。

それは、日本が朝鮮を植民統治していた時期、或いは第二次世界大戦の終戦後に作成された元朝鮮人慰安婦女性に関する先行研究や関連史料の中から確認することができるが、当時、日本軍に動員された慰安婦女性たちは、海外へ渡る際に作成された名簿において、慰安婦ではなく、看護婦として記録されていたためである。

南方地域に位置する日本の占領地、トラック島に渡った元慰安婦女性を中心に、第二次世界大戦中の慰安婦女性に関する歴史を研究した広田（2009）は、元日本人慰安婦女性、菊丸の証言を基に、日本軍に動員された元慰安婦女性たちの契約期間は、1年半とされており、彼女らは日本海軍省の管理の下に置かれ、『特殊看護婦』と呼ばれていたと述べた<sup>70</sup>。

同書によると、第二次世界大戦中に日本軍に動員された元日本人慰安婦女性、菊丸の名前は、名簿上『特殊看護婦』と記載されたという。その上、菊丸は、彼女を日本の海軍に仲介した人からも日本軍の看護婦として働くという案内を受けていたことから、自らを日本軍の軍属と理解し、それを誇りに思っていた。しかしながら、菊丸の思いとは裏腹に、実際のところ、特殊看護婦が軍属として扱われた例はないと広田（2009）は述べた<sup>71</sup>。

このような元慰安婦女性、菊丸に関する歴史は、元日本人慰安婦女性の事例ではあるものの、日本軍に動員され、海外へ向かった元慰安婦女性たちが関連名簿上、看護婦として記録されたということを示す例である。

それでは、同時期に、日本軍に動員された元慰安婦女性の中で、朝鮮人女性の場合は、どうだったのだろうか。関連史料や先行研究の中からは、元朝鮮人慰安婦女性の

---

<sup>70</sup> 広田和子（2009）「証言記録 従軍慰安婦・看護婦」[キンドル版]、検索元 amazon.com、第1章、1-4節、7段落目を参考。

<sup>71</sup> 広田、前掲注（70）、7-8段落目を参考。

場合、菊丸のような元日本人慰安婦女性とは異なり、初めから『特殊看護婦』と記録されたという例よりは、戦後処理過程の中で、日本軍の看護婦に編入されたという事例が見られている。

前述の菊丸のように、第二次世界大戦中、日本軍の慰安婦として動員された朝鮮人女性たちは、次々と日本軍の占領地へ送られていった。彼女らは、渡航先における日本軍慰安所に送られていたのだが、第二次世界大戦の終戦後、戦後処理過程の中で、日本軍は、それまで日本軍に動員され、アジア諸国へ渡っていた元朝鮮人慰安婦女性たちを看護婦として記録した。このように元朝鮮人慰安婦女性たちが日本軍の看護婦として記録された事例は、東南アジア地域における元朝鮮人慰安婦女性の歴史研究からも確認することができる。

その例として、カン（2011）の研究が挙げられる。日本軍によって、インドネシアのパレンバンにまで動員された元朝鮮人慰安婦女性たちを研究したカン（2011）は、日本の政府記録に加え、当時、インドネシアのパレンバンに動員されていた元朝鮮人慰安婦女性たちの証言記録を基に、第二次世界大戦中、同地域において、日本軍の慰安婦生活を強いられていた朝鮮人女性たちが、戦後間もない1945年8月22日、日本軍の南方第9陸軍病院の臨時看護婦に編入させられたと述べた。

また、日本軍のこのような戦後処理過程の中における、元朝鮮人慰安婦女性の臨時看護婦への編入は、同時期、海外に渡っていた元朝鮮人慰安婦女性に関する研究の中においても述べられている<sup>72</sup>。

日本軍が元朝鮮人慰安婦女性を戦後、日本軍管理下の慰安婦女性として記録せずに、日本軍部隊の軍病院に所属した看護婦として記録した目的はさておいて、これは戦後、それまで海外に動員されていた元朝鮮人慰安婦女性たちが記録上は、日本軍部隊の病院で働いていた臨時看護婦として表れているということを示している。

これと同様な記録方法がタイに渡った元朝鮮人慰安婦女性に関する史料の中からも見られている。第二次世界大戦中、日本軍が駐屯していたタイにおいても、日本軍の慰安所が開設されていた上、実際、後述する文玉珠のように、日本軍の慰安所において慰安婦生活を強いられていた朝鮮人女性が存在したのにも拘わらず、タイに渡った朝鮮人女性たちが本国へ送還された際に作成された名簿の中には、慰安婦女性や慰安婦生活に関する記録は見当たらず、全員、日本軍医療看護部隊の看護婦補助として記録されていたのである。

---

<sup>72</sup> 元朝鮮人慰安婦女性が第二次世界大戦の終戦後、日本軍による戦後処理過程の中で、日本軍の看護婦として編入されたと述べられた関連研究としては、森川万智子（1996）『文玉珠 ビルマ戦線楯師団の「慰安婦」だった私』梨の木舎；吉見義明（2016）「ある元日本軍「慰安婦」の回想（6）-金福童さんからの聞き取り-」『中央大学論集』第37号、207-241頁などがある。

更に、付録2においては、朝鮮人成人女性捕虜287人の他にも、朝鮮人女児6人が同名簿に記録されたが、全員5歳以下の幼児だったのにも拘わらず、彼女らの職業が他の朝鮮人成人女性捕虜287人と同様に、看護婦補助と記録されている。5歳以下の幼児たちが日本軍の医療看護部隊において兵士を治療する看護婦として働いていたはずはないため、日本軍部隊に住していた朝鮮人女性が戦後、タイの捕虜収容所に集められた際には、全員、日本軍の医療看護部隊に所属していた看護婦補助と記録されたと見られる。

これはつまり、戦後、タイ政府によって作成された女性の送還者名簿において、日本軍の医療看護部隊所属の看護婦補助であると記録された287人の朝鮮人女性たちの中にも、戦後、日本軍によって、日本軍の慰安婦だった女性が、看護婦補助として記録された者が存在したということの意味している。

それでは、このように当時、日本軍に動員され、タイに渡った元朝鮮人慰安婦女性たちが戦後処理過程の中で、日本軍医療看護部隊の看護婦補助として記録されていたのであれば、表33の女性の送還者名簿に記録された287人の朝鮮人女性たちは、全員、日本軍に動員されていた慰安婦女性だったのだろうか。それとも、この287人の中には、最初から日本軍に看護婦として動員され、タイに渡った女性も存在すれば、慰安婦としてタイに渡ったが、戦後、日本軍医療看護部隊の看護婦に編入された朝鮮人女性も存在したのだろうか。若し、実際、看護婦としてのみ働いていた朝鮮人女性と元慰安婦女性だった朝鮮人女性たちが混在して記録されたのであれば、女性の送還者名簿に記録された287人の中における元から看護婦だった朝鮮人女性と元から慰安婦だった朝鮮人女性の比率はどうだったのだろうか。

このような疑問を解くためには、より豊富な関連史料や証言記録が裏付けられなければならないものの、現存する史料の中で、この疑問を説明することができる史料は、極めて少ない。

ところが、日本の朝鮮統治期、東南アジア地域に動員された元朝鮮人慰安婦女性に関する先行研究を見ると、抑々、表33に記録された287人の朝鮮人女性を、日本軍に動員された慰安婦女性だったのにも拘わらず、戦後、日本軍の看護婦として編入させられた朝鮮人女性と、初めて日本軍に動員された時点から看護婦だった朝鮮人女性たちを区分する必要があるのかという疑問を抱かざるを得なくなる。それは、日本軍の慰安婦として動員され、東南アジア地域に向かった朝鮮人女性たちが実際のところ、日本軍の病院において、看護婦として働いていた記録も存在し、その反対の場合を記録したものも存在するためである。

前述の広田（2009）は、研究の中で、「（元日本軍の慰安婦女性だった）菊地さんや永安さんと同じ、虎林の病院にいた堀喜身子さんの班では、ソ連側の病院に応援に

でた看護婦が、実は慰安婦にされており、そのことをきっかけに、二十二名の看護婦が自殺するという事件が起きた」<sup>73</sup>と述べた。

これは日本軍に動員された日本人の看護婦女性が、慰安婦になることを強要されていたということを見せる事例ではあるものの、日本人女性看護婦でさえ、慰安所において性行為を強いられていたのであれば、当時、日本人より惨憺たる扱いをされていた元朝鮮人看護婦に関しては言うまでもなかつたろう。

しかしながら、日本の植民地支配下にあった朝鮮において、日本軍によって動員された朝鮮人女性の場合、現存する彼女らの証言記録やそれを基に書かれた先行研究の中には、本来、看護婦として動員された朝鮮人女性が、後に売春を強いられたという事例はあまり見当たらないが、日本軍によって慰安婦として動員された朝鮮人女性が現地において看護婦の役割も兼任していたという事例は見られている。

これは、日本人女性とは異なり、日本軍の看護婦として動員された朝鮮人女性の数より、慰安婦として日本軍に動員された朝鮮人女性の数が圧倒的に多かったためであると考えられる<sup>74</sup>が、いずれにせよ、同時期、日本軍に動員され、海外に渡った朝鮮人女性が日本軍の慰安所においても、軍病院においても働いていたと見られる。

元朝鮮人慰安婦が実際、日本軍の病院において看護婦の仕事も兼ねていたという記録は、関連研究から見つけることができる。まず、吉見（2016）は、元朝鮮人慰安婦女性だった金福童の証言記録を基に研究を行った。

彼の研究によると、日本軍に慰安婦女性として動員された朝鮮人女性、金福童は、1945年8月、シンガポールにおいて、日本軍の南方第10陸軍病院で看護婦補助に編入されたという<sup>75</sup>。

---

<sup>73</sup> 広田、前掲注（70）、第2章、2-3-3節、1段落目から引用。

<sup>74</sup> 日本軍に動員された従軍看護婦には、日本赤十字や陸海軍が動員した看護婦などが存在するが、太平洋戦争の戦況が悪化する前までは、日本人女性にも厳しい試験が行われていたため、朝鮮人女性の中で、その試験に合格し、日本軍の従軍看護婦になることは容易ではなかったと考えられる。日本に動員された元朝鮮人従軍看護婦を研究したシン（2011）は、1942年末に行われた看護婦採用試験においては、日本人と朝鮮人を合わせ313人の女性が志願したが、93人が合格し、その内、朝鮮人は、16人だったと述べている。この例のように看護教育を受け、試験によって採用された従軍看護婦の数は、表33などにおいて、参考にした元朝鮮人慰安婦女性の数より、圧倒的に少ない。しかしながら、前述のように、第二次世界大戦の末期、元朝鮮人慰安婦女性が臨時看護婦などとして編入させられていたため、豊富な史料を用いて初めから看護婦として動員されていた朝鮮人女性の正確な数を把握することは困難である。

<sup>75</sup> 吉見義明（2016）「ある元日本軍「慰安婦」の回想（6）-金福童さんからの聞き取り

金福童は、その後、日本軍の第10陸軍病院に送られ、看護訓練を受けた後、現場において兵士たちに注射を打ったり、薬を飲ませるなど、患者の簡単な手当てにあたっていた<sup>76</sup>。また、同研究の中には、彼女が日本軍の陸軍病院において、看護婦の格好をして、慰安婦だった仲間たちと共に撮った写真が日本の博物館に日本人看護婦として間違えて展示されていた逸話も紹介されている<sup>77</sup>。

その他にも韓国挺身隊問題対策協議会及び韓国挺身隊研究会によって発刊された「강제로 끌려간 조선인 군위안부들 [強制的に連れ出された朝鮮人軍慰安婦達]」<sup>78</sup>によると、日本軍に慰安婦として動員された朝鮮人女性たちが実際、日本の陸軍病院などにおいて看護婦の格好をし、負傷した兵士の世話をしながら、簡単な治療も行っていたということがわかる<sup>79</sup>。

このような日本軍の慰安婦だった朝鮮人女性たちの証言記録を見ると、日本軍に動員された元朝鮮人慰安婦女性たちが、単純に名簿上、看護婦として編入されていたのではなく、実際、看護婦としての業務にもあたっていたということがわかる。

また、元朝鮮人慰安婦女性だった文玉珠の証言を基に研究を行った森川（1996）は、文玉珠が他の朝鮮人慰安婦女性たちとタイのバンコクに向かった際、簡単な口頭試験を受けた後、タイのアユタヤに位置する日本軍の陸軍病院に配属されたと述べた。文玉珠は、配属されたアユタヤの陸軍病院において、実際、看護婦としての教育を受け、マラリアやデング熱患者に薬を投与したり、熱を測るなど患者の手当てにあたっていたと述べた<sup>80</sup>。

同書で述べられたこの文玉珠という女性は、名前及び年齢を考慮すれば、表33の184番に記録された女性に当たる人物であると見られる。森川（1996）の研究及びタイ政府によって作成された朝鮮人女性の送還者名簿（表33）を基に考えると、初めは日本軍の慰安婦として動員された文玉珠は、戦後、日本軍の病院において看護婦補助として働いた女性だったと記録されたが、彼女は、ただ名簿上の看護婦だったのではな

---

-」『中央大学論集』第37号、207頁参照。

<sup>76</sup> 吉見、前掲注（75）、210頁参照。

<sup>77</sup> 吉見、前掲注（75）、240頁参照。

<sup>78</sup> 元朝鮮人慰安婦女性たちの実際の体験談が語られており、1993年に最初の第1巻が発刊された以来、現在は第4巻まで発刊されている証言集。特に中でも第2巻において紹介された「강무자 [カン・ムジャ]」、「손관임 [ソンパンイム]」などは、実際、元朝鮮人慰安婦女性だった彼女らが、病院において負傷兵の治療にもあたっていたと証言している。

<sup>79</sup> 当時、朝鮮人慰安婦女性たちが看護婦として日本軍の病院において働いていた彼女らの主な業務は、薬の投与をはじめ、包帯巻き、洗濯、汚物の掃除などの雑用だった。

<sup>80</sup> 森川万智子（1996）『文玉珠 ビルマ戦線楯師団の「慰安婦」だった私』梨の木舎を参考。

く、実際、看護婦の業務も担っていたことがわかる。

これはつまり、他の東南アジア地域に向かった元朝鮮人慰安婦女性たちと同様に、同時期、タイに移住した朝鮮人女性たちも慰安所においてのみならず、日本軍の病院においても働いていたということを裏付けていると言えるのではないだろうか。

## 5. 小結

植民統治下、日本軍に動員され、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属の証言や日本軍によって作成された史料を基に、同時期の他の日本軍占領地と同様に、タイ現地においても、日本軍の慰安所は開設されていたということが確認された。

更に、タイで開設されていた日本軍の慰安所において、慰安婦生活を送った元朝鮮人慰安婦女性が存在したということも、実際、タイにおける日本軍の慰安所に送られたことのある朝鮮人女性の証言記録や関連史料の中から探ることができた。

このように、元朝鮮人軍人軍属や元朝鮮人慰安婦女性たちの証言記録からは、タイにおいて開設された日本軍の慰安所、若しくはその慰安所に送られた朝鮮人女性の存在を確認することができるが、第二次世界大戦の終戦直後、タイ政府によって記録された朝鮮人捕虜の女性の送還者名簿の中には、慰安婦という職業を持つ朝鮮人女性の存在は見当たらなかった。

同朝鮮人捕虜の女性の送還者名簿の中には、287人の朝鮮人女性捕虜の名前や年齢などが記録されていたが、彼女らは所属及び職業において全員、「กองเสนารักษากองทัพบก [日本軍医療看護部隊]」の「นางพยาบาลผู้ช่วย [看護婦補助]」と記録されていた。

ここで、同史料を基に考えると第二次世界大戦が終わるまでタイに移住した朝鮮人女性は、全員、日本軍に所属していた看護婦補助だったということになるが、前述のように、日本軍に動員され、タイに渡った元朝鮮人慰安婦女性に関する記録は存在する。それでは、戦後、タイ政府によって作成された朝鮮人女性の送還者名簿から、日本軍に動員された元朝鮮人慰安婦女性の存在は何故見当たらないのだろうか。

その答えを当時、他の東南アジア地域に動員された元朝鮮人慰安婦女性の事例から探ることができた。インドネシアなど日本軍の占領地に動員された元朝鮮人慰安婦女性たちは、戦後行われた戦後処理過程の中で、日本軍によって日本軍病院の看護婦として記録されるようになった。そのため、日本の朝鮮統治期、日本軍に動員された元朝鮮人慰安婦女性の中には、記録上、日本軍所属の看護婦として記録された女性も存在したのである。

つまり、日本軍によってタイにまで動員された元朝鮮人慰安婦女性たちも、このような流れの中で戦後、日本軍の看護婦に編入されていたため、彼女らが本国へ送還さ

れた際、タイ政府によって作成された朝鮮人女性の送還者名簿において、彼女らの職業が全員、日本軍医療看護部隊所属の看護婦補助として記録されていたのである。

それでは、果たして朝鮮人女性の送還者名簿に記録された287人の朝鮮人女性の中に、実際のところ日本軍に所属していた看護婦女性は何人存在し、本来は慰安婦女性だったのにも拘わらず、戦後、看護婦として記録された女性は何人存在したのかという疑問も浮かぶが、当時、タイにおいて慰安婦生活を送った朝鮮人女性の証言記録を見ると、彼女らは単純に名簿上だけの看護婦ではなかったということがわかる。

日本軍に動員され、タイに渡った元朝鮮人慰安婦女性たちは、第二次世界大戦の末期、実際、タイ現地における日本軍病院に送られ、看護訓練を受けた後、看護婦の服を着て、負傷兵の簡単な手当てや雑用を担っていたのである。

つまり、日本軍のタイ侵攻の下、タイに渡っていた287人に上る朝鮮人女性たちは、タイ現地における日本軍の慰安所において、男性の性的欲求を充足させられていただけではなく、日本軍の病院の中において、負傷した兵士の簡単な手当てや雑用も強いられ、日本軍に所属していた軍人軍属男性の身も心も癒すことを強要されていた慰安婦女性たちだったのである。



## 第6章 終戦後の在タイ朝鮮人移住民

これまで、日本、韓国、タイの3カ国における各国の国立公文書館などに所蔵されている現存の史料を基に、日本の朝鮮統治期、タイに移住した朝鮮人移住民の存在を探ってみた結果、1945年まで、タイに移住した朝鮮人には、高麗人参商人、朝鮮独立運動家、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性が存在したということがわかった。

日本が朝鮮半島を支配し始めた1910年から、朝鮮が日本の植民地支配から解放された1945年8月までの時期における朝鮮人の海外移住傾向から、タイに移住した朝鮮人数を把握するため、日本の外交史料館に所蔵されている「海外在留本邦人職業別人口調査一件」及び関連統計記録などに記録された朝鮮人数を集計してみた。その結果、同時期における朝鮮人のタイ移住は、1911年から行われ始めていたということを確認することができた。

東南アジア地域としては唯一、タイにおいてのみ、日本の韓国併合が行われた翌年である1911年から朝鮮人の移住が確認されたが、同史料を基に考えると、東南アジア各地域の中で、最も早い時期から朝鮮人の移住が行われた地域はタイだった。

この日本政府によって作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」及び関連統計記録などは、第二次世界大戦が勃発した1939年までにおける記録のみが残っていたため、同史料を基に、それ以降の時期における朝鮮人海外移住民数を把握することは不可能だった。それでもなお、1910年から1939年まで、約30年間の朝鮮人のタイ移住傾向を見てみると、同時期、タイに移住した朝鮮人数の累計は、187人と集計され、毎年、平均約6.2人の朝鮮人がタイに滞在していたということが分かった。

また、日韓の一次史料を基に、彼らが主にタイにおいて高麗人参を販売していた商人だったということを確認することができたが、同時期、中国大陸や他の東南アジア地域などにおいて、高麗人参を販売していた朝鮮人商人たちの中には、朝鮮独立運動の支援、若しくは朝鮮独立運動関連活動を展開していた人物が存在したという点を踏まえて、タイに移住した朝鮮人独立運動家の存在と彼らの高麗人参商人との関係を探るために更なる史料の検討を行った。

当時のタイ現地の事情を知る朝鮮人によって作成された日誌や新聞記録などの史料の中には、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人独立運動家たちの存在を確認することができた。

また、公式的には日本の国民だった朝鮮人が合法的な方法で海外へ渡るためには、朝鮮を支配していた日本政府から、必ず海外渡航の許可を得て、身分証明書となる旅券を発給及び所持しなければならなかった。その際、旅券の発給機関であった日本政

府によって記録された旅券下付表には、同時期、タイに渡っていた朝鮮人移住民の氏名や渡航目的などが記載されていた。

同旅券下付表の中からは、日本の朝鮮統治期、タイに渡った朝鮮人高麗人参商人112人の名前を確認することができたが、彼らの名前を朝鮮独立運動関連史料や関連研究の中から探ってみると、この112人の内、32人の高麗人参商人が朝鮮独立運動関連活動を展開していた履歴がある人物であるということがわかった。

彼らの中には、韓国臨時政府に所属し朝鮮独立運動を展開していた者やその朝鮮独立運動を支援していた東亜日報の記者として活動した者も存在した。また、朝鮮独立運動関連活動を展開したことにより、日本の警察に逮捕され、刑事裁判を受けた者も存在した。

即ち、同時期、海外各地に移住した朝鮮人高麗人参商人が朝鮮独立運動を支援、若しくは独立運動関連活動を展開していたように、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人も朝鮮独立運動に関わっていたのである。このように、タイに移住した112人の朝鮮人の中で、朝鮮独立運動に関わっていた朝鮮人は、記録として残っている者だけで32人と集計されているものの、当時、朝鮮独立運動関連活動が日本政府の監視を避けて、秘密裏に行われていたということを踏まえて考えると、タイに移住した高麗人参商人兼独立運動家だった朝鮮人の実際の数は、32人より多かった可能性が高いと考えられる。

このように1910年から1939年まで確認されてきた高麗人参商人兼独立運動運動家だった朝鮮人のタイ移住は、第二次世界大戦の勃発により、その記録が途絶えるようになった。現時点において確認することが可能な第二次世界大戦後におけるタイ移住朝鮮人独立運動家に関する記録は、戦後タイ政府による朝鮮人の本国送還時に作成された朝鮮人捕虜の送還者名簿に記録された金鐵拳及び彼が率いていた朝鮮人約70人であった。

同記録において、金鐵拳と共にタイの捕虜収容所に収容されていた約70人の朝鮮人たちに関する名前以外の詳細な情報は記録されていないものの、タイの捕虜収容所の中で、彼らの面倒を見ていた金鐵拳という人物が韓国独立党の中国支部からタイに派遣された自衛団の団長であったということを金鐵拳がタイの捕虜収容所に渡した名刺から確認することができた。この点を踏まえて考えると、彼らは何らかの形で朝鮮独立運動に関わっていたと見られるが、彼らの独立運動関連活動を証明する一次史料は未だに見当たらない。

一方、この朝鮮人捕虜の送還者名簿が記録されている史料集の中には、朝鮮人独立運動家のみならず、元朝鮮人軍人軍属の名簿や朝鮮人男性とは区別される元朝鮮人慰安婦女性だったと見られる朝鮮人女性の送還者名簿も存在する。

同史料を通じて、1941年12月に行われた日本軍のタイ侵攻の後、日本軍と共にタイに移住した朝鮮人に関する記録を確認することができた。第二次世界大戦中、タイに移住した朝鮮人は、主に元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性だったが、その数はそれぞれ、約1,000人と約280人だった。終戦時まで日本軍と共にタイに移住した朝鮮人数は、1945年まで同地域に移住した朝鮮人高麗人参商人兼朝鮮人独立運動家の数を遥かに上回っていた。

それでは、このように第二次世界大戦の終戦時まで、日本の帝国臣民としてタイに移住した朝鮮人たちは、戦後、どうなったのだろうか。本章では、戦後、タイ政府による朝鮮人の送還政策が実施された後から、タイに残留した朝鮮人たちによって在泰韓国韓人会が形成されるようになった1964年までにおける朝鮮人のタイ移住史を探っていききたい。

## 1. 戦後のタイにおける朝鮮人高麗人参商人

日本政府の旅券下付表や朝鮮人の個人記録などを通じて、日本の朝鮮統治期、タイに移住した朝鮮人高麗人参商人の存在を探ってみた結果、日本による韓国併合が行われた1910年以前から、既にタイに渡っていた朝鮮人高麗人参商人が確認され、1910年代には、毎年約10人前後の朝鮮人が高麗人参を販売するため、タイに移住していたということがわかった。

しかし、彼らの痕跡は第二次世界大戦の終戦後、途絶えるようになった。前述のタイ政府によって作成された送還者名簿においても、朝鮮人高麗人参商人に関する記録は見当たらず、1945年以降、タイにおいて高麗人参を販売し続けていたという記録も、今のところ確認されていない。

同時期に、東南アジア地域において、活動していた朝鮮人独立運動家を研究した金度亨（2008）は、タイに初めて移住した朝鮮人とされてきた李慶孫がタイに移住した後、高麗人参を販売していたと述べた<sup>81</sup>。その際、根拠史料として挙げられたのが、朝鮮の独立思想、学問の研究、宣伝などを目的として発刊され始めた『東光』という雑誌の第39号に掲載された1932年11月01日の記事「내가 본 上海의 李慶孫氏 [私が見た上海の李慶孫氏]」<sup>82</sup>である。

---

<sup>81</sup> 金度亨、前掲注（35）、219頁。

<sup>82</sup> 朱耀翰（1932年11月01日）「내가 본 上海의 李慶孫氏 [私が見た上海の李慶孫氏]」『東光』第39巻、92頁から参考。原典は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_014\\_0380\\_0430&position=-1#](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_014_0380_0430&position=-1#)」において確認可能（最終閲覧日：2021年07月14

同記事の中には、以下のように書かれている部分がある。

「그후 氏は 上海를 떠나서 印度로 갔다느니 또는 上海에서 어떤 오페라團의 舞臺監督으로 잇다느니 또는 刺繡商을 한다느니 여러 가지 風聞이 들리나 어느 것이 的確한 것인지는 알 수 없다 [その後、(李慶孫)氏は上海を離れ、印度に向かったとか、または上海のあるオペラ団の舞台監督を務めているとか、または刺繡商をしているとかという色々な噂は聞こえてくるが、どれが本当なのかはわからない]」(朱 1932、P.92)

このように金度亨(2008)の研究において、李慶孫がタイに移住した後、高麗人参を販売していたと述べられたのとは異なり、参考資料として挙げられた史料の原典においては、李慶孫がタイにおいて高麗人参を販売していたという記述は見当たらない。これは何かの読み間違いか、彼らの個人的な意見だろう。更に、第二次世界大戦の終戦後もタイに居住し続けた李慶孫が戦後、タイにおいて高麗人参を販売していたという史料も今のところ見当たらないため、彼が高麗人参商人だったのかは定かではない。

それでは、日本の朝鮮支配期、タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人高麗人参商人の中には、第二次世界大戦の終戦後、タイに残って、定着し続けた者は、存在しないだろうか。

戦後におけるタイ移住朝鮮人高麗人参商人に関する歴史を関連史料や研究から探してみたが、結果から先に述べると、戦後、タイに残った朝鮮人高麗人参商人は、存在しないということである。タイにおいて高麗人参を販売していた朝鮮人商人に関する戦後の史料が今のところ見当たらないという点もその理由であるものの、それよりも重要な理由は、朝鮮人高麗人参商人のみならず、日本の植民地支配から解放された朝鮮半島内の情勢の変化にある。

抑々、日本の支配下において、彼らがタイにおいて高麗人参を販売していた本来の理由は、朝鮮独立運動活動に必要な資金を集めるためであった。しかしながら、戦後、朝鮮が独立したことにより、彼らは最早、朝鮮独立運動に必要な資金を収集する必要はなくなり、彼らの移住目的も達成されたといえるのである。

その上、同時期、海外各地において朝鮮独立運動を展開していた朝鮮人移住民が国家再建のため、朝鮮半島への帰還を急いでいた中、朝鮮独立運動に関わっていた在タイ朝鮮人高麗人参商人も朝鮮半島へ帰還したのではないかと考えられる。

ところが、ここで朝鮮が独立した後も、タイにおいて高麗人参を販売し続けたいと

---

日)。

考えた人、若しくは、個人的な希望ではなくとも、日本の植民地支配から独立した朝鮮半島において国家を再建するために必要な資金を調達することを目的として、政府機関に命じられ、タイで高麗人参の販売を続けていた人が存在した可能性は十分にある。

それは高麗人参自体が非常に付加価値の高い商品である故、莫大な利益を創出することが可能であったためであるが、理由はともあれ、終戦後、タイにおいて高麗人参を販売し続けるのは不可能だったと見られる。その理由は、高麗人参の生産地である朝鮮半島からの供給が円滑に行われなかったことにある。戦後、朝鮮半島から海外へ輸出する高麗人参の生産に問題が生じるようになった原因をイ（2017）の研究の中から探ることができる。

1945年から1958年までの間の開成地域を中心とする朝鮮半島内における、高麗人参業の歴史を研究したイ（2017）は、同時期の高麗人参生産業が衰退するようになった理由が主に4つの変化によるものだったと述べている。それは、①戦後、海外販売経路の途絶、②独立後の朝鮮半島内における情勢混乱、③専売制を巡る米軍政庁との対立、④生産業者と政府間のコミュニケーション不足である<sup>83</sup>。

まず、同時期、タイにおいて販売されていた高麗人参の朝鮮半島からの流通経路が第二次世界大戦の終戦後、途絶えたことにより、朝鮮半島内で生産された高麗人参をタイに流通する方法がなくなったのである。

第二次世界大戦が終わるまで、朝鮮半島からタイへの高麗人参販売は、主に二つの流通経路を通じて行われていた。当時、専売権を持っていた朝鮮総督府が朝鮮半島内で生産された高麗人参を収集し、三井物産などのような日系企業を通じてタイにまで運び、販売していた経路と、朝鮮人がその朝鮮総督府の監視を避けて、密かに海外へ持ち出し、販売した経路がそれである。

戦後、それまで維持されていた朝鮮総督府及び日系企業による流通経路は、朝鮮が独立し、日本の植民地政府が朝鮮半島から撤退したことにより途絶えるようになった。一方、朝鮮人が個人的に海外へ持ち出して、タイにおいて販売していた高麗人参は、主に香港や台湾などに設けられていた中間拠点を経由してタイにまで渡っていた<sup>84</sup>が、戦後、それまで中間拠点となっていた中国地域の情勢混乱により、タイまでの流通経路を設けることが容易ではなくなったのである。それに加え、戦後、南北に分かれた韓国と北朝鮮の両国政府は、朝鮮半島から持ち出された高麗人参を香港において、各国の国内で不足だった生活物資との物々交換にあてていたため、タイにまで渡る以前

---

<sup>83</sup> イ・ジュンヒー（2017）「1945~1958년 개성 인삼업의 재편과 사회주의화 [1945~1958年開成の人参業の再編と社会主義化]」『東方學志』第179集、81~109頁から参考。

<sup>84</sup> 金度亨、前掲注（35）、213-216頁から参考。

に消費されるようになった。

二つ目の理由である朝鮮半島内における情勢の混乱は、高麗人参の生産に大きな影響を与えた。第二次世界大戦が終わり、日本の植民地支配から解放された朝鮮半島内では、アメリカを中心とする資本主義陣営の支援を受ける南側の勢力とソヴィエト連邦を中心とする共産主義陣営の支援を受ける北側の勢力の対立が続き、挙句の果てには、1950年、朝鮮戦争の勃発という悲惨な結果につながった。

このような状況の中で、朝鮮半島の北側に樹立された共産主義政権の支配から逃れ、北側から南側に樹立された韓国へ移動する高麗人参生産業者が現れた。その結果、それまで朝鮮半島内において、高麗人参の生産及び販売の中心地となっていた北朝鮮側の開成や義州などから、高麗人参の生産や販売のノウハウを持っていた関連業者の空白現象が起きた。

それだけではなく、朝鮮半島の各地において南北両軍の武力衝突が発生したことにより、それまで高麗人参が生産されてきた土地も荒らされるようになった。種を植えてから、紅参という高麗人参を加工した形で出荷されるまで、最低でも6年以上の長い生産期間を要する高麗人参の栽培の特性上、一度荒らされた栽培地で高麗人参の生産を通常の状態に復旧させるのは容易ではなかった。

その上、南北間の武力衝突による、朝鮮半島内の民間経済状況の悪化は、高麗人参の盗掘犯の増加を招き、それだけでなくとも減りつつあった高麗人参の生産量は、更なる減少を迎えた。

三つ目の理由である米軍政と高麗人参の生産業者との対立も、高麗人参の生産量の減少を深刻化させる一因となった。第二次世界大戦の終戦後、朝鮮半島の38度線以南の地域を治めるようになった米軍政は、朝鮮総督府と同様に、高麗人参の専売制を実施した。高麗人参の生産業者及び彼らが結成した組合は、米軍政のこのような政策に反発していたため、両者間の対立が続いたが、その課程の中で米軍政が高麗人参生産業者の資金に制約をかけ、高麗人参を生産するのに必要な資金が円滑に循環されなくなった。

最後に、このような状況の中、当時の韓国政府は、許可を得た生産者にのみ、高麗人参の栽培を認めるという政策を掲げた。ところが、その過程の中で、政府機関と生産業者との間でコミュニケーションが適切に取られず、それまで高麗人参を栽培し続けてきた業者が政府の許可を得られない状況が生じた。当然、韓国政府は無許可で高麗人参の生産を続けていた生産業者を取り締まり、これは自然に高麗人参の生産量の減少につながった。

このような戦後の朝鮮半島における情勢の変化は、高麗人参の生産量のみならず、栽培地の減少という結果をもたらした。その例として、高麗人参の主な生産地の一つ

だった開成地域の1945年から1950年までにおける高麗人参の生産量の変化を検討してみると、以下のようなものである。

表34 開成地域における高麗人参生産量の変化（1945-50年）

| 年度    | 本圃      |         | 苗圃      |         |
|-------|---------|---------|---------|---------|
|       | 免許面積（坪） | 植付面積（坪） | 免許面積（坪） | 播種面積（坪） |
| 1945年 | 454,665 | 437,080 | 72,590  | 71,618  |
| 1946年 | 455,160 | 284,877 | 64,570  | 52,386  |
| 1947年 | 562,680 | 365,892 | 64,636  | 61,910  |
| 1948年 | 428,210 | 250,278 | 59,549  | 53,332  |
| 1949年 | 277,750 | 178,040 | 32,123  | 29,556  |
| 1950年 | 206,490 | 133,422 | 13,840  | 6,295   |

（注）『京郷新聞』1950年03月28日の2頁の記事である「開成人参에赤信號〔開成人参に赤信号〕」に載せられた統計を再編。

（出所）NAVER News Library。『京郷新聞』 <https://newslibrary.naver.com/viewer/index.nhn?publishDate=1950-03-28&officeId=00032&pageNo=1>（最終閲覧日：2021年07月15日）

上記の表34を見ると、1945年から1950年までの5年間の間、高麗人参の栽培許可を得た栽培地の面積は、454,665坪から206,490坪へと約55%減少していたということがわかる。しかし、これは許可された面積の減少率であり、実際、高麗人参を植えた面積は、437,080坪から133,422坪へと約70%も激減していた。更に、同期間における苗圃も許可された栽培地の面積が約19%にまで、実際、播種を行った面積は、約8.7%にまで激減し、本圃・苗圃共に戦後5年間、高麗人参の栽培面積において大幅な減少が見られた。

表34の内容が記録されている記事の原典の中では、

「외화 획득의 총아개성 인삼은 전세계적으로 이름을날려 우리나라의 확고부동한 재정으로 앞날의 촉망이 기대되고 있는데도 불구하고 생산에 있어서 해를 거듭할수로 쇠퇴 일로를 걷고 있어 식자로 하여금 탄식케하고있다〔外貨稼ぎに有用な開成人参は、全世界的にもその名が知られており、我が国の確実な財源として先が期待されているのにも拘わらず、年を重ねるにつれ、衰退の一途をたどってお

り、識者たちは嘆息をもらしている]」<sup>85</sup>

と述べられた部分が存在し、戦後、朝鮮半島における高麗人参生産業の衰退が如何に問題となっていたのかが分かる。

また、前述の通り、このような戦後の朝鮮半島における情勢の混乱は、高麗人参の栽培面積の縮小へとつながり、高麗人参の生産量も自然に減少していったのである。更に、このように混乱していた状況の中で生産された高麗人参も、タイに渡る以前に香港などにて消費されており、例え戦後、タイに残り、高麗人参を販売し続けようとした朝鮮人が存在したとしても、販売することが可能な高麗人参の物量を確保することは困難だったため、戦後、タイに滞在し続けた朝鮮人高麗人参商人は、存在しなかったと考えられる。

## 2. 日本の朝鮮統治期、タイにおいて活動していた朝鮮人独立運動家

第二次世界大戦の終戦後、それまで海外各地において朝鮮独立運動を展開していた朝鮮人独立運動家たちは、国際社会の中で認められる正式的な新政府を樹立するため、朝鮮半島への帰国を急いだ。

特に、当時、上海などにおいて朝鮮独立運動を展開していた団体である韓国臨時政府は、戦後、朝鮮半島内で広がりつつあった共産主義勢力を含め、大韓民国という統一された新しい政府の樹立を妨げるあらゆる勢力の拡散を防止するため、朝鮮半島への早急な帰還を図っていた。

当時、韓国臨時政府内では、1945年8月17日から臨時議政院会議が開催されたが、その会議の三日目である8月21日には、韓国臨時政府の朝鮮半島への帰還に関する決議案が可決された。これは、韓国臨時政府が樹立された1919年から約27年間、主権を失っていた朝鮮政府の代行としての役割を果たしてきた韓国臨時政府の政権を独立した朝鮮半島内の国民に正式的に移譲するために必要な過程であった。

その可決された決議案の内容を見ると以下のようなものである。

「一. 二十七年間 우리가 代行하던 臨時政府의 政權을 今日 解放된 國內人民의 爲에 奉還하기로 決議함. 二. 政權을 奉還하기 爲하여 現臨時政府는 곧 入國하기로 決議함. [一. 二十七年間に渡り、我々が代行してきた韓国臨時政府の政権を、本日、解放された国内

---

<sup>85</sup> 京郷新聞（1950年03月28日）『開成人蔘에 赤信號 [開成人蔘に赤信号]』 京郷新聞の2面から引用。原典は「<https://newslibrary.naver.com/viewer/index.nhn?publishDate=1950-03-28&officeId=00032&pageNo=1>」から閲覧可能（最終閲覧日：2021年07月15日）。



の人民に奉還することを決議した。二、政権を奉還するために、現臨時政府は、直ちに入国することを決議した。]」<sup>86</sup>

このように記録された韓国臨時政府の1945年8月21日における臨時議政院会議の決議案からは、当時、韓国臨時政府に所属していた各委員が個人的な決意の下、帰国する計画を立てていたのではなく、韓国臨時政府そのものが公式的に朝鮮半島へ帰還し、新しい政府の樹立を図っていたということがわかる。

その後、当時、韓国臨時政府の主席だった金九は、1945年9月26日、中国国民党の主席、蒋介石に直接、アメリカの同意の下、中国において活動していた韓国臨時政府の委員たちが朝鮮半島へ帰国する際に必要な交通便などの支援を要請した。その上、同面談において金九は、韓国臨時政府を構成していた数々の政党の中でも、韓国独立党の党員を優先的に朝鮮半島へ入国させてくれることを希望していると蒋介石に伝えた<sup>87</sup>。

また、同年の10月7日、金九は、中国国民党の秘書であった呉鐵城に書状を送り、韓国臨時政府に所属していた委員29人の帰国費用及びその後の活動に必要な資金として、5,000万ウォンと50万米ドルの提供を要請した<sup>88</sup>。秘書の呉鐵城を通じて書状を受け取った蒋介石は、このような金九の要請に対し、10月23日、呉鐵城にまず、5,000万ウォンを支給することを指示し<sup>89</sup>、韓国臨時政府所属朝鮮人委員たちは、朝鮮半島に帰還するために必要な資金を設けることができた。

韓国臨時政府所属の朝鮮人委員たちがこのように、中国国民党の支持及び支援を受けながら、朝鮮半島への帰還を急いでいたのは、戦後、朝鮮半島の北側の地域において、ソ連を後ろ盾にした朝鮮人共産主義者たちの勢力が拡散しつつあったためであった。

---

<sup>86</sup> 『大韓民国臨時政府資料集第4巻』の中に記録された「臨時議政院会議第39回」の会議録を参照。原文は「[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ij&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ij\\_004\\_0010\\_00050\\_0020&position=-1](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ij&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ij_004_0010_00050_0020&position=-1)」にて確認可能（最終閲覧日：2021年07月17日）。

<sup>87</sup> 国史編纂委員会（1994）『한국독립운동사자료-제27권임정편XII-〔韓国独立運動史資料-第27卷臨政編XII-〕』国史編纂委員会の154-161頁に掲載された「金九가 蔣主席에게〔金九が蔣主席に〕」から参照。原典は、「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=kd\\_027\\_0010\\_0040\\_0050](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=kd_027_0010_0040_0050)」において閲覧可能（最終閲覧日：2021年03月17日）。

<sup>88</sup> 崔鍾健（1976）『大韓民國臨時政府文書輯覽』知人社、166-167頁を参考。

<sup>89</sup> 崔鍾健、前掲注（88）、169頁から参考。

更に、このような戦後における朝鮮人独立運動家たちの朝鮮半島への帰還は、中国内において活動していた朝鮮人独立運動家のみならず、当時、朝鮮半島を巡る情勢を認識していた李承晩など、中国大陸以外の地域において活動していた朝鮮人独立運動家たちからも見られた。

つまり、日本が朝鮮を支配していた時期、世界各地に広がり、多様な方法で朝鮮独立運動を展開していた朝鮮人独立運動家たちは、戦後、一斉に朝鮮半島へ帰還し、新しい政府の樹立を試みていたのである。また、同様な流れの中で、当時、タイに移住していた朝鮮人独立運動家たちも、戦後、朝鮮半島へ帰国したと見られる。

その理由としては、まず、第3章において検討した金鐵拳と彼が率いていたグループに所属していた朝鮮人の名前が、戦後、タイ政府によって朝鮮人捕虜が送還された際に作成された朝鮮人の送還者名簿と同じ資料集の中から確認され、実際、タイ政府が設けた朝鮮人の捕虜収容所に収容されていたという点が挙げられる。

その上、このように朝鮮独立運動家だった金鐵拳及び彼の下で活動していた団員たちの名前が朝鮮人の送還者名簿と同じ史料集に記録されていたという点のみならず、金鐵拳が所属していた組織が韓国独立党だったという点も、彼らが朝鮮半島へ帰らざるを得なかった理由の一つになっていたと考えられる。

第二次世界大戦の終戦直後、タイの捕虜収容所に収容されるようになった金鐵拳は、彼がタイの捕虜収容所の監視員に渡した図8の名刺にも書いてあるように、韓国独立党中国総支部によってタイに派遣されていた自衛団の団長だった。即ち、金鐵拳は、韓国独立党所属だったということである。彼が所属した韓国独立党は、前述のように、戦後、韓国臨時政府に所属していた委員たちの朝鮮半島への早急な帰還が決議されてから、主席だった金九が誰よりも優先的に朝鮮半島へ帰還させようとしていた勢力である。

金九がこのように、韓国臨時政府の多様な政治勢力の中でも、韓国独立党の黨員たちを優先的に朝鮮半島へ帰還させようとした理由は、前述のように、韓国臨時政府が構想していた理想的な大韓民国政府の樹立に妨げになる勢力を逸早く阻止するためだった。

1930年1月25日、民族主義勢力の李東寧や安昌浩などを中心に、社会主義勢力に対抗して結成された韓国独立党は、党幹部の殆どが韓国臨時政府の要職を占めていたため、韓国独立党そのものが韓国臨時政府と言えるほど、結成当初から韓国臨時政府の主流派として位置付けられていた。韓国独立党の結成後、韓国臨時政府の中では、他の政党も次々に結成され、韓国臨時政府内における政党政治も始まったが、それでも

なお、韓国独立党は、韓国臨時政府の中の与党としてあり続けていた<sup>90</sup>。

ところが、戦後、韓国臨時政府内では、国家再建の方法やその在り方を巡り、政党間の対立が絶えず、当時、韓国臨時政府の与党であった韓国独立党と対立していた政党勢力からは、韓国臨時政府の改変が必要であるという意見まで提起されるようになった。

しかし、韓国臨時政府内の主流派であった韓国独立党は、一刻も早く朝鮮半島へ帰還し、日本の植民地政府が去っていった朝鮮半島に独立した政府を再建すると共に、朝鮮半島内において拡散されつつあった共産主義勢力を阻止せねばならない時期に、このような政党間の対立に費やす時間的な余裕はなかった。

それだけではなく、海外において活動していた韓国独立党の党員たちが朝鮮半島へ帰還するためには、戦後、既に朝鮮半島の北側を占領していたソ連軍、或いは南側を占領していたアメリカ軍の入国許可を得る必要があった。韓国独立党が朝鮮半島内で共産主義勢力の拡散を阻止し、自由民主主義を標榜する新政府の樹立を計画していたため、韓国独立党の党員たちは、アメリカ軍が占領していた南側への帰還を試みていたが、当時、韓国独立党が中心となっていた韓国臨時政府は、同組織に所属していなかった他の朝鮮独立運動関連団体のすべてを糾合することができるような権力を持っていなかった上、未だ国際社会の中で、朝鮮人を代表する正式的な政府としての承認も受けていなかった<sup>91</sup>。

そこで、韓国臨時政府はアメリカ及び中国国民党政府との交渉を続けた。実際、アメリカ側や中国国民党政府側に人脈を持っていた韓国独立党の幹部たちは、前述の金九が中国国民党の蔣介石に支援を要請していたように、アメリカ政府とも交渉し、韓

---

<sup>90</sup> 金正明（1967）『朝鮮 獨立運動、2、民族主義運動篇』原書房；金喜坤（1990）『한민족독립운동사-제7권 대한민국임시정부-〔韓民族獨立運動史-第7卷 大韓民國臨時政府-〕』国史編纂委員会、II. 임정의 시련과 이동（1923~1936）〔II. 臨政の試練と移動（1923~1936）〕、4. 제 정당의 활동〔4. 諸政党の活動〕。http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=hdsr&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=hdsr\_007\_0020\_0040\_0030&position=-1（2021年07月17日）から参考。

<sup>91</sup> イ スンオック（1997）「특집: 해방 직후 대한민국 임시정부의 대중대미관계 -임시정부의 귀국과 대미군정 관계(1945. 8~1946. 2)-〔特集：解放直後の大韓民國臨時政府の対中・対米関係 -臨時政府の帰国と対米軍政との関係（1945. 8~1946. 2）〕」『역사와 현실〔歴史と現実〕』第24集、87-120頁から参考。

国臨時政府の委員たちが朝鮮半島へ帰還し、新しい政府を樹立するのに必要な資金などの支援を要請した。しかしながら、当時、アメリカ政府や朝鮮半島に駐屯していたアメリカ軍当局のいずれも、韓国臨時政府を公式的な朝鮮人の政府として認めていなかった。

それでもなお、韓国臨時政府は、アメリカ政府との交渉を続けた結果、徐々にアメリカの信頼を得ることができた。実際、アメリカ合衆国国務省は、1945年、駐中国アメリカ合衆国大使Hurleyに電報を送り「Koreans go as private individuals and not as officials of any “provisional government” [韓国臨時政府として公式的な帰国ではなく、個人的な帰国の場合]」に限り、中国に滞在していた朝鮮人が朝鮮半島へ帰国することに特に異義はないと述べ、更に、その場合「Army authorities can supply transportation without interfering with important operations [アメリカ軍当局は、重要な作戦の妨げにならない範囲に限り、交通便を提供することが可能]」であると述べた<sup>92</sup>。

しかし、中国に駐屯していたアメリカ軍当局は、国務省が中国に滞在していた朝鮮人の帰国を支援する場合、快く関連計画を立てる意向はあるものの、国務省が単純に在中国朝鮮人を帰還させることに異議はないという説明は、実際、朝鮮人の帰還計画を実行する理由としては不十分であると断った<sup>93</sup>。

当時、中国に駐屯していたアメリカ軍当局がこのように韓国臨時政府の幹部たちの朝鮮半島帰還の支援を断った理由は、朝鮮半島内における社会主義勢力の拡散を防止すると共に、アメリカの理想とする資本主義国家の建設を図っていた中、政治的にどのような性向を持っているのかも把握されていなかった韓国臨時政府勢力が朝鮮半島内で政治活動を行うことで、アメリカの計画の妨げになる可能性があるかと判断していたのではないかと考える。

---

<sup>92</sup> The National Archives and Records Administration 『The Acting Secretary of State to the Ambassador in China (Hurley)』 Foreign Relations of the United States: diplomatic papers, 1945, The British Commonwealth, the Far East Volume VI, pp.1053-1054から引用。原文は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus\\_001\\_0010](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus_001_0010)」で閲覧可能（2021年07月18日）。

<sup>93</sup> The National Archives and Records Administration 『The Chargé in China (Robertson) to the Secretary of State』 Foreign Relations of the United States: diplomatic papers, 1945, The British Commonwealth, the Far East Volume VI, p.1057から引用。原文は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus\\_001\\_0010](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus_001_0010)」で閲覧可能（2021年07月18日）。

その後、アメリカ軍当局のこのような決定に対し、アメリカ合衆国国務省は、以下のような内容の公文を送った。

「because of the chaotic conditions within Korea, elements having constructive ability and willing to work within framework of military government are encouraged to enter [韓国内の混乱した状況を踏まえて考えると、建設的な能力を持ち、尚且つアメリカ軍政府が構想する（国家建設の）枠の中で協力する意向のある勢力の入国は促す必要がある]」<sup>94</sup>

このような内容の文を通じて、アメリカの国務省は、アメリカに協力する意思のある勢力に関しては、朝鮮半島への帰還を許可する必要性があると判断していたということがわかる。

また、韓国光復軍との共同作戦に参加した経験を持ち、韓国臨時政府の内部事情を綿密に把握していた元Office of Strategic Services（以下、OSS）の諜報員Clarence N. Weemsは、1945年9月28日、駐韓米軍司令官John R. Hodgeに、韓国臨時政府の朝鮮半島への帰還は、結果的にアメリカの国益につながるという調査報告書を提出<sup>95</sup>し、韓国臨時政府の朝鮮半島への帰還に決定的な影響を及ぼした。

当時、韓国臨時政府も、既に駐中国アメリカ合衆国大使館に代表を派遣し、韓国臨時政府の委員たちが朝鮮半島へ帰還した後、アメリカ側に絶対的に協力し、アメリカ軍やアメリカ政府の意思に反することは一切しないという点を表明していた<sup>96</sup>ため、

---

<sup>94</sup> The National Archives and Records Administration 『The Acting Secretary of State to the Chargé in China (Robertson)』 Foreign Relations of the United States: diplomatic papers, 1945, The British Commonwealth, the Far East Volume VI, p.1060 から引用。原文は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus\\_001\\_0010](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus_001_0010)」で閲覧可能（2021年03月20日）。

<sup>95</sup> 鄭容郁（1993）「자료해설 미군정의 임정관계 보고서 [資料解説、米軍政の臨時政府関連報告書]」 『역사비평 [歴史批評]』 第24集、366～367頁から参考。資料の原典は、アメリカのNational Archives and Records Administrationに所蔵されている「RG 332 Records of US Theaters of War, WW II, US Army Forces in Korea, XXIV Corps, G-2, Historical Section, Records Regarding the Okinawa Campaign, US Military Government in Korea, US-USSR Relations in Korea, and Korean Political Affairs, 1945～48, Box No. 32, Korea and the Provisional Government, 28 Sep. 45, prepared by Clarence N. Weems」を参考。

<sup>96</sup> The National Archives and Records Administration 『The Ambassador in China (Hu

彼らの朝鮮半島帰還は実現された。

このように韓国臨時政府の朝鮮半島への帰還には、OSSとの合同作成を展開した経験があった韓国光復軍に加え、アメリカに滞在していた李承晩など、韓国独立党の主要幹部たちが持っていた人脈や対外交渉力が大きく働いており、当時の韓国臨時政府の中では、どの勢力よりも、韓国独立党勢力が重要な役割を果たしていたのである。

つまり、このような状況の中で、韓国独立党に所属していた在タイ朝鮮人独立運動家、金鐵拳及び彼の部隊員は、朝鮮半島に帰還せざるを得ない状況にあったと考えられる。韓国独立党所属の金鐵拳の役職が自衛団の団長ということから、彼が軍人でもあったということがわかるが、朝鮮半島内でイデオロギーの対立が激化していく中、アメリカの統治下にあった朝鮮半島の南側にも兵力が必要だったため、金鐵拳と彼が率いる団員たちは朝鮮半島へ帰還したと見られる。

### 3. タイに移住していた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性の朝鮮半島帰還

#### (1) 朝鮮人捕虜の朝鮮半島送還

第4章及び第5章では、戦時中タイに移住し、1946年5月13日、朝鮮半島へ送還されるまで、タイに滞在し続けていた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性たちの歴史を検討した。調査の結果、タイ政府によって1946年、朝鮮半島へ送還されるまで、タイに滞在していた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性たちの人数は、合計約1,300人に上っていたことがわかった。

この合計約1,300人の元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性たちに関する詳細が記録された史料そのものが、彼らが朝鮮半島に送還された際に作成された名簿であるため、これは日本軍に所属し、タイに移住した元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性たちは全員、1946年以降、朝鮮半島へ送還されたということを意味しているが、果たして戦後、彼らは全員、朝鮮半島に送還されたのだろうか。また、彼らの中で、タイに残留した者は存在しなかったのだろうか。

連合軍によって第二次世界大戦の終戦後に実施された在外朝鮮人の本国送還計画は、終戦前から既に議論されていた。1945年3月10日、アメリカ合衆国の国務省では「In the event of joint responsibility of several powers over Korea what

---

rley) to the Secretary of State』Foreign Relations of the United States: diplomatic papers, 1945, The British Commonwealth, the Far East Volume VI, p.1042から引用。原文は「[http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus\\_001\\_0010](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus_001_0010)」で閲覧可能（2021年07月18日）。

nationality would Koreans abroad possess and what diplomatic and consular agencies would be responsible for Korean interests」という議題の下、第二次世界大戦において日本軍が敗北し、朝鮮人が日本の植民地支配から解放された場合、それまで海外に移住した朝鮮人を如何に保護していくのかについての議論が行われた<sup>97</sup>。

その結果、戦後、独立した朝鮮半島内に樹立された正式的な朝鮮人の政府から公式的な外交使節団が派遣され、海外に領事館が設けられるまで、連合国軍勢力は、海外現地における朝鮮人移住民を保護せねばならないという結論を出した<sup>98</sup>。

しかし、海外において自らを日本人ではなく、朝鮮人、若しくは韓国人と称しながら独立運動家として活動していた朝鮮人であれば未だしも、日本の帝国臣民として、第二次世界大戦に参戦し、連合国の敵国の国民だった朝鮮人をアメリカ国務省がこのように戦後、保護しなければならない民族として判断していたのには、多少疑問が浮かべられる。

そこで、アメリカ国務省がどのような見解を基に、戦後、敵国の国民だった朝鮮人を保護しようとしていたのかを探ってみると次のような報告書が発見された。1945年3月28日、E. S. Larsenによって作成された『K-3 Preliminary, Korea: Political Problems: Koreans Outside Korea』には、当時、日本の帝国臣民となっていた朝鮮人に関する情報が報告されていた。

同報告書の中には、日本の支配下にあった朝鮮人が移住した海外地域の中でも、満洲国における朝鮮人移住民が主な調査対象とされていたものの、当時、調査を行ったE. S. Larsenは、満洲国に移住した朝鮮人のみならず、日本が占領したアジア諸国に広がっていた朝鮮人のことも言及しており、対日協力者、つまり、日本軍に屈服し、日本の帝国臣民として海外に移住することになっていた朝鮮人全員を想定して報告していたように見える。

E. S. Larsenは、同報告書の中で、当時、日本政府や日本軍に協力せざるを得なかった朝鮮人たちの状況を以下のように述べている。

「They decided that the only way to survive for better days

---

<sup>97</sup> The National Archives and Records Administration 『K-1 Preliminary, Korea: Protection of Koreans Abroad』 AUS002\_42\_01C0001\_002から引用。原典は「[http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement\\_cd=&arrangement\\_subcode=&provenance\\_ids=&displaySort=catalogId\\_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system\\_id=000000145161&catalog\\_level=&catalog\\_position=1&search\\_position=0&lowYn=](http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement_cd=&arrangement_subcode=&provenance_ids=&displaySort=catalogId_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system_id=000000145161&catalog_level=&catalog_position=1&search_position=0&lowYn=)」で閲覧可能（2021年03月24日）。

<sup>98</sup> The National Archives and Records Administration、前掲注（97）、4頁から参考。

was to conceal their anti-Japanese feelings and make the best of their enforced subservience to the hated conquerors. [彼ら(朝鮮人)は、彼らがよりまともな日々を生き残るための唯一な方法は、彼らの反日感情を隠して、憎き征服者から強いられた服従を最大限に活用することであると考えた。]」<sup>99</sup>

このように、本報告書の作成者であるE. S. Larsenは、アメリカ政府に、朝鮮人が日本軍に所属し、第二次世界大戦において連合国の敵国の国民として、アメリカ軍に對抗するようになっていたのには、日本の植民地支配を受けていた朝鮮人たちのやむを得ない事情が存在したと報告した。

また、同報告書の7頁の中には、同時期、海外に移住していた朝鮮人たちに関して、以下のように述べられた部分もあった。

「Koreans living abroad, as a whole, do not like the Japanese, and it would be a mistake to condemn all Koreans in Manchuria because they have been in the employ of the Japanese or the “Manchoukuo” government. A study of the relations of the Koreans with the Japanese indicates that the term ‘pro-Japanese’ is applicable to only a very small proportion of Koreans and does not apply in general to those who work for the Japanese [海外に居住する韓国人は、全体的に日本を嫌っており、満洲地域に移住している韓国人全員を非難することは、間違いであります。何故なら、彼らは日本人や「満洲国」政府に雇われただけに過ぎないためです。韓国人と日本人との関係を調査したところ、「親日派」という用語はごく一部の韓国人にしか該当されず、一般的に、日本人のために働く朝鮮人たちには、当てはまらないということがわかりました。]」<sup>100</sup>

---

<sup>99</sup> The National Archives and Records Administration 『K-3 Preliminary, Korea: Political Problems: Koreans Outside Korea』 AUS002\_42\_01C0001\_005の2頁目から引用。原典は「[http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement\\_cd=&arrangement\\_subcode=&provenance\\_ids=&displaySort=catalogId\\_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system\\_id=000000145164&catalog\\_level=&catalog\\_position=4&search\\_position=0&lowYn=](http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement_cd=&arrangement_subcode=&provenance_ids=&displaySort=catalogId_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system_id=000000145164&catalog_level=&catalog_position=4&search_position=0&lowYn=)」で閲覧可能(2021年03月24日)。

<sup>100</sup> The National Archives and Records Administration、前掲注(99)、7-8頁から参考。



このような内容が述べられた報告書を通じて、アメリカ政府は、日本政府や日本軍に所属していた朝鮮人が、第二次世界大戦において、連合国軍の敵国の兵士、若しくは労働者としてアメリカ軍に刃を向けていたものの、一部を除く朝鮮人たちの殆どは、日本人とは異なる民族であり、日本を敵対視していたということを認識するようになったと考えられる。つまり、戦後、日本に積極的に協力した戦犯になり得る一部の朝鮮人対日協力者を除く朝鮮人に戦争犯罪の罪を負わせるのは妥当ではないというアメリカ政府の認識は、このような調査報告に基づいたものだったのである。

第二次世界大戦の終戦直後、連合国軍総司令部がタイ政府に、それまでタイに移住した元朝鮮人軍人軍属及び慰安婦女性を含め、朝鮮人全員を本国へ送還するように要請した理由も、連合国軍の中心であったアメリカのこのような理解を基に行われていたのである。

また、当時、このような連合国軍の要請に対し、第二次世界大戦中、大日本帝国と共に連合国に宣戦布告した責任から逃れようとしていたタイ政府の積極的な協力によって、戦後、それまでタイに滞在していた朝鮮人たちの送還政策は、迅速に実施されたのである。

要するに、戦後におけるタイ政府のこのような朝鮮人戦犯探しや朝鮮人の本国送還政策は、アメリカを中心とする連合国軍の元朝鮮人軍人軍属及び慰安婦女性たちは、彼らの敵国の国民であった日本人とは異なる人たちであるという認識と共に、連合国軍に絶対的に協力しなければならなかったタイ政府の当時の状況によるものだったのである。

## (2) 戦後、タイから再び戦場へ送られた朝鮮人捕虜

タイ政府の朝鮮人本国送還政策によって、戦犯ではないと判断された朝鮮人に関しては、第4章及び第5章において検討した朝鮮人男性及び女性の送還者名簿に記録されている通り、戦後、全員朝鮮半島へ送還された。

ところが、タイ国立公文書館に所蔵されている同史料集を更に検討してみた結果、終戦時までタイに滞在していた元朝鮮人軍人軍属の中には、朝鮮半島に送還されなかった者も存在した。

前章においても言及したタイ国立公文書館に所蔵されている史料集『บันทึก สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]』の中には、付録1や付録2のように、タイの捕虜収容所から朝鮮半島へ送還されたのではなく、再び戦場へ送られたと記録されている朝鮮人の名簿も見られた。

表35 タイの捕虜収容所から、再び戦場へ送還された朝鮮人の名簿

| 番号 | 氏名                               | 年齢 | 捕虜収容所収容日    | 逮捕日         |
|----|----------------------------------|----|-------------|-------------|
| 1  | นาย มิน ฮอง กี<br>〔ミン ホンギ〕       | 28 | 1945年10月06日 | 1945年10月18日 |
| 2  | ” นัม กุน ยูน<br>〔ナム グンユン〕       | 25 | 1945年10月10日 | 1945年10月24日 |
| 3  | ” คิม ตอง ชุง<br>〔キム ドンスン〕       | 31 | 1945年10月07日 | 1945年10月24日 |
| 4  | ” เติ้ง ย้ง ซอปล<br>〔チョン ヤンソプ〕   | 28 | 1945年10月22日 | 1945年10月24日 |
| 5  | ” ย้ง เซ็ก ตู<br>〔ヤン ソクドウ〕       | 25 | 1945年10月22日 | 1945年10月24日 |
| 6  | ” คิม ยอง ฮุน<br>〔キム ヨンフン〕       | 24 | 1945年10月06日 | 1945年10月24日 |
| 7  | ” เบ เทท วัน<br>〔ベ テワン〕          | 25 | 1945年10月06日 | 1945年10月24日 |
| 8  | ” บัก ขาง วัน<br>〔パク サンワン〕       | 29 | 1945年10月03日 | 1945年10月11日 |
| 9  | ” เซ เียง เซ็ก<br>〔チョイ ヨンシク〕     | 26 | 1945年10月22日 | 1945年10月11日 |
| 10 | ” บัก กั๊ป เียง<br>〔パク カブヨン〕     | 28 | 1945年10月22日 | 1945年10月11日 |
| 11 | ” ฮง ฮี เซิน<br>〔ソン ヒジヨン〕        | 29 | 1945年10月06日 | 1945年10月11日 |
| 12 | ” คัง ฮอง บ็อก<br>〔カン ホンボク〕      | 26 | 1945年10月22日 | 1945年10月11日 |
| 13 | ” เบ ยิน กี<br>〔ベ インギ〕           | 26 | 1945年10月10日 | 1945年10月11日 |
| 14 | ” เซอ ฮา นอน<br>〔ソ ハノン〕          | 25 | 1945年10月22日 | 1945年10月11日 |
| 15 | ” คิม ตอง จู<br>〔キム ドンジユ〕        | 25 | 1945年10月06日 | 1945年10月11日 |
| 16 | ” โค เมียง เียง<br>〔โก ミョンヨン〕    | 26 | 1945年10月07日 | 1945年10月11日 |
| 17 | ” เติ้ง เมียง ซิก<br>〔チョン ミョンシク〕 | 27 | 1945年10月06日 | 1945年10月24日 |
| 18 | ” ฮง ฮุน เซิล                    | 28 | 1945年10月22日 | 1945年10月24日 |

---

|    |                                   |    |             |             |
|----|-----------------------------------|----|-------------|-------------|
|    | [ホン スンシル]                         |    |             |             |
| 19 | // ฮัน เคียง ฮี<br>[ハン ギョンヒ]      | 31 | 1945年10月22日 | 1945年10月07日 |
| 20 | // คิม กุน ซิก<br>[キム グンシク]       | 26 | 1945年10月16日 | 1945年10月07日 |
| 21 | // ซิน ฮัน ซิก<br>[シン ハンシク]       | 27 | 1945年10月06日 | 1945年10月07日 |
| 22 | // ชาง ฮี ชาง<br>[チャン ヒチャン]       | 23 | 1945年10月06日 | 1945年10月29日 |
| 23 | // ฮี แท กู<br>[イ テグ]             | 23 | 1945年10月06日 | 1945年10月29日 |
| 24 | // คิม ฮี ฮุน<br>[キム ฮิสุน]       | 23 | 1945年10月22日 | 1945年10月29日 |
| 25 | // โช จิน ฮู<br>[โช จินฮู]        | 25 | 1945年10月22日 | 1945年10月29日 |
| 26 | // ยุน เซ็ก ลี<br>[ユン ソクリ]        | 26 | 1945年10月03日 | 1946年01月26日 |
| 27 | // โช เฮ วัน<br>[โช โย เฮวัน]     | 29 | 1945年10月06日 | 1946年01月26日 |
| 28 | // ซิน กี เฮน<br>[ซิน กีฮอน]      | 29 | 1945年10月06日 | 1946年01月26日 |
| 29 | // ฮี เด็ก เกด<br>[อิ ด็อกกิล]    | 30 | 1945年10月06日 | 1946年01月26日 |
| 30 | // คิม แฮ เย็ง<br>[คิม แฮยอง]     | 30 | 1945年10月06日 | 1946年02月05日 |
| 31 | // เป็ก ยอง กี<br>[เปก โยงกิ]     | 27 | 1945年10月03日 | 1946年02月14日 |
| 32 | // ฮง เซิน เกียง<br>[ฮง ชองกยอง]  | 24 | 1945年10月03日 | 1946年02月14日 |
| 33 | // มิน เย็ง ฮัม<br>[มิน โยงซัม]   | 26 | 1945年10月10日 | 1946年02月14日 |
| 34 | // ปัก ตอง เกิน<br>[ปาก ดองกุน]   | 23 | 1945年10月06日 | 1946年02月16日 |
| 35 | // คิม แท ซิก<br>[คิม เทซิก]      | 25 | 1945年10月06日 | 1946年02月16日 |
| 36 | // เซ เต็ก กุน<br>[โช โย ด็อกกุน] | 25 | 1945年10月03日 | 1946年02月16日 |

---

|    |                                    |    |             |             |
|----|------------------------------------|----|-------------|-------------|
| 37 | " เซ ซึง เด็ก<br>[ชโยอิ ชานโดก]    | 24 | 1945年10月03日 | 1946年02月16日 |
| 38 | " บัก เริง กุน<br>[ปาก จيونแกน]    | 29 | 1945年10月03日 | 1946年02月16日 |
| 39 | " ฮัน เบ็ก เฮียน<br>[ฮัน เบกฮيون]  | 42 | 1945年10月03日 | 1946年02月16日 |
| 40 | " ฮัน กิม แท<br>[ฮัน คิมเช]        | 26 | 1945年10月03日 | 1946年02月16日 |
| 41 | " บัก อู เต็ก<br>[ปาก อุซิก]       | 35 | 1945年10月19日 | 1946年02月16日 |
| 42 | " คิม แท ซึง<br>[คิม เทसन]         | 27 | 1945年10月22日 | 1946年02月16日 |
| 43 | " ฮัง โม รัน<br>[อัน มอรัน]        | 29 | 1945年10月16日 | 1946年02月16日 |
| 44 | " โอ เฮียง ซ็อก<br>[อ ฮيونซอก]     | 24 | 1945年10月10日 | 1946年03月12日 |
| 45 | " เชน ชู ดู<br>[ชอน สดอ]           | 30 | 1945年10月10日 | 1946年03月12日 |
| 46 | " ยุน ฮัก กุน<br>[ยุน ฮักกุน]      | 31 | 1945年10月10日 | 1946年03月12日 |
| 47 | " โค คูน กุก<br>[โก กุงกุก]        | 33 | 1945年10月22日 | 1946年03月12日 |
| 48 | " คิม เริง จิน<br>[คิม ชอนจิน]     | 27 | 1945年10月16日 | 1946年05月09日 |
| 49 | " ไท เกียง โฮ<br>[โช เกียงโฮ]      | 32 | 1945年10月16日 | 1946年05月09日 |
| 50 | " ไท กุน ซอป<br>[โช กุนซอบ]        | 32 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |
| 51 | " ยุน ซัง กุน<br>[ยุน ชานแกน]      | 27 | 1945年10月22日 | 1946年05月09日 |
| 52 | " บัก ขาง เซอ<br>[ปาก ชานโซ]       | 27 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |
| 53 | " ฮัง เมียง ฮะ<br>[ยัน มยองฮา]     | 29 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |
| 54 | " อี กุย เฮียน<br>[อี กุยฮيون]     | 28 | 1945年10月10日 | 1946年05月09日 |
| 55 | " บัก บ็อก เริง<br>[บัก บ็อก เริง] | 26 | 1945年10月22日 | 1946年05月09日 |

---

|    |  |    |             |             |  |
|----|--|----|-------------|-------------|--|
|    | [ پاک бокчюн ]                         |    |             |             |  |
| 56 | // โค เมียง คน<br>[ โก ม็ยงกอน ]       | 24 | 1945年10月03日 | 1946年05月09日 |  |
| 57 | // คิม ยง ชิก<br>[ คิม ยองชิก ]        | 29 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |  |
| 58 | // อี กึป ซุน<br>[ อิ คาปูชุน ]        | 23 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |  |
| 59 | // เชียง ยี ซอบ<br>[ ชยอน อึซอบ ]      | 25 | 1945年10月16日 | 1946年05月09日 |  |
| 60 | // โอ จู เย็ง<br>[ ออ จูยอง ]          | 27 | 1945年10月07日 | 1946年05月09日 |  |
| 61 | // คิม นัม ชิก<br>[ คิม นามชิก ]       | 26 | 1945年10月07日 | 1946年05月09日 |  |
| 62 | // คิม เกียง เช็ก<br>[ คิม กย็องซอก ]  | 25 | 1945年10月10日 | 1946年05月09日 |  |
| 63 | // คิม จุน เย็ง<br>[ คิม จุนยอง ]      | 25 | 1945年10月06日 | 1946年05月09日 |  |
| 64 | // โช เย็ง แท<br>[ โช ยองเต ]          | 27 | 1945年10月07日 | 1946年05月09日 |  |
| 65 | // พัง เฮ เย็น<br>[ ปัง เฮยอน ]        | 23 | 1945年10月07日 | 1946年05月09日 |  |
| 66 | // คิม เย็ง จู<br>[ คิม ยองจู ]        | 28 | 1945年10月22日 | 1946年05月10日 |  |
| 67 | // พัง ฮา อึก<br>[ ปัง ฮาฮัก ]         | 26 | 1945年10月03日 | 1946年05月10日 |  |
| 68 | // เซ เกียง เช็ก<br>[ โชยอึ กย็องซอก ] | 26 | 1945年10月16日 | 1946年05月10日 |  |
| 69 | // เส็น ซู โอ<br>[ ซอน สอ ]            | 33 | 1945年10月06日 | 1946年05月10日 |  |
| 70 | // อิม แท เชน<br>[ อิม เตซอน ]         | 24 | 1945年10月07日 | 1946年05月10日 |  |
| 71 | // อี ชัง ซง<br>[ อิ ชานซอน ]          | 24 | 1945年10月06日 | 1946年05月10日 |  |
| 72 | // โช แท เช็ก<br>[ โช เตซอก ]          | 24 | 1945年10月10日 | 1946年05月10日 |  |
| 73 | // คิม จุน กุ<br>[ คิม จุนก ]          | 26 | 1945年10月06日 | 1946年05月10日 |  |

---

|    |                               |    |             |             |
|----|-------------------------------|----|-------------|-------------|
| 74 | // คิม ซี้ ซาน<br>[キム チサン]    | 26 | 1945年10月07日 | 1946年05月10日 |
| 75 | // ชวาง ฮัน กุย<br>[チャン ハングイ] | 24 | 1945年10月06日 | 1946年05月10日 |
| 76 | // เสง เมียง เส<br>[ホン ミョンヘ]  | 39 | 1945年10月07日 | 1946年05月10日 |

(注) 1 本表は、タイ語で作成された原典を研究者が直接、日本語に翻訳して再構成したものである。日本語のカタカナに表記する際、誤訳の可能性はあるが、可能な限り当時の朝鮮人の名前を考慮し訳した。原典は付録3を参照。

(注) 2 原典において、朝鮮人捕虜の名前の前には、男性であることを表すタイ語「นาย(英語のMr.の意味)」は、日本語に翻訳する際には、省略した。

(出所) タイ国立公文書館「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและฟอไมซา [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」222-223頁。

第二次世界大戦の公式的な終戦日は、日本では1945年8月15日、アメリカを含む連合国などにおいては、日本が降伏文書に調印した1945年9月2日を終戦日と捉えており、遅くとも1945年9月2日には、第二次世界大戦が終わっていたのにも拘わらず、表35の史料に記録された朝鮮人は何故、再び戦場に送り出されたと記録されたのだろうか。

まず、同名簿に記録された朝鮮人捕虜の特徴を見ると、彼らは全員、男性であり、日本軍の捕虜収容所に所属していた元朝鮮人軍人軍属だったということが分かる。また、彼らは、タイの捕虜収容所に収容された日付と朝鮮半島へ送還された日付が記録されていた付録1や付録2の中の朝鮮人捕虜たちとは異なり、タイの捕虜収容所に収容された日付と逮捕された日が記録されており、何かの犯罪を犯したことにより、戦後、逮捕されるようになったということが分かる。

関連史料を検討してみると、同名簿において、タイ捕虜収容所から戦場へ送還されたと記録された朝鮮人たちは、戦後、再び戦闘が行われていた戦場へ送還されたのではなく、連合国による戦犯裁判にかけるため、その戦犯裁判が行われていた地域に送られた戦犯の疑いがあった元朝鮮人軍人軍属だったと見られる。

内海(2015)の調べによると、元朝鮮人軍人軍属だった李鶴来は、戦後、タイの捕虜収容所に収監されたが、戦犯の疑いがあったため、他の元朝鮮人軍人軍属のように朝鮮半島へ送還されることなく、シンガポールのチャンギ捕虜収容所に送られた。その後、彼はシンガポールにおいて、戦犯裁判にかけられた<sup>101</sup>。

この李鶴来のように、戦後、チャンギ捕虜収容所に収容されるようになった他の元

<sup>101</sup> 内海愛子(2015)『朝鮮人BC級戦犯の記録』岩波現代文庫、156-173頁から参考。

朝鮮人軍人軍属たちも、彼と同様に、タイやインドネシアなどから朝鮮半島ではなく、シンガポールに送還された戦犯の疑いを持っていた元朝鮮人軍人軍属だったのである。

このタイの捕虜収容所から再び戦場へ送還された朝鮮人の名簿（表35）に記録された1番のミン・ホンギ、20番のキム・グンシク、38番のパク・ジョングンは、史料原典に漢字名は記録されていないが、それぞれ戦犯裁判において、有罪判決を受けた閔鴻基、金根植、朴貞根であると見られ、同名簿に記録された朝鮮人たちの中から実際、戦犯裁判のためにシンガポールにまで送還された朝鮮人の名前を確認することができた<sup>102</sup>。

つまり、表35に記載された朝鮮人捕虜たちは、戦闘が行われている戦場へ送られたのではなく、連合国側による戦犯裁判が行われていた地域に戦犯の被疑者として送られたのだが、彼らの名簿を作成したタイ政府、若しくはタイの捕虜収容所は、戦犯裁判など、未だ戦後処理が進行中であった地域を、戦争が終結されていないと判断し、再び戦場へ送られた朝鮮人捕虜として記録されたのではないかと考えられる。

### （3）タイの捕虜収容所を脱出した朝鮮人捕虜

本章においては、これまで、戦後、タイの捕虜収容所から朝鮮半島、または第3国に送還された朝鮮人捕虜たちを検討してきた。しかし、タイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人捕虜たちの中には、朝鮮半島や第3国へ送還されず、捕虜収容所から脱出をした者も存在した。

まず、同史料集「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」の中には、朝鮮半島への送還を拒み、タイに滞在し続けることを希望した朝鮮人が存在したという記録があった。

タイのアユタヤ捕虜収容所に収容されていた朝鮮人捕虜の中で、朴修一という人は、捕虜収容所のタイ人監視員に朝鮮半島に帰国せず、タイ残留を希望するという事を申し出た<sup>103</sup>。しかしながら、朴修一のこのような要請をタイ政府は許可しなかったため、タイで継続して滞在することはできなかった。

この朴修一のタイ残留要請が断れたことが原因となり、その後、タイの捕虜収容所

---

<sup>102</sup> チョウ・ゴン（2010）「조선인 BC급 전범에 대한 진상조사 -포로감시원 동원과 전범 처벌 실태를 중심으로- [朝鮮人BC級戦犯に関する事実調査 -捕虜監視員の動員と戦犯処罰の実態を中心に-]」대일항쟁기강제동원피해조사및국외강제동원희생자등지원위원회 [対日抗争期の動員被害調査及び国外動員犠牲者等の支援委員会]、36-40頁の朝鮮人BC級戦犯の服役者名簿から、氏名及び年齢などを考慮して参考。

<sup>103</sup> タイ国立公文書館、前掲注（56）、117頁参照。

から脱出する朝鮮人が続出するようになった。1945年12月12日には、アユタヤ捕虜収容所に収容されていたนายคิม ชวงอิน อายุ29ปี [キム・ジョンイン(29歳、男性)]、นางเป็ก เฝียงซุน อายุ24ปี [ペク・ミョンスン(24歳、女性)]、นางชุยอง ยุคฮาย อายุ26ปี [ソン・ユファ(26歳、女性)]、นายลี ของยูริ อายุ31ปี [リ・コンユル(31歳、男性)] という4人の朝鮮人が捕虜収容所からの脱出を敢行した<sup>104</sup>。

更に、その後も同捕虜収容所から55人の朝鮮人捕虜が脱出したという記録<sup>105</sup>や40人が脱出したという記録<sup>106</sup>も見られ、このような史料を通じて、タイの捕虜収容所から脱出した朝鮮人がどれほど多かったのかをくみ取ることができた。

同史料集において、タイの捕虜収容所から55人の朝鮮人捕虜が脱出した際に作成された詳細な記録は見当たらず、当時、タイの捕虜収容所側が脱出した朝鮮人を把握することはできなかつたと見られる。ところが、その後に作成されたと見られる40人の朝鮮人捕虜の脱出に関する記録には、下記の表36のように、タイの捕虜収容所から脱出した朝鮮人捕虜の名前が記載されていた。

表36 戦後、タイの捕虜収容所から脱出した朝鮮人の名簿

| 番号 | 韓国名 | 日本名  |
|----|-----|------|
| 1  | 河權模 | 大河權模 |
| 2  | 李愚瀟 | 國本健依 |
| 3  | 金商範 | 三木商汎 |
| 4  | 朴在基 | 新井在基 |
| 5  | 金京鎖 | 三浦京鎖 |
| 6  | 李奉悦 | 杉山奉悦 |
| 7  | 白明淑 | 白川明淑 |
| 8  | 劉松竹 | 白川松竹 |
| 9  | 崔福来 | 文山弘裕 |
| 10 | 金奉龍 | 金奉龍  |
| 11 | 李誠東 | 奥本英男 |
| 12 | 金鎮赫 | 金沢鎮赫 |
| 13 | 具相根 | 綾川義清 |
| 14 | 鄭洪奎 | 忠山洪奎 |
| 15 | 金基寿 | 東島宏明 |
| 16 | 南相憲 | 南憲一  |

<sup>104</sup> タイ国立公文書館、前掲注(56)、153頁参照。

<sup>105</sup> タイ国立公文書館、前掲注(56)、224頁参照。

<sup>106</sup> タイ国立公文書館、前掲注(56)、233-236頁参照。



|    |     |       |
|----|-----|-------|
| 17 | 李益鉉 | 朝賀康函  |
| 18 | 李哲龍 | 梅原健次  |
| 19 | 李鍾河 | 平川公鮎  |
| 20 | 鄭斗燠 | 東萊貞春  |
| 21 | 張相烝 | 下圓正勝  |
| 22 | 金善河 | 金原善河  |
| 23 | 李奇妾 | 國本奇妾  |
| 24 | 金允大 | 金村允大  |
| 25 | 金鍾淵 | 金宮鍾淵  |
| 26 | 南鍾旭 | 南英郎   |
| 27 | 李祥兩 | 岩本一郎  |
| 28 | 趙弼灣 | 足山弼濟  |
| 29 | 崔在明 | 月山在明  |
| 30 | 朴泰東 | 木一泰東  |
| 31 | 適延鎬 | 安達文美子 |
| 32 | 金甲成 | 金林彦植  |
| 33 | 李原根 | 平李嵩相  |
| 34 | 李貴陽 | 星山惣助  |
| 35 | 金鍾遠 | 安田鍾遠  |
| 36 | 鄭雲卓 | 鳥川仁渥  |
| 37 | 韓根東 | 香川根東  |
| 38 | 朴正宇 | 花村義   |
| 39 | 鄭面權 | 鄭面權   |
| 40 | 張基權 | 張基權   |

(出所) タイ国立公文書館「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」233-236頁。

表36のタイ捕虜収容所を脱出した朝鮮人40人は、一人を除いては、男性だったと見られる。31番の適延鎬という朝鮮人のみ、朝鮮名は、主に男性につけられる名前であるが、創氏改名した日本名は、安達文美子と女性と見られる名前を使っており、31番の適延鎬のみ性別は特定不可能である。

また、同名簿に記録された40人の朝鮮人は、タイの捕虜収容所によって作成された他の名簿における朝鮮人たちの氏名がタイ語、若しくは英語のアルファベットで記録されていたのとは異なり、各自の名前が漢字で表記され、創氏改名した日本名まで記録されている。

同名簿に記録された朝鮮人たちが男性であったという点に加え、朝鮮語の本名とは

別に創氏改名した日本名も使っていたという点を踏まえて考えると、彼らは日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属だったと見られる。

日本の植民統治下で、創氏改名した朝鮮人の全員が必ずしも対日協力者だったとは限らず、農民や労働者、稀ではあるが、朝鮮人独立運動家の中でも、創氏改名した日本名を持っていた朝鮮人も存在した。

しかしながら、特に日本軍や日本の警察と関わることのない状況の中において、敢えて創氏改名した日本名を名乗っていたのは、主に対日協力者に見られるものであった上、前章においても検討したように、終戦時までタイに移住していた朝鮮人の中で日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属数が他の職業を持つ朝鮮人数と比較し、非常に多かったことを踏まえて考えると、表36の名簿に記録されているタイのアユタヤ捕虜収容所から脱出した朝鮮人たちは元朝鮮軍人軍属だったと見られる。

また、このような流れで考えると、前述の1945年12月12日に捕虜収容所を脱出した女性、ペク・ミョンスン、ソン・ユファに加え、表36に記録された安達文美子は、元朝鮮人慰安婦女性だったのではないかと考えられる。

#### 4. 戦後、タイ残留した朝鮮人

第二次世界大戦の終戦直後、タイ政府が実施した在タイ朝鮮人の逮捕及び本国送還政策によって、それまでタイに滞在していた朝鮮人全員は、タイ政府が設けた捕虜収容所に収容されるようになった。

その後、タイの捕虜収容所に収容された朝鮮人捕虜たちは、タイ政府と連合軍によって行われた戦犯探し作業を経て、第二次世界大戦中、連合軍捕虜に対し、非人道的な行為を行ったことにより、戦犯の疑いがある朝鮮人捕虜は、戦犯裁判が開かれていた第3国に送還され、戦犯の疑いがない場合は、全員朝鮮半島へ送還された。

この過程の中で、朝鮮半島へ送還されず、タイに滞在し続けることを希望していた朝鮮人も存在したが、タイ政府は原則的に朝鮮人のタイ残留を認めなかった。ところが、このようにタイに残留することを拒まれたことが引き金となり、その後、タイの捕虜収容所を脱出する朝鮮人が続出するようになった。

1960年代以降における韓国人のタイ移住史を研究したキム（2008）は、1964年、タイに滞在していた韓国人が中心となって形成された在泰国韓人会は、朝鮮独立運動家だった李慶孫に加え、第二次世界大戦の終戦後、タイの捕虜収容所を脱出した元朝鮮人軍人軍属が中心となって形成されたものであると述べた。

これはつまり、表36の名簿に記録された朝鮮人たちがタイの捕虜収容所を脱出した後、タイに滞在し続け、在タイ韓国人コミュニティを形成するようになったと見られるが、キム（2008）の研究の中では、その詳細は見当たらない。

そこで同研究の中において、1964年、在タイ韓国人のコミュニティが形成された際の構成員として挙げられた韓国人たちの名前を、表36の名簿に記録された朝鮮人捕虜たちの名前と照らし合わせてみた結果、両資料の中で共通して登場する河權模、朴在基、金奉龍、金鎮赫、南相憲、李哲龍の合計6人の名前を探し出すことができた。

この6人は、全員、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属だった人物であり、戦後、他の朝鮮人がタイ政府によって、朝鮮半島、若しくは第3国に送還されていた際、タイ政府の監視を避け、1960年代までタイに滞在し続けていた人たちだったのである。

しかし、彼らは何故、独立した故国へ戻らず、捕虜収容所を脱出してまで、タイに滞在し続けようとしていたのだろうか。また、果たして彼らは、戦後、どのような状況に陥っており、どのような過程を経てタイに定着するようになったのだろうか。

ここで、当時、タイにおいて直接、このような状況を経験した本人にインタビュー調査を行うことが可能であれば、より多様な情報が得られると考えられるが、あいにく現在、当時のタイの捕虜収容所などにおける朝鮮人たちの状況を説明することが可能な韓国人は存在しない。ところが、前述の捕虜収容所から脱出した朝鮮人として表36の1番に記録された河權模が書いた彼の一代記の中には、当時の状況が述べられていた。

不幸な幼少期を過ごした河權模は、早稲田大学が発行した中学講義録などを使って勉強しながら、中学課程を修了し、医師になりたいという夢を抱いた。しかし、彼の父親は彼の医師になるという夢に反対していた。そのため、河權模は、家族には内緒に鉱山労働者として渡日し、働きながら勉強し続けていった。ところが、ある日、南洋群島において日本軍が連戦連勝しているという話を聞いた親戚の兄から日本軍に志願し、南洋地域に向かおうという誘いが書かれた手紙が届いた<sup>107</sup>。

その後、一度故郷に戻った彼は、1942年日本軍に志願し、サイゴン、シンガポール、インドネシアのジャワなどを経て、同年の10月、タイの捕虜収容所の捕虜監視員に配属された。タイの捕虜収容所に配属された河權模は、炊事兵として泰緬鉄道の建設現場に配属されていた日本軍や朝鮮人軍人軍属の食事を担当しながら、連合軍との戦闘なども経験した<sup>108</sup>。また、彼は勤務の後、タイに設けられていた日本軍の慰安所に寄ることもあったが、その慰安所の中で朝鮮人慰安婦女性たちにも会ったと記録している<sup>109</sup>。

しかし、時間が経つにつれ、日本の敗色は濃くなっていき、それまで日本人の上官

---

<sup>107</sup> 河權模（1971）『青雲:나의半生記〔青雲：我が半生記〕』韓國資料文化研究所、57頁から参照。

<sup>108</sup> 河權模、前掲注（107）、61-90頁から参考。

<sup>109</sup> 河權模、前掲注（107）、84-85頁から参考。

から受けていた数々の差別や不当な行為に対する不満をあらわにする朝鮮人が増えていった。河權模もその内の一人で、彼は結局、日本軍部隊から脱出を敢行し、前から知っていた中国人の友人の家に身を隠した<sup>110</sup>。

それから数日が立ったある日、日本が敗北し、彼は自由の身となったが、それまでタイに駐屯していた元朝鮮人軍人軍属たちと共に、タイ政府の保護の下、アユタヤ捕虜収容所に収容されるようになった。

当時、一部の朝鮮人捕虜たちは、捕虜収容所の外部地域においての居住や一時外出が許可された者も存在したが、河權模の場合、アユタヤ捕虜収容所の外で生活することが認められていたのにも拘わらず、自ら捕虜収容所の中で生活することを選んだ。

河權模はアユタヤ捕虜収容所の中で生活しながら、次々と戦犯裁判にかけられていく元朝鮮人軍人軍属たちや故郷に帰らず、タイ残留を希望する朝鮮人たちが増えていく様を目の当たりにした。更に、タイの街中では、タイ人による日本軍への報復が行われていたため、未だバンコクに残っていた朝鮮人の友人のことが心配になった。そこで、河權模は、アユタヤ捕虜収容所の外部で生活していた朝鮮人、趙必劑と金元瑞の二人と共に、捕虜収容所を脱出した。しかし、彼らの脱出を知った連合軍が追ってきたため、彼らは以前、河權模を匿ってくれた中国人に連絡し、煙草畑がある中国人の集落で約1ヵ月間、身を隠すことができた<sup>111</sup>。

同書の中で、河權模は、アユタヤ捕虜収容所を脱出した理由をバンコクに残っていた朝鮮人仲間の消息が気になり、バンコクに向かうため、同捕虜収容所を脱出したと述べているが、実は、捕虜収容所の中において、次々に戦犯裁判にかけられていく元朝鮮人軍人軍属やタイの街中で日本軍に所属していた軍人軍属たちが受けていた待遇を見ながら、自分も戦犯裁判にかけられるのではないかと恐れ、捕虜収容所を脱出したのではないかと考えられる。

また、河權模はこのようにアユタヤ捕虜収容所から脱出するようになった際、故郷に帰るといことは考えていなかった。それはタイですら目を光らせて、捕虜収容所から脱出した河權模たちを追ってくる連合軍が存在するのに、その連合軍が占領していた朝鮮半島には、上陸した瞬間、逮捕されるだろうと考えていたため、故郷に帰ろうにも帰れなかったのではないかと考えられる。

アユタヤ捕虜収容所を脱出してから約1ヵ月間、中国人が営んでいた煙草畑に身を隠していた河權模は、その後、軍隊のような厳格な規律を持つ高麗人会に加わってみることにした。タイ政府の支援や中国人の寄付などがあったため、生活を維持することは可能だったが、彼らが同じ朝鮮人たちに振るっていたあまりにも残虐な暴力を見

---

<sup>110</sup> 河權模、前掲注（107）、102頁から参考。

<sup>111</sup> 河權模、前掲注（107）、104-107頁から参考。

て、再び一人で行動するようになった<sup>112</sup>。

河權模のこのような記録を見ると、当時、タイにおいては、高麗人会以外にも、在泰僑民会という団体も結成されていたように見えるが、これはつまり、1960年代に結成された在泰国韓人会が組織される以前にも、既に、タイに移住した朝鮮人たちは、自主的に団体を組織し、助け合っていたということがわかる。

このように逃避生活を続けていたうちに、朝鮮半島では38度線が設置され、河權模は、もう朝鮮半島には戻れないと考えた。そこで彼は、列車でタイの東北地方に向かい、養豚業をしながら、中国語を習い、中国人の名前を使いながら生活した。ところが、約1年で彼が養っていた豚は死んでしまい、再びバンコクに戻るようになった。河權模はバンコクで朝鮮人の友人を探してみたが、全員、朝鮮半島に送還された後だった。彼は、後から捕虜収容所に収容されていた朝鮮人たちが、戦犯の疑いがない場合、全員、連合軍の支援の下、無事、朝鮮半島に送還したという話を聞いた<sup>113</sup>。

このような記述を見ると、河權模はアユタヤ捕虜収容所の中で生活していた際、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属たちの全員が戦犯裁判にかけられ、処罰を受けるだろうと誤解していたように見えるが、これもまた、彼がアユタヤ捕虜収容所を脱出すると決心した理由になったのではなかっただろうか。

その後、彼は朝鮮半島への帰国を完全に断念し、医師だった知り合いの日本人の下で働きながら医学のみならず、タイ語や中国語の勉強も続けた結果、タイ政府によって実施された漢方医の試験に合格し、以前から抱いていた医師になるという夢を叶えるようになった。正式的な医者となった彼は、個人病院を開業し、財産も貯まるようになったが、彼の病院が栄えていくのを嫉妬した周りのタイ人医者たちが彼を殺害しようとし、再び逃げ回る羽目になった<sup>114</sup>。

それから河權模は、町と町を回りながら患者を診てあげながら生活を維持することができたが、町を回りながら、戦後、彼と同様に朝鮮半島へ送還されず、タイに残留した同胞、박재익 [パク ジェイク]<sup>115</sup>、황범성 [ファン ボムソン]、남상헌 [ナム サンホン]、황해연 [ファン ヘヨン]、이철룡 [イ チョルヨン]、김봉룡 [キム ボンリョン]、이경화 [イ ギョンファ]、임진동 [イム ジンドン]、김

---

<sup>112</sup> 河權模、前掲注（107）、108頁から参考。

<sup>113</sup> 河權模、前掲注（107）、111頁から参考。

<sup>114</sup> 河權模、前掲注（107）、111-118頁から参考。

<sup>115</sup> 同書には、박재익 [パク ジェイク] と記録されていたが、彼が元朝鮮人軍人軍属だったという点、황범성 [ファン ボムソン]などを率いるリーダーであった点、更に表36の捕虜収容所を脱出した朝鮮人の名簿の4番目に박재기 [パク ジェギ] 朝鮮人の記録が見られている点を踏まえて考えると、박재기 [パク ジェギ] という名前を박재익 [パク ジェイク] として、間違えて覚えていたと見られる。

선화〔キム ソンファ〕、이경손〔イ ギョンソン〕などと出会った<sup>116</sup>。

同書の中で이경손〔イ ギョンソン〕は、タイに渡る前に朝鮮独立運動を展開していた人物であると述べられていることから、キム（2008）の研究で述べられた在泰国韓人会の初代会長、李慶孫であると見られる。

一方、李慶孫以外の人たちが以前どのような職に携わっていたのかに関する記述は見当たらないが、彼らの名前を表36の中から発音を考慮して探してみると、박재익〔パク ジェイク〕は4番に記録された朴在基（日本名、新井在基）、남상헌〔ナム サンホン〕は16番の南相憲（日本名、南憲一）、이철룡〔イ チョルヨン〕は18番の李哲龍（日本名、梅原健次）、김봉룡〔キム ボンリョン〕は10番の金奉龍（日本名、金奉龍）、김선화〔キム ソンファ〕は22番の金善河（日本名、金原善河）と合計5人が戦後、タイの捕虜収容所から脱出した元朝鮮人軍人軍属だったということがわかった。

つまり、戦後タイに残留した彼らは、日本が朝鮮を支配していた時期において、日本に対抗していたのか、日本に協力していたのかに拘わらず、同じ民族であるという理由一つで、助け合いながらタイに定着していったのである。

その後、河權模はこの時、知り合った李哲龍と共にタイ北部のチェンマイに向かったが、チェンマイにまでは辿り着かず、ランパンにおいて病院を開業するようになった。更に、河權模は、現地で出会ったタイ人女性と結婚し、家庭を作り、ラオスとタイを行き来しながら、医師として定着していった<sup>117</sup>。

このように河權模が日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属としてタイに渡り、第二次世界大戦の終戦後、タイに残留し、定着していく過程を記録した同史料からは、戦後、元朝鮮人軍人軍属たちが陥っていた状況やタイに定着していった過程を見ることが出来る。

特に、河權模が記録した戦後、タイの捕虜収容所から脱出するようになった契機やその背景に関する記録を通じて、当時、タイの捕虜収容所に収容されていた元朝鮮人軍人軍属たちの中には、彼らが全員、処罰を受けることになることになると認識していたため、故国には帰らず、タイに残留したがっていたということがわかる。

しかしながら、彼らのタイ残留は認められず、処罰や故国で受ける処遇を恐れていた一部の朝鮮人が捕虜収容所から脱出を敢行し、そのままタイに定着するようになったのである。

また、その定着過程の中で、朝鮮人たちは同じ朝鮮人同士で協力し合うこともあったが、中国人や日本人の援助の下、タイに定着することができた。これは朝鮮人のタ

---

<sup>116</sup> 河權模、前掲注（107）、118-119頁から参考。

<sup>117</sup> 河權模、前掲注（107）、120頁から参考。

イ移住史が単純にタイ現地に滞在し続けて形成されたものではなく、周りの中国人や日本人の影響を受けながら形成されていったということを意味している。

## 終章

1910年から始まった大日本帝国による朝鮮半島の植民地支配は、朝鮮人の海外移住史を大きく変化させた。海外に滞在していた日本人の職業を調査するために作成された「海外在留本邦人職業別人口調査一件」及び同史料を基に作成された人口統計記録の中には、日本の朝鮮統治期、海外に移住した各地域における朝鮮人数も記録されていた。

同史料を通じて、当初、満洲を含む中国地域に集中されていた朝鮮人の海外移住が日本の韓国併合後、時間が経つにつれ、移住先が多様化され、朝鮮人移住民数も毎年増加していったことが確認された。

朝鮮人のタイ移住は、日本の朝鮮半島支配が始まった翌年である1911年から確認され始め、東南アジア地域としては、最初に朝鮮人の移住が確認された地域となった。その後、同史料が記録された最後の年である1939年まで、タイに移住した朝鮮人数の累計は、187人と集計され、毎年、平均約6.2人の朝鮮人がタイに滞在していたということがわかった。

関連史料を検討した結果、彼らはタイ現地で高麗人参を販売していた朝鮮人商人だったということが判明された。「海外在留本邦人職業別人口調査一件」においては、同時期、タイに移住した朝鮮人全員が高麗人参商人だったと記録されているが、彼ら個々人に関する詳細な情報までは見当たらなかったため、同じ日本政府の記録である旅券下付表から、当時、タイに移住した朝鮮人の記録を探してみた。その結果、高麗人参の販売を目的として、タイに移住した朝鮮人112人に関する記録を確認することができた。

また、日本の植民地支配下、世界各地に広がっていた朝鮮人高麗人参商人が朝鮮独立運動に関わっていたということを踏まえ、旅券下付表に記録されたタイ移住朝鮮人高麗人参商人の名前を朝鮮独立運動家の海外移住史、若しくは朝鮮独立運動関連活動に関する史料や研究の中から探してみた。

そのような過程の中で、日本の旅券下付表に記録された112人の朝鮮人高麗人参商人の内、32人が韓国臨時政府の委員を務める、朝鮮独立運動関連活動を展開し逮捕される、朝鮮独立運動を支援していた言論社の記者として活動するなど、朝鮮独立運動に関わっていた履歴を持つ人物であったということが判明された。更に、同調査を通じて、これまでは確認されなかった朝鮮人独立運動家のタイ移住を確認することもできた。

朝鮮人独立運動家たちのタイ移住史は、日本の政府記録のみならず、当時の朝鮮人によって作成された新聞記録や個人記録などからも探ることができた。1917年にタイ



に移住した朝鮮人独立運動家、鄭元澤が作成した日誌の中では、鄭元澤の他にもタイ現地において高麗人参を販売しながら、独立運動を展開していた朝鮮人張氏と李氏に関する記録も見られた。更に、朝鮮人によって発刊された新聞記録の中からも、当時、朝鮮人高麗人参商人や独立運動家たちがタイ移住していたということを確認することができた。

また、朝鮮人独立運動家たちのタイ移住に関する記録は、タイの国立公文書館に所蔵されている史料の中からも見られた。戦後、タイ政府による朝鮮人の本国送還過程の中で作成された記録を集めておいた「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]」という史料集の中には、金鐵拳という朝鮮人がタイの捕虜収容所側に渡した名刺が保管されており、その名刺を基に金鐵拳が韓国独立党の中国支部からタイに派遣されていた自衛団の団長だったということがわかった。金鐵拳は団長として、団員を率いながら、タイにおいて朝鮮独立運動活動を展開していたと見られるが、彼の活動に関する詳細が記録された史料は、今のところ見当たらず、今後、更に史料を検討していく必要であると考えられる。

このように日本の植民統治下にあった朝鮮からタイに移住した朝鮮人たちは、主にタイ現地において高麗人参を販売し、朝鮮独立運動を展開するという目的を持っていた。ところが、その後、1941年12月に行われた日本軍のタイ侵攻に伴い、日本軍に所属していた元朝鮮人軍人軍属や日本軍に動員された元朝鮮人慰安婦女性たちもタイに移住するようになった。

「บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3.7/18 韓国及び台湾軍]」の中には、第二次世界大戦の終戦時までタイに滞在していた元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性たちの氏名や所属など詳細な情報が記録されているが、終戦時までタイに移住した元朝鮮人軍人軍属数は約1,000人で、元朝鮮人慰安婦女性数は約280人と記録されていた。

同記録を通じて、元朝鮮人軍人軍属の場合、主に日本軍捕虜収容所に所属し、泰緬鉄道の建設現場、若しくは泰緬鉄道の建設に送り込まれていた捕虜たちを管理していた捕虜監視員やその関連業に携わっていたということが分かった。一方、戦後、タイの捕虜収容所に収容されていた朝鮮人女性たちの場合、全員、日本軍に所属していた看護婦補助として記録されていたが、関連史料や研究を検討してみた結果、彼女らはタイに設置された日本軍の慰安所に動員されていた元朝鮮人慰安婦女性だったということが分かった。

ところが、1945年までタイに移住していた元朝鮮人軍人軍属たちの全員が戦後、タイ政府によって朝鮮半島へ送還されたわけではなかった。戦後、連合軍の要請により、それまでタイに滞在していた朝鮮人全員を逮捕し、捕虜収容所に収容したタイ政

府は、タイの捕虜収容所に集められた元朝鮮人軍人軍属の中で、戦時中、連合軍捕虜に対し非人道的行為を行った戦犯を探り出し、朝鮮半島に送還せず、戦犯裁判が開かれていたシンガポールなどに送還した。

このような状況の中、タイの捕虜収容所に収容されていた元朝鮮人軍人軍属の中には、朝鮮半島に送還されることを拒み、捕虜収容所から脱出した者も存在した。当時作成されたタイ政府の関連記録の中から、タイの捕虜収容所から40人の朝鮮人が脱出したという記録や55人の朝鮮人が脱出したという記録から当時の状況を知ることができた。

その史料の中から、当時、タイの捕虜収容所を脱出した朝鮮人の氏名が確認できるのは、朝鮮人捕虜40人が脱出した際に作成された名簿であるが、同名簿には、タイの捕虜収容所を脱出した朝鮮人の本名のみならず、創氏改名した日本名も記載されており、彼らが元朝鮮人軍人軍属だったということがわかった。

その内の一人であった河權模という元朝鮮人軍人軍属が残した個人記録を通じて、元朝鮮人軍人軍属たちがタイに渡るようになった契機などを把握することができたが、中でも特に、戦後、彼がタイの捕虜収容所に収容されていた際に経験したことを記録した部分からは、当時、元朝鮮人軍人軍属たちがどのような考えや理解の下で、タイの捕虜収容所を脱出するようになったのか、更に、どのような待遇を受けていたのかを理解することができた。

このようにタイの捕虜収容所から脱出した朝鮮人たちは、そのままタイに定着し、現在まで続く在タイ韓国人コミュニティを形成するようになったが、その課程の中で、朝鮮人同士での協力のみならず、中国人や日本人の支援、若しくは影響があったということがわかった。そのため、20世紀初めから現在まで維持されている中国人のコミュニティやタイのバンコクに位置する中華街に古くから定着した中国系移住民を対象にインタビュー調査を行った他、中国語の新聞なども検討してみたが、当時、タイに移住した朝鮮人に関する情報は見当たらなかった。

本研究においては、現存する日本、韓国、タイの限られた史料の基、日本の朝鮮統治期、タイに移住した朝鮮人の存在とその歴史を探ってみた。現存する史料が極めて少なかったため、同時期の他の海外地域における朝鮮人の移住史を踏まえながら、可能な限り多様な史料を用いて研究を進めた。

その結果、日本による植民地支配というプッシュ要因によって形成された朝鮮人の海外移住傾向がタイにおいても見られているということがわかった。日本の植民地支配によって失われた祖国を独立させようとしていた朝鮮人独立運動家たちは、日本による韓国併合後、朝鮮半島内では様々な制約がつくようになった朝鮮独立運動を展開するために海外に移住したが、タイもその中の一つの地域だった。実際、タイに渡っ

た李慶孫や鄭元澤など、当時の朝鮮人独立運動家たちに関する史料の中にも述べられているように、交通が便利で、韓国臨時政府が位置していた中国地域とも距離的に近かった上、高麗人参の主な買い手だった中国人の定着も進んでいたため、高麗人参を販売することで独立運動に必要な資金を集めるのに適していたタイにおいて、朝鮮人独立運動家たちは、朝鮮独立運動に必要な情報や資金を収集していたのである。

ところが、同時期、満洲地域のみならず、中国本土、インドシナ半島、南洋群島などには、各地域を次々に占領していった日本軍と共に移住した元朝鮮人軍人軍属や元朝鮮人慰安婦女性も存在した。それは日本軍の侵略を受けたタイにおいても同様であり、日本軍と共にタイに渡るようになった元朝鮮人軍人軍属及び元朝鮮人慰安婦女性が存在した。

このような朝鮮人のタイ移住史は、日本による植民地支配というプッシュ要因に大きく影響されて、形成されたと言える。今後、更なる史料の発見により、朝鮮人のタイ移住史に新たな歴史的事実を見出すことができると考えられるが、本研究では、年度別に集計された客観的な史料を基に、日本の朝鮮統治期における朝鮮人の海外移住動向を把握すると共に、その中で行われた朝鮮人のタイ移住史から、他の海外地域において見られた朝鮮人高麗人参商人、朝鮮人独立運動家、元朝鮮人軍人軍属、元朝鮮人慰安婦女性の歴史を発見することができただけでなく、終戦後、それまで帝国主義日本の臣民としてタイに渡っていた朝鮮人たちがタイ現地においてどのような処遇を受けていたのかに関する歴史を探ることに多少なりとも新たな事実を見出すことができたという点に意義を置きたい。

## 参考文献

「日本語及び英語原典」

- (1) 内海愛子 (2015) 『朝鮮人BC級戦犯の記録』岩波現代文庫。
- (2) 国史編纂委員会『韓民族独立運動史資料集』 <http://db.history.go.kr/item/level.do?itemId=hd> (2021年08月01日)。
- (3) 外務省外交史料館 (1910-1945) 『海外旅券下付表』 (マイクロフィルム) 外交史料館。
- (4) 外務省外交史料館 (1910-1920) 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」 国立公文書館アジア歴史資料センター、<https://www.jacar.go.jp/> (2021年07月31日)。
- (5) 外務省外交史料館 (1921-1929) 「海外各地在留本邦人職業別人口表」 国立公文書館アジア歴史資料センター、<https://www.jacar.go.jp/> (2021年07月31日)。
- (6) 外務省外交史料館 (1930) 「在外本邦人国勢調査職業別人口表」 国立公文書館アジア歴史資料センター、<https://www.jacar.go.jp/> (2021年07月31日)。
- (7) 外務省外交史料館 (1931-1939) 「海外各地在留本邦人人口表」 国立公文書館アジア歴史資料センター、<https://www.jacar.go.jp/> (2021年07月31日)。
- (8) 金正明 (1967) 『朝鮮 獨立運動、2、民族主義運動篇』原書房。
- (9) 国際移住機構「「移民」の定義」 <https://japan.iom.int/ja/migrant-definition> (2021年08月01日)。
- (10) 国史編纂委員会『不逞團関係雑件-朝鮮人ノ部』韓国史データベース、<http://db.history.go.kr/> (2021年08月01日)。
- (11) 国史編纂委員会『国内抗日運動資料：京成地方法院検事局文書』韓国史データベース、<http://db.history.go.kr/item/level.do?itemId=had> (2021年08月01日)。
- (12) 女性のためのアジア平和国民基金 (1997) 『政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成』龍溪書舎。
- (13) 竹内康人 (2015) 「朝鮮人軍人軍属の強制動員数」『大原社会問題研究所雑誌』第68巻、12月号、17～36頁。
- (14) 田中隆一 (2004) 「「満州国」期ハルビン朝鮮人の「対日協力」」『人文學報』91、97-111頁。
- (15) 朝鮮總督府警務局 (1934) 『國外ニ於ケル容疑朝鮮人名簿』行政學會。
- (16) 朝鮮總督府政務統監 (1916年02月17日) 『朝鮮總督府官報 - 第千五十九號 (官通牒第二十號)』朝鮮總督府官報活用システム、[http://gb.nl.go.kr/day.aspx?ho\\_id=GB\\_19160217\\_BA1059&date=1916-02](http://gb.nl.go.kr/day.aspx?ho_id=GB_19160217_BA1059&date=1916-02) (2019年10月20日)。
- (17) デジタル記念館慰安婦問題とアジア女性基金「慰安所と慰安婦の数」 <https://www.awf.or.jp/1/facts-07.html> (2021年06月20日)。
- (18) 大日本帝国内閣 (1896) 「移民保護法」 国立公文書館デジタルアーカイブ、<https://>

[www.digital.archives.go.jp/img/153700](http://www.digital.archives.go.jp/img/153700) (2021年12月16日)。

(19) 広田和子 (2009) 「証言記録 従軍慰安婦・看護婦」[キンドル版]、検索元 amazon.com。

(20) 村嶋英治 (2020) 「1897-1945年における在タイ日本人の人数、職業の推移：在バンコク領事の年次報告をもとに」『アジア太平洋討究』40、177-225頁。

(21) 森川万智子 (1996) 『文玉珠 ビルマ戦線楯師団の「慰安婦」だった私』 梨の木舎。

(22) 吉見義明 (2016) 「ある元日本軍「慰安婦」の回想 (6) -金福童さんからの聞き取り-」『中央大学論集』第37号、207-241頁。

(23) The National Archives and Records Administration 『Foreign Relations of the United States: diplomatic papers, 1945, The British Commonwealth, the Far East Volume VI』 [http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus\\_001\\_0010](http://db.history.go.kr/item/imageViewer.do?levelId=frus_001_0010) (2021年07月18日)。

(24) The National Archives and Records Administration 『K-1 Preliminary, Korea: Protection of Koreans Abroad』 [http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement\\_cd=&arrangement\\_subcode=&provenance\\_ids=&displaySort=catalogId\\_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system\\_id=000000145161&catalog\\_level=&catalog\\_position=1&search\\_position=0&lowYn=](http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement_cd=&arrangement_subcode=&provenance_ids=&displaySort=catalogId_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system_id=000000145161&catalog_level=&catalog_position=1&search_position=0&lowYn=) (2021年03月24日)。

(25) The National Archives and Records Administration 『K-3 Preliminary, Korea: Political Problems: Koreans Outside Korea』 [http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement\\_cd=&arrangement\\_subcode=&provenance\\_ids=&displaySort=catalogId\\_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system\\_id=000000145164&catalog\\_level=&catalog\\_position=4&search\\_position=0&lowYn=](http://archive.history.go.kr/catalog/view.do?arrangement_cd=&arrangement_subcode=&provenance_ids=&displaySort=catalogId_asc&displaySize=50&currentNumber=1&system_id=000000145164&catalog_level=&catalog_position=4&search_position=0&lowYn=) (2021年03月24日)。

(26) The United Nations 「Migration」 <http://unitednationworldwide.org/en/sections/issues-depth/migration/index-2.html> (2021年08月02日)。

(27) The United Nations (2020) “WORLD MIGRATION REPORT 2020.” International Organization for Migration, Geneva. [https://www.iom.int/sites/default/files/country/docs/china/r5\\_world\\_migration\\_report\\_2018\\_en.pdf](https://www.iom.int/sites/default/files/country/docs/china/r5_world_migration_report_2018_en.pdf) (2021年07月31日)。

#### 「韓国語原典」

(1) 칸·죤스욱 (2011) 「제2차 세계대전기(第二次世界大戦期) 인도네시아로 동원된 조선인 여성의 간호부(看護婦) 편입에 관한 연구 -유수명부(留守名簿)를 중심으로-」 [第二次世界大戦期、インドネシアに動員された朝鮮人女性の看護婦編入に関する研究-留守名簿を中心に-] 『한일민족문제연구 [韓日問題研究]』第20卷、57-99頁。

(2) 京郷新聞 (1950年03月28日) 『開成人蔘에 赤信號 [開成人參に赤信号]』京郷新聞社、

<https://newslibrary.naver.com/viewer/index.nhn?publishDate=1950-03-28&officeId=00032&pageNo=1> (2021年07月15日)。

(3) 国家報勲処 『독립유공자 공적조서 [獨立有功者の功績調書]』 功勲電子史料館、<https://e-gonghun.mpva.go.kr/user/index.do> (2021年08月01日)。

(4) 国史編纂委員會 『대한민국임시정부자료집 [大韓民国臨時政府資料集]』 韓國史データベース、<http://db.history.go.kr/item/level.do?itemId=ij> (2021年08月01日)。

(5) 国史編纂委員會 『한국근현대잡지자료 [韓國近現代雜誌資料]』 韓國史データベース、<http://db.history.go.kr/item/level.do?itemId=ma> (2021年08月01日)。

(6) 金相律 (1940年12月1日) 「佛印脱出記」 『三千里』 第12卷、第10号、[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_016\\_0800\\_0150&position=-1](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_016_0800_0150&position=-1) (2020年10月12日)。

(7) 김·스남 (1997) 「이경손의 한국 영화 운동 [李慶孫의 韓國映画運動]」 『영화연구 [映画研究]』 12、7-35頁。

(8) 김·윤애 (2008) 「1960~70년대 태국사회 속의 한국인 [1960~70年代タイ社会の中の韓国人]」 『한국태국학회논총 [韓國泰國学会論叢]』 第15卷、第1号、172~218頁。

(9) 金度亨 (2008) 『1920년대 이후 일본·동남아시아 민족운동 [1920年代以降日本・東南アジア地域の民族運動]』 韓國獨立運動史編纂委員會、207-338頁。

(10) 김·주원 (2014) 『만주지역 친일단체 - 친일, 비겁한 변명 - [滿洲地域の親日団体-親日、卑怯な言い訳-]』 역사공간 [歴史空間]。

(11) 金喜坤 (1990) 『한민족독립운동사-제7권 대한민국임시정부- [韓民族獨立運動史-第7卷 大韓民国臨時政府-]』 国史編纂委員會。

(12) 大韓每日申報 (1905年12月20日) 『墨國에 韓人苦況 [墨國に韓人苦況]』 大韓每日申報、  
[https://www.nl.go.kr/newspaper/sub0101.do?dir\\_q\\_paperIndex=%E3%84%B7&dir\\_paper=%EB%8C%80ED%95%9CEB%A7%A4EC%9D%BC%EC%8B%A0EB%B3%B4\\_%E5%A4%A7E9%9F%93E6%AF%8F%E6%97%A5E7%94%B3E5%A0%B1](https://www.nl.go.kr/newspaper/sub0101.do?dir_q_paperIndex=%E3%84%B7&dir_paper=%EB%8C%80ED%95%9CEB%A7%A4EC%9D%BC%EC%8B%A0EB%B3%B4_%E5%A4%A7E9%9F%93E6%AF%8F%E6%97%A5E7%94%B3E5%A0%B1) (2021年08月01日)。

(13) 大韓民国行政安全部国家記録院 『獨立運動關連判決文』 国家記録院、<https://theme.archives.go.kr/next/indy/viewMain.do> (2021年08月01日)。

(14) 東亜日報 (1920年04月23日) 『本社宣川支局 總務兼記者에 白敬玉氏, 龍川郡楊市分局主務에 梁成浩氏, 龍川郡南市分局主務에 金翼河氏, 定州郡城内分局主務에 金俊煥氏任命 [本社宣川支局の總務兼記者に白敬玉氏、龍川郡楊市分局主務に梁成浩氏、龍川郡南市分局主務 に 金翼河氏、定州郡城内分局主務 に 金俊煥氏任命 ]』 東亜日報、

[http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=6&totalCount=6&itemId=npda&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre\\_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=npda\\_1920\\_04\\_23\\_v0004\\_0810&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%A2%81%E6%88%90%E6%B5%A9&searchKeywordConjunction=AND](http://db.history.go.kr/item/level.do?setId=6&totalCount=6&itemId=npda&synonym=off&chinessChar=on&page=1&pre_page=1&brokerPagingInfo=&position=0&levelId=npda_1920_04_23_v0004_0810&searchKeywordType=BI&searchKeywordMethod=EQ&searchKeyword=%E6%A2%81%E6%88%90%E6%B5%A9&searchKeywordConjunction=AND) (2021年06月13日)。

(15) 東亜日報 (1925年01月23日) 『國內同胞에 게 드림 [国内の同胞に送る]』 東亜日報、[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=2&limit=10&page=2&pre\\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda\\_1925\\_01\\_23](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=2&limit=10&page=2&pre_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda_1925_01_23) (2021年06月13日)。

(16) 東亜日報 (1931年01月23日) 『南洋消息 不老草 行商人』 東亜日報、[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=9&limit=10&page=9&pre\\_page=8&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda\\_1931\\_01\\_23](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=9&limit=10&page=9&pre_page=8&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=npda&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=npda_1931_01_23) (2021年05月25日)。

(17) 毎日申報 (1929年05月31日) 『人蔘의 輸移出 [人蔘の輸移出]』 毎日申報社、<http://e-gonghun.mpva.go.kr/> (2021年05月25日)。

(18) 毎日申報 (1929年07月23日) 『人蔘出入』 毎日申報社、<http://e-gonghun.mpva.go.kr/> (2021年05月25日)。

(19) 毎日申報 (1929年08月20日) 『人蔘輸出狀況』 毎日申報社、<http://e-gonghun.mpva.go.kr/> (2021年05月25日)。

(20) 毎日申報 (1930年12月02日) 『人蔘의 輸移出 [人蔘の輸移出]』 毎日申報社、<http://e-gonghun.mpva.go.kr/diquest> (2020年10月12日)。

(21) 方善柱 (2003) 「한인 미국이주의 시작 -1903년 공식이민 이전의 상황진단- [韓人のアメリカ移住の始まり-1903年の公式移民以前の状況診断-]」 『한국사론 [韓國史論]』 第39卷、53-75頁。

(22) シン・ヨンスック (2011) 「아시아태평양 전쟁기 조선인 중군간호부의 동원실태와 정체성 [アジア太平洋戦争期における朝鮮人従軍看護婦動員の实態とアイデンティティ]」 『여성과 역사 [女性と歴史]』

(23) 安昌浩 (1933年03月01日) 「比律賓視察記」 『三千里』 第5卷、第3号、[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_016\\_0350\\_0100&position=-1](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_016_0350_0100&position=-1) (2021年06月05日)。

(24) 廉仁鎬 (2009) 『조선의용대・조선의용군 [朝鮮義勇隊・朝鮮義勇軍]』 韓国独立運動史編纂委員會。

(25) 尹炳奭 (2009) 『1910년대 국외 항일운동 I -만주・러시아 [1910年代国外抗日運

動 I -滿洲・ロシア]』韓国独立運動史編纂委員会。

(26) 「李慶孫」李英一『韓國民族文化大百科事典』한국학중앙연구원〔韓國學中央研究院〕、1995年、[http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/Index?contents\\_id=E0043551](http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/Index?contents_id=E0043551) (2021年08月01日)。

(27) イ・スンオック (1997) 「특집: 해방 직후 대한민국 임시정부의 대중대미관계 -임시정부의 귀국과 대미군정 관계(1945. 8~1946. 2)-〔特集: 解放直後の大韓民国臨時政府の対中・対米関係 -臨時政府の帰国と対米軍政との関係 (1945. 8~1946. 2) 〕」 『역사와 현실〔歴史と現実〕』第24集、87-120頁。

(28) イ・ジュンヒ (2017) 「1945~1958년 개성 인삼업의 재편과 사회주의화 [1945-1948年における開成人参業の再編の社会主義化]」 『東方學志』第179卷、81-109頁。

(29) ジョン・ビョンジュン (2015) 「大韓民國臨時政府의 戰後構想과 還國 [大韓民國臨時政府の戦後構想と還国]」 『한국독립운동사연구〔韓國獨立運動史研究〕』50、177-210頁。

(30) 鄭容郁 (1993) 「자료해설 미군정의 임정관계 보고서 [資料解説、米軍政の臨時政府関連報告書]」 『역사비평〔歴史批評〕』第24集、363-383頁。

(31) 鄭元澤 (1983) 『志山外遊日誌』 (洪淳鈺編) 探求堂。

(32) チョウ・ゴン (2010) 「조선인 BC급 전범에 대한 진상조사 -포로감시원 동원과 전범 처벌 실태를 중심으로- [朝鮮人BC級戦犯に関する事実調査 -捕虜監視員の動員と戦犯処罰の実態を中心に-]」 대일항쟁기강제동원피해조사및국외강제동원희생자등지원위원회 [対日抗争期の動員被害調査及び国外動員犠牲者等の支援委員会]。

(33) 朝鮮日報 (1927年02月09日) 『白衣人』朝鮮日報社、<https://newslibrary.naver.com/viewer/index.nhn?articleId=1927020900239101029&editNo=1&printCount=1&publishDate=1927-02-09&officeId=00023&pageNo=1&printNo=2304&publishType=00010> (2021年06月06日)。

(34) 朱耀翰 (1932年11月01日) 「내가 본 上海의 李慶孫氏 [私が見た上海の李慶孫氏]」 『東光』 第39卷、91-92頁、[http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre\\_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma\\_014\\_0380\\_0430&position=-1#](http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&totalCount=0&prevPage=0&prevLimit=&itemId=ma&types=&synonym=off&chinessChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=ma_014_0380_0430&position=-1#) (2021年07月14日)。

(35) 崔鍾健 (1976) 『大韓民國臨時政府文書輯覽』知人社。

(36) 河權模 (1971) 『靑雲:나의半生記 [靑雲:我が半生記]』韓國資料文化研究所。

(37) 韓國農林畜産食品部 (2016) 『우리가 몰랐던 진짜 고려인삼 이야기 [我々が知らなかった本当の高麗人参の話]』大韓民國農業部農林畜産食品部。



- (38) 韓国外交部 (2019) 「재외동포 현황 [在外同胞の現状]」大韓民国外交部。
- (39) 韓国挺身隊問題対策協議会&韓国挺身隊研究会 (2014) 『강제로 끌려간 조선인 군위안부들 2 (증언집) [強制的に連れ出された朝鮮人軍慰安婦たち 1 (証言集)]』한울 [ハンウル]。
- (40) 韓国挺身隊問題対策協議会&韓国挺身隊研究会 (2018) 『강제로 끌려간 조선인 군위안부들 2 (증언집) [強制的に連れ出された朝鮮人軍慰安婦たち 2 (証言集)]』한울 [ハンウル]。
- (41) 皇城新聞 (1902年10月23日) 『在美蔘商』皇城新聞社、<https://www.nl.go.kr/newspaper/detail.do?id=CNTS-00093736358> (2020年10月12日)。

「タイ語原典」

- (1) タイ国立公文書館 『บก. สูงสุด 3.7/4 เพลยศึกเกาหลีและไต้หวัน [軍最高司令部3.7/4 韓国及び台湾の戦争捕虜]』タイ国立公文書館。
- (2) タイ国立公文書館 『บก. สูงสุด 3.7/10 การควบคุมชาวเกาหลีและชาวไต้หวัน [軍最高司令部3.7/10 韓国人及び台湾人の管理]』タイ国立公文書館。
- (3) タイ国立公文書館 『บก. สูงสุด 3.7/18 ทหารเกาหลีและฟอโมซา [軍最高司令部3.7/18 韓国人及び台湾人の軍人]』タイ国立公文書館。

付録1 アユタヤ捕虜収容所に収容されていた1,093人の朝鮮人男性捕虜名簿原典

[194] (表面)

| รายนามชาวเกาหลีในค่ายกักตมอยู่ระยะที่กลับประเทศแล้ว [アユタヤ捕虜収容所から韓国へ送還された韓国人の名簿] |                         |                                |              |                   |  |                                |                                 |                  |
|---|-------------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
| เลขที่<br>[番号]  | ยศ<br>[階級]              | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|   |                         |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]           | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 1   | ช่วยรบชั้นที่2<br>[二等兵] | นาย คิม แฮรี่<br>[キム ヘリ]       | 39           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 3 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月03日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 2   | “~”                     | // คิม เยอบยอง<br>[キム ヨビョン]    | 26           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 3   | “~”                     | // คิม กูซิก<br>[キム グシク]       | 28           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 4   | “~”                     | // ชาง มุนเฮน<br>[チャン ムンホン]    | 29           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 5   | “~”                     | // เซ แจ็กจู<br>[ชโยย โซกจู]   | 23           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 6   | “~”                     | // ซิน เฮนเซ็ง<br>[ชิน ฮอนซอน] | 26           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |

|    |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 7  | “~” | // อี ฮุน เจ<br>[イ フンジエ]        | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 8  | “~” | // ฮิม โด วัน<br>[シム ドワン]       | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 9  | “~” | // โจ เบียง ซิก<br>[ジヨ ビヨンシク]   | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 10 | “~” | // ซึง อู ชุน<br>[ซอน อุชูน]    | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 11 | “~” | // ฮัน ยุน กิ<br>[ฮัน ยูนกิ]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 12 | “~” | // เคน เกียง ศู<br>[гон เกยงส]  | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 13 | “~” | // เซ ดุง ยอง<br>[ชโยไอ ดอนยอน] | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 14 | “~” | // ดัง ยุน เหม<br>[ดัน ยูนม]    | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 15 | “~” | // คิม แยง ฮัน<br>[คิม ยูนฮัน]  | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 16 | “~” | // ซิน ซึง กุก<br>[ซิน ซองกุก]  | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 17 | “~” | // เซ เจ เด็ก<br>[ชโยไอ เจโดก]  | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 18 | “~” | // อี อุง ซิล<br>[อี อุงซิล]    | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|    |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
|    |     | [イ ウンシル]                        |    |    |     |     |     |  |
| 19 | “~” | // ชื่อ ยอง<br>[イ ジュンヨン]        | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 20 | “~” | // คิม มุน คีว<br>[キム ムンギ]      | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 21 | “~” | // มุน คิม จี<br>[ムン キムジ]       | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 22 | “~” | // โอ จาง ฮัน<br>[オ ジャンハン]      | 22 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 23 | “~” | // ยัง ดู แจ็ก<br>[ヤン グソク]      | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 24 | “~” | // คัม แจ็ก เฮียง<br>[カプ ソクヨン]  | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 25 | “~” | // คิม เฮียง ญุน<br>[キム ヨングン]   | 31 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 26 | “~” | // ฮี เบียง เซิน<br>[イ ビョンซอน]  | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 27 | “~” | // มา รัก จิน<br>[マ ラクジン]       | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 28 | “~” | // เซ ญู จิน<br>[チョイ グジン]       | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 29 | “~” | // ฮี จอง เมียง<br>[イ ジョンม็ยอน] | 36 | // | “~” | “~” | “~” |  |

[194] (裏面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕              | นาม<br>〔氏名〕                   | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕            | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                         |                               |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕           | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕           |                  |
| 30             | ช่วยรบชั้นที่2<br>〔二等兵〕 | นาย เช็ก ชัง ยูน<br>〔ソク サンユン〕 | 26           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜收容所〕 | 3 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月03日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 31             | "~"                     | // โจ นัม ซิก<br>〔チョ マンシク〕    | 29           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 32             | "~"                     | // คิม ยอง แท<br>〔キム ヨンテ〕     | 32           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 33             | "~"                     | // ฮอง อิล แท<br>〔ホン イルテ〕     | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 34             | "~"                     | // อิม ฮา ยอง<br>〔イム ハヨン〕     | 28           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 35             | "~"                     | // เคน แท ยอง<br>〔コン テヨン〕     | 27           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 36             | "~"                     | // จุง ฮู ดอง<br>〔จูнь สตอน〕  | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 37             | "~"                     | // คิม ฮัน มิน<br>〔キム ฮันมิน〕 | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |

|    |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 38 | "~" | // บัก กิม ดอง<br>[パク キムドン]   | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 39 | "~" | // ชาง จิม เจด<br>[チャン ジムジヨル] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 40 | "~" | // ยู อุง เยด<br>[ユ ウンヨル]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 41 | "~" | // ยู บัด ซู<br>[ユ バンス]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 42 | "~" | // อู ซอง ยอง<br>[ウ ソンヨン]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 43 | "~" | // อี ดอง กี<br>[イ ドンギ]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 44 | "~" | // คิม มั่น กู<br>[キム มังก์]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 45 | "~" | // อี นุง ไช<br>[イ นุนโซ]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 46 | "~" | // โจ เคียง ฮะ<br>[チョ キョンハ]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 47 | "~" | // ฮอง เฮียง โพ<br>[ホン ヒョンโป] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 48 | "~" | // อี อ็อก เฮน<br>[チ オクホン]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|    |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 49 | "~" | // ยู แช ดี<br>[ユ チェディ]         | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 50 | "~" | // ซิน อ็อก ยุน<br>[シン オクユン]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 51 | "~" | // คิม จอบ แท<br>[キム ジョブテ]      | 39 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 52 | "~" | // อี กี เคียง<br>[イ キキョン]      | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 53 | "~" | // ปัก มู ฮัก<br>[ปาก มุฮัก]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 54 | "~" | // คิม ของ กุน<br>[キム ช็อนกุน]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 55 | "~" | // ปัก ของ มาน<br>[ปาก ช็อนมาน] | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 56 | "~" | // บอง อู ฮ็อก<br>[บอน อุฮอก]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 57 | "~" | // เช แช อิล<br>[ช็อยิ เช็เอิล] | 34 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 58 | "~" | // ป็อก ซิน แท<br>[ปาก ซินเต]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 59 | "~" | // คัง ซุน ฮ็อก<br>[กัน สุนฮอก] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|    |     |                         |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|-------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 60 | "~" | // ยอง อิกกิ<br>[ヨン イギ] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
|----|-----|-------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|

[195] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]              | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-------------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                         |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]           | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 61             | ช่วยรบชั้นที่2<br>[二等兵] | นาย คิม ฮัก สุก<br>[キム ハクス]    | 35           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 3 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月03日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 62             | "~"                     | // คิม ฮัน กัฟ<br>[キム ハンカプ]    | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 63             | "~"                     | // คับ ซิน ซูล<br>[カプ シンチュン]   | 26           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 64             | "~"                     | // เจ็ง ซัน ฮ็อก<br>[チョン サンオク] | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 65             | "~"                     | // คิม บอง คุก<br>[キム ボンク]     | 34           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 66             | "~"                     | // โช คู ยัง<br>[チョ グヤン]       | 31           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 67             | "~"                     | // ยู ซิน กัง<br>[ユ シンカン]      | 25           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |



|    |     |                                |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 68 | “~” | // ชา เซ เมียง<br>[チャ チェミョン]   | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 69 | “~” | // อี จุง ฮ็อก<br>[イ ジュンソク]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 70 | “~” | // คิม เบียง รัค<br>[キム ビョンラク] | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 71 | “~” | // ละ เมียง ชุน<br>[ラ ミョンチュン]  | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 72 | “~” | // อี มุกุน<br>[イ ムクン]         | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 73 | “~” | // เซ ชุน กุ<br>[チョย สุง]      | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 74 | “~” | // คัง โต วัน<br>[カン ドワン]      | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 75 | “~” | // คิม นัม ซอป<br>[キム ナมสป]    | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 76 | “~” | // โชย ของ ฮะ<br>[โชย ฮงฮา]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 77 | “~” | // คิม ชา ลุ<br>[キム ชาส]       | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 78 | “~” | // เบน ชู น็ึก<br>[เบน สบุก]   | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|    |     |                                   |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 79 | “~” | // โล ฉั้น ยอง<br>[ロ アンヨン]        | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 80 | “~” | // ลิม เท็ก กู<br>[イム テック]        | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 81 | “~” | // ลี ยอง กัม<br>[イ ヨンカム]         | 32 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 82 | “~” | // เช จอง ยิน<br>[ชโยอิ จيونอิน]  | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 83 | “~” | // คิม ชู กุน<br>[キム สุกน]        | 32 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 84 | “~” | // ชัง เมียง ชิก<br>[อัน มยองชิก] | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 85 | “~” | // คิม เียง กุน<br>[キム ยองกุน]    | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 86 | “~” | // ปัก ยอง ชัง<br>[ปาก ยองซาน]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 87 | “~” | // ชิน ชัง กู<br>[ชิน ซังก]       | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 88 | “~” | // โอ แซ กัง<br>[โอ เซกัน]        | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 89 | “~” | // คิม ชัง ฮัก<br>[คิม ซานฮัก]    | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|    |     |                         |    |    |     |     |     |  |
|----|-----|-------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 90 | “~” | // เซเนโฮ<br>[チョイ ネホ]   | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 91 | “~” | // रिम เซจู<br>[リム セジュ] | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |

[195] (裏面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕              | นาม<br>〔氏名〕                   | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕            | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                         |                               |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔収容日〕           | กลับปิตภูมิ<br>〔送還日〕            |                  |
| 92             | ช่วยรบชั้นที่2<br>〔二等兵〕 | นาย คิม จอง วัน<br>[キム ジョンワン] | 26           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | 3 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月03日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 93             | “~”                     | // ยู คอนนัน<br>[ユ コンナン]      | 27           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 94             | “~”                     | // โจ เวน ฮุง<br>[ジョ ウオンフン]   | 29           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 95             | “~”                     | // คิม มู เซ็ง<br>[キム ムソン]    | 29           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 96             | “~”                     | // อี ยัง อิล<br>[イ ヤンイル]     | 24           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |
| 97             | “~”                     | // โจ บอง นัม<br>[チョ ボンナム]    | 27           | //                | “~”  | “~”                            | “~”                             |                  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 98  | “~” | // คิม จุงมาน<br>[キム ジュンナム]  | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 99  | “~” | // อี ฮันซิก<br>[イ ハンシク]     | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 100 | “~” | // รีม เทซล<br>[リム テソル]      | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 101 | “~” | // รีม เทซัง<br>[リム テソン]     | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 102 | “~” | // เบ็ญ นัมกิ<br>[ベク ナムギ]    | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 103 | “~” | // คิม เฮียงโด<br>[キム ヒョンド]  | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 104 | “~” | // โจ ฮันซิก<br>[チョ ホンシク]    | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 105 | “~” | // โจ เบียงซล<br>[チョ ビョンソル]  | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 106 | “~” | // บักเจิงโจ<br>[ベク ジョンโจ]   | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 107 | “~” | // วูแกน<br>[ウイ キョン]         | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 108 | “~” | // ชางอินซุน<br>[チャン อินสึน] | 31 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 109 | “~” | // บัก มู จิน<br>[パク ムジン]     | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 110 | “~” | // บัก เบง ยอง<br>[パク ビョンヨン]  | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 111 | “~” | // คิม ไค กอง<br>[キム デコン]     | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 112 | “~” | // คิม ไช ซูล<br>[キム ソスン]     | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 113 | “~” | // คิม แท ฮู<br>[キム テス]       | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 114 | “~” | // ยั้ง ฮัก เฮน<br>[ヤン ハクホン]  | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 115 | “~” | // อี ยั้ง กู<br>[イ ヤング]      | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 116 | “~” | // เปียง เฮ็ง โอ<br>[ピョン ヨンオ] | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 117 | “~” | // เบ แซ บอง<br>[ベ ジェボン]      | 31 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 118 | “~” | // โจ จี ฟุ<br>[チョ ジフ]        | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 119 | “~” | // อี ฮัน ฮู<br>[イ ハンス]       | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 120 | "~" | // ชิน ดอง แจ็ก<br>[シン ドンソク]  | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 121 | "~" | // อี แท สุ<br>[イ テス]         | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 122 | "~" | // คิม จอง ชุน<br>[キム ジョンチュン] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[196] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                  | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                              |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]           | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]           |                  |
| 123            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย โร เซ ฮัน<br>[ロ セハン]     | 29           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 124            | "~"                  | // คิม จุง ซุง<br>[キム ジュンスン] | 29           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 125            | "~"                  | // คิม จอง กุน<br>[キム ジョンクン] | 28           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 126            | "~"                  | // คิม บอง ชุน<br>[キム ボンチュン] | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 127            | "~"                  | // อี ชัง ซอป<br>[イ チャンソプ]   | 26           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 128 | "~" | // คิม แท เค็ง<br>[キム テキョン]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 129 | "~" | // คิม อิล นัม<br>[キム イルナム]     | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 130 | "~" | // ปัก ชุง เม็อก<br>[パク สุนมอก] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 131 | "~" | // ฮัน ยอง เค็ก<br>[ハン โยงกุก]  | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 132 | "~" | // ริม ยอง ชัง<br>[リム โยงซาน]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 133 | "~" | // อี เวน ซิก<br>[イ ウオンシク]      | 35 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 134 | "~" | // ยัง ชุน โอ<br>[ヤン ชุนโอ]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 135 | "~" | // ซอง โบ เฮน<br>[ソン โบฮอน]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 136 | "~" | // ซอง กี จุน<br>[ソン กิจุน]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 137 | "~" | // คิม ชัง เกิน<br>[キム ซานกุน]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 138 | "~" | // อิม ดอง บิน<br>[임 ดอนบิน]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 139 | "~" | // คัน ดู เข็ก<br>[カン ドウソック]    | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 140 | "~" | // คิม ชิ เยอง<br>[キム シヨン]      | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 141 | "~" | // ฮัน วัน เข็ก<br>[ハン ワンソック]   | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 142 | "~" | // โจ เฮน เจ<br>[チョ ホンジエ]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 143 | "~" | // คิม ชัง โฮ<br>[キム ซานโฮ]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 144 | "~" | // ปัก จอง บิด<br>[باك จ็องบิน] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 145 | "~" | // โย ชัง ฮู<br>[โค ซานส]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 146 | "~" | // ชาง ฮอง ฮุน<br>[찬 ฮอนสน]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 147 | "~" | // อี ชาง กุน<br>[ไอ ชานกุน]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 148 | "~" | // ฮิน ยง กุน<br>[ชิน โยงกุน]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 149 | "~" | // อี อิน อู<br>[ไอ อินอู]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |



|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 150 | "~" | // เซ เฮ จล<br>[チョイ ヘジヨン]       | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 151 | "~" | // ปัก ชุนุง<br>[パク チュンウン]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 152 | "~" | // เจริง อู ชุน<br>[チョン อู สุน] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 153 | "~" | // ฮัง ฮม ซึก<br>[ハン ソムソク]      | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[196] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]           | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 154            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย คิม ซ็อก โก<br>[キム ソッコ]    | 26           | "                 | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 155            | "~"                  | // เซ กิน สึ<br>[チョイ ギンス]      | 28           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 156            | "~"                  | // เจริง ฮัง วัน<br>[チョン サンワン] | 32           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 157            | "~"                  | // ชาง แท ซอป<br>[チャン テソปป]    | 27           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |

|     |     |                                     |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 158 | "~" | // อี เคน แท<br>[イ ゴンテ]             | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 159 | "~" | // บัก เียง โฮ<br>[パク ヨンホ]          | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 160 | "~" | // โท ซัง ซอล<br>[โด ซานช็อล]       | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 161 | "~" | // จิน เบียง ซาล<br>[ชิน บียองช็อล] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 162 | "~" | // ฮัน ของ ซด<br>[ฮัน ซอนช็อล]      | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 163 | "~" | // ฮัง อ็อก<br>[ฮัน อ็อก]           | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 164 | "~" | // คิม จุน เซ็ก<br>[คิม จุนซึค]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 165 | "~" | // ฮัน ของ อู<br>[ฮัน ซอนอู]        | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 166 | "~" | // เจน ซัง เกิน<br>[ช็อน ซองเก็น]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 167 | "~" | // อี ทกยอง<br>[อี ดกย็อง]          | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 168 | "~" | // ซิน จุง ฮะ<br>[ชิน จุนฮา]        | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 169 | "~" | // เซ็ท ยอง<br>[チョイ ソクヨン]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 170 | "~" | // คิม ดอง ฮี<br>[キム ドンヒ]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 171 | "~" | // ยูน คิม ดอง<br>[ユン キムドン]   | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 172 | "~" | // นัม อิล ฮู<br>[ナム イルス]     | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 173 | "~" | // ริว โค ชุน<br>[リュウ ゴチュン]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 174 | "~" | // คิม แท เมียง<br>[キム テミョン]  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 175 | "~" | // ฮี ยัง ชุน<br>[イ ヤンスン]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 176 | "~" | // เซ็ท รุก ยอง<br>[チョイ ルクヨン] | 33 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 177 | "~" | // คิม ดอง ฮี<br>[キム ドンヒ]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 178 | "~" | // ปัก ท็อก แฮ<br>[パク ドクヘ]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 179 | "~" | // ริว กุน จิน<br>[リュウ ゲンジン]  | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 180 | "~" | // โช ดอง โฮ<br>[チョ ドンヒ]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 181 | "~" | // เจน อิน เฮน<br>[チョン インホン] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 182 | "~" | // ฮง กอง ชัง<br>[ホン ゴนซาน]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 183 | "~" | // โอ กิ ฮัน<br>[オ ギハン]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 184 | "~" | // อี อ็อก ยอง<br>[イ オクヨン]   | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[197] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                  | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|------------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                              |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]           | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 185            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย เชิง ฮะ คน<br>[チョン ハコン]  | 33           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 186            | "~"                  | // ซิม ชัง ซอป<br>[シム サンソップ] | 27           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |
| 187            | "~"                  | // คิม ชัง ฮัน<br>[キム サンハン]  | 23           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 188 | "~" | // ขวาง ยอง ชู<br>[チャン ヨンス]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 189 | "~" | // เติ้ง แอ มील<br>[チョン हेミル]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 190 | "~" | // โร ซัง ฮัน<br>[ロ サンハン]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 191 | "~" | // คิม ของ โฮ<br>[キム チョンホ]      | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 192 | "~" | // ปัก เติล โฮ<br>[ปากุ ชอรุโฮ] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 193 | "~" | // คิม จิน ซง<br>[キム จินซอน]    | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 194 | "~" | // ฮัน ซัน เซ็ก<br>[ハン チャンซอก]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 195 | "~" | // คิม ยอง จัก<br>[キム โยงจิก]   | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 196 | "~" | // ของ เซน โม<br>[チョน โซนโม]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 197 | "~" | // อี กู ยอง<br>[ไอ กูยอน]      | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 198 | "~" | // ยูน แท เฮน<br>[ยูน เทฮอน]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 199 | "~" | // เชนจิลลี<br>[チョン イス]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 200 | "~" | // ลี ยัง เฟิม<br>[イ ヤンボム]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 201 | "~" | // คิม จุน วุน<br>[キム ジュンウオン] | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 202 | "~" | // คิม เฮง ซอป<br>[キム ホンソプ]   | 40 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 203 | "~" | // ชิน อิน โฮ<br>[チン インホ]     | 38 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 204 | "~" | // ฮู จุน<br>[フ ウン]           | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 205 | "~" | // โจ บิล ฮัน<br>[チョ ビンハン]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 206 | "~" | // โซ ยูน สึ<br>[ソ ユンス]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 207 | "~" | // คิม ดอง ฮิม<br>[キム ドンイム]   | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 208 | "~" | // เกน ยอง ลี<br>[コン ヨンリ]     | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 209 | "~" | // คิม ฮุง ฮัน<br>[キム スンハン]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 210 | "~" | // เบ็ก ยง เกิน<br>[ベク ヨングン] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 211 | "~" | // คิม เซ็ก ดอง<br>[キム ソクドン] | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 212 | "~" | // มุน มิน ใจ<br>[ムン ミンジョ]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 213 | "~" | // อี เซกู<br>[イ セグ]         | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 214 | "~" | // คิม เซิน กุน<br>[キム ソنگน] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 215 | "~" | // โซ กิน สุน<br>[ソ グンス]     | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[197] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                             |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]           | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]           |                  |
| 216            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย โอ เบียง ทิ<br>[オ ビョンヒ] | 35           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 217            | "~"                  | // โช อิน ใจ<br>[チョ インジョ]   | 24           | //                | "~"  | "~"                            | "~"                             |                  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 218 | "~" | // คิม เฮง จี<br>[キム ホンイ]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 219 | "~" | // เติ้ง ยาง จู<br>[ソン ヤンジユ]  | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 220 | "~" | // ฮัน จง จู<br>[ハン ジョンジュ]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 221 | "~" | // โชย ชัง ชุน<br>[チョイ サンチュン] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 222 | "~" | // อี ชัง ฮี<br>[イ サンヒ]       | 34 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 223 | "~" | // คิม แยง สุก<br>[キム ヨンス]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 224 | "~" | // คิม ซอง แท<br>[キム チョンテ]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 225 | "~" | // ยู จุง กี<br>[ユ ジュンギ]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 226 | "~" | // ปัก ยัง งู<br>[ปาก ヤング]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 227 | "~" | // เจน นัม กู<br>[チョン ナムグ]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 228 | "~" | // อี กุน โฮ<br>[イ グンホ]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |



|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 229 | "~" | // คิม ซอง ชุน<br>[キム ソンチュン] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 230 | "~" | // คิม บอง เยล<br>[キム ボンヨル]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 231 | "~" | // อี อุง ชอล<br>[イ ウンチョル]   | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 232 | "~" | // ลิม ยอง ฮง<br>[リム ヨンハ]    | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 233 | "~" | // เช เกียง ฮง<br>[チョイ キョンハ] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 234 | "~" | // ลิม มั่น ซุล<br>[リム マンスル] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 235 | "~" | // ฮัง อี ฮอป<br>[ハン イホプ]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 236 | "~" | // อี ซอง เชิล<br>[イ ソンチョル]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 237 | "~" | // โอ บี ออง<br>[オ ビオン]      | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 238 | "~" | // ปัก จี ยัง<br>[パク ジヤン]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 239 | "~" | // เช็ง เฮิน เซ<br>[ソン ホนเซ] | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 240 | "~" | // บิง ดอง ฮี<br>[ビン ドンヒ]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 241 | "~" | // โจ็ ฮี ย้ง<br>[チョ イヤン]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 242 | "~" | // บัก บอง วัน<br>[パク ボンワン]  | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 243 | "~" | // ลิม จอง ญ<br>[リム ジョング]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 244 | "~" | // อี ญ นัม<br>[イ グナム]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 245 | "~" | // บัก พิล ซอง<br>[パク ピลซอน] | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 246 | "~" | // เซ ย้ง ญล<br>[ชโยอิ ヤンユル] | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[198] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]             | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ [備<br>考] |
|----------------|----------------------|-------------------------|--------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|-------------------|
|                |                      |                         |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]           | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                   |
| 247            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย ฮี แทน่า<br>[イ テナム] | 32           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                   |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 248 | “~” | // บัก ฮะ ซิล<br>[パク ハチル]    | 38 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 249 | “~” | // ฮี แยก แท<br>[イ ヨンジエ]     | 32 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 250 | “~” | // คิม เท ฮะ<br>[キム テハ]      | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 251 | “~” | // คิม อุ ลู<br>[キム ウス]      | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 252 | “~” | // ลิม ชาง ฮัน<br>[リム チャンハン] | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 253 | “~” | // ฮี ดอง งด<br>[イ ドンゴン]     | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 254 | “~” | // คิม ดู ยอง<br>[キム ドウヨン]   | 34 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 255 | “~” | // คิม นัม โต<br>[キム ナムト]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 256 | “~” | // ฮี ดอง เกิน<br>[イ ドンゴン]   | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 257 | “~” | // เซจิ เซล<br>[チョイ ギチオル]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 258 | “~” | // ฮี อิน อุ<br>[イ インウ]      | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 259 | “~” | // เติ้ง บ็อก กิ<br>[チョン ボクギ]   | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 260 | “~” | // ระ กุน ซิม<br>[ラ グンシム]       | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 261 | “~” | // เติ้ง ไช ยอง<br>[チョン ジョヨン]   | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 262 | “~” | // เช โอ เกล<br>[チョイ オゴン]       | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 263 | “~” | // อี ชัง ดู<br>[イ チヤンドウ]       | 31 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 264 | “~” | // เช อิล ชัง<br>[チョイ イルサン]     | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 265 | “~” | // เติ้ง ชัน อิก<br>[チョン チャンイク] | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 266 | “~” | // คิม บอง เช<br>[キム ボンチェ]      | 28 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 267 | “~” | // โค เมียง ฮัน<br>[コ ミョンハン]    | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 268 | “~” | // อี เกียงซอง<br>[イ キョンチョน]    | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 269 | “~” | // เติ้ง คัน แท<br>[チョน カンテ]    | 32 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 270 | “~” | // ชุง ชัม โจ<br>[ชุง ชัม โจ]   | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
|     |     | [ソン サムジヨ]                     |    |    |     |     |     |  |
| 271 | “~” | // คิม เกง มั่น<br>[キム ゴンナム]  | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 272 | “~” | // เซ จุง กัป<br>[チョイ จุนคาป] | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 273 | “~” | // อี แซ กุม<br>[イ チェグム]      | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 274 | “~” | // ชิน ดอง ฮี<br>[チン ドンヒ]     | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 275 | “~” | // ปัก ดอง จู<br>[パク ดองจู]   | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 276 | “~” | // ลิม จุน ชุน<br>[リム จุนชุน] | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |

[198] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                     | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                               | วันเดือนปี<br>[年月日]        | วันเดือนปี<br>[年月日]         | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|---------------------------------|--------------|-------------------|--|----------------------------|-----------------------------|------------------|
|                |                      |                                 |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]       | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]        |                  |
| 277            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย ปัก ยอง เพียง<br>[パク ヨンピョン] | 29           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕虜收容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月06日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05月13日] |                  |

|     |     |                                  |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 278 | "~" | // ขวาง ชุน กิ<br>[チャン チュンギ]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 279 | "~" | // อุ เด บอง<br>[ウ デボン]          | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 280 | "~" | // อี ยูน อู<br>[イ ユンウ]          | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 281 | "~" | // อี จัง เบ็ก<br>[イ ジャンเบク]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 282 | "~" | // อี เฮ็ง ฮัน<br>[イ ホンハン]       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 283 | "~" | // ปัก ฮี เย็ด<br>[ปาก ฮียอล]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 284 | "~" | // คัง เด ชุน<br>[カン เดチュน]      | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 285 | "~" | // คิม ฮี กัง<br>[คิม ฮิกัง]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 286 | "~" | // เบ็ก นัม กิด<br>[เบ็ก นามกิล] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 287 | "~" | // มุน เย็ง ตัล<br>[มุน โยงดัล]  | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 288 | "~" | // เจ็ง ฮัน โม<br>[ชอน ฮันโม]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                    |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 289 | "~" | // เขิน ยางสุ<br>[チョン ヤンス]         | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 290 | "~" | // คิม ฮู กิล<br>[キム フギル]          | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 291 | "~" | // คิม ฮอง โฮ<br>[キム ソンホ]          | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 292 | "~" | // คิม แท กู<br>[キム テグ]            | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 293 | "~" | // กุก ยง ชัง<br>[クッグ ヨンサン]        | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 294 | "~" | // ฮัน บอง ซัม<br>[アン ボンサム]        | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 295 | "~" | // คิม ชุง เวิน<br>[キム チュンウオン]     | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 296 | "~" | // มิน เบน ฮัน<br>[มิน โบนอัน]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 297 | "~" | // ปัก เบียง โต<br>[ปาก บียอนด์]   | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 298 | "~" | // ปัก ชุง เสียก<br>[ปาก ยูนิฮโยก] | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 299 | "~" | // ชาง มุน เฮิน<br>[ชาน มุนฮอน]    | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 300 | "~" | // มิน วัน กุน<br>[ミン ワングン]     | 35 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 301 | "~" | // คัง ขาง โม<br>[カン チャンโม]     | 33 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 302 | "~" | // เซ วัน จู<br>[ชโยอิ วังจู]   | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 303 | "~" | // ฮะ กิ ชุน<br>[ハ ギチュン]        | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 304 | "~" | // มีะ เซน ม็อก<br>[マ チョンมอก]   | 34 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 305 | "~" | // เียง ชุน ฮะ<br>[ชยอง ชุนฮา]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 306 | "~" | // คิม กิ ฮะ<br>[คิม กิฮา]      | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 307 | "~" | // คิม อ็อก ซิน<br>[คิม ออกซิน] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[198] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                 | วันเดือนปี<br>[年月日]  | วันเดือนปี<br>[年月日]   | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|----------------------------|--------------|-------------------|--------------------------------|----------------------|-----------------------|------------------|
|                |                      |                            |              |                   |                                | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日] | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日] |                  |
| 308            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย อี เซ เซ็น<br>[イ チェソン] | 24           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น | 7 ต.ค. 88            | 13 พ.ค. 89            |                  |



|     |     |                                |    |    | [日本軍捕<br>虜収容所] | [1945年10<br>月07日] | [1946年05<br>月13日] |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|----------------|-------------------|-------------------|--|
| 309 | “~” | // คัง ของ ย้ง<br>[カン チョンヤン]   | 26 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 310 | “~” | // คี กิ ยอง<br>[ไ เกยอน]      | 29 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 311 | “~” | // คิม ชูบุ<br>[คิม สบู]       | 33 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 312 | “~” | // คี เท เกิน<br>[ไ เทгон]     | 26 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 313 | “~” | // คี ซุง อน<br>[ไ สนออน]      | 27 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 314 | “~” | // อัง ยอง ชัง<br>[อัน ยอนซาน] | 31 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 315 | “~” | // คิม ชัง ซิก<br>[คิม ซานซิก] | 28 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 316 | “~” | // โช ชิ กุง<br>[โชยิ ชุกุน]   | 25 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 317 | “~” | // เบ บัน สุ<br>[เบ บันส]      | 27 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 318 | “~” | // คิม ของ ซอป<br>[คิม ชอนซอป] | 25 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |
| 319 | “~” | // โช ชะ กุน<br>[โช ชะกุน]     | 24 | // | “~”            | “~”               | “~”               |  |

|     |     |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
|     |     | [チョイ チャグン]                        |    |    |     |     |     |  |
| 320 | “~” | // ฮั่น คัง ญ<br>[ハン カング]         | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 321 | “~” | // ฮั่น กอง ชั่น<br>[ハン ゴนชยัน]   | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 322 | “~” | // เบ็ก ยอง ฮิล<br>[ベク โยนิล]     | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 323 | “~” | // ฮี กัง ไช<br>[イ ガンชโย]         | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 324 | “~” | // คิม เท็ก ยง<br>[キム テクヨン]       | 23 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 325 | “~” | // ไช เก ชุก<br>[チョイ ゲสกุ]        | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 326 | “~” | // เฉ็ง เร็น<br>[ชヨン リヨン]         | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 327 | “~” | // คิม ซุน ฮั่น<br>[キム สุนฮัน]    | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 328 | “~” | // ฮี เมียง ตู<br>[イ บียองโดว]    | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 329 | “~” | // ไช เมียง วัน<br>[チョイ บียองวัน] | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 330 | “~” | // คิม ดอง ซิก<br>[キム ดอนซิก]     | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |

|     |     |                                     |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 331 | “~” | // ชึก ของ ฮุน<br>[チク チョンフン]        | 25 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 332 | “~” | // ชาง ชัง เมียง<br>[チャン ซานม็ยง]   | 26 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 333 | “~” | // ซง ชู ตอง<br>[ซอน ชูดอน]         | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 334 | “~” | // อี วัน เจ<br>[ไอ วันเจ]          | 27 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 335 | “~” | // คิม เซิน ฮัน<br>[คิม ซอนฮัน]     | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 336 | “~” | // เช็ง บ็อก เฮียง<br>[ซอน บอกฮ็ยง] | 29 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 337 | “~” | // กัก โล ทัก<br>[ควาก ลอตก]        | 24 | // | “~” | “~” | “~” |  |
| 338 | “~” | // โอ ซน ดน<br>[โอ ชอนดอน]          | 30 | // | “~” | “~” | “~” |  |

[199] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]            | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                 | วันเดือนปี<br>[年月日]  | วันเดือนปี<br>[年月日]  | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|------------------------|--------------|-------------------|--------------------------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |                      |                        |              |                   |                                | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日] | กลับปิตภูมิ<br>[送還日] |                  |
| 339            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย ระ กิ เซ<br>[ラ ギセ] | 25           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น | 7 ต.ค. 88            | 13 พ.ค. 89           |                  |

|     |     |                                |    |    | 〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | 〔1945年10<br>月07日〕 | 〔1946年05<br>月13日〕 |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|----------------|-------------------|-------------------|--|
| 340 | "~" | // ฮัน เกซุง<br>〔ハン ゲスン〕       | 30 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 341 | "~" | // เซตอง อี้น<br>〔チョイ ドンイン〕    | 26 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 342 | "~" | // อี๋ ซอง ซก<br>〔イ チョンソク〕     | 31 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 343 | "~" | // ละ เอ็ง ซิก<br>〔ラ ヨンシク〕     | 31 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 344 | "~" | // อี๋ กุ สุ<br>〔イ グス〕         | 23 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 345 | "~" | // คิม เซิน เด็ก<br>〔キム チョンドク〕 | 26 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 346 | "~" | // คิม ฮอง กุน<br>〔キム ホงกุน〕   | 24 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 347 | "~" | // อู เป็ง ฮอม<br>〔ウ ボนหอม〕    | 24 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 348 | "~" | // อี๋ เค ฮอง<br>〔イ ゲฮอน〕      | 25 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |
| 349 | "~" | // ริม คิล นัม<br>〔リム ギルนาม〕   | 23 | // | "~"            | "~"               | "~"               |  |

|     |     |                                  |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 350 | "~" | // ฮะ ฮู เจิน<br>[ハ スチョン]        | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 351 | "~" | // บัก ย้ง เต็ก<br>[ปาก ยันโดก]  | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 352 | "~" | // บัก ฮู เจิง<br>[ปาก อุฮอน]    | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 353 | "~" | // ฮี้ กิ ฮุก<br>[ไอ กิชูค]      | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 354 | "~" | // เจิง เทมุน<br>[ชอน เทมุน]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 355 | "~" | // ฮี้ ตัก กิ<br>[ไอ ดุกกิ]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 356 | "~" | // ฮง ฮู เจิล<br>[ซอน สชอูล]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 357 | "~" | // ฮอง แชฮัก<br>[ชอน เซイク]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 358 | "~" | // ฮู จิน กู<br>[อุ จิงก]        | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 359 | "~" | // คิม เค็ง ฮ็อก<br>[คิม กيونอก] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 360 | "~" | // เจิง กู นัม<br>[ชอน กนาม]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 361 | "~" | // คัง เท ฟุม<br>[カン テフン]         | 36 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 362 | "~" | // คิม นำ ชุน<br>[キム ナムスン]        | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 353 | "~" | // คิม ชัง อุน<br>[キム サンウン]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 364 | "~" | // เฮอ เซล<br>[ホ チョル]             | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 365 | "~" | // ระ เฮียว ชุน<br>[ラ ヒョスン]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 366 | "~" | // ชาง เอ็ง อ็อก<br>[チャン โยนอก]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 367 | "~" | // คิม กิล ยอง<br>[キム กิลยอน]     | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 368 | "~" | // จุง ยัง ต็อก<br>[จูнь ยันด็อก] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 369 | "~" | // อี เซียง สุก<br>[イ サンス]        | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[200] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名] | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日]  | วันเดือนปี<br>[年月日]  | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |            |             |              |                   |                | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日] | กลับปัดภูมิ<br>[送還日] |                  |
|                |            |             |              |                   |                |                      |                      |                  |

|     |                      |                                      |    |                |  |                                    |                                     |  |
|-----|----------------------|--------------------------------------|----|----------------|--|------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 370 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | นาย โช ชัง ชุน<br>〔チョイ サンチュン〕        | 32 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | 7 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 07 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 |  |
| 371 | "~"                  | " จุง จิน ยิน<br>〔ジュン ジンイン〕          | 27 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 372 | "~"                  | " เติ้ง อุบอง<br>〔チョン ウボン〕           | 30 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 373 | "~"                  | " ชะ ฮะ ฮอป<br>〔チャ ハソプ〕              | 38 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 374 | "~"                  | " อี ชุง ชู<br>〔イ チュンス〕              | 30 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 375 | "~"                  | " เซ อุน ซ็อก<br>〔チョイ ウนซอก〕         | 31 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 376 | "~"                  | " คิม แซ ลู<br>〔キム チェス〕              | 30 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 377 | "~"                  | " ยุน ซอง เซ็ล<br>〔ユン ソนชอรัล〕       | 25 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 378 | "~"                  | " ปัก ฮอง ซอง<br>〔ปาก ฮอนชอน〕        | 31 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |
| 379 | "~"                  | " โช เกียง มั่น<br>〔โชยอ ไอ กโยนแมน〕 | 35 | "              | "~"  | "~"                                | "~"                                 |  |

|     |     |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 380 | "~" | // คี ฮะ เอ็ง<br>[イ ハヨン]          | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 381 | "~" | // เติ้ง แซ อิน<br>[チョン เชอิน]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 382 | "~" | // คิม ฮัน ฮุน<br>[キム ฮันฮุน]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 383 | "~" | // ปัก ของ จุน<br>[ปาก ซองจุน]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 384 | "~" | // คิม แซ กุน<br>[キム เชเกน]       | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 385 | "~" | // ซิน เกียง ซอง<br>[ซิน กียงซอง] | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 386 | "~" | // เติ้ง ฮู ฮ็อก<br>[チョン สชอก]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 387 | "~" | // คิม ฮุน ซอล<br>[キム สนชอน]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 388 | "~" | // ซิน เวียง คอง<br>[ซิน รียงกอน] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 389 | "~" | // ฮัน กิ ซง<br>[อัน กิสง]        | 38 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 390 | "~" | // โช ซง ยูค<br>[โชย โซนยุน]      | 38 | // | "~" | "~" | "~" |  |



|     |     |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 391 | "~" | // อี ยง ชุน<br>[イ ヨンチュン]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 392 | "~" | // ฮัง ชู ของ<br>[ハン スチョン]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 393 | "~" | // ซง ชุน ซิก<br>[ソン チュンซิก]   | 32 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 394 | "~" | // เฉิง ของ กิ<br>[チョン ช็องกิ] | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 395 | "~" | // ยุน วัน โฮ<br>[ユン ワンโฮ]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 396 | "~" | // คิม ฮัน แบ<br>[キム ฮันเบ]    | 36 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 397 | "~" | // เฉิง มู กัป<br>[チョน มูคัพ]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 398 | "~" | // คิม จุน ซิก<br>[キム จุนซิก]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 399 | "~" | // เซ จู เซล<br>[ช็อย จูช็อง]  | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 400 | "~" | // ฮัน ฮี<br>[ハン ヒ]            | 34 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[200] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名] | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日] | วันเดือนปี<br>[年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|

|     |                      |                                    |    |                |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕                | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕               |  |
|-----|----------------------|------------------------------------|----|----------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 401 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | นาย เจริญ ชัง เบี้ยว<br>〔チョン サンピル〕 | 25 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜收容所〕 | 10 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 10 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 |  |
| 402 | "~"                  | // โช ชุน ฮัน<br>〔チョイ チュンハン〕       | 24 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 403 | "~"                  | // เซ แจจึน<br>〔チョイ ジョンフン〕         | 24 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 404 | "~"                  | // เซ บอง เซ็ก<br>〔チョイ ボンソク〕       | 27 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 405 | "~"                  | // คิม เกียง จอง<br>〔キム キョンジョン〕    | 25 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 406 | "~"                  | // คิม รัก จิน<br>〔キム ラクジン〕        | 26 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 407 | "~"                  | // คิม แท ฮู<br>〔キム テフ〕            | 27 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 408 | "~"                  | // ฮัง เบง จุน<br>〔ハン ボนจูнь〕      | 26 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 409 | "~"                  | // คัง แท บอง<br>〔カン テボン〕          | 36 | //             | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |

|     |     |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 410 | "~" | // บัก มั่น เซ<br>[パク ナムチェ]       | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 411 | "~" | // ยูน เฮน แท<br>[ユン ホンテ]         | 33 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 412 | "~" | // ฮอง เสียง เปียว<br>[ホン ヒョンピล]  | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 413 | "~" | // จิน วัน กู<br>[จิน วองก]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 414 | "~" | // คิม เคียว ซอป<br>[คิม คยองซอป] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 415 | "~" | // เชน กุก เจ<br>[ชอน กุกเจ]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 416 | "~" | // โค น้า คน<br>[โค นามกอน]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 417 | "~" | // เซ บอง ฮะ<br>[ชอย บองฮา]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 418 | "~" | // กัก ซิล ชัม<br>[กัก ซิลชัม]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 419 | "~" | // ฮี เซล ฮี<br>[ฮี ชอนฮี]        | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 420 | "~" | // เซ ฮัก กิ<br>[ชอย ฮักกิ]       | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 421 | "~" | // ชื่อ นัม ซิก<br>[イ ナムシク]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 422 | "~" | // ชง ซอปป ญู<br>[ソン ソプグ]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 423 | "~" | // ชื่อ บอง<br>[イ グボン]         | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 424 | "~" | // คิม ชุง ฮ็อก<br>[キム สุนอก]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 425 | "~" | // เจน ฮัก กิล<br>[チョン ฮากึล]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 426 | "~" | // คิม ชุง เฮ็ป<br>[キム สุนโยป] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 427 | "~" | // ซาง แซ ซิก<br>[ซาน เชชิก]   | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 428 | "~" | // โจ เต็ก บุก<br>[โช ดอวกบุก] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 429 | "~" | // ชื่อ มุน ฮัน<br>[イ มุนฮัน]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 430 | "~" | // ชื่อ แซ ฮโย<br>[イ เซโฮ]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 431 | "~" | // ชื่อ เซียง อู<br>[イ สอนอู]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[201] (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕           | นาม<br>〔氏名〕                  | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|----------------------|------------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                              |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕            | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕           |                  |
| 432            | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | นาย ยุน แซ ชัน<br>〔ユン セチャン〕  | 30           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜收容所〕 | 10 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月10日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 433            | "~"                  | " โจ บุน ฮัน<br>〔チョ ブンハン〕    | 26           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 434            | "~"                  | " โร เยียง ยอง<br>〔ロ ヤンヨン〕   | 24           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 435            | "~"                  | " ระ จอง ชัง<br>〔ラ ジョンサン〕    | 29           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 436            | "~"                  | " โค เซ จู<br>〔コ チェジュ〕       | 24           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 437            | "~"                  | " คิม อู ซุน<br>〔キム ウスン〕     | 27           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 438            | "~"                  | " เช็ง สุน นัม<br>〔チョン สนาม〕 | 23           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 439            | "~"                  | " คิม จี วัน<br>〔キム จีวัน〕   | 24           | "                 | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |     |                                    |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 440 | "~" | // ชื่อของ ชัง<br>[イ ドンサン]         | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 441 | "~" | // ชื่อของ ยุน<br>[オ チョクユン]        | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 442 | "~" | // ชื่อของ เมิน ซิก<br>[ソン มานซิก] | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 443 | "~" | // ชื่อของ เกอน<br>[キム จيونงุน]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 444 | "~" | // ชื่อของ เมิน<br>[イ ยอนมาน]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 445 | "~" | // ชื่อของ ยีล<br>[イ บียองยิล]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 446 | "~" | // ชื่อของ ยอง<br>[チョン ไอยอน]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 447 | "~" | // ชื่อของ เซง กู<br>[ชิน ชองกู]   | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 448 | "~" | // ชื่อของ ยอง จุง<br>[ยุน ยองจุน] | 38 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 449 | "~" | // ชื่อของ กู บอง<br>[ไอ กูบอง]    | 39 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 450 | "~" | // ชื่อของ เซง กู<br>[โชย ไอจองกู] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 451 | "~" | // อุ ชัง ฤ<br>[ウ サング]          | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 452 | "~" | // ริม เต็ก ฤ<br>[リム ドクス]       | 34 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 453 | "~" | // ชี ชัง ชัน<br>[チ ซานชาน]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 454 | "~" | // โจ จง ฮะ<br>[ชโย จيونฮา]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 455 | "~" | // คิม แซ บอง<br>[คิม เชบอน]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 456 | "~" | // อี กัป ฤ<br>[ไอ กาส]         | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 457 | "~" | // คัง เซง บอง<br>[คาน ชอนบอน]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 458 | "~" | // อี เมียง ชัง<br>[ไอ มยองซาน] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 459 | "~" | // อี แซ เอ็ง<br>[ไอ เซยอน]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 460 | "~" | // อี เยียง ฤ<br>[ไอ ยาง]       | 33 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 461 | "~" | // คิม ฮุง ยิล<br>[คิม สไนล]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                            |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|----------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 462 | "~" | // คิม แจ ฮัน<br>[キム ジェハン] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
|-----|-----|----------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|

[201] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]             | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]            | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 463            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย อี กัป ฮุน<br>[イ カプチュン]    | 31           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月10日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 464            | "~"                  | // คิม จิน มุก<br>[キム ジンムク]    | 26           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 465            | "~"                  | // โจ ยอง ฮุง<br>[チョ ヨンスン]     | 29           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 466            | "~"                  | // ชาง อึ๊ก เฮ็ง<br>[チャン イクソン] | 25           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 467            | "~"                  | // เจน จอง วัน<br>[チョン ジョンワン]  | 27           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 478            | "~"                  | // คิม ดาล เจ<br>[キム ダルジェ]     | 24           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 469            | "~"                  | // ซัง อิน ชัน<br>[サン インチャン]   | 23           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |



|     |     |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 470 | "~" | // โอ ลิล เด็ก<br>[オ イルドク]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 471 | "~" | // เซ ชิ ฮ็อก<br>[チョイ シオク]     | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 472 | "~" | // คิม โด ฮี<br>[キム ドヒ]        | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 473 | "~" | // ปัก จง บิน<br>[ปาก จيونบิน] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 473 | "~" | // คิม ซะ ยอง<br>[キム サヨン]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 475 | "~" | // จิม วัน ซิก<br>[จิม วันซิก] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 476 | "~" | // คิม ยอง จุน<br>[キム ヨンジユン]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 477 | "~" | // โค เฮ็ง ฮู<br>[โค ซอนส]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 478 | "~" | // ปัก นัม แบ<br>[ปาก นามเบ]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 479 | "~" | // เซ ยอง ฮู<br>[โชยอ โยฮง]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 480 | "~" | // ชาง มุน ฮัน<br>[ชาน มุนฮัน] | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 481 | "~" | // คิม ดอง ซิก<br>[キム ドンシク]  | 35 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 482 | "~" | // ยุน อิน เกล<br>[ユン インギル]  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 483 | "~" | // เชน แซ ฮ็อก<br>[チョン チェオク] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 484 | "~" | // เบ็ก ซัง กิ<br>[ベク サンギ]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 485 | "~" | // ชู กิ สึ<br>[チュ ギス]       | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 486 | "~" | // โค ซัง อู<br>[コ サンウ]      | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 487 | "~" | // คัง ดู สึ<br>[カン ドウス]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 488 | "~" | // ปัก จอง มู<br>[パク ジョンム]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 489 | "~" | // ฮะ กัง ไอ<br>[ハ ガンオ]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 490 | "~" | // ปัก ยุน ซิก<br>[パク ユンシク]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 491 | "~" | // เซ ซัง กู<br>[チョイ サング]    | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 492 | "~" | // มิน เทชิก<br>[ミン テシク]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 493 | "~" | // คัง เฮียง ฮู<br>[カン ヒョンス] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[202] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]                 | วันเดือนปี<br>[年月日]                 | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------|
|                |                      |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]                | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]               |                  |
| 494            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย กัก วัน อุง<br>[クァク ワンウン]  | 26           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 10 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 10 日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946 年 05<br>月 13 日] |                  |
| 495            | "~"                  | // คิม กุม ยอง<br>[キム グムヨン]    | 25           | //                | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |                  |
| 496            | "~"                  | // คิม เต็ก กุน<br>[キム ドクグン]   | 27           | //                | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |                  |
| 497            | "~"                  | // เช็ง อุน บ็อก<br>[チョン ウンボク] | 32           | //                | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |                  |
| 498            | "~"                  | // เช็ง ฮัน ก๊ก<br>[チョン ハングク]  | 24           | //                | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |                  |
| 499            | "~"                  | // คิม ฮัก กิ<br>[キム ハキグ]      | 31           | //                | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |                  |

|     |     |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 500 | "~" | // ชื่อ เจียง ยอง<br>[イ ジョンヨン] | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 501 | "~" | // เป็ก เฮง อี<br>[ベク ホンイ]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 502 | "~" | // ยุน เท จุง<br>[ユン テジュン]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 503 | "~" | // คิม เจียง อีล<br>[キム ジョンイル] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 504 | "~" | // ฮัน ฮู ดอง<br>[ハン スドン]      | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 505 | "~" | // อี เฮียง อู<br>[イ ヒョンウ]     | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 506 | "~" | // แบง ยัง กุน<br>[バン ヤングン]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 507 | "~" | // คัง ซัง ซอป<br>[カン サンソプ]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 508 | "~" | // อี ซัง จิน<br>[イ サンจิน]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 509 | "~" | // คิม เฮง วัน<br>[キム ฮันวัน]  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 510 | "~" | // เช บัง อี<br>[ชอย บันย]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |  |                                |    |    |                 |                                     |     |  |
|-----|--|--------------------------------|----|----|-----------------|-------------------------------------|-----|--|
| 511 | "~"                                    | // เบ กิล มุน<br>[ベ ギルムン]      | 32 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 512 | "~"                                    | // ขาง เซง ฮี<br>[チャン ソンヒ]     | 38 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 512 | "~"                                    | // คัง เท ซัง<br>[カン テサン]      | 25 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 514 | "~"                                    | // ฮี ซัง เซน<br>[イ ซานช็อน]   | 26 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 515 | ช่วยรบ ข้างเครื่องชั้น1<br>[一等整備<br>兵] | // ซง ฮัก บอง<br>[ソン ハクボン]     | 28 | // | "~"             | 13 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 13 日] | "~" |  |
| 516 | กลางสี่เรือชั้น2<br>[二等兵曹]             | // โก เอิน อี<br>[コ ウンイ]       | 26 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 517 | ข้างเครื่องชั้น2<br>[二等整備<br>兵]        | // ฮัน ฮะ ฮี<br>[ハン ハス]        | 30 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 518 | —                                      | // โจ เซ โต<br>[チョ チェド]        | 31 | // | พลเรือน<br>[市民] | 16 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 16 日] | "~" |  |
| 519 | —                                      | // ฮี เซียว ฮิน<br>[イ ヒョอิน]   | 36 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 520 | —                                      | // ปัก กี อ็อก<br>[ปาก กีอ็อก] | 29 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |

|     |                      |                              |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 521 | —                    | // อี จอง บ็อก<br>[イ ジョンボク]  | 29 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 522 | —                    | // ฮัน จาง ฮุน<br>[ハン ジャンフン] | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 523 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // คิม รง โจ<br>[キム ロンジョ]    | 25 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 524 | —                    | // ชาง ฮุน โจ<br>[チャン スンジョ]  | 28 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |

[202] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]  | วันเดือนปี<br>[年月日]             | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-----------------------------|--------------|-------------------|-----------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |            |                             |              |                   |                 | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]            | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]           |                  |
| 525            | —          | นาย เร็ง วี<br>[レン ウィ]      | 29           | เกาหลี<br>[韓国]    | พลเรือน<br>[市民] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月16日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 526            | —          | // คิม เฮ็ง เจ<br>[キム ソンジエ] | 37           | //                | "~"             | "~"                             | "~"                             |                  |
| 527            | —          | // คิม จอง แท<br>[キム ジョンテ]  | 32           | //                | "~"             | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |                      |                                 |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|---------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 528 | —                    | // คิม ชัน มุน<br>[キム チャンムン]    | 33 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 529 | —                    | // คัน จี เซ็ง<br>[カン ジソン]      | 42 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 530 | —                    | // อี ฮะ จุน<br>[イ ハジュン]        | 31 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 531 | —                    | // คิม แท สุ<br>[キム テス]         | 37 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 532 | —                    | // อี เจม บอง<br>[イ ジョムボン]      | 45 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 533 | —                    | // เซ อ็อก กุน<br>[チョイ オクグン]    | 33 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 534 | —                    | // ปัก เรียง อุน<br>[ปาก リョンウン] | 33 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 535 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // คิม ชัง วก<br>[キム サンオク]      | 34 | // | กองร้อย 8990<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所<br>8990 部隊] | "~" | "~" |  |
| 536 | —                    | // คัง จี เฮง<br>[カン ジホン]       | 23 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所]           | "~" | "~" |  |

|     |                      |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 537 | —                    | // คิม เก็ก ซุด<br>[キム ゲクチュン] | 24 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 538 | —                    | // ฮี เซ็ก กิ<br>[イ ソクギ]      | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 539 | —                    | // ฮี แท เอิน<br>[イ テオン]      | 28 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 540 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // เซ็ง ซัม มาน<br>[チョン サムナン] | 30 | // | กองขนส่ง<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所]      | "~" | "~" |  |
| 541 | —                    | // ฮง เซง ญ<br>[ホン ソنگ]       | 40 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 542 | —                    | // วัง เซ็ก จู<br>[ワン โซกจู]  | 42 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 543 | —                    | // เซ กิ อู<br>[โชยิ กิอุ]    | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 544 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // คิม จิน ฮุง<br>[キム จินฟุน] | 24 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | "~" | "~" |  |
| 545 | "~"                  | // ยู ตอง จุน<br>[ยู ดอนจู]   | 28 | // | "~"  | "~" | "~" |  |



|     |                      |                              |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 546 | —                    | // อี ฮุน สึ<br>[イ スンス]      | 26 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 547 | —                    | // เซ ฮี ไท<br>[チョイ ヒソ]      | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 548 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // อี เซล อุ<br>[イ ソルウ]      | 24 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 549 | "~"                  | // บัก จุน ยอง<br>[パク ジュンヨン] | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 550 | —                    | // คิม ยอง ซุล<br>[キム ヨンスル]  | 26 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 551 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // ยุน จุน ฮี<br>[ユン ジュンヒ]   | 35 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 552 | "~"                  | // เซ ยอง คิล<br>[チョイ ヨンギル]  | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 553 | "~"                  | // เซ ยุน เท็ก<br>[チョイ ユンテク] | 28 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 554 | —                    | // ลิม ยอง โค<br>[リム ヨンコ]    | 35 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |

|     |                      |                              |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 555 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // บัก จุง ยอง<br>〔パク ジュンヨン〕 | 29 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 556 | "~"                  | // อี พิล โม<br>〔イ ピルモ〕      | 29 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

[203] (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕           | นาม<br>〔氏名〕                      | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|----------------------|----------------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                                  |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔収容日〕            | กลับปิตภูมิ<br>〔送還日〕            |                  |
| 557            | —                    | นาย เซ ซาง กุน<br>〔チョイ チャングン〕    | 38           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | 16 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月16日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 558            | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // อี อู จิน<br>〔イ ウジン〕          | 29           | //                | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~"                             | "~"                             |                  |
| 559            | —                    | // โค บอง จิน<br>〔コ ボンジン〕        | 41           | //                | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 560            | —                    | // เอิน เบียง ซอง<br>〔ウン ビョンジョン〕 | 31           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |                      |                                 |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|---------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 561 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // คิม ซุน อี<br>〔キム スンイ〕       | 26 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 562 | —                    | // ยัง โฮ กัง<br>〔ヤン ホガン〕       | 40 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 563 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // บัก ซาง ซิก<br>〔バク チャンシク〕    | 30 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 564 | —                    | // ซาง เกียง วัน<br>〔チャン ギョンワン〕 | 34 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 565 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // ลิม มะ วู<br>〔リム マウ〕         | 25 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 566 | —                    | // คิม ลอง กู<br>〔キム ロング〕       | 24 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 567 | —                    | // อี ชุง ฮัก<br>〔イ チュンハク〕      | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 568 | —                    | // อี ซุง ซุก<br>〔イ フンスク〕       | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |                      |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 569 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // คิม ซิล ชุก<br>〔キム チルスク〕   | 23 | // | กองทัพพิง<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕                      | "~" | "~" |  |
| 570 | —                    | // เซ ตู ซิก<br>〔チョイ ドウシク〕    | 26 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 571 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // คิม เมียง สุก<br>〔キム ミヨンス〕 | 28 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 572 | "~"                  | // ปัก โน ซุง<br>〔パク ノスン〕     | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 573 | —                    | // คัง กัป ซิก<br>〔カン ガブシク〕   | 26 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 574 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | // เบ็ก ซึง แท<br>〔ベク スンテ〕    | 29 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 575 | —                    | // เซ แฮ บ็อก<br>〔チョイ ヘボク〕    | 28 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 576 | —                    | // คิม ฮี กัน<br>〔キム ヒガン〕     | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 577 | —                    | // รัน เช็ง ฮุน<br>〔ラン ソンウン〕  | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |                      |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 578 | 一                    | // คัง เยิง ซิน<br>[カン ソンシン]  | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 579 | 一                    | // ฮี เยิง ซุน<br>[イ ヨンチュン]   | 43 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 580 | 一                    | // ยุน เชย อี<br>[ユン チェイ]     | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 581 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // อัง เยิง ซุน<br>[アン ソนสน]  | 25 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 582 | "~"                  | // เบ็ก นัม สุก<br>[ベク ナムス]   | 28 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 583 | "~"                  | // ฮี ซัง ซุง<br>[イ サンチュน]    | 27 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 584 | "~"                  | // ฮี ซัง ซุก<br>[イ サンซิก]    | 29 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 585 | "~"                  | // กัก ยุน ฮัก<br>[クァク ユนฮัก] | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 586 | "~"                  | // คิม เซอ ซิน<br>[キム ソシン]    | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 587 | "~"                  | // ฮี อี อู<br>[イ イウ]         | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

[203] (裏面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕            | นาม<br>〔氏名〕                     | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕              | วันเดือนปี<br>〔年月日〕              | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|-----------------------|---------------------------------|--------------|-------------------|--|----------------------------------|----------------------------------|------------------|
|                |                       |                                 |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕             | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕            |                  |
| 588            | —                     | นาย ย้ง แซ เชิล<br>〔ヤン チェ Chol〕 | 25           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | พลเรือน<br>〔市民〕  | 16 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10 月 16 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05 月 13 日〕 |                  |
| 589            | —                     | 〃 ไช เปียง ชุน<br>〔チョイ ビョンチュン〕  | 33           | 〃                 | 〃〃   | 〃〃                               | 〃〃                               |                  |
| 590            | —                     | 〃 รีม กุ ฮัง<br>〔リム グハン〕        | 28           | 〃                 | 〃〃   | 〃〃                               | 〃〃                               |                  |
| 591            | —                     | 〃 ฮัน ฮุง ซิน<br>〔ハン フンシン〕      | 29           | 〃                 | 〃〃   | 〃〃                               | 〃〃                               |                  |
| 592            | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕 | 〃 เชิง เกียง ลู<br>〔チョン ギョンス〕   | 22           | 〃                 | คลังสนามที่ 89<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕虜收容所、<br>第 89 兵站地区隊本部〕 | 〃〃                               | 〃〃                               |                  |
| 593            | ช่วยรบชั้น 2<br>〔二等兵〕 | 〃 นัม เชิง เต็ก<br>〔ナム チョンドク〕   | 22           | 〃                 | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น                                 | 〃〃                               | 〃〃                               |                  |

|     |                       |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|-----------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
|     |                       |                               |    |    | [日本軍捕<br>虜収容所]                                   |     |     |  |
| 594 | "~"                   | // คิม ซิน เฮ<br>[キム シンヘ]     | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 595 | —                     | // เจน ฮัก ยอง<br>[チョン ハクヨン]  | 25 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 596 | —                     | // คิม ซีมุน<br>[キム チムン]      | 27 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 597 | —                     | // อู กิ เย็ง<br>[ウ ギヨン]      | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 598 | —                     | // คัง อิน เฮง<br>[カン インホン]   | 32 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 599 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // โร อิล ซัง<br>[ロ イルサン]     | 23 | // | ร.จ. พัน 18<br>[第 18 方面<br>軍]                    | "~" | "~" |  |
| 600 | ช่วยรบชั้น 2<br>[二等兵] | // โช แท ฮะ<br>[チョ テハ]        | 26 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 601 | "~"                   | // รีม เช็ง ฮุน<br>[リム チョンフน] | 31 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 602 | "~"                   | // คิม ซอง เซล<br>[キム チョンชอร] | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |     |                                |    |    |                 |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----------------|-----|-----|--|
| 603 | "~" | // ยูน ชาง ชุง<br>[ユン チャンチュン]  | 29 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 604 | "~" | // ปัก ของ มาน<br>[パク チョンมาน]  | 34 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 605 | "~" | // เบ เมียง ชัง<br>[ベ ミョンサン]   | 24 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 606 | "~" | // คิม ของ เกน<br>[キム ボンゴン]    | 28 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 607 | "~" | // เติ้ง ชัง แว<br>[チョン ซานเล] | 27 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 608 | "~" | // อัง ชัง อึก<br>[อัน ซานイク]  | 34 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 609 | "~" | // อี ยุน เปิม<br>[ไอ ยูนมอม]  | 24 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 610 | "~" | // อี ชัง โฮ<br>[ไอ ซานโฮ]     | 26 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 611 | —   | // เซ เจ วัน<br>[ชอยิ เจวอน]   | 24 | // | พลเรือน<br>[市民] | "~" | "~" |  |
| 612 | —   | // เซกิ ตอง<br>[ชอยิ กิดอน]    | 23 | // | "~"             | "~" | "~" |  |
| 613 | —   | // กู ยอง เฮ<br>[กู ยอนเห]     | 41 | // | "~"             | "~" | "~" |  |



|     |   |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|---|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 614 | — | // คิม เอ็ง ฮู<br>[キム ヨンス]   | 40 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 615 | — | // อี ดอง โฮ<br>[イ ドンホ]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 616 | — | // โม เชน ปุง<br>[モ チョンブン]   | 53 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 617 | — | // อี ฮี วัน<br>[イ ヒワン]      | 37 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 618 | — | // คิม รัก เอ็น<br>[キム ラクホン] | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[204] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]  | วันเดือนปี<br>[年月日]             | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-----------------------------|--------------|-------------------|-----------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |            |                             |              |                   |                 | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]            | กลับปดภูมิ<br>[送還日]             |                  |
| 619            | —          | นาย อี กิ ยอง<br>[イ ギヨン]    | 35           | เกาหลี<br>[韓国]    | พลเรือน<br>[市民] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月16日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 620            | —          | // เชน จอง กิ<br>[チョン ジョンギ] | 25           | //                | "~"             | "~"                             | "~"                             |                  |
| 621            | —          | // โฮ ดอง ชุน<br>[ホ ドンチュン]  | 28           | //                | "~"             | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |                      |                                |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|--------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 622 | —                    | // ชื่อ นัม<br>[イ グナム]         | 33 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 623 | —                    | // คิม จอง เฮา<br>[キム ジョンファン]  | 32 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 624 | —                    | // คัง เกิน แท<br>[カン ゲンテ]     | 32 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 625 | —                    | // ชื่อ นัม<br>[イ スナム]         | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 626 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // บัก ชาง โฮ<br>[パク チャンホ]     | 28 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 627 | "~"                  | // ชื่อ บ็อก นัม<br>[イ ボクナム]   | 37 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 628 | "~"                  | // ชิน คิล ซัง<br>[シン ギルサン]    | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 629 | "~"                  | // ชู เช็ก กุน<br>[ス チョクグン]    | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 630 | "~"                  | // ชื่อ เมียง กุน<br>[イ ミヨングン] | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 631 | "~"                  | // คิม แช ฮู<br>[キム チェス]       | 32 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |                       |                                 |    |    |  |                                     |     |  |
|-----|-----------------------|---------------------------------|----|----|--|-------------------------------------|-----|--|
| 632 | "~"                   | // บัก ซู อิล<br>[ハク スイル]       | 27 | // | "~"  | 19 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 19 日] | "~" |  |
| 633 | "~"                   | // คัง ดอง กู<br>[カン ドング]       | 24 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 634 | "~"                   | // ฮะ ซู เซิน<br>[ハ スチョン]       | 33 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 635 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // เซอ ฮัน สุ<br>[ソ ハンス]        | 24 | // | กองพลอิคาริ<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所]         | "~"                                 | "~" |  |
| 636 | "~"                   | // ยัง จอง ฮี<br>[ヤン ジョンヒ]      | 22 | // | กองพล 37<br>กองทัพญี่ปุ่น [第<br>37 師団日本<br>軍捕虜収容<br>所] | "~"                                 | "~" |  |
| 637 | ช่วยรบชั้น 2<br>[二等兵] | // จอง ฮัก เกียว<br>[チョン ハクギョウ] | 35 | // | กองควบคุมเขต<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所]        | "~"                                 | "~" |  |
| 638 | หัวหน้าเรือ<br>[兵曹長]  | // ยุน เจ โอ<br>[ユン ジェオ]        | 49 | // | กองขนส่ง<br>กองทัพญี่ปุ่น                              | 21 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 21 日] | "~" |  |

|     |                           |                               |    |    |                        |     |     |  |
|-----|---------------------------|-------------------------------|----|----|------------------------|-----|-----|--|
|     |                           |                               |    |    | [日本軍捕<br>虜収容所補<br>給部隊] |     |     |  |
| 639 | กลาสีเรือชั้น 3<br>[上等兵曹] | // อิม เต็ก ลู<br>[イム ドクス]    | 44 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 640 | กลาสีเรือชั้น 2<br>[二等兵曹] | // คิม คี โบ<br>[キム ギボ]       | 41 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 641 | "~"                       | // ยุน เบ็ง ฮัก<br>[ユン ボンハク]  | 36 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 642 | "~"                       | // จู เชน อัน<br>[ジュ チョンアン]   | 34 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 643 | กลาสีเรือชั้น 3<br>[上等兵曹] | // คิม ฮู ยอง<br>[キム スヨン]     | 34 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 644 | กลาสีเรือชั้น 2<br>[二等兵曹] | // อี ซิน โม<br>[イ シンモ]       | 31 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 645 | "~"                       | // ปัก เจิง ซอม<br>[パク ジョンソム] | 33 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 646 | "~"                       | // เฮน เอง ฮ็อก<br>[ホン エンオク]  | 27 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 647 | กลาสีเรือชั้น 3<br>[上等兵曹] | // โฮ อุน ปาด<br>[ホ ウンバン]     | 26 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |
| 648 | "~"                       | // อี กี ลัง<br>[イ ギアン]       | 26 | // | "~"                    | "~" | "~" |  |

|     |     |                              |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 649 | "~" | // คิม เวจี ดู<br>[キム ウォンドウ] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
|-----|-----|------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|

[204] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                            | วันเดือนปี<br>[年月日]             | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|---|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                             |              |                   |   | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]            | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]           |                  |
| 650            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย ฮี เต็ก อิล<br>[イ ドクイル] | 34           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองพลใหญ่โมริ<br>[「森」集<br>団]              | 21 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月21日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 651            | พลทหารชั้น1<br>[一等兵] | // กู กัปปู<br>[グ ガブウ]      | 22           | //                | หน่วยจี้ กองร้อย<br>1729<br>[第1729中<br>隊] | "~"                             | "~"                             |                  |
| 652            | "~"                  | // เซอ ซัง เซ<br>[ソ サンジェ]   | 22           | //                | "~"                                       | "~"                             | "~"                             |                  |
| 653            | "~"                  | // โอ เทจ็อง<br>[オ テジョン]    | 23           | //                | "~"                                       | "~"                             | "~"                             |                  |
| 654            | "~"                  | // ปัก อุน ฮี<br>[パク ウンヒ]   | 22           | //                | กองพลฮิคาริ<br>[「光」師<br>団]                | "~"                             | "~"                             |                  |
| 655            | "~"                  | // ฮอง กัก นัม<br>[ホン ゴクナム] | 22           | //                | คลังอาวุธกรุงเทพฯ                         | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |     |                                |    |    |   |     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
|     |     |                                |    |    | [在バンコク日本軍集積倉庫]  |     |     |  |
| 656 | "~" | // เ็จ วัน เข็ก<br>[チョン ワンソク]  | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 657 | "~" | // อี อู ฮะ<br>[イ ウハ]          | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 658 | "~" | // ฮะ อี เวจิน<br>[ハ イウオン]     | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 659 | "~" | // คิม ฮู ซอป<br>[キム ソップ]      | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 660 | "~" | // ฮอง ฮุน เกียง<br>[ホン スンギョン] | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 661 | "~" | // กู เกียง ซิล<br>[グ ギョンシル]   | 23 | // | กองพลธิดาวิ<br>กองร้อย3549<br>[「光」師<br>団 3549 中<br>隊] | "~" | "~" |  |
| 662 | "~" | // อี เฮง อู<br>[イ ホンウ]        | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 663 | "~" | // เซ ซัม สึ<br>[チョยไอ サムス]    | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |

|     |     |                               |    |    |   |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
| 664 | "~" | // บัก บัง บาด<br>[パク バンバン]   | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 665 | "~" | // คิม จอง เท็ก<br>[キム ジョンテク] | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 666 | "~" | // อี ซ็อง แด<br>[イ ソンデ]      | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 667 | "~" | // บัก กุน ซิก<br>[パク グンシク]   | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 668 | "~" | // ชะ เซง เซล<br>[チャ ソンソル]    | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 669 | "~" | // ฮัง มุน ดาด<br>[ハン ムンダル]   | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 670 | "~" | // นัม ยง ฮี<br>[ナム ヨンヒ]      | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 671 | "~" | // บัก เซซ ซุล<br>[パク セスン]    | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 672 | "~" | // คิม โจ โฮ<br>[キム ジョホ]      | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 673 | "~" | // คิม เฮง กุ<br>[キム ホング]     | 22 | // | เสนาธิการ 16<br>กรุงเทพฯ<br>[在バンコ<br>ク南方第 16<br>陸軍病院] | "~" | "~" |  |

|     |     |                                  |    |    |   |     |     |  |
|-----|-----|----------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
| 674 | "~" | // เซ เจ อู<br>[チョイ ジェウ]         | 22 | // | กองพล37<br>[第37師<br>団]  | "~" | "~" |  |
| 675 | "~" | // เซอ เบียง อ็อก<br>[ソ ビョンオク]   | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 676 | "~" | // โจ บัง เฮน<br>[チョ バンホン]       | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 677 | "~" | // เซ เบง ชุน<br>[チョイ ボンチュン]     | 27 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 678 | "~" | // ชาง เบียง ซิก<br>[チャン ビョンซิก] | 23 | // | หน่วยคลังสนาม<br>กองพลอัครี<br>กองร้อย3546<br>[「光」師<br>団第3546中<br>隊捕虜收容<br>所] | "~" | "~" |  |
| 679 | "~" | // คิม เจิง วัน<br>[キム ジョンワン]    | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 680 | "~" | // ปัก เจิง สุน<br>[パク ジョンス]     | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |

[205] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名] | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日] | วันเดือนปี<br>[年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|



|     |                       |                               |    |                |   | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕                | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕               |  |
|-----|-----------------------|-------------------------------|----|----------------|---|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 681 | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕 | นาย ชง นัม โบ<br>〔ソン ナムボ〕     | 23 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | หน่วยคลังสนาม<br>กองพลฮิคาริ<br>กองร้อย 3546<br>〔「光」師<br>団第 3546 中<br>隊捕虜收容<br>所〕 | 21 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 21 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 |  |
| 682 | "~"                   | " เบ็ก แด กุน<br>〔ベク デグン〕     | 23 | "              | "~"   | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 683 | "~"                   | " โอ อิน จู<br>〔オ インウ〕        | 22 | "              | กองพล 37<br>〔第 37 師<br>団〕   | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 684 | "~"                   | " คิม โจ กิล<br>〔キム ジョギル〕     | 19 | "              | "~"   | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 685 | "~"                   | " อี ซัง ฮัน<br>〔イ サンハン〕      | 21 | "              | "~"   | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 686 | "~"                   | " ปัก ยง สุก<br>〔パク ヨンス〕      | 23 | "              | "~"   | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 687 | "~"                   | " คิม จอง ด็อก<br>〔キム ジョンドウク〕 | 23 | "              | "~"   | "~"                                 | "~"                                 |  |

|     |                          |                               |    |    |   |     |     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
| 688 | "~"                      | // อัง ไต สู่<br>[アン ドス]      | 23 | // | หน่วยจี้ กองร้อย<br>1729<br>[第 1729 中<br>隊日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 689 | "~"                      | // อี้ เชียง ชุน<br>[イ ヨンチュン] | 23 | // | เสนารักษ16<br>กรุงเทพฯ<br>[在バンコ<br>ク南方第 16<br>陸軍病院]     | "~" | "~" |  |
| 690 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ยุน โท เอ็ก<br>[ユン ドヒョク]   | 24 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 691 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ยุน กิล เฮิน<br>[ユン ギルヒョン] | 22 | // | ร.พัน25 กองพลฮึกา<br>ริ<br>[第 25 軍<br>「光」師<br>団]        | "~" | "~" |  |
| 692 | "~"                      | // ปัก จอง ชุน<br>[パク ジョンチュン] | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 693 | "~"                      | // คัง ชัง กัน<br>[カン サンガン]   | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 694 | "~"                      | // คัง ยอง ฮี<br>[カン ヨンฮี]    | 22 | // | "~"   | "~" | "~" |  |

|     |                          |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 695 | "~"                      | // เซ บอง ซูล<br>[チヨイ ボンスル]   | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 696 | "~"                      | // คิม ยอง ซึก<br>[キム ヨンシク]   | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 697 | "~"                      | // โค กิ บ็อก<br>[コ ギボク]      | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 698 | "~"                      | // คิม ซุน อี<br>[キム สุนอี]   | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 699 | "~"                      | // คัง ยอง สุน<br>[カン โยงส]   | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 700 | "~"                      | // คิม เมียง ซู<br>[キム มยองส] | 21 | // | จี้ กองร้อย 2949<br>[第 2949 中<br>隊]                  | "~" | "~" |  |
| 701 | "~"                      | // โค วัน สุน<br>[コ ワンス]      | 26 | // | เสนารักษ 16<br>กรุงเทพฯ<br>[在バンコ<br>ク南方第 16<br>陸軍病院] | "~" | "~" |  |
| 702 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // อี ซอง โฮ<br>[イ ソンホ]       | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 703 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อัง ซัง โฮ<br>[アン サンホ]     | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |                       |                                 |    |    |   |     |     |  |
|-----|-----------------------|---------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
| 704 | "~"                   | // จง ชง นัม<br>[チョン チョンナム]     | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 705 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // เอ็ม แด เอ็ง<br>[イム デヨン]     | 27 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 706 | "~"                   | // บัก กิดอง<br>[ปาก กิดอง]     | 29 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 707 | "~"                   | // บัก ดองซุน<br>[ปาก ดองซุน]   | 26 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 708 | "~"                   | // เกียง ยุน อ็อก<br>[キョン ユンオク] | 25 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 709 | "~"                   | // ซิน เฮิน แด<br>[シン ホンデ]      | 27 | // | กองพลอักษาริ<br>กองร้อย3546<br>[「光」師<br>団第 3546 中<br>隊] | "~" | "~" |  |
| 710 | "~"                   | // ซอล ดง ไช<br>[ソン ดงไช]       | 22 | // | กองพล37 กองพัน<br>37<br>[第 37 師<br>団、第 37 大<br>隊]       | "~" | "~" |  |
| 711 | "~"                   | // อี ดองอุ<br>[イ ดองอุ]        | 23 | // | "~"   | "~" | "~" |  |

[205] (裏面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕            | นาม<br>〔氏名〕                  | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|-----------------------|------------------------------|--------------|-------------------|---|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                       |                              |              |                   |   | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕            | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕           |                  |
| 712            | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕 | นาย เซ ซิน ซิป<br>〔チョイ シンシプ〕 | 23           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองพล37 กองพัน<br>37<br>〔第37師<br>団、第37大<br>隊〕 | 21 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月21日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 713            | "~"                   | // ยุน ชัง ไช<br>〔ユン チャンソ〕   | 24           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 714            | "~"                   | // บัก ดอง เซล<br>〔パク ドンチョル〕 | 23           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 715            | "~"                   | // อี ชุง มาน<br>〔イ チュンマン〕   | 22           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 716            | "~"                   | // คิม ชู กัป<br>〔キム スカプ〕    | 22           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 717            | "~"                   | // ฮอง จอง ฮุน<br>〔ホン ジョンフン〕 | 22           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 718            | "~"                   | // ซง เซง คิล<br>〔ソン ソンギル〕   | 22           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |
| 719            | "~"                   | // คิม เซล มุน<br>〔キム チョルムン〕 | 20           | //                | "~"   | "~"                             | "~"                             |                  |

|     |                      |                                |    |    |  |                                     |     |  |
|-----|----------------------|--------------------------------|----|----|--|-------------------------------------|-----|--|
| 720 | "~"                  | // คิม กี แฮ<br>[キム ギヘ]        | 22 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 721 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // เกียง ยอง ซิก<br>[ギョン ヨンシク] | 25 | // | บก. กองพล37<br>[第 37 師団<br>日本軍野戦<br>部隊]          | "~"                                 | "~" |  |
| 722 | "~"                  | // คิม ยอง ซิน<br>[キム ヨンシン]    | 30 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | "~" |  |
| 723 | "~"                  | // คิม ชอง แท<br>[キム チョンテ]     | 28 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 724 | "~"                  | // ยูน แท ซิน<br>[ユン テシン]      | 25 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 725 | "~"                  | // ยอง ชู ฮ็อบ<br>[ヨン スオプ]     | 24 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 726 | "~"                  | // เช เกน ชู<br>[チョイ グンチュ]     | 22 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 727 | "~"                  | // คิม มั่น ดุก<br>[キム มんどอก]  | 29 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 728 | "~"                  | // เจน ซัง กุน<br>[チョน ซานกุน] | 30 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |

|     |     |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 729 | "~" | // คิม รั้ง ฤ<br>[キム ワング]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 730 | "~" | // เซ นัม สุ<br>[チョイ ナムス]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 731 | "~" | // บัก โล มุน<br>[パク โรมุน]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 732 | "~" | // เซ ยง ชู<br>[チョイ ヨンジユ]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 733 | "~" | // อี อุน ซัง<br>[イ ウンサン]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 734 | "~" | // คิม ของ เกิน<br>[キム ジョングン] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 735 | "~" | // มุน ของ บ็อก<br>[ムン チョンボク] | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 736 | "~" | // คิม คัน ฮุน<br>[キム ガンフン]   | 35 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 737 | "~" | // คิม ของ ซัม<br>[キム チョンサム]  | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 738 | "~" | // บัก อุน ซิก<br>[パク ウนซิก]  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 739 | "~" | // ฮุน อู บัง<br>[スン อุบัน]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                       |                              |    |    |   |     |     |  |
|-----|-----------------------|------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
| 740 | "~"                   | // บัก ชุน ชัง<br>[パク チュンサン] | 25 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 741 | "~"                   | // ยุน กู ซุง<br>[ユン グスン]    | 28 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 742 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // คิม กุก เอ็น<br>[キム グクホン] | 24 | // | กองพล22 กองพัน<br>86<br>[第22師<br>団、第86大<br>隊] | "~" | "~" |  |

[206] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]               | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>[年月日]             | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|---------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                           |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]            | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]           |                  |
| 743            | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย ชะ ยู ยูล<br>[チャ ユユル] | 26           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 22 ต.ค. 88<br>[1945年10<br>月22日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 744            | "~"                  | // อี ยง แร<br>[イ ヨンレ]    | 27           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |
| 745            | "~"                  | // โฮ อิน<br>[ホ イン]       | 26           | //                | "~"  | "~"                             | "~"                             |                  |



|     |                      |                                   |    |    |  |     |     |  |
|-----|----------------------|-----------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 746 | "~"                  | // ชิม ดอง เต็ก<br>[シム ドンドク]      | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 747 | "~"                  | // เซ ดอง ซูล<br>[チョイ ドンスル]       | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 748 | "~"                  | // ลิม ยอง เต็ก<br>[リム ヨンドク]      | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 749 | "~"                  | // เซ อี ซอป<br>[チョイ イソプ]         | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 750 | "~"                  | // เซ เปียง วัน<br>[チョイ บียองวัน] | 27 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 751 | —                    | // ยู ซุง ยาง<br>[ユ スンヤン]         | 24 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~" | "~" |  |
| 752 | —                    | // ซิน เซ ซัง<br>[ซิน ชอยซาน]     | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 753 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // คิม ของ ซอป<br>[キム ชอนโซป]     | 27 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~" | "~" |  |
| 754 | "~"                  | // ชิม ฮอง ซอป<br>[シム ホンโซป]      | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 755 | "~"                  | // เซิน กี ฮูล<br>[chon กิฟุน]    | 27 | // | "~"  | "~" | "~" |  |

|     |     |                                     |    |    |     |     |     |  |
|-----|-----|-------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 756 | "~" | // เซ ขาง ซูล<br>[ชโยิ ชานสน]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 757 | "~" | // เบ็ก เกียง เติน<br>[เบก กيونซอน] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 758 | "~" | // โค แซ อู<br>[โค เชอุ]            | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 759 | "~" | // ยู เบียง ฮัน<br>[ยู บيونฮัน]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 760 | "~" | // คิม บอง ชุน<br>[คิม บอนชุน]      | 31 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 761 | "~" | // อี กี เยิล<br>[อี กโยล]          | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 762 | "~" | // เซ ซิน กุก<br>[ชโยิ ซิงกุก]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 763 | "~" | // ยู อู เซ็ก<br>[ยู อุซอก]         | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 764 | "~" | // คิม เกียง ฮัม<br>[คิม กيونฮัม]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 765 | "~" | // ยุน วัน ชุน<br>[ยุน วันสน]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 766 | "~" | // โฮ เกียง ฮอง<br>[โฮ กيونฮอง]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                       |                             |    |    |                                |     |     |  |
|-----|-----------------------|-----------------------------|----|----|--------------------------------|-----|-----|--|
| 767 | "~"                   | // อู กิ ลี<br>[ウ ギス]       | 28 | // | "~"                            | "~" | "~" |  |
| 768 | "~"                   | // เซ บอง มุน<br>[チョイ ボンムン] | 26 | // | "~"                            | "~" | "~" |  |
| 769 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // คิม ยง ชุน<br>[キム ヨンチュン] | 27 | // | ร.พัน86<br>[第 86 大<br>隊]       | "~" | "~" |  |
| 770 | "~"                   | // อี บอง สุก<br>[ウ ボンス]    | 27 | // | "~"                            | "~" | "~" |  |
| 771 | นายสิบตรี<br>[下士官]    | // เบ ชุน เท็ก<br>[ベ チュンテク] | 31 | // | กองร้อย9905<br>[第 9905 中<br>隊] | "~" | "~" |  |
| 772 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // คิม ฮัก ไช<br>[キム ハクソ]   | 38 | // | ร.พัน86<br>[第 86 大<br>隊]       | "~" | "~" |  |
| 773 | "~"                   | // คิม วัน ไช<br>[キム ワンソ]   | 24 | // | "~"                            | "~" | "~" |  |

[206] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]   | นาม<br>[氏名]    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日]  | วันเดือนปี<br>[年月日]  | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|--------------|----------------|--------------|-------------------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |              |                |              |                   |                | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日] | กลับปิตภูมิ<br>[送還日] |                  |
| 774            | พลทหารชั้น 1 | นาย โอ ไช เอ็น | 24           | เกาหลี            | ร.พัน86        | 22 ต.ค. 88           | 13 พ.ค. 89           |                  |

|     |                          |                                |    |      |   |                    |                    |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|------|---|--------------------|--------------------|--|
|     | [一等兵]                    | [オ ソホン]                        |    | [韓国] | [第 86 大隊]   | [1945 年 10 月 22 日] | [1946 年 05 月 13 日] |  |
| 775 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // วัน จี เต็ก<br>[ワン ジドク]     | 25 | //   | กองพล22 กองพัน<br>86<br>[第 22 師<br>団、第 86 大<br>隊] | "~"                | "~"                |  |
| 776 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม บอง ซุน<br>[キム ボンスン]    | 25 | //   | "~"   | "~"                | "~"                |  |
| 777 | "~"                      | // ยัง มั่น เวิน<br>[ヤン マンウオン] | 24 | //   | "~"   | "~"                | "~"                |  |
| 778 | "~"                      | // มุน ของ เต็ก<br>[ムン チョンドク]  | 24 | //   | "~"   | "~"                | "~"                |  |
| 779 | จำพลทหาร<br>[兵長]         | // ปัก ซัง บ็อก<br>[パク ซานボク]  | 22 | //   | บก.หน่วยจี้<br>[日本軍野<br>戦部隊]                      | "~"                | "~"                |  |
| 780 | "~"                      | // ยู จี เซิน<br>[ユ シチョン]      | 22 | //   | คลังสนาม89<br>[第 89 兵站<br>地区隊本<br>部]              | "~"                | "~"                |  |
| 781 | "~"                      | // อิม เซก กุน<br>[イム ソクグン]    | 27 | //   | บก.หน่วยจี้<br>[日本軍野<br>戦部隊]                      | "~"                | "~"                |  |

|     |                          |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 782 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม กัป กิล<br>[キム カプギル]   | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 783 | "~"                      | // อี ซา สุ<br>[イ サス]         | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 784 | "~"                      | // ย็อง เซ กวัน<br>[ヤン チェグァン] | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 785 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อี ฮะ ซุน<br>[イ ハスン]       | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 786 | "~"                      | // ซง กิ ลี<br>[ソン ギス]        | 25 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 787 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // เซอ อี ฮอ<br>[ソ イホ]        | 22 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 788 | ช่วยรบชั้น3<br>[上等兵曹]    | // ปัก ย็อง ฟุ<br>[パク ヤンプ]    | 29 | // | กองร้อยทหารเรือ<br>หน่วยโฮริเอะ<br>[日本海軍<br>ほりえ部<br>隊] | "~" | "~" |  |
| 789 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵]     | // โช จุง ยุน<br>[チョイ ジュンユン]  | 27 | // | บก.หน่วยรถไฟ<br>[日本軍野<br>戦鉄道部<br>隊]                    | "~" | "~" |  |
| 790 | "~"                      | // โช อิน ซิก<br>[チョイ インシク]   | 21 | // | บก.หน่วยจิ   | "~" | "~" |  |

|     |                       |                                |    |    |  |     |     |  |
|-----|-----------------------|--------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
|     |                       |                                |    |    | [日本軍野<br>戦部隊]  |     |     |  |
| 791 | ช่วยรบชั้น3<br>[上等兵曹] | // อิม เค็ท กุน<br>[イム ソクグン]   | 21 | // | หน่วยติดต่อ<br>ทหารเรือที่101<br>[日本海軍<br>第101通信<br>隊] | "~" | "~" |  |
| 792 | "~"                   | // ย้ง ซัน โย<br>[ヤン サンホ]      | 26 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 793 | "~"                   | // ย้ง ทง ยอง<br>[ヤン ドンヨン]     | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 794 | "~"                   | // คิม ฮัก จู<br>[キム ハクジュ]     | 23 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 795 | "~"                   | // เพ ฮง กุย<br>[ベ ホングイ]       | 32 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 796 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵曹] | // เพ เพียง เจิง<br>[ベ ヒョンジョン] | 23 | // | สถานทูตทหารเรือ<br>กรุงเทพฯ<br>[在バンコ<br>ク日本海軍<br>通信隊]  | "~" | "~" |  |
| 797 | —                     | // โค กัง ซิก<br>[コ ガンシク]      | 31 | // | พลเรือน<br>[市民]  | "~" | "~" |  |

|     |                       |                               |    |    |  |     |     |  |
|-----|-----------------------|-------------------------------|----|----|--|-----|-----|--|
| 798 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕  | // คิม ยง โฮ<br>〔キム ヨンホ〕      | 24 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | "~" | "~" |  |
| 799 | "~"                   | // ซง ชาง ฮู<br>〔ソン チャンス〕     | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 800 | "~"                   | // เต อุง บอง<br>〔チョイ ウンบอน〕  | 24 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 801 | —                     | // เติ้ง ซัง<br>〔チョン ซาน〕     | 39 | // | พลเรือน<br>〔市民〕                                  | "~" | "~" |  |
| 802 | —                     | // ไช่ นำ กุน<br>〔チョイ นามกุน〕 | 30 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 803 | —                     | // ชาง ยอง ซุง<br>〔チャン โยงสน〕 | 29 | // | "~"  | "~" | "~" |  |
| 804 | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕 | // ระ กิ ลี<br>〔ラ ギス〕         | 22 | // | ร.พัน86<br>〔第 86 大<br>隊〕                         | "~" | "~" |  |

[207] (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕 | นาม<br>〔氏名〕 | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕 | วันเดือนปี<br>〔年月日〕  | วันเดือนปี<br>〔年月日〕  | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |            |             |              |                   |                | เข้าสู่ค่าย<br>〔収容日〕 | กลับปิตภูมิ<br>〔送還日〕 |                  |

|     |                          |                               |    |                |  |                                     |                                     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 805 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕     | นาย คิม ยอง กุน<br>〔キム ヨングン〕  | 27 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | จ<br>กองร้อย5826<br>〔第 5826 中<br>隊〕                  | 25 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 25 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 |  |
| 806 | พลทหารชั้น2<br>〔二等兵〕     | 〃 โค ยง มุน<br>〔コ ヨンムン〕       | 22 | 〃              | กองพล15 ร.พัน21<br>〔第 15 師<br>団、第 21 大<br>隊〕         | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 807 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | 〃 เบ็ก ยง เมิม<br>〔ベク ヨンボム〕   | 24 | 〃              | กองพล49<br>〔第 49 師<br>団〕                             | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 808 | "~"                      | 〃 โช ชง มั่น<br>〔チョイ ソンマン〕    | 22 | 〃              | โรงพยาบาลประจำ<br>คลังสนามที่133<br>〔第 133 兵<br>站病院〕 | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 809 | "~"                      | 〃 คิม ชัง น็อก<br>〔キム サンノク〕   | 23 | 〃              | "~"  | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 810 | "~"                      | 〃 โช ดด เมียง<br>〔チョイ เดมิヨン〕 | 24 | 〃              | คลังสนาม42<br>〔第 42 兵站<br>隊〕                         | "~"                                 | "~"                                 |  |
| 811 | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕     | 〃 เช็ง เซิน ฮะ<br>〔チョン ソンハ〕   | 24 | 〃              | โรงพยาบาลประจำ<br>คลังสนามที่133                     | "~"                                 | "~"                                 |  |



|     |                          |                                  |    |    |   |     |     |  |
|-----|--------------------------|----------------------------------|----|----|---|-----|-----|--|
|     |                          |                                  |    |    | [第 133 兵<br>站病院]                                |     |     |  |
| 812 | นายสิบโท<br>[准尉]         | // ยู กิ สึ<br>[ユ ギ ス]           | 21 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 813 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // เอม บอง เอิน<br>[オム ボンオン]     | 25 | // | "~"   | "~" | "~" |  |
| 814 | ช่วยรบชั้น3<br>[上等兵曹]    | // นัม ซุน ฮง<br>[ナム スンホン]       | 30 | // | กองร้อย5895<br>[第 5895 中<br>隊]                  | "~" | "~" |  |
| 815 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อี กัม เมียว<br>[イ ガムミョン]     | 29 | // | กองร้อย17110<br>[第 17110<br>中隊]                 | "~" | "~" |  |
| 816 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // ปัก เช กุน<br>[パク チェグン]       | 27 | // | กองพล49 กองพัน<br>49<br>[第 49<br>師団、第 49<br>大隊] | "~" | "~" |  |
| 817 | "~"                      | // คัม เด็ก ยอง<br>[カム ドクヨン]     | 21 | // | กองพัน214<br>[第 214<br>大隊]                      | "~" | "~" |  |
| 818 | "~"                      | // เิง มั่น กุม<br>[チョン มั่งกุม] | 22 | // | โรงพยาบาลประจำ<br>คลังสนามที่133                | "~" | "~" |  |

|     |                      |                              |    |    |  |                                     |     |  |
|-----|----------------------|------------------------------|----|----|--|-------------------------------------|-----|--|
|     |                      |                              |    |    | [第 133 兵<br>站病院]                                 |                                     |     |  |
| 819 | "~"                  | // คิม อี ฮัป<br>[キム イハプ]    | 24 | // | "~"  | "~"                                 | "~" |  |
| 820 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // อี ยง ก็อก<br>[イ ヨンゴク]    | 23 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~"                                 | "~" |  |
| 821 | —                    | // คิม มั่น ชุง<br>[キム マンスン] | 28 | // | พลเรือน<br>[市民]                                  | "~"                                 | "~" |  |
| 822 | —                    | // คิม เฮง อุก<br>[キム ホンウク]  | 34 | // | "~"  | 28 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 28 日] | "~" |  |
| 823 | —                    | // อี แซ พัว<br>[イ チェボ]      | 24 | // | "~"  | 12 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 12 日] | "~" |  |
| 824 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | // เช กัป จิน<br>[チョイ カプジン]  | 24 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~"                                 | "~" |  |
| 825 | "~"                  | // โค เฮิง ชัง<br>[コ ヨンサン]   | 26 | // | "~"  | 25 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 25 日] | "~" |  |

|     |     |                                |    |    |                 |                                     |     |  |
|-----|-----|--------------------------------|----|----|-----------------|-------------------------------------|-----|--|
| 826 | "~" | // อี้ เจ พุน<br>[イ ジェブン]      | 30 | // | "~"             | 27 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 27 日] | "~" |  |
| 827 | "~" | // เซ เจ ฮง<br>[チョイ ジェホン]      | 28 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 828 | "~" | // ปัก ชัง กัป<br>[ปาก ซานคาป] | 37 | // | "~"             | 5 ธ.ค. 88<br>[1945 年 12<br>月 05 日]  | "~" |  |
| 829 | "~" | // ขวาง เซ ยง<br>[チャン เซยง]    | 24 | // | "~"             | 12 ธ.ค. 88<br>[1945 年 12<br>月 12 日] | "~" |  |
| 830 | —   | // ปัก ชุน ซิก<br>[ปาก สนซิก]  | 32 | // | พลเรือน<br>[市民] | 15 ม.ค. 89<br>[1946 年 01<br>月 15 日] | "~" |  |
| 831 | —   | // ซิน ฮัก ชุน<br>[ซิน ฮักซุน] | 33 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 832 | —   | // ปัก ชัน ตอล<br>[ปาก ซานดอน] | 33 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 833 | —   | // ขวาง เป็ยว<br>[チャン บียง]    | 31 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |
| 834 | —   | // ปัก ชุน เซ็ก<br>[ปาก สนซอก] | 22 | // | "~"             | "~"                                 | "~" |  |

|     |   |                          |    |    |     |     |     |  |
|-----|---|--------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 835 | — | // ยู โฮ เยิล<br>[ユ ホヨル] | 39 | // | "~" | "~" | "~" |  |
|-----|---|--------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|

[207] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]               | นาม<br>[氏名]                   | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                  | วันเดือนปี<br>[年月日]              | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|--------------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                          |                               |              |                   |                                 | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]             | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 836            | —                        | นาย โน ซง ฮัก<br>[ノ ジョンハク]    | 27           | เกาหลี<br>[韓国]    | พลเรือน<br>[市民]                 | 15 ม.ค. 89<br>[1946年01<br>月15日]  | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 837            | —                        | // คิม เชิล จู<br>[キム チョルジュ]  | 25           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 838            | —                        | // คิม เซ ฮู<br>[キム チェス]      | 21           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 839            | —                        | // คิม ซึง บ็อก<br>[キム スンボク]  | 25           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 840            | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม แฮ ยง<br>[キム ヘヨン]      | 21           | //                | กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 20 เม.ย. 89<br>[1946年04<br>月20日] | "~"                             |                  |
| 841            | "~"                      | // เซ ซัม ซุก<br>[チョイ サムスン]   | -            | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 842            | จำพลทหาร<br>[兵長]         | // นัม เจอง เฮน<br>[ナム ジョンホン] | 25           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |

|     |                          |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 843 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คิม แซ พา<br>[キム セパ]           | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 844 | "~"                      | // คิม อิล กุย<br>[キム イルグイ]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 845 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ปัก ชัง บอง<br>[パク チャンボン]      | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 846 | "~"                      | // โช เจอง ซู<br>[โชยอิจ จยองส]   | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 847 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵]     | // คิม เจ โท<br>[キム ジェト]          | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 848 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // เฉิน กวัง เจ็ก<br>[ชอน แกนซอก] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 849 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม เต็ก ซิน<br>[キム ดอกซิน]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 850 | "~"                      | // รีม ยง ซิก<br>[ริม ยอนซิก]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 851 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // อี ซาง แย<br>[อิ ชานไยเอ]      | 21 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 852 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อี แร อี<br>[อิ เลย]           | -  | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 853 | "~"                      | // มิน อี ซิก<br>[มิน อิชิก]      | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                               |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 854 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ฮัน เช็ง มั่น<br>[ハン ソンマン] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 855 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ฮึง จอง กุน<br>[ハン ジョングン]  | 21 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 856 | "~"                      | // โซ กุน เช<br>[ソ グンチェ]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 857 | "~"                      | // เชน พิล เย็ง<br>[チョン ピルヨン] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 858 | นายสิบโท<br>[准尉]         | // รีม เช็ง เต็ก<br>[림 송도크]   | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 859 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵]     | // คิม ชัง ซัล<br>[김 산철]      | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 860 | ช่วยรบชั้น3<br>[上等兵曹]    | // โค จุง อีป<br>[코 준업]       | 37 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 861 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // อี เกิน แท<br>[이 근태]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 862 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อี เย็ง กัน<br>[이 영간]      | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 863 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // เช ชิก เฮน<br>[최 석현]       | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 864 | "~"                      | // อี ฮัน เพียง<br>[이 한영]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                            |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|----------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 865 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม ฮัน กู<br>〔キム ハング〕  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 866 | "~"                      | // เช็ง ฮัน<br>〔チョイ チョンハン〕 | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[208] (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕               | นาม<br>〔氏名〕                     | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                  | วันเดือนปี<br>〔年月日〕              | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|--------------------------|---------------------------------|--------------|-------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                          |                                 |              |                   |                                 | เข้าสู่ค่าย<br>〔収容日〕             | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕           |                  |
| 867            | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | นาย ฮัม เฮียง กูย<br>〔ハム ヒョングイ〕 | 24           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | 20 เม.ย. 89<br>〔1946年04<br>月20日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕 |                  |
| 868            | "~"                      | // ชาง อู กิ<br>〔チャン ウギ〕        | -            | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 869            | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕    | // โค ซู บ็อก<br>〔コ スポク〕        | -            | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 870            | "~"                      | // ยุน อู ซอน<br>〔ユン ウソン〕       | 26           | //                | "~"                             | 13 มี.ค. 89<br>〔1946年03<br>月13日〕 | "~"                             |                  |
| 871            | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม อิล ฮัน<br>〔キム イルハン〕     | 29           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 872            | นายสิบโท<br>〔准尉〕         | // เช็ง ชุน กิ<br>〔チョン チュンギ〕    | 27           | //                | "~"                             | 16 เม.ย. 89                      | "~"                             |                  |

|     |                          |                               |    |    |     |                       |     |  |
|-----|--------------------------|-------------------------------|----|----|-----|-----------------------|-----|--|
|     |                          |                               |    |    |     | [1946 年 04<br>月 16 日] |     |  |
| 873 | ช่วยรบชั้น3<br>〔上等兵曹〕    | // คิม เยิง ฤย<br>〔キム ヨングィ〕   | 24 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 874 | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕     | // คัง เมียง ฮี<br>〔カン ミョンヒ〕  | 24 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 875 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕     | // อี บอง ซอง<br>〔イ ボンソン〕     | 30 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 876 | นายสิบตรี<br>〔下士官〕       | // ซิน ดอง อู<br>〔シン ドンウ〕     | 30 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 877 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // ควน โอ ชุง<br>〔クァン オジュン〕   | 27 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 878 | "~"                      | // ปัก ทัง ฤย<br>〔パク ドウンงィ〕   | 29 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 879 | "~"                      | // คิม กิล โม<br>〔キム ギルモ〕     | 28 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 880 | "~"                      | // คิม กวัง จิง<br>〔キム クァンジง〕 | 24 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 881 | นายสิบเอก<br>〔少尉〕        | // อี เชิง บอง<br>〔イ ソンบอน〕   | 28 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |
| 882 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // เชิง แซ ชุน<br>〔チョง เซชุน〕 | 26 | // | "~" | "~"                   | "~" |  |



|     |                          |                                |    |    |     |                                  |     |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|----|-----|----------------------------------|-----|--|
| 883 | "~"                      | // คิม เริง อัด<br>[キム ソンイル]   | 26 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 884 | นายสิบโท<br>[准尉]         | // โค อึ๊ก ซู<br>[コ イクス]       | 25 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 885 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ชาง แจ็ง กุน<br>[チャン ギョングン] | 23 | // | "~" | 20 เม.ย. 89<br>[1946年04<br>月20日] | "~" |  |
| 886 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คิม เกียง อุก<br>[キム ギョンウク] | 23 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 887 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม ยอง แฮ<br>[キム ヨンヘ]      | 26 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 888 | "~"                      | // ปัก แท ยอง<br>[パク テヨン]      | 27 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 889 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // เซ แซ เจิน<br>[ชโยย เซชยอง] | 26 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 890 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // โค มั่น ซุล<br>[코 만스ん]      | 28 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 891 | "~"                      | // ปัก แฮ เซ็ด<br>[パク เฮซอล]   | 27 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 892 | "~"                      | // คิม บอง ยู<br>[キム BONユ]     | 25 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |
| 893 | "~"                      | // โช กิ ซัง<br>[ชโยย กิซัน]   | 26 | // | "~" | "~"                              | "~" |  |

|     |                          |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 894 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม ชาง ชัง<br>[キム チャンサン]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 895 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ซิน แท โค<br>[シン テゴ]        | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 896 | "~"                      | // อี ชัง เต็ก<br>[イ サンドク]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 897 | "~"                      | // เจริง ยอง จิน<br>[チョン ヨンジン] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[208] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]            | นาม<br>[氏名]                     | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]              | วันเดือนปี<br>[年月日]          | วันเดือนปี<br>[年月日]         | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-----------------------|---------------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------|
|                |                       |                                 |              |                   |                             | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]         | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]       |                  |
| 898            | —                     | นาย บัก บอง อ็อบ<br>[パク ボンオプ]   | -            | เกาหลี<br>[韓国]    | พลเรือน<br>[市民]             | 20 เม.ย. 89<br>[1946年04月20日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05月13日] |                  |
| 899            | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // ยู กี เย็ด<br>[ユ ギョル]        | 26           | //                | กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕虜收容所] | "~"                          | "~"                         |                  |
| 900            | "~"                   | // คิม เจริง แจ็ก<br>[キム ジョンジク] | 23           | //                | "~"                         | "~"                          | "~"                         |                  |
| 901            | "~"                   | // บัก เกียง วัน<br>[パク ギョンワン]  | 23           | //                | "~"                         | "~"                          | "~"                         |                  |

|     |                          |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 902 | นายสิบตรี<br>〔下士官〕       | // ชาง จุง ฮัน<br>〔チャン ジュンハン〕  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 903 | "~"                      | // เชน กวง ซัง<br>〔チョン クァンサン〕  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 904 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // บัก อึง เคียว<br>〔パク ウンギョ〕  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 905 | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕     | // มิน วัน ซิก<br>〔มิน ワนซิก〕  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 906 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // เบ็ก อุน กิ<br>〔เบค อุ๊งกิ〕 | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 907 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // มุน กุย เอ็ง<br>〔มาน ไกยอน〕 | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 908 | "~"                      | // ซง เอ็น เชน<br>〔ซอน โยซอน〕  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 909 | "~"                      | // บัก บ็อก ยง<br>〔パク บ็อกยอง〕 | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 910 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // อี ฮอง บ็อก<br>〔ไอ ฮอนบ็อก〕 | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 911 | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕     | // เซอ ยุน ซัม<br>〔โซ ยูนซัม〕  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 912 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // บัก เท เวิน<br>〔パク เทวอน〕   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                 |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 913 | "~"                      | // ยู เยิง ดีป<br>[ユ ヨンギプ]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 914 | "~"                      | // คิม เชน ฮัน<br>[キム チョンハン]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 915 | "~"                      | // คิม เชน เบิม<br>[キム ソンボム]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 916 | "~"                      | // ยูน ยอง กี<br>[ユン ヨンギ]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 917 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ยู กี ชุน<br>[ユ ギチュン]        | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 918 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ยูน ฮอง โม<br>[ユン ホンモ]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 919 | "~"                      | // ฮัน มั่น เยิง<br>[ハン マンヨン]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 920 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // พัง พุง โซ<br>[パン ブンソ]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 921 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ยูน เซ็ก พิล<br>[ユン ソクピล]    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 922 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม ชุง เซิล<br>[キム チュン چون] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 923 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ปัก ดอง กุย<br>[ปาก ดอง ไ]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 924 | "~"                      | // ควัง กุม เอ็ง<br>[クァン グンヨン] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 925 | นายสิบโท<br>[准尉]         | // คิม แจ็ก ซู<br>[キム ソクス]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 926 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // ซง เอ็ง กัปป<br>[ソン ヨンガプ]   | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 927 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม แจ็ก ซู<br>[キム ジョンス]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 928 | นายสิบโท<br>[准尉]         | // เช แซ เต็ก<br>[チョイ チェドク]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[209] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]            | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                  | วันเดือนปี<br>[年月日]              | วันเดือนปี<br>[年月日]             | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                       |                                |              |                   |                                 | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]             | กลับปิตภูมิ<br>[送還日]            |                  |
| 929            | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | นาย ซิน เซ เคียง<br>[シン チェギョン] | 23           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜收容所] | 20 เม.ย. 89<br>[1946年04<br>月20日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日] |                  |
| 930            | นายสิบเอก<br>[少尉]     | // เซอ แจ็ก เท็ก<br>[ソ ソクテク]   | 28           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |
| 931            | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | // คิม เซิน ซู<br>[キム ソンス]     | 23           | //                | "~"                             | "~"                              | "~"                             |                  |

|     |                                 |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|---------------------------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 932 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]               | // ฮี ซุน โฮ<br>[イ スンホ]        | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 933 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵]        | // อัน เบียง ยอง<br>[アン ビョンヨン] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 934 | "~"                             | // คิม ชง เย็น<br>[キム チョンヨン]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 935 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]            | // ยูน กิล ซอง<br>[ユン ギルソン]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 936 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵]        | // ระ มุน ส<br>[ラ ムンス]         | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 937 | ช่างเครื่องชั้น3<br>[上等整備<br>兵] | // ฮี ยัง เท็ก<br>[イ ヤンテク]     | 35 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 938 | นายสิบตรี<br>[下士官]              | // นำ ซี เฟิล<br>[ナム シピル]      | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 939 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵]        | // แจ็ก ชง กู<br>[ソク チョング]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 940 | "~"                             | // คัม พิน ไชง<br>[キム ปินช็อง] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 941 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]            | // คิม เชน ฮี<br>[キム ソンฮี]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 942 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵]        | // บัก ซอ เวิน<br>[باك ชอูออน] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                    |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 943 | "~"                      | // บัก อุน ชิน<br>[パク ウンチン]        | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 944 | จำพลทหาร<br>[兵長]         | // คัง ซัม ดู<br>[カン サムス]          | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 945 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // โช ขาง ฮัน<br>[ชโยอิ ชャンฮัน]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 946 | "~"                      | // เช็ง เยิง มิน<br>[ชยอง ยอนมิน]  | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 947 | "~"                      | // คัง แท อิน<br>[カン テイン]          | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 948 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // โค เท อิน<br>[코 테อิน]           | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 949 | "~"                      | // มุน ดอง ฮัน<br>[ムン ดอนฮัน]      | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 950 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // เซิน ดู มัน<br>[ชยอง ดอุมัน]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 951 | "~"                      | // ฮัน เช็ง เวิด<br>[อัน ชยองวอน]  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 952 | "~"                      | // เบ็ก ชุน เมียง<br>[เบก ชุนมยอง] | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 953 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // อี อิน ซัล<br>[อี อินซิล]       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                  |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 954 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // เติ้ง เติ้ง คิล<br>〔チョン ソンギル〕 | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 955 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // คูก ของ ซอป<br>〔クック チョンソプ〕    | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 956 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕     | // ฮะ กิ ฮอง<br>〔ハ ギホン〕          | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 957 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คัง ซิน สู<br>〔カン シンス〕        | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 958 | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕     | // คิม ยง กุน<br>〔キム ヨングン〕       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 959 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // บัก เติ้ง ชุน<br>〔パク ソนチュン〕   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[209] (裏面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕           | นาม<br>〔氏名〕                   | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕              | วันเดือนปี<br>〔年月日〕          | วันเดือนปี<br>〔年月日〕         | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|----------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------|
|                |                      |                               |              |                   |                             | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕         | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕       |                  |
| 960            | พลทหารชั้น1<br>〔一等兵〕 | นาย บัก ซึง เชน<br>〔パク スンソン〕  | 25           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕虜收容所〕 | 20 เม.ย. 89<br>〔1946年04月20日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05月13日〕 |                  |
| 961            | "~"                  | // เชน ของ นัม<br>〔チョン チョンナム〕 | 24           | //                | "~"                         | "~"                          | "~"                         |                  |



|     |                          |                             |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|-----------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 962 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คน อึ้ง ใจ<br>[コン ウンジョ]  | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 963 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ฮี ของ เอ็ด<br>[イ ホンイル]  | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 964 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อูย แท ซัง<br>[-ui 테산]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 965 | "~"                      | // ฮี ของ ฮง<br>[イ 초ョンハ]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 966 | "~"                      | // ซอน ซู เชิล<br>[ソン 스텐]   | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 967 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // ซง ซุน ซุล<br>[ソン 슐쑤]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 968 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ชาง แซ คน<br>[찬 চেคอน]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 969 | "~"                      | // คิม นัม กุน<br>[킴 남근]    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 970 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // ฮง ของ แม<br>[혼 초ண்메]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 971 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ปัก แซ เพ็ก<br>[팍 চেปีก] | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 972 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ปัก ดาล ฮี<br>[팍 달히]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                   |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|-----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 973 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ฮัน ยอง แท<br>[ハン ヨンテ]         | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 974 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ฮัง เมียง ซิก<br>[アン ミョンシク]    | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 975 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คัง กิ ฮัน<br>[カン ギハン]         | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 976 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // เจน กิ จุน<br>[チョン ギジュン]       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 977 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อี ซัง เช็ล<br>[イ サン Chor]     | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 978 | "~"                      | // คิม ซู ไฮ<br>[キム スホ]           | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 979 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คน แท อึน<br>[コン テイン]          | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 980 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ซาง เค็ง เช็ก<br>[チャン ギョンシク]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 981 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // ปัก เช็ก ยอง<br>[ปาก โซกยอน]   | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 982 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม แซร ก<br>[キム เชรอก]        | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 983 | "~"                      | // รีม เบียง ชุน<br>[ริม บ็องชุน] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|     |                          |                                |    |    |     |     |     |  |
|-----|--------------------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 984 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // เซ ซัง ซิก<br>[チョイ サンシク]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 985 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // อัน เซ พวง<br>[アン チェバン]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 986 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // บัก เซิง เย็ด<br>[باك ソンイル] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 987 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // คิม ซี โฮน<br>[キム チホン]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 988 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม ซัง กุย<br>[キム サングイ]    | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 989 | "~"                      | // ยู แซ โฮน<br>[ユ チェホン]       | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 990 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม มัค ตอง<br>[キム マクドン]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[210] (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]               | นาม<br>[氏名]                     | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]              | วันเดือนปี<br>[年月日]          | วันเดือนปี<br>[年月日]         | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|--------------------------|---------------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------|
|                |                          |                                 |              |                   |                             | เข้าสู่ค่าย<br>[收容日]         | กลับปิตุภูมิ<br>[送還日]       |                  |
| 991            | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | นาย คิม พียง อึ๊ก<br>[キム ピョンイク] | 26           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕虜收容所] | 20 เม.ย. 89<br>[1946年04月20日] | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05月13日] |                  |

|      |                          |                                  |    |    |     |     |     |  |
|------|--------------------------|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 992  | "~"                      | // โอ ชุน คน<br>[オ チュンゴン]        | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 993  | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คิม ยง ฮอป<br>[キム ヨンホプ]       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 994  | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // นำ ฮง<br>[ナム ฮอน]             | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 995  | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // ปัก เซ็ง ซิก<br>[ปาก ช็องชิก] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 996  | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // โช ยง มุน<br>[ช็อย โยนมุน]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 997  | "~"                      | // ยุน แท ชุน<br>[ยุน เช็ชุน]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 998  | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // คิม ชาง ฮู<br>[คิม ชานส์]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 999  | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // เซ กี มัน<br>[ช็อย กีมัน]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1000 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คน เพียง กี<br>[คอน ป็องกิ]   | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1001 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // อัน จอง เซ็ก<br>[อัน จ็องชิก] | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1002 | "~"                      | // โค ดอง จิน<br>[โค ดงจิน]      | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|      |                          |                                 |    |    |     |     |     |  |
|------|--------------------------|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 1003 | "~"                      | // คิม ดอง โฮ<br>[キム ドンヒ]       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1004 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ฮี เท็ก โพ<br>[イ ドクポ]        | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1005 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คิม ดู ยูล<br>[キム ドウユル]      | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1006 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // กู เจิง แท<br>[グ ソンテ]        | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1007 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม กุย ฮัน<br>[キム グイハン]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1008 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // คิม เซิน เจิง<br>[キム チョンチュン] | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1009 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คัง เท็ก เต็ก<br>[カン テクシク]   | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1010 | พลทหารชั้น1<br>[一等兵]     | // เจิง กิ ดอง<br>[ソン ギドン]      | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1011 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // คิม ฮัน ควน<br>[キム アンクァน]    | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1012 | "~"                      | // อิม กวัน ซัล<br>[イム グァนซิล]  | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1013 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // คิม พัน ยง<br>[キム พันยง]     | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |

|      |                          |                               |    |    |     |     |     |  |
|------|--------------------------|-------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 1014 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // บัก บอง กุ<br>[パク ボング]     | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1015 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // เซ อิม เจิน<br>[チョイ イムチョン] | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1016 | "~"                      | // จิน มั่น ซูล<br>[ジン マンスル]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1017 | "~"                      | // มุน กิ เจิน<br>[ムン ギソン]    | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1018 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ซิน ย็อง ซิก<br>[シン ヨンシク]  | 22 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1019 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ฮัน ซัง ชุน<br>[ハン サンチュン]  | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1020 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // อิม ของ แท<br>[イム チョンテ]    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1021 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // ฮัน เมียง โฮ<br>[ハン ミョンホ]  | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[210] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]            | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日]  | วันเดือนปี<br>[年月日]  | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |                       |                                |              |                   |                | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日] | กลับปัดภูมิ<br>[送還日] |                  |
| 1022           | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵] | นาย เซ เช็ง ดัก<br>[チョイ チョンダク] | 28           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองทัพญี่ปุ่น  | 20 เม.ย. 89          | 13 พ.ค. 89           |                  |

|      |                          |                                 |    |    |                                 |                   |                   |  |
|------|--------------------------|---------------------------------|----|----|---------------------------------|-------------------|-------------------|--|
|      |                          |                                 |    |    | [日本軍捕<br>虜収容所]                  | [1946年04<br>月20日] | [1946年05<br>月13日] |  |
| 1023 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵]     | // คิม ยอง บ็อก<br>[キム ヨンボク]    | 28 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1024 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // อัน เบ็ก ซิน<br>[アン ボクシン]    | 23 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1025 | นายร้อยตรี<br>[中尉]       | // เซ เฮียง ซ็อบ<br>[チョイ ヒョンソプ] | 25 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1026 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // อี ยอง เท็ก<br>[イ ヨンテク]      | 23 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1027 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // ยัง ชัน ฮง<br>[ヤン チャンホン]     | 25 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1028 | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵]     | // เซอ ยง เพิน<br>[ソ ソボン]       | 25 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1029 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // บัก ชาง ชุน<br>[باك ชานชุน]  | 26 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |
| 1030 | —                        | // คัง อึ๊ก เวิล<br>[カン イクウออน] | 32 | // | พลเรือน<br>[市民]                 | "~"               | "~"               |  |
| 1031 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม มั่น ซู<br>[キム มานส์]    | 23 | // | กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | "~"               | "~"               |  |
| 1032 | นายสิบตรี<br>[下士官]       | // เชน จิง อุง<br>[ซอน จินอุน]  | 35 | // | "~"                             | "~"               | "~"               |  |

|      |                          |                                  |    |    |     |     |     |  |
|------|--------------------------|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 1033 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // คิม ซัง พ็อก<br>[キム サンボク]     | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1034 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // มิน ฮู ซิก<br>[ミン スシク]        | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1035 | "~"                      | // คิม ชุน เฮ<br>[キム チュンヘ]       | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1036 | ช่วยรบชั้น 2<br>[二等兵]    | // โค แจ็ง โม<br>[コ ジョンモ]        | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1037 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // คิม ยง ดู<br>[キム ヨンドウ]        | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1038 | จ่าพลทหาร<br>[兵長]        | // คิม แจอง ซ็อง<br>[キム ジョンスン]   | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1039 | "~"                      | // ซิน เต็ก ซุล<br>[シン ソクスル]     | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1040 | พลทหารชั้น 1<br>[一等兵]    | // ระ พัง คุย<br>[ラ パングィ]        | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1041 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>[上等兵] | // โคน เท เอ็ก<br>[コン テヒョク]      | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1042 | "~"                      | // ยัง ซัม ซอม<br>[ヤン サムソン]      | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1043 | "~"                      | // ปัก บ็อก มั่น<br>[パク บ็อกมาน] | 29 | // | "~" | "~" | "~" |  |



|      |                          |                                 |    |    |     |     |     |  |
|------|--------------------------|---------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 1044 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // ชึง ซัม วัน<br>〔チョン サムワン〕    | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1045 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม มั่น เวิน<br>〔キム マンウオン〕  | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1046 | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕    | // อี ชาง กิ<br>〔イ チャンギ〕        | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1047 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕     | // อี เบียง ซู<br>〔イ ビョンส〕      | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1048 | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕    | // มุน เซ ซิล<br>〔ムン チェシル〕      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1049 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // คิม ฮัน เวิน<br>〔キム ハンウオン〕   | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1050 | ช่วยรบชั้น3<br>〔上等兵曹〕    | // คิม ซู กัป<br>〔キム スカプ〕       | 23 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1051 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม แร เฮียน<br>〔キム レヒョン〕    | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1052 | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕     | // ซิน เฮน เคียง<br>〔シン ホนงยอง〕 | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[211] (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕 | นาม<br>〔氏名〕 | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕 | วันเดือนปี<br>〔年月日〕  | วันเดือนปี<br>〔年月日〕  | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
|                |            |             |              |                   |                | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕 | กลับปัดภูมิ<br>〔送還日〕 |                  |
|                |            |             |              |                   |                |                      |                      |                  |

|      |                          |                                   |    |                |                                 |                                      |                                     |  |
|------|--------------------------|-----------------------------------|----|----------------|---------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1053 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | นายยัง ชุน ซึก<br>〔ヤン チュンソク〕      | 26 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜収容所〕 | 20 เม.ย. 89<br>〔1946 年 04<br>月 20 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 |  |
| 1054 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // เซ โด เฮน<br>〔チョイ ドホン〕         | 28 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1055 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม อิน ฮัก<br>〔キム インハク〕       | 23 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1056 | "~"                      | // เฉิง มั่น ซัง<br>〔チョン マンサン〕    | 26 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1057 | จ่าพลทหาร<br>〔兵長〕        | // คน อัก จุง<br>〔コン アクジュン〕       | 26 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1058 | พลทหารชั้นพิเศษ<br>〔上等兵〕 | // คิม แซ ชุน<br>〔キム チェチュン〕       | 23 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1059 | ช่วยรบชั้น 2<br>〔二等兵〕    | // วัง อิล ลู<br>〔ワン イルス〕         | 23 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1060 | "~"                      | // เฉิง ฮี ฮัน<br>〔チョン ヒハン〕       | 22 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1061 | พลทหารชั้น 1<br>〔一等兵〕    | // ฮัน ฮี ยอง เคียว<br>〔ハン ヒヨンギョ〕 | 23 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1062 | นายร้อยตรี<br>〔中尉〕       | // ปัก เจอง เซอ<br>〔パク ジョンชโย〕    | 32 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |
| 1063 | ช่วยรบชั้น 2<br>〔二等兵〕    | // อู เฉิง ทอง<br>〔ウ ソントン〕        | 36 | //             | "~"                             | "~"                                  | "~"                                 |  |

|      |     |                                |    |    |  |                                      |     |  |
|------|-----|--------------------------------|----|----|--|--------------------------------------|-----|--|
| 1064 | "~" | // คิม โท เอ็น<br>[キム ドヨン]     | 26 | // | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕<br>虜収容所] | 27 เม.ย. 89<br>[1946 年 04<br>月 27 日] | "~" |  |
| 1065 | "~" | // ชาว มู กิล<br>[チャン ムギル]     | 28 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1066 | "~" | // คิม วัน อุน<br>[キム ワンウン]    | 36 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1067 | "~" | // คิม ยัง สึ<br>[キム ヤンス]      | 30 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1068 | "~" | // บัก กียอง<br>[ปาก กियो]     | 25 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1069 | "~" | // ยู กิ ฮอง<br>[ユ ギホン]        | 34 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1070 | "~" | // ชะ จอง นัม<br>[チャ ジョンナム]    | 25 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1071 | "~" | // เซ รัก เสิน<br>[ชโยอิ ラクホン] | 24 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1072 | "~" | // คิม ฮอง ฮะ<br>[キム ホンハ]      | 27 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |
| 1073 | "~" | // คิม เห่ง โม<br>[キム ソンモ]     | 24 | // | "~"  | "~"                                  | "~" |  |

|      |     |                                  |    |    |     |     |     |  |
|------|-----|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|--|
| 1074 | "~" | // เซอ มู จิน<br>[ソ ムジン]         | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1075 | "~" | // คิม มุน ฮัน<br>[キム ムンハン]      | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1076 | "~" | // คิม นัม ซิก<br>[キム ナムシク]      | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1077 | "~" | // ละ เซ็ง เต็ก<br>[ラ ソンドク]      | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1078 | "~" | // คิม กุ ฮุน<br>[キム グフン]        | 25 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1079 | "~" | // ยู เซ็ง จิน<br>[ユ ソンジン]       | 28 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1080 | "~" | // คิม ซ็ บ็อก<br>[キム スボク]       | 30 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1081 | "~" | // กัก ฮี ทัก<br>[クァク ヒタク]       | 24 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1082 | "~" | // คิม ยุน เซ็ก<br>[キム ユンソク]     | 26 | // | "~" | "~" | "~" |  |
| 1083 | "~" | // ฮอง เจิน เพียว<br>[ホン ジョンピョウ] | 27 | // | "~" | "~" | "~" |  |

[211] (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名] | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>[年月日] | วันเดือนปี<br>[年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|

|      |   |  |   |                |   | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕                | กลับปิตุภูมิ<br>〔送還日〕               |   |
|------|---|--|---|----------------|---|-------------------------------------|-------------------------------------|---|
|      |   | (จำพวกเด็ก)<br>〔児童数〕                       |   |                |   |                                     |                                     |   |
| 1084 | — | เด็กชาย โช เจ็ง ชุก<br>〔男児 チョイ ジョン<br>チュク〕 | 3 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | — | 16 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 16 日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946 年 05<br>月 13 日〕 | เด็ก<br>〔児童〕                            |
| 1085 | — | // ชี เซ็ง มุน<br>〔// イ チョンムン〕             | 1 | //             | — | "~"                                 | "~"                                 | //                                      |
| 1085 | — | // ริว เทง อุง<br>〔// リュウ トンウン〕            | 1 | //             | — | "~"                                 | "~"                                 | //                                      |
| 1087 | — | // เค็น แท ซัม<br>〔// コン テサム〕              | 1 | //             | — | "~"                                 | "~"                                 | //                                      |
| 1088 | — | // คิม ฮอง ฮี<br>〔// キム ホンヒ〕               | 5 | //             | — | "~"                                 | "~"                                 | //                                      |
| 1089 | — | // โค ฮุน จุง<br>〔// コ フンジユン〕              | 3 | //             | — | "~"                                 | "~"                                 | //                                      |
| 1090 | — | // ชี แท เวิน<br>〔// イ テウออน〕              | 1 | //             | — | 25 ต.ค. 88<br>〔1945 年 10<br>月 25 日〕 | "~"                                 | เกิดในค่าย<br>〔捕虜収<br>容所にお<br>いて出<br>生〕 |

|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|---|---|--------------------------------|---|---|---|-------------------------------------|-----|--------------|
| 1901  | 一 | ” คิม อัม บิล<br>[” キム アンビル]   | 2 | ” | 一 | 16 ม.ค. 89<br>[1946 年 01<br>月 16 日] | ”~” | เด็ก<br>[児童] |
| 1092  | 一 | ” อี ยอง นัม<br>[” イ ヨンナム]     | 4 | ” | 一 | ”~”                                 | ”~” | ”            |
| 1093  | 一 | ” เช็ง บอง อิล<br>[” チョン ボンイル] | 2 | ” | 一 | ”~”                                 | ”~” | ”            |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
| ได้คัดลอกตามรายงานของหัวหน้าชาวเกาหลีไว้เป็นการถูกต้องแล้ว<br>[韓国人指揮官が作成した報告書の通り正しく複写された] |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |
|   |   |                                |   |   |   |                                     |     |              |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

(注) 1 原典において、日本語の表面、裏面の表記は存在しない。

(注) 2 朝鮮人男性捕虜の氏名の前に記載されている「นาย」というタイ語は、英語の「Mr.」を意味しているが、日本語表記時には省略した。

(出所) タイ国立公文書館 「บก. สูงสุด 3. 7/18 ทหารเกาหลีและฟอโมซา [軍最高司令部3. 7/18 韓国及び台湾軍] 」194-211頁。

付録2 『รายงานหญิงชาวเกาหลีในค่ายกักคุม อพยพที่กลับประเทศ [アユタヤ捕虜収容所から韓国へ送還された  
 韓国人女性の名簿]』の原典

212 (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕                      | นาม<br>〔氏名〕                 | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>〔収容年<br>月日〕 | วันเดือนปี<br>กลับปดภูมิ<br>〔本国送還<br>年月日〕 | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 1              | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>〔看護婦補<br>助〕 | นาง เฮิน อ็อกเซ<br>〔ホン オクセ〕 | 22           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍医<br>療看護部<br>隊〕 | 7 ต.ค. 88<br>〔1945年1<br>0月07日〕           | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕           |                  |
| 2              | “_____”                         | // อี จุงชุน<br>〔イ ジュンチュン〕  | 42           | //                | “_____”  | “_____”                                  | “_____”                                   |                  |
| 3              | “_____”                         | // อิม ยองชุน<br>〔イム ヨンチュン〕 | 28           | //                | “_____”  | “_____”                                  | “_____”                                   |                  |
| 4              | “_____”                         | // คิว อ็อกรัน<br>〔キュ オ克蘭〕  | 24           | //                | “_____”  | “_____”                                  | “_____”                                   |                  |
| 5              | “_____”                         | // คิม ชุนซิก<br>〔キム チュンシク〕 | 28           | //                | “_____”  | “_____”                                  | “_____”                                   |                  |
| 6              | “_____”                         | // เหว็ง เหวินยอป           | 23           | //                | “_____”  | “_____”                                  | “_____”                                   |                  |



|    |         |                                 |    |    |         |                                 |         |  |
|----|---------|---------------------------------|----|----|---------|---------------------------------|---------|--|
|    |         | [チョン オンヨプ]                      |    |    |         |                                 |         |  |
| 7  | "_____" | // คัง จอณนิม<br>[カン ジョンニム]     | 25 | // | "_____" | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日] | "_____" |  |
| 8  | "_____" | // อี อินฮี<br>[イ インヒ]          | 32 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 9  | "_____" | // คิม ชุนฮง<br>[キム チュンハ]       | 26 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 10 | "_____" | // อี ยองเซ<br>[イ ヨンチェ]         | 21 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 11 | "_____" | // ชาง ฮยุง<br>[チャン スハン]        | 24 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 12 | "_____" | // ปัก เคโท<br>[ปาก ゲト]         | 24 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 13 | "_____" | // ซิน คิมอี<br>[シン ギムイ]        | 23 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 14 | "_____" | // ชาง เยิลยุง<br>[チョン ヨルハン]    | 22 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 15 | "_____" | // เกน คุมบอง<br>[คอน คุมบอน]   | 22 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 16 | "_____" | // ซิน ชุนเซ<br>[ซิน チュンチェ]     | 21 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 17 | "_____" | // ยุง ญุนเซ็ก<br>[ยุง ญุนเซ็ก] | 26 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |

|    |         |                                    |    |    |         |         |         |  |
|----|---------|------------------------------------|----|----|---------|---------|---------|--|
|    |         | [ヤン ユンソク]                          |    |    |         |         |         |  |
| 18 | "_____" | // ของ ฮีซุน<br>[ソン ヒチュン]          | 25 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 19 | "_____" | // ซง ซุนเยิน<br>[ソン チュンヨン]        | 25 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 20 | "_____" | // เซ เกียงเยิน<br>[ชอย เกียงยอง]  | 28 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 21 | "_____" | // เซิน เมียงฮ็อก<br>[ชอน มยองฮอก] | 28 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 22 | "_____" | // ซง เกียงฮ็อก<br>[ソン เกียงฮอก]   | 31 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 23 | "_____" | // โอ ซุนเด็ก<br>[โอ ชุนด็อก]      | 26 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 24 | "_____" | // โอ แทมก<br>[โอ เทมาค]           | 21 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 25 | "_____" | // เซ ฮันกุน<br>[ชอย ฮันกุน]       | 30 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 26 | "_____" | // ฮี ฮีจุน<br>[อี ฮีจุน]          | 24 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 27 | "_____" | // ฮี โทยะ<br>[อี ดฮา]             | 27 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 28 | "_____" | // เซิง ซุนนาม<br>[ชอน ชุนนาม]     | 22 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |

|    |         |                              |    |    |         |         |         |  |
|----|---------|------------------------------|----|----|---------|---------|---------|--|
| 29 | "_____" | // เฉิง อิลทัล<br>[チョン イルダル] | 27 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
|----|---------|------------------------------|----|----|---------|---------|---------|--|

212 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                      | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                      | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปทุมมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------|-------------------|---|--|---|------------------|
| 30             | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง เฉิง เกียงซุน<br>[チョン ギョンスン] | 22           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |
| 31             | "_____"                         | // คิม เกียงซุน<br>[キム ギョンチュン]   | 36           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |
| 32             | "_____"                         | // อี เจียงซุก<br>[イ ジョンスク]      | 22           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |
| 33             | "_____"                         | // คิม เคซุง<br>[キム ケスン]         | 29           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |
| 34             | "_____"                         | // ปัก ไมคิม<br>[パク モギム]         | 29           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |
| 35             | "_____"                         | // คิม ไทซุน<br>[キム ドスン]         | 25           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |
| 36             | "_____"                         | // ปัก บุนนัม<br>[パク ブンナム]       | 26           | //                | "_____"   | "_____"                                  | "_____"                                   |                  |

|    |         |                                   |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|-----------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|    |         | [ پاک ฺบนนาม ]                    |    |    |         |        |         |  |
| 37 | "_____" | // สี บองซุน<br>[ ไอ บอนสน ]      | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 38 | "_____" | // บัก บองนัม<br>[ پاک บอนนาม ]   | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 39 | "_____" | // ภู พันสุ<br>[ กู ปانس ]        | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 40 | "_____" | // สี นัมซุน<br>[ ไอ นามซุน ]     | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 41 | "_____" | // รีม รั้งอ็อก<br>[ ลิม ลานอก ]  | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 42 | "_____" | // ยูน เจิงซุก<br>[ ยูน จ็อนสก ]  | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 43 | "_____" | // รีม ทัลจุน<br>[ ลิม ดาลจูน ]   | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 44 | "_____" | // เชิง คิมอ็อก<br>[ ช็อน กิมอก ] | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 45 | "_____" | // สี เวนซุก<br>[ ไอ ว็อนสก ]     | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 46 | "_____" | // คิม ซองเซ<br>[ คิม ช็อนเช ]    | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 47 | "_____" | // สี เยงฮา<br>[ ไอ ย็อนฮา ]      | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|    |         |                                    |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|------------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 48 | "_____" | // คิม เจิงซุก<br>[キム ジョンスク]       | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 49 | "_____" | // กู เยนนุน<br>[グ ヨンブン]           | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 50 | "_____" | // คิม ซิลตัน<br>[キム シンタン]         | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 51 | "_____" | // โอ ฮุงซุน<br>[オ フンチュン]          | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 52 | "_____" | // คิม จางซุน<br>[キム ジャンチュン]       | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 53 | "_____" | // อี ซุนนิม<br>[イ チュンนิム]         | 40 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 54 | "_____" | // เช็ง เกียงตัน<br>[チョン ギョンラン]    | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 55 | "_____" | // คิม อีเซ็ม<br>[キム イチョム]         | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 56 | "_____" | // อี แยบ็อก<br>[イ イェボク]           | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 57 | "_____" | // ริว แทกัง<br>[リュウ テガン]          | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 58 | "_____" | // เบ เวนนัม<br>[ベ ウェナム]           | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 59 | "_____" | // คิม เมียงอ็อก<br>[キム เมียงอ็อก] | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|    |         |                           |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|---------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|    |         | [キム ミヨンオク]                |    |    |         |        |         |  |
| 60 | "_____" | // คิม มุนเซ<br>[キム ムンチェ] | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

213 (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปดภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 61             | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง เซ คิมซุน<br>[チョイ ギムスン] | 22           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |
| 62             | "_____"                         | // คิม เคเซิน<br>[キム ゲソン]   | 22           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 63             | "_____"                         | // โค เซินบอง<br>[コ ソンボン]   | 29           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 64             | "_____"                         | // คิม เฮซุน<br>[キム ヘスン]    | 28           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 65             | "_____"                         | // อี คิมเซ<br>[イ ギムチェ]     | 23           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 66             | "_____"                         | // ริว ญุน<br>[リュウ グブン]     | 26           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |

|    |         |                                 |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|---------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 67 | "_____" | // มุ่น เจียงชุน<br>[ムン ジョンチュン] | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 68 | "_____" | // เช จุงฉี<br>[ชโยิ จุนยิ]     | 34 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 69 | "_____" | // คิม ชุนเค็ก<br>[คิม สุนโดค]  | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 70 | "_____" | // ปัก ชุนเช<br>[ปาก ชุนชเย]    | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 71 | "_____" | // เอม รวงจู<br>[อม ลอนจู]      | 32 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 72 | "_____" | // ริว เชงเซ<br>[ริยูว ชอนชเย]  | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 73 | "_____" | // เช อ็อกชุน<br>[ชโยิ ออกชุน]  | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 74 | "_____" | // เบ เซ็กชุน<br>[เบ สอกชุน]    | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 75 | "_____" | // อี เย็งมุน<br>[อิ โยมุน]     | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 76 | "_____" | // อี เชงชุก<br>[อิ ชอนสค]      | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 77 | "_____" | // คิม สุนชิน<br>[คิม สชอน]     | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 78 | "_____" | // คิม เมียงฮะ<br>[คิม เมียงฮะ] | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|    |         |                               |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|-------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|    |         | [キム ミョンハ]                     |    |    |         |        |         |  |
| 79 | "_____" | // คิม กุมเซิน<br>[キム グムチョン]  | 32 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 80 | "_____" | // อี ฮะซุก<br>[イ ハスク]        | 32 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 81 | "_____" | // ริว เหว็งเซ<br>[リュウ チョンチェ] | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 82 | "_____" | // มิน อ็อกเซ<br>[ミン オクチェ]    | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 83 | "_____" | // ซง ซุนอิ<br>[ソン スンイ]       | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 84 | "_____" | // เซ พันเน<br>[チョイ パンネ]      | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 85 | "_____" | // เซิน ซุนอิ<br>[チョン スンイ]    | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 86 | "_____" | // อี อุนจิน<br>[イ ウンジン]      | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 87 | "_____" | // อู ฮัลเซ็ง<br>[ウ アンソン]     | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 88 | "_____" | // คิม เคฮ็อก<br>[キム ゲオク]     | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 89 | "_____" | // คิม เกียงซุน<br>[キム ギョンスン] | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |



|    |         |                               |    |    |         |        |         |  |
|----|---------|-------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 90 | "_____" | // ริว เซอ็อก<br>[リュウ チェオク]   | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 91 | "_____" | // คัง กัปเลียง<br>[カン ガプリヤン] | 32 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

213 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                  | นาม<br>[氏名]                    | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                   | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปดภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-----------------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 92             | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補助] | นาง เจิง บ็อกซุน<br>[ジョン ボクスン] | 26           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医療看護部<br>隊] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |
| 93             | "_____"                     | // ซัง ดูซุน<br>[サン グチュン]      | 26           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 94             | "_____"                     | // เซ ซุนเลียง<br>[チョイ สุนリヤン] | 24           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 95             | "_____"                     | // อี ฮียวฮี<br>[イ ヒョウヒ]       | 25           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 96             | "_____"                     | // โจ เกียงยูล<br>[チョ ギョンユル]   | 20           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 97             | "_____"                     | // บัก กิลเซ<br>[박 기철]         | 25           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |

|     |         |                                |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|--------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [パク ギルチェ]                      |    |    |         |        |         |  |
| 98  | "_____" | // เข ชุกเข<br>[ชโยิ สุกเช]    | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 99  | "_____" | // ลี เกียงฮะ<br>[ไอ กโยนฮา]   | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 100 | "_____" | // ไจ กิลเข<br>[ชโย กิลเช]     | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 101 | "_____" | // ซง ซุนกิล<br>[ซอน สุนกิล]   | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 102 | "_____" | // คิม ฮ็อกเข<br>[คิม อุกเช]   | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 103 | "_____" | // ลี ฮะเชิน<br>[ไอ ฮาซอน]     | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 104 | "_____" | // เป จูฮ็อก<br>[เบ จูฮอก]     | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 105 | "_____" | // ลี แฮเชิน<br>[ไอ เฮซอน]     | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 106 | "_____" | // ซะ บองเน<br>[ชา บอนเน]      | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 107 | "_____" | // เชง ฮ็อกเข<br>[ชยอง อุกเช]  | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 108 | "_____" | // คิม เจนซิล<br>[คิม จيونซิล] | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                              |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 109 | "_____" | // บัก เจิงซุก<br>[バク ジョンスク] | 17 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 110 | "_____" | // อี้ ฮักซิล<br>[イ ハクシル]    | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 111 | "_____" | // คิม ซุนอะ<br>[キム スンア]     | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 112 | "_____" | // ริว ชูเวิล<br>[リュウ チュウオン] | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 113 | "_____" | // เฮิน ญูนิม<br>[ホン グニム]    | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 114 | "_____" | // เซ บ็อกฮิ<br>[チョイ ボクヒ]    | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 115 | "_____" | // คิม ฮะเท็ก<br>[キム ハソク]    | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 116 | "_____" | // เซ แทฮ็อก<br>[チョイ テオク]    | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 117 | "_____" | // ญุน แมฮ็อก<br>[ユン メオク]    | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 118 | "_____" | // เบ กีมเซิน<br>[ベ グムソン]    | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 119 | "_____" | // เบ แจฮัน<br>[ベ ジェハン]      | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 120 | "_____" | // อี้ เจิงซุก<br>[イ ジョンスク]  | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                            |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|----------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [イ ジョンスク]                  |    |    |         |        |         |  |
| 121 | "_____" | // ไฮ แจซุน<br>[ホ ジェチュン]   | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 122 | "_____" | // ซิน กัปซุน<br>[シン カプスン] | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

214 (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[収容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปดภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 123            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง อี ซุกนัม<br>[イ スクナム]   | 22           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนาธิการ<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |
| 124            | "_____"                         | // คิม นิมนัม<br>[キム ニムナム]  | 24           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 125            | "_____"                         | // ริว ชุนเช<br>[リュウ チュンチェ] | 22           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 126            | "_____"                         | // มุน เชิดสุ<br>[ムン チョルス]  | 27           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 127            | "_____"                         | // คิม แซอ็อก<br>[キム チェオク]  | 37           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |

|     |         |                               |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|-------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 128 | "_____" | // ชีล ชูนอิ<br>[シン スンイ]      | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 129 | "_____" | // เซ ชูนเซ<br>[チョイ スンチェ]     | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 130 | "_____" | // อี พิลเซิน<br>[イ ピルソン]     | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 131 | "_____" | // บัก บองชุน<br>[ปาก บอนชุน] | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 132 | "_____" | // คิม ฮะเซ<br>[キム ハチェ]       | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 133 | "_____" | // คัง ตองเย<br>[カン ドンイエ]     | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 134 | "_____" | // คิม คันสุ<br>[キム ガンス]      | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 135 | "_____" | // คิม มุนชุน<br>[キム มุนชุน]  | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 136 | "_____" | // บัก บองฮัก<br>[ปาก บอนฮัก] | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 137 | "_____" | // คิม บองเร<br>[キム บอนเร]    | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 138 | "_____" | // ซิน เซินชุน<br>[シン ソนชุน]  | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 139 | "_____" | // เซิน ชุนเซิน               | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                               |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|-------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [チョン スンチョン]                   |    |    |         |        |         |  |
| 140 | "_____" | // โจ เมียงชุน<br>[チョ ミヨンチュン] | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 141 | "_____" | // คิม เจมเสะ<br>[キム ジョムソ]    | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 142 | "_____" | // ริว บักนิน<br>[リュウ パクニン]   | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 143 | "_____" | // คิม ซิลรัน<br>[キム シルラン]    | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 144 | "_____" | // คิม เต็กซิล<br>[キム ドクシル]   | -  | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 145 | "_____" | // ชะ เป็กจุน<br>[チャ ボクジュン]   | 37 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 146 | "_____" | // บัก เอ็งชุก<br>[パク ヨンスク]   | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 147 | "_____" | // ยุน เจงชุก<br>[ユン ジョンスク]   | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 148 | "_____" | // ชาง ยองฉี<br>[チャン โยไน]    | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 149 | "_____" | // ซิน ญุนิม<br>[シン グนิム]     | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 150 | "_____" | // เซ จุงอ๊ะ<br>[ชโยอิ จุนอา] | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                             |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|-----------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 151 | "_____" | // อุ โทอิ<br>[ウ ドヒ]        | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 152 | "_____" | // ยูน มุนอิ<br>[ユン ムンイ]    | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 153 | "_____" | // ซอง ซุนดุม<br>[ソン スンドウン] | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

214 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                   | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่อายุ<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปตุภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|--|--|--|------------------|
| 154            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง ปัก เชียงใจ<br>[パク チョンジョ] | 40           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]            |                  |
| 155            | "_____"                         | // ปัก อินเติก<br>[パク インドク]   | 36           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                    |                  |
| 156            | "_____"                         | // ฮง อะซุน<br>[ホン アチュン]      | 28           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                    |                  |
| 157            | "_____"                         | // คิม ยูนเซ็น<br>[キム ユンソン]   | 26           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                    |                  |
| 158            | "_____"                         | // ซิน เอ็นเซ<br>[シン เอ็นเซ]  | 34           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                    |                  |

|     |         |                                    |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|------------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [シン オンチェ]                          |    |    |         |        |         |  |
| 159 | "_____" | // เด็ก บังบูเซ<br>[dok bambuche]  | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 160 | "_____" | // อัน วัลซุน<br>[an wancheun]     | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 161 | "_____" | // บัก อินบ็อก<br>[pak indok]      | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 162 | "_____" | // บัก เต็กซุน<br>[pak dokcheun]   | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 163 | "_____" | // คิม เมียงซุก<br>[kim myeongsuk] | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 164 | "_____" | // คิม บ็อกเย<br>[kim bokye]       | 38 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 165 | "_____" | // คิม ซุนฮ็อก<br>[kim cheunhok]   | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 166 | "_____" | // คิม เมียงฮะ<br>[kim myeonha]    | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 167 | "_____" | // กู นัมสุ<br>[gu namso]          | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 168 | "_____" | // บัก เจิงเมิม<br>[pak cheunmeim] | 15 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 169 | "_____" | // คิม ไตซุน<br>[kim doosun]       | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |



|     |         |                                  |    |    |         |                                 |         |  |
|-----|---------|----------------------------------|----|----|---------|---------------------------------|---------|--|
| 170 | "_____" | // คิม ฮงเซ<br>[キム ハチエ]          | 22 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 171 | "_____" | // คิม ชุนเซ<br>[キム チュンチエ]       | 25 | // | "_____" | 22 ต.ค. 88<br>[1945年1<br>0月22日] | "_____" |  |
| 172 | "_____" | // เซ บ็อกชุน<br>[チョイ ボクチュン]     | 24 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 173 | "_____" | // ยู กิมเจ<br>[ユ ギムジエ]          | 28 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 174 | "_____" | // เติ้ง ซองเม็ยง<br>[チョン ソンミョン] | 33 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 175 | "_____" | // เติ้ง ซินเม็ยง<br>[チョン シンミョン] | 35 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 176 | "_____" | // โอ แฮนุน<br>[オ ヘブン]           | 26 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 177 | "_____" | // อี จองเกิล<br>[イ ジョンゲン]       | 25 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 178 | "_____" | // กัก ชุนอิ<br>[クァク スンイ]        | 31 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 179 | "_____" | // คิม ฮุกเซ<br>[キム スクチェ]        | 30 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 180 | "_____" | // ฮง ยองเซ<br>[ホン ヨンチェ]         | 24 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |

|     |         |                              |    |    |         |                                 |         |  |
|-----|---------|------------------------------|----|----|---------|---------------------------------|---------|--|
| 181 | "_____" | // คิม ชุนเด็ก<br>[キム チュンドク] | 23 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 182 | "_____" | // อี เจฮี<br>[イ ジェヒ]        | 21 | // | "_____" | 10 ธ.ค. 88<br>[1945年1<br>2月10日] | "_____" |  |
| 183 | "_____" | // ปัก ชุนเด็ก<br>[パク チュンドク] | 22 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |
| 184 | "_____" | // มุน อ็อกสุ<br>[ムン オクス]    | 24 | // | "_____" | "____"                          | "_____" |  |

215 (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                  | นาม<br>[氏名]                  | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปทุมณี<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|-----------------------------|------------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 185            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補助] | นาง อี จินซัง<br>[イ ジンサン]    | 24           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 10 ธ.ค. 88<br>[1945年1<br>2月10日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |
| 186            | "_____"                     | // โอ เมียงชุน<br>[オ ミョンチュン] | 22           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |
| 187            | "_____"                     | // คิม ปักนัม<br>[キム パクナム]   | 26           | //                | "_____"  | "____"                                   | "_____"                                   |                  |

|     |         |                               |    |    |         |         |         |  |
|-----|---------|-------------------------------|----|----|---------|---------|---------|--|
| 188 | "_____" | // ชาว จอมขุน<br>[チャン ジョムスン]  | 26 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 189 | "_____" | // ฮั่น ยางซิน<br>[ハン ヤนシン]   | 26 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 190 | "_____" | // อี้ จองเย<br>[イ ジョンイエ]     | 23 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 191 | "_____" | // ซิน บักลอน<br>[シン บอكرون]  | 30 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 192 | "_____" | // คิม ซุนอี<br>[คิม ซอนอี]   | 19 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 193 | "_____" | // คน ซอมแร<br>[คอน โซมเร]    | 27 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 194 | "_____" | // บัก ซุนอี<br>[ปาก สุนอี]   | 19 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 195 | "_____" | // บัก อ็อกเย<br>[ปาก ออเคีย] | 24 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 196 | "_____" | // อี้ อ็อกซุน<br>[อี ออคุน]  | 23 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 197 | "_____" | // บัก ยองซุก<br>[ปาก โยงซุก] | 22 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 198 | "_____" | // อัง บุนอี<br>[อัน บุนอี]   | 24 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |
| 199 | "_____" | // จู รันนิม                  | 23 | // | "_____" | "_____" | "_____" |  |

|     |         |                                |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|--------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [ジュ ランニム]                      |    |    |         |        |         |  |
| 200 | "_____" | // ลี คอนเซ<br>[イ ゴンセ]         | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 201 | "_____" | // โฮ ล็อกฮี<br>[ホ オクヒ]        | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 202 | "_____" | // จง โอลอน<br>[チョン オロン]       | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 203 | "_____" | // จง บุนนิม<br>[チョン ブンนิム]    | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 204 | "_____" | // คิม ไชเซ<br>[キム チョチュ]       | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 205 | "_____" | // ลี เทยอง<br>[イ テヨン]         | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 206 | "_____" | // เบ็ก นัมจู<br>[เบก นัมจู]   | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 207 | "_____" | // คิม จองนิม<br>[キム จ็องนิม]  | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 208 | "_____" | // ปัก บองชุก<br>[ปาก บองชุก]  | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 209 | "_____" | // เบ กวันจิน<br>[เบ กวันจิน]  | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 210 | "_____" | // เซ บ็อกซุน<br>[ชอย บ็อกซุน] | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                              |    |    |         |                                 |         |  |
|-----|---------|------------------------------|----|----|---------|---------------------------------|---------|--|
| 211 | "_____" | // คิม ยองเย<br>[キム ヨンイェ]    | 19 | // | "_____" | 16 ม.ค. 89<br>[1946年0<br>1月16日] | "_____" |  |
| 212 | "_____" | // คิม คุณฮะ<br>[キム グンハ]     | 26 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 213 | "_____" | // คิม อ็อกฮี<br>[キム オクヒ]    | 27 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 214 | "_____" | // คิม อ็อกซุน<br>[キム オクチュン] | 22 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |
| 215 | "_____" | // คิม อ็อกลัน<br>[キム オ克蘭]   | 22 | // | "_____" | "_____"                         | "_____" |  |

215 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                 | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                       | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปทุมภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|--|--|---|------------------|
| 216            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง คิม อินซุน<br>[キム インスン] | 21           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ์<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ม.ค. 89<br>[1946年0<br>1月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]             |                  |
| 217            | "_____"                         | // คิม อ็อกซุก<br>[キム オクスク] | 27           | //                | "_____"  | "_____"                                  | "_____"                                     |                  |

|     |         |                                 |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|---------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 218 | "_____" | // คิม อ็อกเจิน<br>[キム オクチョン]   | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 219 | "_____" | // คิม ซุนเย<br>[キム スンイェ]       | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 220 | "_____" | // คิม ซึ ฮอง<br>[キム チホン]       | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 221 | "_____" | // คิม นักดู<br>[キム ナクドゥ]       | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 222 | "_____" | // คิม ต็อกซุน<br>[キム ドクスン]     | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 223 | "_____" | // คิม กุมอิ<br>[キム グンイ]        | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 224 | "_____" | // คิม เม ฮง<br>[キム メハ]         | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 225 | "_____" | // คิม ซุนฮี<br>[キム スンイ]        | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 226 | "_____" | // คิม ต็อกฮี<br>[キム ドクヒ]       | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 227 | "_____" | // คิม เด เซ<br>[キム デセ]         | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 228 | "_____" | // คิม กิล เย<br>[キム ギルイェ]      | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 229 | "_____" | // คิม เตียงซุก<br>[キム テียงซุก] | 31 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                                 |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|---------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [キム ドンスク]                       |    |    |         |        |         |  |
| 230 | "_____" | // คิม ยอง เย<br>[キム ヨンイェ]      | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 231 | "_____" | // ชาง ยอง เย<br>[チャン โยนไเย]   | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 232 | "_____" | // ชาง ยอง ชุก<br>[チャン โยnsk]   | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 233 | "_____" | // ชาง แทพัน<br>[チャン เดตัน]     | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 234 | "_____" | // ชาง เกนส<br>[チャン กอนส]       | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 235 | "_____" | // ชาง ร็อกกัน<br>[チャン อกกัน]   | 31 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 236 | "_____" | // อี ชีนัม<br>[ไอ ชินาม]       | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 237 | "_____" | // อี เกียงอุน<br>[ไอ เกียงอุน] | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 238 | "_____" | // อี แคมอง<br>[ไอ เกมอน]       | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 239 | "_____" | // อี บ็อกเจิม<br>[ไอ บอกจอม]   | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 240 | "_____" | // อี อ็อกเซ<br>[ไอ อกเช]       | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                             |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|-----------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 241 | "_____" | // อี บ็อก เย็น<br>[イ ボクヨン] | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 242 | "_____" | // อี ฮง ชุน<br>[イ ハチュン]    | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 243 | "_____" | // อี เฮน อี<br>[イ ホンイ]     | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 244 | "_____" | // อี ยุน เย<br>[イ ユンイエ]    | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 245 | "_____" | // อี อีอก เย<br>[イ オクイエ]   | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 246 | "_____" | // อี ยาง ชุน<br>[イ ヤンチュン]  | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

216 (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                  | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                      | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปทุมภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|------------------------------|--------------|-------------------|---|--|---|------------------|
| 247            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง อี บ็อก ดาล<br>[イ ボクダル]  | 32           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ม.ค. 89<br>[1946年0<br>1月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]             |                  |
| 248            | "_____"                         | // อี เกียง เซ<br>[イ ケียงเซ] | 30           | //                | "_____"   | "____"                                   | "_____"                                     |                  |



|     |         |                                |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|--------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [イ ギョンチュエ]                     |    |    |         |        |         |  |
| 249 | "_____" | // อึ ชุน อึ<br>[イ チュンヒ]       | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 250 | "_____" | // ชง เซน อึม<br>[ซอน ชอนอิม]  | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 251 | "_____" | // ยูน ชังลิม<br>[ユン サンリム]     | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 252 | "_____" | // ยูน ชุน เซ็ง<br>[ユン スンチョン]  | 35 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 253 | "_____" | // ยูน กิม เซน<br>[ユン ギムチョン]   | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 254 | "_____" | // เซ็ง ชัง ดอด<br>[チョン サndon] | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 255 | "_____" | // เซ็ง เต็ก ชุน<br>[チョン ドクスン] | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 256 | "_____" | // เซ็ง เต็ก อึม<br>[チョン ドクイム] | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 257 | "_____" | // เซ็ง อึล ชุล<br>[チョン イルスン]  | 24 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 258 | "_____" | // เซ็ง กิล เย<br>[チョン ギルイェ]   | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 259 | "_____" | // ยู ยูน ชุน<br>[ユ ウンスン]      | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                                |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|--------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 260 | "_____" | // เจน เยน ฮอง<br>[チョン ヨンホン]   | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 261 | "_____" | // คัง อิม ปุน<br>[カン イムブン]    | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 262 | "_____" | // คัง ชัง ฮ็อก<br>[カン サンオク]   | 28 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 263 | "_____" | // คัง ยอง ชุน<br>[カン ヨンスン]    | 27 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 264 | "_____" | // คัง ชุน เซ<br>[カン チュンチェ]    | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 265 | "_____" | // ฮอง ชุน เซ<br>[ホン チュンチェ]    | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 266 | "_____" | // โล ฮัก เซน<br>[ロ ハクチョン]     | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 267 | "_____" | // โล ชุน อี<br>[ロ スンイ]        | 19 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 268 | "_____" | // โล ชัง ปุน<br>[ロ チャンブン]     | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 269 | "_____" | // ฮังอู ชุนต็อก<br>[ハンウ スンドク] | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 270 | "_____" | // ปัก เกียง ชุก<br>[パク ギョンスク] | 40 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 271 | "_____" | // ลิม เก เม<br>[Lim Ge Me]    | 31 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

|     |         |                               |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|-------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
|     |         | [リム ゲメ]                       |    |    |         |        |         |  |
| 272 | "_____" | // มิน กิล เย<br>[ミン ギルイエ]    | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 273 | "_____" | // ชู มุก เซน<br>[チュ ムクチョン]   | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 274 | "_____" | // กู อ็อก<br>[グ オク]          | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 275 | "_____" | // ปัก ชู<br>[パク ス]           | 22 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 276 | "_____" | // เซ ชุก อี<br>[チョイ スクヒ]     | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 277 | "_____" | // เซ อ็อก เซน<br>[チョイ オクチョン] | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

216 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]                      | นาม<br>[氏名]                | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                                      | วันเดือนปี<br>เข้าสู่ค่าย<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปดภูมิ<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|---------------------------------|----------------------------|--------------|-------------------|---|--|---|------------------|
| 278            | นางพยาบาลผู้ช่วย<br>[看護婦補<br>助] | นาง ชิม กุนเซ<br>[シム グンチェ] | 25           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองเสนารักษ<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍医<br>療看護部<br>隊] | 16 ม.ค. 89<br>[1946年0<br>1月16日]          | 13 พ.ค. 89<br>[1946年05<br>月13日]           |                  |

|     |         |                                |    |    |         |        |         |  |
|-----|---------|--------------------------------|----|----|---------|--------|---------|--|
| 279 | "_____" | // ชิม ชุก เซ<br>[シム スクチェ]     | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 280 | "_____" | // มุน บ็อก นัม<br>[ムン ボクナム]   | 29 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 281 | "_____" | // ซง ฮ็อก<br>[ソン オク]          | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 282 | "_____" | // โย เชน นิม<br>[ヨ チョンニム]     | 20 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 283 | "_____" | // ยัง เม ฮะ<br>[ヤン ミョンハ]      | 21 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 284 | "_____" | // บัก ซุนอิ<br>[باك سنই]      | 26 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 285 | "_____" | // บัก เด็ก กุน<br>[باك دوクグン] | 23 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 286 | "_____" | // โช บ็อกเย<br>[チョイ ボクイエ]     | 30 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |
| 287 | "_____" | // โช ซุ ปุน<br>[チョイ スプン]      | 25 | // | "_____" | "____" | "_____" |  |

(คำพวกเด็กหญิง) [女兒の名簿]

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級] | นาม<br>[氏名] | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属] | วันเดือนปี<br>เข้าสู่อายุ<br>[收容年<br>月日] | วันเดือนปี<br>กลับปทุมณี<br>[本国送還<br>年月日] | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|--|---|------------------|
|----------------|------------|-------------|--------------|-------------------|----------------|--|---|------------------|

|     |         |                                     |   |                |         |                                 |                                    |  |
|-----|---------|-------------------------------------|---|----------------|---------|---------------------------------|------------------------------------|--|
| 288 | "_____" | เด็กหญิง คิม เย็ง เซ<br>〔女兒キム ヨンチェ〕 | 2 | เกาหลี<br>〔韓国〕 | "_____" | 16 ม.ค. 89<br>〔1946年0<br>1月16日〕 | 13 พ.ค. 89<br>〔1946年05<br>月13日〕    |  |
| 289 | "_____" | // ยู กิล ชุน<br>〔//ユ ギルスン〕         | 1 | //             | "_____" | "_____"                         | "_____"                            |  |
| 290 | "_____" | // โซ เกียงเซ<br>〔//チヨイ ヨンチェ〕       | 2 | //             | "_____" | "_____"                         | "_____"                            |  |
| 291 | "_____" | // คิม ซิล เซ<br>〔//キム シルチェ〕        | 5 | //             | "_____" | "_____"                         | "_____"                            |  |
| 292 | "_____" | // อี ยอง เซ<br>〔//イ ヨンチェ〕          | 4 | //             | "_____" | "_____"                         | "_____"                            |  |
| 293 | "_____" | // อี แท ชุก<br>〔//イ テスク〕           | 1 | //             | "_____" | 20 ต.ค. 88<br>〔1945年1<br>0月20日〕 | เกิดในกอง<br>〔捕虜収容<br>所において<br>出生〕 |  |
| 294 | "_____" | // ยู อี ชุก<br>〔//ユ ヒスク〕           | 1 | //             | "_____" | 21 มี.ค. 89<br>〔1946年0<br>3月21〕 | "_____"                            |  |

(注) 1 原典において、日本語の表面、裏面の表記は存在しない。

(注) 2 朝鮮人女性捕虜の氏名の前に記載されている「นาง」というタイ語は、英語の「Ms.」若しくは「Mrs.」を意味する名刺であるが、日本語に翻訳する際は省略した。

(出所) タイ国立公文書館 「บก. สูงสุด 3. 7/18 ทหารเกาหลีและฟอโมซา [軍最高司令部3. 7/18 韓国人及び台湾人の軍人]」 212-216頁。



付録3 戦後、タイの捕虜収容所から再び戦場へ送還された朝鮮人の名簿

222 (表面)

| เลขที่<br>〔番号〕 | ยศ<br>〔階級〕           | นาม<br>〔氏名〕                    | อายุ<br>〔年齢〕 | เชื้อชาติ<br>〔国籍〕 | สังกัด<br>〔所属〕                                   | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | วันเดือนปี<br>〔年月日〕             | หมายเหตุ<br>〔備考〕 |
|----------------|----------------------|--------------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|------------------|
|                |                      |                                |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>〔收容日〕            | ถูกจับ<br>〔逮捕日〕                 |                  |
| 1              | ช่วยรบชั้น2<br>〔二等兵〕 | นาย มิน ฮอง กี<br>〔ミン ホンギ〕     | 28           | เกาหลี<br>〔韓国〕    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>〔日本軍捕<br>虜收容所〕 | 6 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月6日〕   | 18 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月18日〕 |                  |
| 2              | "~"                  | " นัม กุน ยุน<br>〔ナム グンユン〕     | 25           | "                 | "~"  | 10 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月10日〕 | 24 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月24日〕 |                  |
| 3              | "~"                  | " คิม ดอง ซุง<br>〔キム ドンスン〕     | 31           | "                 | "~"  | 7 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月7日〕   | 24 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月24日〕 |                  |
| 4              | "~"                  | " เจริง ย้ง ซอป<br>〔チョン ヤンスอพ〕 | 28           | "                 | "~"  | 22 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月22日〕 | 24 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月24日〕 |                  |
| 5              | "~"                  | " ย้ง เช็ก ตู<br>〔ยัน โซกดอู〕  | 25           | "                 | "~"  | 22 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月22日〕 | 24 ต.ค. 88<br>〔1945年10<br>月24日〕 |                  |

|    |     |                                  |    |    |     |                                     |                                     |  |
|----|-----|----------------------------------|----|----|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 6  | "~" | // คิม ยอง ฮุน<br>[キム ヨンフン]      | 24 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 24 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 24 日] |  |
| 7  | "~" | // เบ เทท วัน<br>[ベ テワン]         | 25 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 24 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 24 日] |  |
| 8  | "~" | // บัก ขาง วัน<br>[ปาก ซานวัน]   | 29 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日]   | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>11 日]  |  |
| 9  | "~" | // เช เยิง เซ็ก<br>[ชโยย โยงซึก] | 26 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>11 日]  |  |
| 10 | "~" | // บัก กัป เยิง<br>[ปาก คาบยอน]  | 28 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>11 日]  |  |
| 11 | "~" | // ซง ฮี เจิน<br>[ซอน ฮิจยอง]    | 29 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>11 日]  |  |
| 12 | "~" | // คัง ฮอง บ็อก<br>[กัน ฮอนบ็อก] | 26 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>11 日]  |  |
| 13 | "~" | // เบ ยิน กี<br>[เบ อินกิ]       | 26 | // | "~" | 10 ต.ค. 88                          | 11 ม.ค. 89                          |  |



|    |     |                                      |    |    |     |                                  |                                  |  |
|----|-----|--------------------------------------|----|----|-----|----------------------------------|----------------------------------|--|
|    |     |                                      |    |    |     | [1945 年 10 月 10 日]               | [1946 年 1 月 11 日]                |  |
| 14 | "~" | // เซอ ฮา นอน<br>[ソ ハノン]             | 25 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月 11 日]  |  |
| 15 | "~" | // คิม ดอง จู<br>[キム ドンジユ]           | 25 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月 11 日]  |  |
| 16 | "~" | // โค เมียง เอ็ง<br>[โก มิยองยอน]    | 26 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 7 日]   | 11 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月 11 日]  |  |
| 17 | "~" | // เช็ง เมียง ชิก<br>[ชยอง มิยองชิก] | 27 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 24 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 24 日] |  |
| 18 | "~" | // ฮง ฮุน เซิล<br>[ฮอน สุนซิล]       | 28 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 24 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 24 日] |  |
| 19 | "~" | // ฮัน เคียง ฮี<br>[ฮัน กยองฮี]      | 31 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 7 พ.ย. 88<br>[1945 年 11 月 7 日]   |  |
| 20 | "~" | // คิม กุน ชิก<br>[คิม กุนชิก]       | 26 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 16 日] | 7 พ.ย. 88<br>[1945 年 11 月 7 日]   |  |

|    |     |  |    |    |     |                                     |                                     |  |
|----|-----|--|----|----|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 21 | "~" | // ชิน ฮัน ซิก<br>[シン ハンシク]                      | 27 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 7 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 7 日]   |  |
| 22 | "~" | // ชาง ฮี ชาง<br>[チャン ヒチャン]                      | 23 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 29 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 29 日] |  |
| 23 | "~" | // อี แท กู<br>[イ テグ]                            | 23 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 29 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 29 日] |  |
| 24 | "~" | // คิม ฮี ซุน<br>[キム ヒスン]                        | 23 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | 29 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 29 日] |  |
| 25 | "~" | // โช จิน สุก<br>[โช จิน สุก]<br>[チョ ジンス]        | 25 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 22 日] | 29 พ.ย. 88<br>[1945 年 11<br>月 29 日] |  |
| 26 | "~" | // ยุน เซ็ก ลี<br>[ユン ソクリ]                       | 26 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日]   | 26 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>26 日]  |  |
| 27 | "~" | // โช เฮ วัน<br>[โช โย ไหววัน]<br>[โช โย ไหววัน] | 29 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日]   | 26 ม.ค. 89<br>[1946 年 1 月<br>26 日]  |  |
| 28 | "~" | // ชิน กี เฮน<br>[ชิน กี เฮน]<br>[シン キホン]        | 29 | // | "~" | 6 ต.ค. 88                           | 26 ม.ค. 89                          |  |

|    |     |                              |    |    |     |                           |                            |  |
|----|-----|------------------------------|----|----|-----|---------------------------|----------------------------|--|
|    |     |                              |    |    |     | [1945年10月6日]              | [1946年1月26日]               |  |
| 29 | "~" | // อี้ เด็ก เกล<br>[イ ドックギル] | 30 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日] | 26 ม.ค. 89<br>[1946年1月26日] |  |

222 (裏面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                      | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                               | วันเดือนปี<br>[年月日]         | วันเดือนปี<br>[年月日]        | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|----------------------------------|--------------|-------------------|--|-----------------------------|----------------------------|------------------|
|                |                      |                                  |              |                   |  | เข้าผู้ค่าย<br>[收容日]        | ถูกจับ<br>[逮捕日]            |                  |
| 30             | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย คิม แฮ เอียง<br>[キム ヘヨン]     | 30           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕虜收容所] | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 5 ก.พ. 89<br>[1946年2月5日]   |                  |
| 31             | "~"                  | // เบ็ก ยอง กิ<br>[ベク ヨンギ]       | 27           | //                | "~"  | 3 ต.ค. 88<br>[1945年10月3日]   | 14 ก.พ. 89<br>[1946年2月14日] |                  |
| 32             | "~"                  | // ฮง เจิน เกียง<br>[ホン チョンギョン]  | 24           | //                | "~"  | 3 ต.ค. 88<br>[1945年10月3日]   | 14 ก.พ. 89<br>[1946年2月14日] |                  |
| 33             | "~"                  | // มิน เอียง ซัม<br>[มิน โยงซัม] | 26           | //                | "~"  | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10月10日] | 14 ก.พ. 89<br>[1946年2月14日] |                  |

|    |     |                                    |    |    |     |                                   |                                    |  |
|----|-----|------------------------------------|----|----|-----|-----------------------------------|------------------------------------|--|
| 34 | "~" | // บัก ดอง เกิน<br>[ปาก ดองงัน]    | 23 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 35 | "~" | // คิม แท ซิก<br>[คิม เทซิก]       | 25 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 6 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 36 | "~" | // เซ เต็ก กุน<br>[ชอยี ด็อกกุน]   | 25 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 37 | "~" | // เซ ชัง เด็ก<br>[ชอยี ชันโดก]    | 24 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 38 | "~" | // บัก เจ็ง กุน<br>[ปาก จيونกุน]   | 29 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 39 | "~" | // ฮัน เบ็ก เฮียน<br>[ฮัน เบกฮيون] | 42 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 40 | "~" | // ฮัน กิม แท<br>[ฮัน คิมเช]       | 26 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10<br>月 3 日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946 年 2 月<br>16 日] |  |
| 41 | "~" | // บัก อู เซ็ก<br>[ปาก อุซิก]      | 35 | // | "~" | 19 ต.ค. 88                        | 16 ก.พ. 89                         |  |

|    |     |                                    |    |    |     |                             |                             |  |
|----|-----|------------------------------------|----|----|-----|-----------------------------|-----------------------------|--|
|    |     |                                    |    |    |     | [1945年10月19日]               | [1946年2月16日]                |  |
| 42 | "~" | // คิม แท ซึง<br>[キム テスン]          | 27 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945年10月22日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946年2月16日]  |  |
| 43 | "~" | // ฮัง โม รัน<br>[อัน มอらん]        | 29 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945年10月16日] | 16 ก.พ. 89<br>[1946年2月16日]  |  |
| 44 | "~" | // โอ เสียง ซ็อก<br>[โอ ฮย็อนซ็อก] | 24 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10月10日] | 12 มี.ค. 89<br>[1946年3月12日] |  |
| 45 | "~" | // เชน ฮู ดู<br>[ช็อน สดอู]        | 30 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10月10日] | 12 มี.ค. 89<br>[1946年3月12日] |  |
| 46 | "~" | // ยุน ฮัก กุน<br>[ยุน ฮักกุน]     | 31 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10月10日] | 12 มี.ค. 89<br>[1946年3月12日] |  |
| 47 | "~" | // โค ดุน กึก<br>[โก กุงกุก]       | 33 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945年10月22日] | 12 มี.ค. 89<br>[1946年3月12日] |  |
| 48 | "~" | // คิม เจริง จิน<br>[คิม ช็อนจิน]  | 27 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945年10月16日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日]    |  |

|    |     |                                     |    |    |     |                                  |                               |  |
|----|-----|-------------------------------------|----|----|-----|----------------------------------|-------------------------------|--|
| 49 | "~" | // ไท เกียง โฮ<br>[ CHO GYONHO ]    | 32 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 16 日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 50 | "~" | // ไท กุน ซอป<br>[ CHO GUNSOB ]     | 32 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 51 | "~" | // ยุน ชัง กุน<br>[ YUN CHANGUN ]   | 27 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 52 | "~" | // ปัก ขาง เซอ<br>[ PAK CHANGSO ]   | 27 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 53 | "~" | // ยัง เมียง ฮะ<br>[ YAN MYONHA ]   | 29 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 54 | "~" | // อี กุย เฮยง<br>[ I GUIHYON ]     | 28 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 10 日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 55 | "~" | // ปัก บ็อก เจิง<br>[ PAK BOKCHON ] | 26 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日] |  |
| 56 | "~" | // โค เมียง คน<br>[ GO MYONGON ]    | 24 | // | "~" | 3 ต.ค. 88                        | 9 พ.ค. 89                     |  |

|    |     |                            |    |    |     |                             |                          |  |
|----|-----|----------------------------|----|----|-----|-----------------------------|--------------------------|--|
|    |     |                            |    |    |     | [1945年10月3日]                | [1946年5月9日]              |  |
| 57 | "~" | // คิม ยง ซิก<br>[キム ヨンシク] | 29 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日] |  |
| 58 | "~" | // อี กัป ชุน<br>[イ カプチュン] | 23 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日] |  |
| 59 | "~" | // เจริญ ออปป<br>[チョン イソプ] | 25 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945年10月16日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日] |  |
| 60 | "~" | // โอ จู เยียง<br>[オ ジュヨン] | 27 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945年10月7日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日] |  |

223 (表面)

| เลขที่<br>[番号] | ยศ<br>[階級]           | นาม<br>[氏名]                  | อายุ<br>[年齢] | เชื้อชาติ<br>[国籍] | สังกัด<br>[所属]                               | วันเดือนปี<br>[年月日]       | วันเดือนปี<br>[年月日]      | หมายเหตุ<br>[備考] |
|----------------|----------------------|------------------------------|--------------|-------------------|--|---------------------------|--------------------------|------------------|
|                |                      |                              |              |                   |  | เข้าสู่ค่าย<br>[収容日]      | ถูกจับ<br>[逮捕日]          |                  |
| 61             | ช่วยรบชั้น2<br>[二等兵] | นาย คิม นัม ซิก<br>[キム ナムシク] | 26           | เกาหลี<br>[韓国]    | กองควบคุมเชลย<br>กองทัพญี่ปุ่น<br>[日本軍捕虜収容所] | 7 ต.ค. 88<br>[1945年10月7日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946年5月9日] |                  |

|    |     |                                     |    |    |     |                                  |                                 |  |
|----|-----|-------------------------------------|----|----|-----|----------------------------------|---------------------------------|--|
| 62 | "~" | // คิม เกียง เซ็ก<br>[キム ギョンソク]     | 25 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 10 日] | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日]   |  |
| 63 | "~" | // คิม อุน เย็ง<br>[キム ウンヨン]        | 25 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 6 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日]   |  |
| 64 | "~" | // โช เย็ง แท<br>[โช ヨンテ]           | 27 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 7 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日]   |  |
| 65 | "~" | // พัง เฮ เย็น<br>[パン เฮヨン]         | 23 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 7 日]   | 9 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 9 日]   |  |
| 66 | "~" | // คิม เย็ง อู<br>[キム ヨンウ]          | 28 | // | "~" | 22 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 22 日] | 10 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 10 日] |  |
| 67 | "~" | // พัง ฮา อึ๊ก<br>[パン ไฮทัก]        | 26 | // | "~" | 3 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 3 日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 10 日] |  |
| 68 | "~" | // เซ เกียง เซ็ก<br>[โชยอึ คยองโซก] | 26 | // | "~" | 16 ต.ค. 88<br>[1945 年 10 月 16 日] | 10 พ.ค. 89<br>[1946 年 5 月 10 日] |  |
| 69 | "~" | // เลิน ฮู โอึ<br>[ซอน สอ]          | 33 | // | "~" | 6 ต.ค. 88                        | 10 พ.ค. 89                      |  |



|    |     |                                 |    |    |     |                             |                            |  |
|----|-----|---------------------------------|----|----|-----|-----------------------------|----------------------------|--|
|    |     |                                 |    |    |     | [1945年10月6日]                | [1946年5月10日]               |  |
| 70 | "~" | // อิม แท เซิน<br>[イム テソン]      | 24 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945年10月7日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 71 | "~" | // อี้ ชัง ชง<br>[ไอ ชานซอน]    | 24 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 72 | "~" | // โช แท เซ็ก<br>[โช เทซ็อก]    | 24 | // | "~" | 10 ต.ค. 88<br>[1945年10月10日] | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 73 | "~" | // คิม จุน กุ<br>[คิม จุงก]     | 26 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 74 | "~" | // คิม ซี้ ซาน<br>[คิม ชาน]     | 26 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945年10月7日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 75 | "~" | // ชาง ฮัน กุย<br>[ชาน ฮังกุย]  | 24 | // | "~" | 6 ต.ค. 88<br>[1945年10月6日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |
| 76 | "~" | // เฮง เมียง เฮ<br>[ฮอน มยองเห] | 39 | // | "~" | 7 ต.ค. 88<br>[1945年10月7日]   | 10 พ.ค. 89<br>[1946年5月10日] |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <p>ได้คัดลอกตามรายงานของหัวหน้าชาวเกาหลีไว้เป็นการถูกต้องแล้ว<br/>         [韓国人指揮官が作成した報告書の通り正しく複写された]</p> |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

(注) 1 原典において、日本語の表面、裏面の表記は存在しない。

(注) 2 朝鮮人捕虜の氏名の前に記載されている「นาย」というタイ語は、英語の「Mr.」を意味する名刺であるが、日本語に翻訳する際は省略した。

(出所) タイ国立公文書館 「บก. สูงสุด 3. 7/18 ทหารเกาหลีและพม่า [軍最高司令部3. 7/18 韓国人及び台湾人の軍人] 」 222-223頁。